

ISSN 1883-132X

沖縄県立博物館・美術館年報

No. 2

2009

沖縄県立博物館・美術館

序

沖縄県立博物館は首里の旧博物館の施設老朽化と収蔵スペースの狭隘化に伴い、2007年11月1日に現在のおもろまちへ新築移転するとともに、県民が待望していた美術館を合わせ持つ複合施設「沖縄県立博物館・美術館」として開館しました。新館では組織体制が新しくなり、館の運営に当たっては指定管理者制度が導入されています。これまでの首里における旧博物館で培ってきたノウハウに加えて民間活力の導入による新たな事業展開が行われています。

博物館の常設展は「海と島に生きる」をメインテーマに、沖縄の海洋性気候と島嶼性の中で育まれてきた個性豊かな自然や歴史、文化などを体系的に展示しています。美術館ではこれまでに収集された沖縄及び沖縄県にゆかりのある作家の近現代美術作品を中心に、日本及びアジア諸国、アメリカの現代美術作品のコレクション展示が行われています。2008年度には開館一周年記念展として『甦る琉球王国の輝き』『移動と表現』を開催し好評を得ました。その他にも特別展や企画展を博物館、美術館、指定管理者合わせて計11本開催すると同時に、文化講座や体験学習教室、展示解説会をはじめとする様々な取り組みを行ってまいりました。このような活動は、本県の特徴ある自然、歴史、文化、芸術等を県内外に発信するとともに、教育、学術、文化、生活福祉等の向上に資するものとして今後も大きな役割を担っています。

博物館・美術館の活動には本県に関わりのある資料の収集や保管、展示、教育普及および調査研究があり、それらを集約した沖縄県立博物館・美術館は「県民の知的共有財産」であります。県民の皆様が楽しみながら学習することによって自らの来歴に自信と誇りを持ち、主体的に生きていく意識形成の拠点になりうるものと考えています。おかげさまで開館から2年が過ぎ、2008年度は50万人近い来館者をお迎えすることができました。これもひとえに県民の皆様をはじめとする県内外各位の本館に対する大きな期待の表れであると考えています。これからも現状に甘んじることなく常に進化する博物館・美術館を目指して職員一同微力を投入していこうと決意を新たにしています。

今後ともより一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年（平成22）1月

沖縄県立博物館・美術館
館長 牧野浩隆

目次

序

概要 1

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

利用統計 21

- I 入館者統計
 - 1. 月別総入館者
 - 2. 月別団体入館者
 - 3. 展覧会別入館者
 - 4. 減免申請
 - 5. 団体入館内訳
- II 施設利用者統計
 - 1. 月別施設利用
 - 2. 施設貸出内訳

博物館 33

- I 調査研究等の活動
 - 1. 調査研究の概要
 - 2. 博物館総合調査－与那国島総合調査－
 - 3. 博物館共同研究事業－人類学調査－
 - 4. 調査・研究等
 - 5. 講演等
 - 6. 著作論文等
 - 7. 職員研修
- II 展示活動
 - 1. 展示活動の概要
 - 2. 常設展
 - 3. 部門展示替え
 - 4. 企画展『新収蔵品展－平成19年度収蔵資料－』
 - 5. 企画展『ずしがめの世界』
 - 6. 特別展『甦る琉球王国の輝き』
 - 7. 企画展『発掘された日本列島2008』
 - 8. 企画展『沖縄考古学ニュース』
- III 教育普及活動
 - 1. 博物館教育普及活動の概要
 - 2. 学校連携事業
 - 3. 博物館体験学習教室
 - 4. 博物館文化講座
 - 5. 学芸員講座
 - 6. 展示解説会
 - 7. バックヤードツアー
 - 8. 夏休み子ども相談週間
 - 9. 博物館ボランティア活動
 - 10. ふれあい体験室
 - 11. フリーパス
 - 12. 職場研修受入
 - 13. 職場体験受入
 - 14. 普及資料の貸出
- IV 資料収集・保存管理
 - 1. 収蔵資料現在高
 - 2. 2008年度（平成20）新収蔵資料高
 - 3. 2008年度（平成20）新収蔵資料目録
 - 4. 所蔵指定文化財
 - 5. 修理事業
 - 6. 化石資料受入事業
 - 7. レプリカ等製作事業
 - 8. 資料収集事業－資料収集－
 - 9. 資料収集事業－基金－
 - 10. 資料貸出

美術館 81

- I 調査研究等の活動
 - 1. 調査研究の概要
 - 2. 調査・研究等
 - 3. 講演等
 - 4. 著作論文等
- II 展示活動
 - 1. 展示活動の概要
 - 2. コレクション展（常設展）
 - 3. 企画展『美術家たちの「南洋群島」』
 - 4. 企画展『移動と表現－変容する身体・言語・文化－』
- III 教育普及活動
 - 1. 美術館教育普及活動の概要
 - 2. 鑑賞活動支援
 - 3. 実技体験支援
 - 4. 講演会・シンポジウム
 - 5. 映画上映
- IV 作品収集・保存管理
 - 1. 収蔵作品現在高
 - 2. 2008年度（平成20）新収蔵作品高
 - 3. 2008年度（平成20）新収蔵作品目録
 - 4. 作品収集事業
 - 5. 保存管理業務
 - 6. 作品貸出

文化の杜共同企業体（指定管理者）..... 101

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議
- V 展示活動
 - 1. 展示活動の概要
 - 2. 『世界の現代アーティスト50人展ーガルシア・ロルカを顕彰して』
 - 3. 『情熱と戦争の狭間でー無言館 沖縄・画家たちの表現ー』
 - 4. 特別展『恐竜ミュージアム2008～失われた地上最大の生物たち～』
 - 5. 『哀愁と血の造形ー嘉手川繁夫の世界ー』
 - 6. 『しまくとぅばー未来へつなぐアート展ー』
 - 7. 自主企画『あんやたん展』(写真展)
 - 8. 『慰霊の日』企画『戦況を伝える新聞ーあの時私はどこにいたのか』
 - 9. 『世界の現代アーティスト50人展ーガルシア・ロルカを顕彰して』石垣移動展
 - 10. 『クジラとぼくらの物語』 11. 『ダリ展』 12. 県民ギャラリー
- VI 教育・イベント活動
 - 1. 教育・イベント活動の概要 2. 講演会・シンポジウム
 - 3. ギャラリートーク・アーティストトーク 4. ワークショップ
 - 5. コンサート 6. おもろ夜会 7. パフォーマンス
 - 8. 上映会 9. その他
 - 10. 記念催事ー開館一周年を彩る歌と踊りー
- VII 広報・交流事業活動
 - 1. 広報事業 2. 地域イベントへの参加
- VIII 調査・研究等の活動
 - 1. 調査・研究等 2. 著作論文等
- IX その他
 - 1. 職員研修・消火訓練 2. 中学生職場体験学習の受け入れ

全館共同事業 137

- I 学芸員実習
 - 1. 博物館実習 2. 美術館実習
- II 国際博物館の日
- III 移動展
- IV 燻蒸・消毒処理
- V 刊行物

その他の活動 147

- I 沖縄県博物館協会
- II 全国組織との関わり
 - 1. 日本博物館協会 2. 九州博物館協議会 3. 美術館連絡協議会
 - 4. アジア美術館長会議
- III 沖縄博物館友の会
- IV happ (美術館支援会)

関係法規抄録 153

- 博物館法 ○博物館法施行令
- 博物館法施行規則 ○博物館の登録に関する規則
- 沖縄県立教育機関組織規則(抄) ○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則 ○沖縄県立博物館・美術館館長職務規程
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程 ○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程 ○美術品保存修復嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

概 要

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 收藏資料現在高

I. 沿革

【前史】

1936年(昭和11)沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して『郷土博物館』が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦直後の1945年(昭和20)8月、米軍海軍軍政府は石川市(現うるま市)東恩納の地に『沖縄陳列館』を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年(昭和21)3月頃、首里の汀良に『首里市立郷土博物館』が設立された。

【創設】

1946年(昭和21)4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、『東恩納博物館』と改称して、新発足した。これが当館の創立にあたる。

【発展】

1953年(昭和28)東恩納博物館と首里の博物館が合併、1955年(昭和30)には『琉球政府立博物館』に改称した。また、1966年(昭和41)には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。1972年(昭和47)の日本への復帰に伴い名称を『沖縄県立博物館』と改め、1973年(昭和48)に2階部を増築し展示スペースを拡充した。

1980年代末(昭和60年代)頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。2004年(平成16)に那覇市新都心に新館の建設を着工。首里在の博物館は、新館への移転準備のため2006年4月1日に休館。2007年(平成19)11月1日に那覇新都心(おもろまち)に美術館を併設した『沖縄県立博物館・美術館』として開館した。

【あゆみ】

- 1946(昭和21) 4月 沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管となる。(4月24日)
- 1947(昭和22) 12月 前年3月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管し「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。
- 1953(昭和28) 3月 東恩納博物館を首里博物館に移転合併する。
5月 首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。
米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、ペルリ記念館を附設して落成、贈呈される。
- 1955(昭和30) 9月 「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。
- 1965(昭和40) 9月 大中町の旧尚家屋敷跡(中城御殿)を購入する。
- 1966(昭和41) 10月 米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。
11月 開館する。
- 1972(昭和47) 2月 サントリー美術館との共催で、『50年前の沖縄』写真展開催
5月 日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称する。
- 1973(昭和48) 2月 国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設する。
- 1976(昭和51) 4月 創立30周年記念式典を行う。
12月 『博物館30年の歩み展』開催
- 1979(昭和54) 6月 特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催
- 1980(昭和55) 1月 特別展『日本の美-救世熱海美術館名品展-』及び『沖縄県立博物館名品展』開催
2月 「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する(2008年度からは「移動展」に改称)。
8月 特別展『琉球のシダ植物』開催
11月 特別展『失われた生物たち-大恐竜展-』開催
- 1981(昭和56) 3月 博物館法に基づき『登録博物館』として登録される。(3月30日付け)
10月 特別展『沖縄の美-日本民芸館蔵-』および『戦前の沖縄写真展』開催
- 1982(昭和57) 5月 新たに常設展として自然部門を設置
7月 企画展『沖縄の昆虫』開催
10月 特別展『熊本県・沖縄県交流展-熊本の歴史と文化-』開催
- 1983(昭和58) 5月 企画展『琉球の漆工芸』開催
11月 特別展『沖縄県・熊本県交流展-沖縄の美 風土と美術工芸-』を熊本県立美術館にて開催
- 1984(昭和59) 6月 企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展-琉球芸能の世紀-』開催

- 7月 企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催
- 1985 (昭和60) 10月 企画展『今帰仁グスク展』開催
- 2月 企画展『紅型衣装と型紙展』開催
- 1986 (昭和61) 11月 特別展『グスクグスクが語る古代琉球の歴史とロマン』開催
- 2月 特別展『大嶺薫コレクションー美術工芸の美を求めてー』開催
- 1987 (昭和62) 10月 スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然・歴史・文化』『沖縄近代の絵画ー物故作家ー』開催
- 12月 企画展『田名家收藏品展ーある首里士族の400年ー』開催
- 1988 (昭和63) 企画展『現代沖縄の陶芸ー天野鉄夫コレクションー』開催
- 8月 特別展『ヤンバルの自然』開催
- 1989 (平成 元) 11月 特別展『三線名器100挺展』開催
- 11月 特別展『インドネシア更紗展』開催
- 1990 (平成 2) 12月 企画展 真境名由康生誕100年記念『芸能資料展』開催
- 1月 特別展『大アンデス文明展』開催
- 8月 企画展『沖縄の野鳥展』開催
- 1991 (平成 3) 11月 企画展『沖縄の祭り』開催
- 2月 企画展『技と美ー大城志津子の世界ー』開催
- 8月 企画展『沖縄のチョウ展』開催
- 9月 企画展『壺屋陶工遺作展』開催
- 1992 (平成 4) 10月 特別展『アジアの祭りと芸能』開催
- 2月 企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催
- 6月 特別展『古代メキシコ至宝展』開催
- 8月 特別展『沖縄の貝類展』開催
- 1993 (平成 5) 10月 復帰20周年記念特別展『琉球王国展』開催
- 1月 特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催
- 2月 企画展『謝花雲石展』開催
- 7月 企画展『芭蕉布と平良敏子』開催
- 8月 特別展『沖縄の川と生きもの』開催
- 1994 (平成 6) 11月 企画展『刻まれた歴史ー沖縄の石碑と拓本ー』開催
- 7月 特別展『子どもの世界』開催
- 1995 (平成 7) 6月 戦後50周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催
- 1996 (平成 8) 7月 特別展『大久米島展』開催
- 12月 企画展『沖縄県立博物館50年の歩み』開催、創立50周年式典を行う。
- 1997 (平成 9) 4月 特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催
- 1998 (平成10) 7月 企画展『琉球王国時代の植物標本展』開催
- 11月 特別展『包むこころ ふろしき展』開催
- 1999 (平成11) 8月 特別展『三線のひろがりと可能性展』開催
- 10月 企画展『日本の技ー伝統のかたちー』開催
(第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展)
- 2000 (平成12) 2月 企画展『工芸王国ーきらめく手わざの世界を沖縄からー』開催
- 7月 特別展サミット開催記念『大琉球展』開催
- 2001 (平成13) 11月 特別展ハワイ移民100周年記念『日系移民1世紀展』開催
- 2月 企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催
- 3月 企画展『工芸王国ー人・技・心ー』開催
- 2002 (平成14) 11月 特別展『かざりとかたち展』開催
- 9月 特別展『港川人展』開催
- 2003 (平成15) 10月 企画展『沖縄の文化財展』開催
- 2月 企画展『おきなわナースものがたり』開催
- 7月 企画展『旅する種子ー運ばれるための巧妙なしかけー』開催
- 2004 (平成16) 10月 特別企画展『沖縄織物へのメッセージー田中俊雄の研究ー』開催
- 2月 企画展『戦前・戦後の文化財保護ー仲座久雄の活動をとおしてー』開催
- 8月 企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』開催
- 11月 企画展『自然界のエイリアンー海をこえて持ちこまれた動物たちー』開催
- 2005 (平成17) 2月 特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会ー入江正彦児童文化史コレクションー』開催
- 2006 (平成18) 2月 閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼ー柳宗悦の民藝と巨匠たち展ー』開催
- 3月 『ありがとう・さよなら』キャンペーン (3月22日~3月31日 無料入館)
- 企画展『わたしの宝もの展』(博物館友の会主催) 開催

- 2007 (平成19) 3月 閉館の集い実施 (31日)
 4月1日から博物館新館移転準備のため2007年(平成19)10月末まで休館する。
 新館へ事務所移転(29日)。首里在の沖縄県立博物館閉館式(30日)を行い、沖縄県立博物館の全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ(31日)。
- 4月 新館での事務を開始する(1日)。
 7月 沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として「文化の杜共同企業体」が指定を受ける。
 8月 指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめめる。
 11月 那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅ー港川人の来た道ー』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡1872-2007』を開催する。(1日)
- 2008 (平成20) 2月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成17・18年度収蔵資料ー』開催
 3月 指定管理者企画展『世界の現代アーティスト50人展』開催
 美術館常設展開会式(25日)
 5月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成19年度収蔵資料ー』開催
 指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間でー無言館 沖縄・画家たちの表現ー』開催
 7月 美術館企画展『新収蔵品展 ポリエードルー沖縄・アジアの多様性ー』開催
 指定管理者企画展『哀愁と血の造形ー嘉手川繁夫の世界ー』開催
 指定管理者特別展『恐竜ミュージアム2008』開催
 9月 指定管理者企画展『しまくとぅば』開催
 博物館企画展『ずしがめの世界』
 11月 開催開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催
 美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催
- 2009 (平成21) 1月 博物館企画展『発掘された日本列島2008』
 博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催
 美術館企画展『移動と表現ー変容する身体・言語・文化ー』開催

【歴代館長】

○東恩納博物館

大嶺 薫 (1946年4月～1953年3月)

○首里博物館

豊平 良顕 (1947年12月～1948年3月)
 原田 貞吉 (1948年8月～1953年3月)

○沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉 (1953年3月～1955年5月)

○琉球政府立博物館

山里 永吉 (1955年5月～1958年8月)
 大城 知善 (1962年2月～1969年11月)

金城増太郎 (1958年9月～1961年12月)
 外間 正幸 (1969年12月～1972年4月)

○沖縄県立博物館

外間 正幸 (1972年5月～1981年3月)
 大城 立裕 (1983年4月～1986年3月)
 宜保榮治郎 (1992年4月～1994年3月)
 當間 一郎 (1996年4月～1999年3月)
 平田 與進 (2000年4月～2002年3月)
 名嘉 政修 (2005年4月～2006年3月)
 新垣 隆雄 (2007年4月～2007年10月)

大城徳次郎 (1981年4月～1983年3月)
 大城 宗清 (1986年4月～1992年3月)
 糸数 兼治 (1994年4月～1996年3月)
 大城 将保 (1999年4月～2000年3月)
 當眞 嗣一 (2002年4月～2005年3月)
 宮城 清志 (2006年4月～2007年3月)

○沖縄県立博物館・美術館

牧野 浩隆 (2007年11月～)

II. 日誌抄 (2008年4月1日～2009年3月31日)

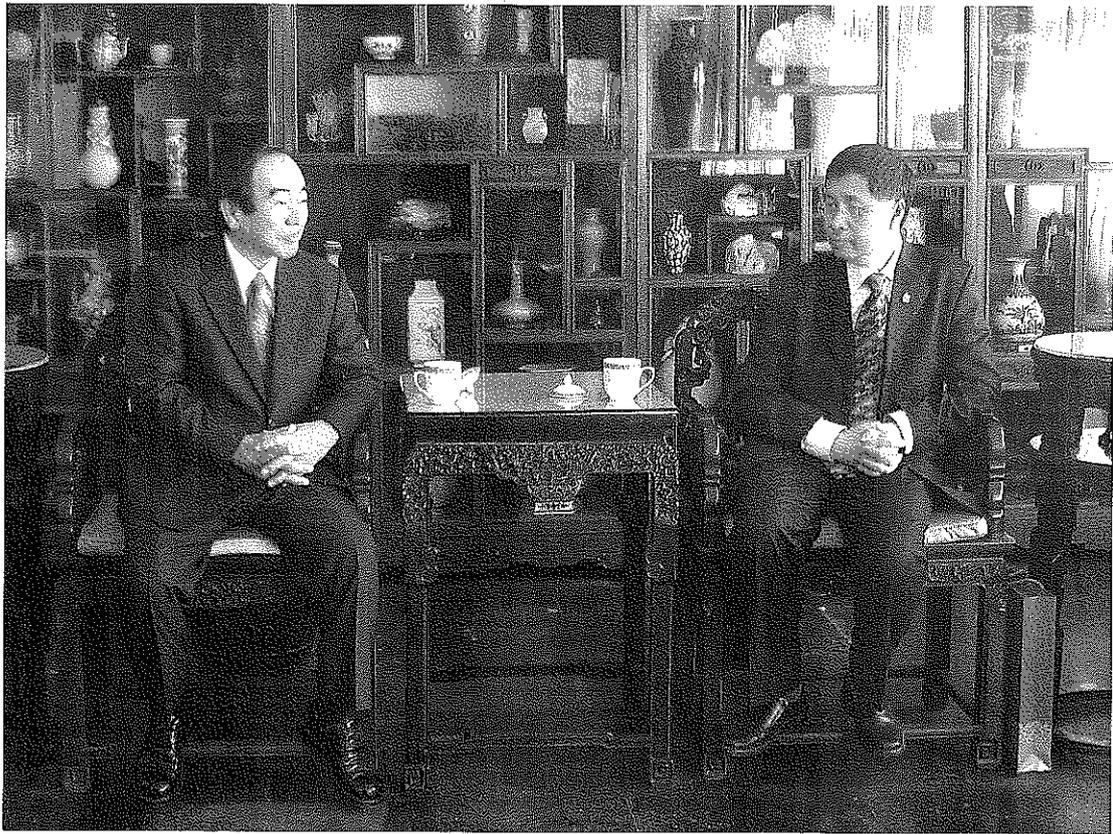
2008年(平成20)

- 4月 1日 県民ギャラリー開館「安次富朝昭」展他
15日 内閣府大臣官房小河俊夫審議官視察
28日 紺綬褒章贈呈式(教育長応接室)
30日 沖縄水産高校校長表敬訪問、継続博物館ボランティア登録証交付式
- 5月 9日 博物館ボランティア講座開講式・説明会
11日 指定管理者企画展『世界の現代アーティスト50人展ーガルシア・ロルカを顕彰してー』終了
(2008年3月15日～)
12日 博物館友の会総会
13日 博物館企画展『新収蔵品展ー平成19年度収蔵資料ー』開催(～6月23日)
14日 那覇署長表敬訪問対応、国際博物館の日パネル展開催(～6月1日)
15日 中川内閣府副大臣視察
17日 指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間でー無言館 沖縄・画家たちの表現ー』開催
(～6月29日)、上海博物館副館長表敬訪問
20日 国立民族学博物館博物館学研修、南風原高校理科職員研修
21日 九州博物館協議会総会(鹿児島県:牧野館長、萩尾班長)
29日 北海道議会佐藤議員視察、横須賀市議会視察
30日 沖縄県博物館協会総会・研修会(東南植物楽園:山根副館長 他)
- 6月 4日 栃木県芳賀町文書館視察、大阪府議会視察
5日 美術館支援会総会
6日 総務省情報通信政策統括官視察
9日 沖縄県警察本部長視察
12日 兵庫県立歴史博物館職員来館、駐日アイルランド大使視察
15日 内閣府沖縄振興局長視察
16日 中国北京故宫博物院訪問及び「甦る琉球王国の輝き」展に係る協議書調印(北京:仲村教育長、
牧野館長、萩尾班長、平川学芸員、千木良文化課長、当山文化課班長)
17日 中国第一歴史档案館訪問及び「甦る琉球王国の輝き」展に係る協議書調印(北京:仲村教育長、
牧野館長、萩尾班長、平川学芸員、千木良文化課長、当山文化課班長)
20日 久米島町教育長訪問
24日 学芸員前期実習(博物館)開講(～7月4日)、教育長記者発表(教育長応接室)
29日 美術館コレクション展『山田實コレクション展』『混沌の時代を見つめて』終了(3月25日～)
30日 全館燻蒸(～7月11日)
- 7月15日 美術館企画展『新収蔵品展 ポリエードル～沖縄・アジアの多様性～』開催(～10月13日)
美術館コレクションギャラリー展『沖縄彫刻の展開』(～2009年2月1日)
指定管理者特別展『恐竜ミュージアム2008』開催(～9月7日)
指定管理者企画展『哀愁と血の造形ー嘉手川繁夫の世界ー』開催(～8月31日)
23日 埼玉県議会視察、教師のための博物館講座実施(～7月30日)
24日 県立学校教職10年経験者研修対応(～7月27日 美術館班)
外務省沖縄事務所へ表敬訪問(牧野館長、萩尾班長、平川学芸員)
29日 博物館歴史部門展示室展示替え「琉球王国の証ー琉球の辞令書ー」(～2月15日)
博物館歴史部門展示室展示替え「戦後沖縄の看護教育ー看護学校のナースたちのすがたー」
(～2009年8月9日)
29日 琉球新報子ども新聞取材
31日 キューバ大使視察、港川中学校校内研修、具志頭中学校校内研修
- 8月 2日 博物館子ども相談会実施(～8月8日)
8日 定期監査(本庁13階会議室)
11日 第1回美術品収集委員会
13日 名護市小中学校校長会研修

- 19日 財務省主計局北尾主査視察
- 21日 第1回沖縄県博物館・美術館協議会開催
- 22日 江口ちゆら島大使視察
- 25日 消防訓練
- 27日 PCB廃棄物処理説明会(中央保健所:新里主幹)
- 28日 小学校版『博物館ワークシート』委嘱式・全体会議、与那原中学校校内研修
- 31日 釜山美術館学芸員来館
- 9月 1日 学芸員後期実習(博物館、美術館)開講(～9月12日)
- 2日 内閣府参事官視察
- 3日 東京都江戸川区議会視察、グッドデザイン賞審査員視察
- 4日 北海道大学・橋本ゼミ勉強会、ニシムイ講演会のためスタインバーグ氏来沖
- 5日 博物館ボランティア認証状交付式
美術館開館一周年企画「思い出のニシムイ」スタインバーグ氏講演(講堂)
- 8日 嘉手川繁夫作品寄贈セレモニー
- 9日 指定管理者企画展『しまくとぅばー未来へつなぐアート展』開催(～10月5日)
- 17日 博物館企画展『ずしがめの世界』開催(～10月13日)
ハワイ大学所蔵絵巻修復記者発表(博物館講座室)
- 27日 中国北京故宮博物院考察団来沖(～10月3日)
- 30日 浦添市美術館職員研修
- 10月 3日 『私たちの文化財』図画コンクール作品審査(東町会館:大城学芸員)
- 6日 第2回美術品等収集委員会(美術館班)開催
- 9日 文化庁職員視察
- 13日 ハワイ大学総長表敬訪問
- 14日 開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』資料借用
(中国・北京、～19日:平川学芸員、上原囑託員)
- 15日 ニシムイ講演会に対する米国総領事へのお礼(米国総領事館:牧野館長)
- 17日 沖縄県芸術文化祭開催(～26日)
タカエズトシコ作品調査(ロサンゼルス、～24日:與那原副館長)
- 18日 出前美術館開催(～26日:シュガーホール)
- 24日 美術館連絡協議会(東京:與那原副館長)
- 25日 北京故宮博物院学芸員ら来沖(開館一周年記念展展示準備のため)(～10月30日)
- 31日 北京故宮博物院学副委員長芸員ら来沖(式典出席のため)(～11月3日)
美術館コレクション展『比嘉康雄コレクション展』開催(～2月1日)
『沖縄プリズム』開会あいさつ(東京国立近代美術館:牧野館長)
- 11月 1日 開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催(～12月21日)
- 7日 美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催(～1月18日)
- 12日 鳥取県議会視察
- 13日 沖縄県博物館協会秋の研修(本部町:萩尾班長、田中学芸員、知念学芸員)
- 14日 沖縄電力視察
- 15日 名古屋市美術館友の会(22人)来館
- 26日 福岡高等検察庁視察、文科省教育事情視察
- 12月 4日 アイリーン・ヒラノ氏講演会
- 10日 米国総領事館高安氏視察
- 11日 地方債月報取材、上海テレビ取材
- 17日 観光庁職員視察
- 18日 沖縄県教育情報化推進委員会幹事会(本庁:松竹主任)
- 21日 中国北京故宮博物院撤収作業団来沖(～12月26日)
- 22日 美術館開館一周年記念展のニシムイ作品サンフランシスコより到着

2009年(平成21)

- 1月 9日 博物館企画展『発掘された日本列島2008』『沖縄考古学ニュース』開催(～3月1日)
閉館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』への御礼及び資料返却
(中国・北京、～15日:仲村教育長、千木良文化課長、萩尾班長、平川学芸員)
- 15日 栃木県立美術館職員来館
- 21日 米国総領事館に表敬訪問(米国総領事館:牧野館長)
- 24日 元沖縄開発庁長官表敬訪問
- 31日 美術館企画展『移動と表現—変容する身体・言語・文化—』開催(～3月29日)
- 2月 5日 移動博物館・美術館開催(東村、～2月8日)
- 10日 滋賀県立琵琶湖博物館調査(滋賀県:赤嶺学芸員)、名古屋港管理組合議会視察
- 13日 國學院大學博物館学実習、徳島県立博物館職員来館
- 15日 『移動と表現』関連イベントのアルゼンチンタンゴをアルゼンチンから招聘
- 17日 美術館コレクション展『石川文洋コレクション展』『ベトナム現代絵画』開催(～5月10日)
博物館歴史部門展示室替え「刻まれた歴史—石碑・拓本—」(～2009年7月12日)
第2回沖縄県立博物館・美術館協議会開催
- 18日 内閣府河合参事官視察
- 19日 内閣府職員視察
- 26日 兵庫県立歴史博物館職員来館
- 3月 4日 イリーン・ヒラノ氏一行歓迎会(米国総領事館邸)
- 5日 PCB廃棄物保管事業者説明会(中央保健所:新里主幹)
- 11日 長崎県文化・スポーツ振興課職員来館
- 16日 宮崎県総合博物館職員来館
- 22日 栃木県立美術館職員来館
- 25日 三重県議会視察、『移動と表現』関連でジェーン・デュレイ来沖
- 31日 『ベトナム展』関連でベトナム関係者来館

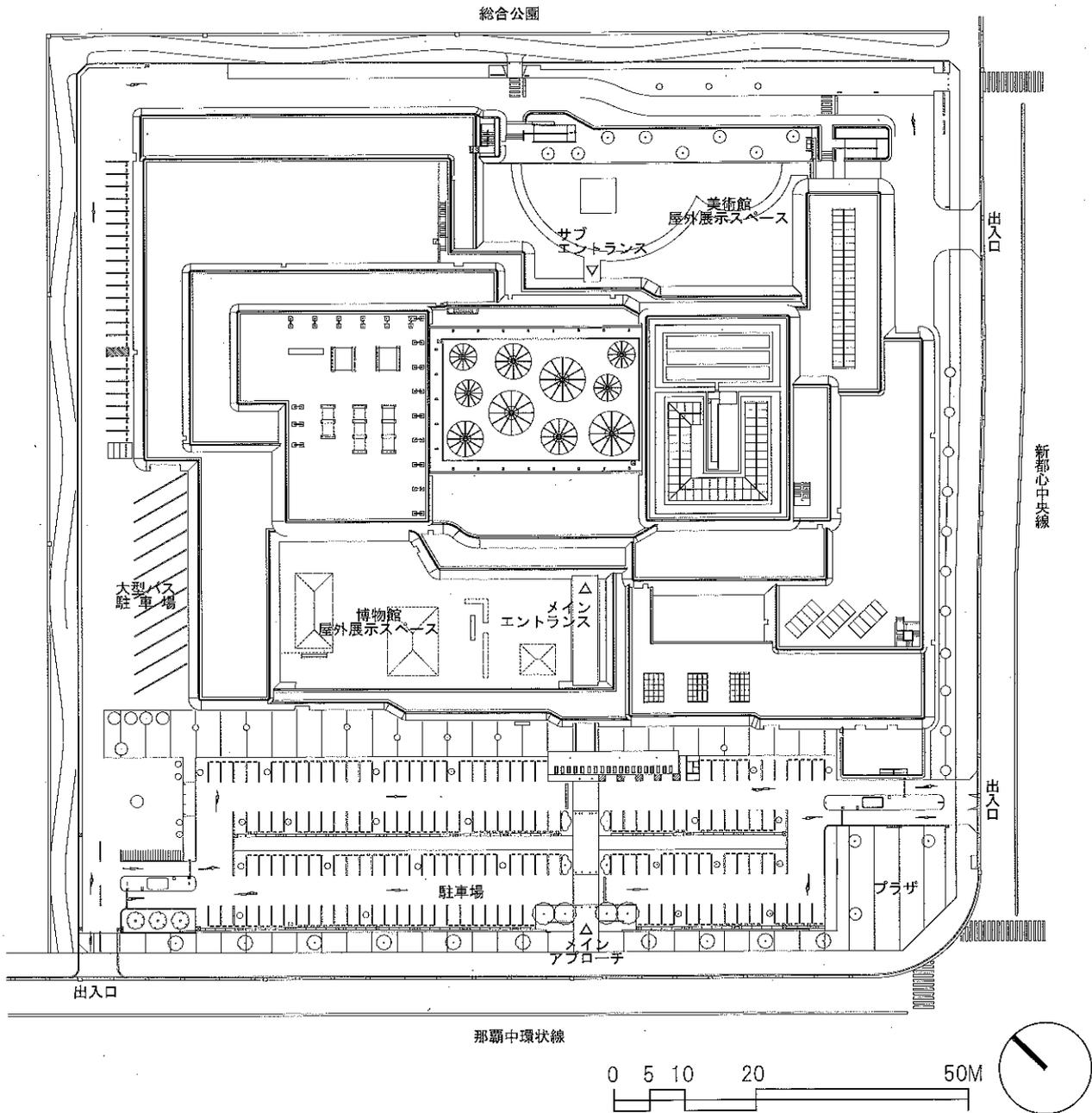


博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』協議書調印のようす
(中国北京：故宮副院長（右）と仲村教育長（左）)



美術館企画展『移動と表現』テープカットのようす

Ⅲ. 施設・設備



建築概要

- 敷地面積……………31,287㎡
- 建築面積……………13,452㎡
- 延床面積……………23,721㎡
- 博物館専有面積……………10,478㎡
- 美術館専有面積……………7,537㎡
- 共有面積……………5,708㎡
- 高さ・最高高さGL+21.8m
- 駐車場
- 一般駐車場 140台
(うち身障者用4台)
- 大型バス駐車場……………10台
- 駐輪場……………25台
- 関係者駐車場……………22台

供用施設

- エントランスホール……………724㎡
- 情報センター……………217㎡
- 講堂(212席)……………349㎡

博物館の主たる施設

- 展示施設
- 総合展示室……………1,252㎡
- 部門展示室……………1,344㎡
- 自然史部門 360㎡
- 考古部門 262㎡
- 美術工芸部門 180㎡
- 歴史部門 120㎡
- 民俗部門 421㎡
- 屋外展示場……………1,425㎡
- 企画展示室……………351㎡
- 特別展示室……………459㎡
- 教育普及施設
- ふれあい体験室……………110㎡
- 博物館講座室……………191㎡
- 実習室……………108㎡

●収蔵施設(ダブルデッキ含む)

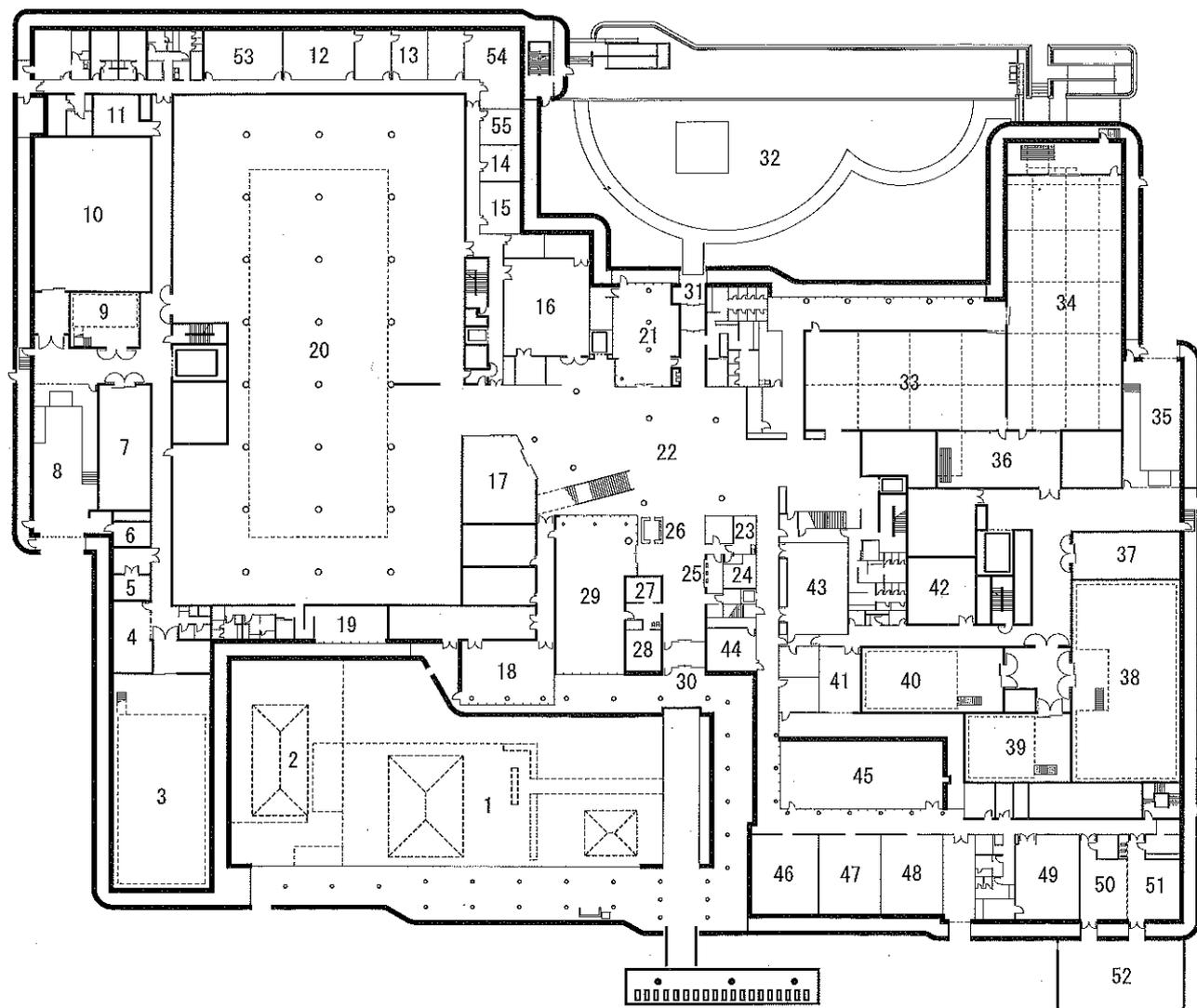
- 自然史収蔵庫……………417㎡
- 化石収蔵庫……………245㎡
- 考古・陶磁器収蔵庫……………613㎡
- 特別収蔵庫……………439㎡
- 民俗収蔵庫……………668㎡
- 大型収蔵庫……………358㎡
- 液浸標本室……………97㎡
- 一時保管庫……………119㎡

●調査研究施設

- 研究室……………176㎡
- 研究資料室……………111㎡
- 会議室……………72㎡

美術館の主たる施設

- 展示施設
- 企画ギャラリー1……………394㎡
- 企画ギャラリー2……………490㎡
- コレクションギャラリー1……………164㎡
- コレクションギャラリー2……………284㎡
- コレクションギャラリー3……………370㎡
- 県民ギャラリー(1~3)……………277㎡
- 県民ギャラリー(スタジオ) 111㎡
- 県民アトリエ……………65㎡
- こどもアトリエ……………70㎡
- 屋外展示場……………1,368㎡
- 教育普及施設
- 美術館講座室……………109㎡
- 収蔵施設(ダブルデッキ含む)
- 収蔵庫A……………683㎡
- 収蔵庫B……………248㎡
- 収蔵庫C……………204㎡
- 調査研究施設
- 研究室……………98㎡
- 研究資料室……………98㎡
- 会議室……………58㎡



1階

1階

(博物館)

- 1 博物館野外展示
- 2 湧田古窯
- 3 民俗収蔵庫
- 4 写真撮影室
- 5 冷凍室
- 6 石工室
- 7 一時保管庫
- 8 トラックヤード
- 9 液浸標本室
- 10 大型収蔵庫
- 11 修理修復室
- 12 博物館・美術館庶務室
- 13 館長室
- 14 博物館友の会室
- 15 博物館ボランティア室
- 16 博物館講座室
- 17 博物館ふれあい体験室
- 18 博物館実習室
- 19 博物館常設展示休憩室
- 20 博物館常設展示室

(共有)

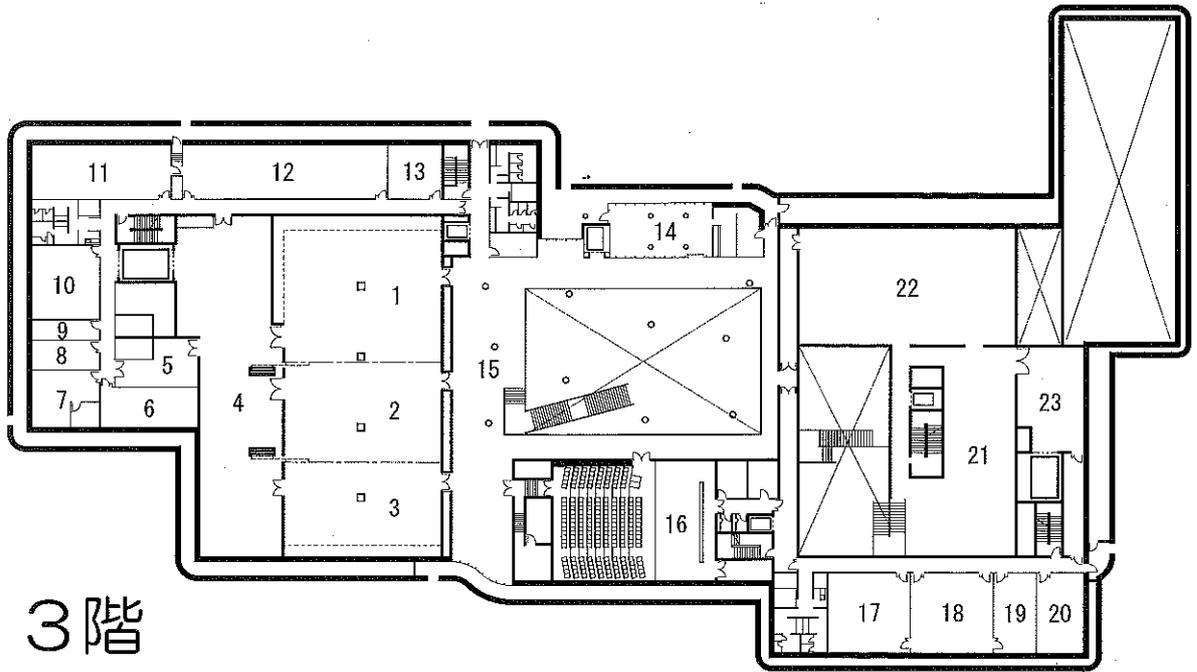
- 21 ミュージアムショップ
- 22 エントランスホール
- 23 授乳室
- 24 託児室
- 25 券売
- 26 総合案内
- 27 救護室
- 28 コインロッカー
- 29 情報センター
- 30 メインエントランス
- 31 サブエントランス

(美術館)

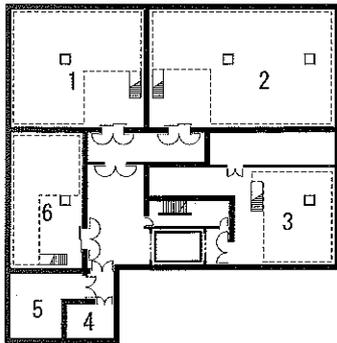
- 32 美術館野外展示
- 33 美術館企画ギャラリー1
- 34 美術館企画ギャラリー2
- 35 トラックヤード
- 36 展示準備室
- 37 一時保管庫
- 38 収蔵庫A
- 39 収蔵庫B
- 40 収蔵庫C
- 41 保存修復室
- 42 工作室
- 43 美術館講座室
- 44 美術館ボランティア室
- 45 中庭
- 46 県民ギャラリー1
- 47 県民ギャラリー2
- 48 県民ギャラリー3
- 49 県民ギャラリー (スタジオ)
- 50 県民アトリエ
- 51 こどもアトリエ
- 52 屋外活動スペース

(文化の柱・指定管理者)

- 53 会議室
- 54 事務室
- 55 展示交流員控室

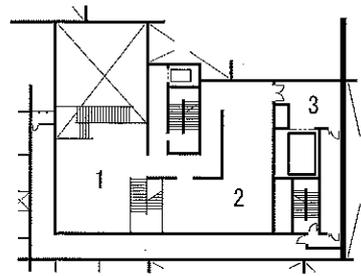


3階



地階

2階



3階

(博物館)

- 1 企画展示室2
- 2 企画展示室1
- 3 特別展示室
- 4 展示準備室
- 5 工作室
- 6 自然史実験室
- 7 保存科学室
- 8 フィルム保管庫
- 9 映像編集室
- 10 学芸員会議室
- 11 研究資料室
- 12 学芸員研究室
- 13 研修室

(共有)

- 14 喫茶室
- 15 ホワイエ
- 16 講堂

(美術館)

- 17 研究資料室
- 18 学芸員研究室
- 19 情報処理室
- 20 学芸員会議室
- 21 コレクションギャラリー2
- 22 コレクションギャラリー3
- 23 展示準備室

地階

(博物館)

- 1 特別収蔵庫
- 2 考古陶磁器収蔵庫
- 3 自然史収蔵庫
- 4 劣化フィルム収蔵庫
- 5 写真パネル収蔵庫
- 6 化石収蔵庫

2階

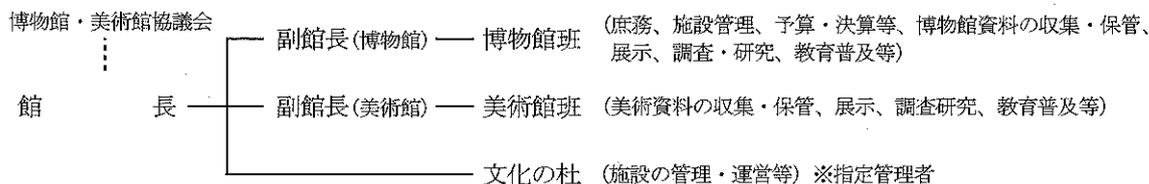
(美術館)

- 1 ホワイエ
- 2 コレクションギャラリー1
- 3 展示準備室

IV. 組織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館は首里に在った博物館に新たに美術館を併設し、那覇市新都心地区に2007年（平成19）11月1日に移転・開館した。この新館開館を機に指定管理者制度も導入しているため、組織は以下のように『博物館班』『美術館班』『文化の杜（指定管理者）』の3つにより構成されている。なお、文化の杜に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】

2009年4月1日 現在

職名	氏名	担当業務
館長	牧野 浩隆	◎博物館・美術館業務の総理に関する事。
参事兼 博物館副館長	千木良芳範	◎博物館・美術館の統括に関する事。 ◎博物館業務の統括に関する事。
美術館副館長 兼 班長	翁長 直樹	◎美術館業務の統括に関する事。

博物館班（庶務）

主幹	前田 直昭	◎博物館・美術館の事務の総括に関する事。 ◎予算・執行の総括に関する事。 ◎文書管理の総括に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ◎経営調整会議に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ○九州博物館協議会沖縄開催に関する事。 ○議会対応に関する事。 ○視察対応に関する事。 ○広報宣伝に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
主査	大城 洋子	◎博物館・美術館の庶務業務に関する事。 ◎出納業務に関する事。 ◎予算・決算の資料作成に関する事。 ◎会計業務（負担行為、支出）に関する事。 ◎文書、公印、公用車の管理業務に関する事。 ◎職員の給与、福利、サービス及び研修業務に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
主査	上原 善彦	◎施設・財産関連業務に関する事。 ◎備品の登録業務に関する事。 ◎県債、建物及び使用料等歳入に関する事。 ◎博物館・美術館広報宣伝に関する事。 ◎視察対応に関する事。 ◎情報管理（ホームページ等）に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ○博物館・美術館協会及び経営調整会議に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
主査	新里 勝	◎施設管理に関する事。 ◎施設管理にかかる指定管理者との調整業務に関する事。 ◎その他施設管理事務に関する事。
事務補助員	與那覇美幸	○文書受付に関する事。 ○業務補助に関する事。

博物館班 (学芸)

<p>博物館班長</p>	<p>濱口 寿夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎博物館班の総括に関する事。 ◎博物館予算に関する事。 ◎議会对応の総括に関する事。 ◎視察対応の総括に関する事。 ◎出納員に関する事。 ◎博物館・美術館協議会に関する事。 ◎博物館資料の収集方針に関する事。 ◎博物館活動の計画に関する事。 ◎博物館特別展示室・企画展示室の運営・管理に関する事。 ◎学芸員実習の受け入れに関する事。 ◎博物館の鍵の管理に関する事。 ◎九州博物館協議会沖縄開催に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ○H21年度特別展『造礁サンゴ』に関する事。 ○博物館友の会に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。
<p>主任学芸員 (自然史・生物)</p>	<p>田中 聡</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎生物資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎生物分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関する事。 ◎屋外展示 (植生) に関する事。 ◎H21年度企画展『造礁サンゴ』に関する事。 ◎博物館総合調査に関する事。 ◎剥製製作に関する事。 ◎沖縄県サンゴ礁保全推進協議会に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。 ○H22年度特別展『八重山展 (仮称)』に関する事。 ○博物館紀要の編集・発行に関する事。 ○学芸研究資料室の図書に関する事。
<p>主任学芸員 (自然史・地学)</p>	<p>仲里 健</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎地質・化石資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎地質・化石分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関する事。 ◎化石資料整理事業に関する事。 ◎IPM及び博物館資料の燻蒸・消毒に関する事。 ○九州博物館協議会沖縄開催に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。 ○H21年度企画展『造礁サンゴ』に関する事。 ○H21年度企画展『ものづくり今昔』に関する事。 ○共同研究事業に関する事。
<p>主任 (考古)</p>	<p>羽方 誠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎考古分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関する事。 ◎屋外展示 (湧田窯) に関する事。 ◎資料 (土器等) 修復に関する事。 ◎文化財公開承認施設及び登録博物館に関する事。 ◎移動展に関する事。 ○H21年度企画展『ものづくり今昔』に関する事。 ○H22年度特別展『八重山展 (仮称)』に関する事。 ○常設総合展示室に関する事。 ○情報センターの図書・データに関する事。
<p>主任学芸員 (歴史)</p>	<p>岸本 弘人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎歴史資料 (近現代) の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎歴史分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関する事。 ◎常設総合展示室に関する事。 ◎『国際博物館の日』関連事業に関する事。 ◎H22年度特別展『八重山展 (仮称)』に関する事。 ○H21年度特別展『琉球使節、江戸へ行く!』に関する事。 ○『博物館・美術館年報』の編集・発行に関する事。 ○IPM及び博物館資料の燻蒸・消毒に関する事。 ○保存環境調査 (展示室・収蔵庫) に関する事。 ○博物館広報に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。

主任 (歴史)	崎原 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ◎歴史資料（古琉球・近世）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎歴史分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎H21年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』に関すること。 ◎資料収集事業に関すること。 ◎常設総合展示室に関すること。 ◎保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ○『国際博物館の日』関連事業に関すること。 ○博物館資料修理事業に関すること。 ○収蔵品台帳に関すること。
主任学芸員 (民俗)	岸本 敬	<ul style="list-style-type: none"> ◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎民俗分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（民家・高倉）に関すること。 ◎H21年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ◎学芸研究資料室の図書に関すること。 ○H22年度特別展『八重山展（仮称）』に関すること。 ○収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ○新収蔵品展に関すること。 ○文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。
主任学芸員 (美術工芸)	與那嶺一子	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術工芸資料（染織・書跡・彫刻）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎美術工芸分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎H21年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ◎H22年度特別展『八重山展（仮称）』に関すること。 ○H21年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』に関すること。 ○H22年度企画展『琉球の古陶（仮称）』に関すること。 ○IPM及び博物館資料の燻蒸・消毒に関すること。 ○博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ○博物館資料修理事業等に関すること。 ○ふれあい体験室の運営に関すること。
主任 (美術工芸)	平川 信幸	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術工芸資料（絵画・陶器・漆器）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎美術工芸分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎沖縄県博物館協会に関すること。 ◎博物館資料収集事業（基金）に関すること。 ◎博物館資料修理事業等に関すること。 ◎H22年度企画展『琉球の古陶（仮称）』に関すること。 ○H21年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』に関すること。 ○H21年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ○写真資料の整理・貸出、博物館資料の撮影等に関すること。
専門員 (人類)	藤田 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> ◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎人類学分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎港川人骨の管理に関すること。 ◎収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。 ◎新収蔵品展に関すること。 ◎博物館紀要の編集・発行に関すること。 ◎H22年度人類学企画展に関すること。 ○共同研究事業に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○博物館総合調査に関すること。 ○博物館ホームページに関すること。
専門員 (人類)	山崎 真治	<ul style="list-style-type: none"> ◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎人類学分野の博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。 ◎H21年度企画展『ものづくり今昔』に関すること。 ◎情報センターの図書・データに関すること。 ◎博物館ホームページに関すること。 ◎共同研究事業に関すること。 ○H22年度人類学企画展に関すること。 ○自然史部門展示に関すること。 ○港川人骨の管理に関すること。 ○移動展に関すること。

嘱託員 (学芸)	上原 久	<ul style="list-style-type: none"> ◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関する事。 ◎博物館の写真撮影の受付、写真資料の貸出及び整理に関する事。 ◎博物館の広報に関する事。 ◎博物館の発送業務集約に関する事。 ○歴史・美術工芸に関する事。
-------------	------	--

博物館班 (教育普及)

主任学芸員 (教育普及)	上原 成美	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育普及事業 (ふれあい体験室、実習室、講座等) に関する事。 ◎教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理に関する事。 ◎博物館学習等の調査研究に関する事。 ◎視聴覚機器の整理・保管に関する事。 ◎博物館友の会に関する事。 ◎総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関する事。 ◎ボランティア活動事業に関する事。 ◎体験学習教室の企画及び野外展示の活用に関する事。 ◎学校連携事業に関する事。 ◎ワークシート等の企画編集に関する事。 ○文化講座の企画等に関する事。 ○移動展に関する事。 ○ふれあい体験室の運営に関する事。
嘱託員 (教育普及)	宮平真由美	<ul style="list-style-type: none"> ◎文化講座の企画等に関する事。 ◎ふれあい体験室の運営に関する事。 ◎ボランティア活動の連絡調整に関する事。 ○ふれあい体験室、実習室、講座等に関する事。 ○教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関する事。 ○博物館学習等の調査研究に関する事。 ○視聴覚機器の整理・保管に関する事。 ○総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関する事。 ○博物館学習への各種照会事項対応の補助に関する事。 ○ワークシート等に関する事。

美術館班

美術館副館長 兼美術館班長	翁長 直樹	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術館予算に関する事。 ◎議会対応の総括に関する事。 ◎視察対応の総括に関する事。 ◎博物館・美術館協議会に関する事。 ◎美術館資料の収集方針及び収集に関する事。 ◎美術館活動の計画に関する事。 ◎美術館の鍵及びカードの管理に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ◎文化課との調整に関する事。 ◎展示企画アドバイザー会議に関する事。 ◎県芸術祭に関する事。 ◎経営者調整会議に関する事。 ◎美術館沿革史に関する事。 ◎美術館連絡協議会に関する事。 ○収集委員会に関する事。 ○常設展示室2に関する事。 ○県民ギャラリーに関する事。 ○前向き会議に関する事。 ○IPMに関する事。
主任学芸員	瑞慶山 昇	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術館学芸員の総括に関する事。 ◎調査研究に関する事。 ◎沖縄美術アーカイブに関する事。 ◎企画展示の総括に関する事。 ◎美術館年報・紀要に関する事。 ◎学芸員実習の受け入れに関する事。 ◎班会議の記録に関する事。 ◎常設展3『沖縄美術の愉しみ』に関する事。 ◎収集委員会に関する事。 ○平成21年度県企画2『トシコ・タカエズ展』に関する事。 ○美術館予算に関する事。

主任学芸員	瑞慶山 昇	<ul style="list-style-type: none"> ○議会対応に関すること。 ○博物館・美術館協議会に関すること。 ○県芸術祭に関すること。○美術館資料の収集方針及び収集に関すること。 ○企画展の会議に関すること。 ○経営者調整会議に関すること。
主任学芸員	豊見山 愛	<ul style="list-style-type: none"> ◎展示総括に関すること。 ◎常設展示に関すること。 ◎沖縄戦後女性差別の調査研究に関すること。 ◎常設展示室2『沖縄女性美術家展』に関すること。 ◎移動展『名渡山愛順展』に関すること。 ◎沖縄美術1期(戦前期)、沖縄デザイン、沖縄工芸に関する調査研究・保存に関すること。 ◎常設展示室3『沖縄の色彩』に関すること。
主任学芸員	新里 義和	<ul style="list-style-type: none"> ◎情報発信総括に関すること。 ◎寄贈者表彰式に関すること。 ◎沖縄美術3期(復帰後)の調査研究・保存に関すること。 ◎日本美術の調査研究・保存に関すること。 ◎常設展示室内環境点検管理に関すること。 ◎移動博に関すること。 ◎広報活動に関すること。 ◎収集委員会の資料作成及び事務全般に関すること。 ◎画像の貸し出しに関すること。 ◎博物館の日に関すること。 ○平成21年度県企画2『トシコ・タカエズ展』に関すること。 ○情報センターのデータ・ベースの改善に関すること。 ○学校見学に関すること。 ○常設展示室1の運営に関すること。
主任学芸員	大城 仁美	<ul style="list-style-type: none"> ◎保存総括に関すること。 ◎沖縄美術2期(戦後～復帰)の調査研究・保存に関すること。 ◎沖縄写真の調査・保存に関すること。 ◎作品貸し出し事務に関すること。 ◎企画展示室内環境点検管理に関すること。 ◎県民スタジオの運営に関すること。 ◎IPMに関すること。
主任学芸員	國吉 亮子	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育普及の総括に関すること。 ◎東アジア、東南アジア、亜大陸美術に関する調査研究・保存に関すること。 ◎常設展示室2「風土と自我」に関すること。 ◎常設展示ボランティア育成に関すること。 ◎美術館支援団体h a p pに関すること。 ◎ボランティア組織の指導育成に関すること。 ◎学校との連携に関すること。 ◎アウトリーチ活動に関すること。 ◎身体表現、ワークショップに関すること。 ◎県民アトリエ・子供アトリエに関すること。 ◎講座室に関すること。
嘱託員	吉田 祥子	<ul style="list-style-type: none"> ◎収蔵品データベースに関すること。 ◎収蔵品ボジ管理及び撮影、画像の貸出に関すること。 ◎各企画展のデータベースに関すること。 ◎情報センターデータベースの改善に関すること。 ○収集委員会の資料作成に関すること。 ○美術館ホームページの作家紹介の更新に関すること。
嘱託員	仲村美奈子	<ul style="list-style-type: none"> ◎室内環境点検管理に関すること。 ◎保存管理に関すること。 ◎美術品専用倉庫燻蒸に関すること。 ◎収蔵庫管理(マット、モップ)に関すること。 ○IPMに関すること。 ○県企画展1, 2の補助に関すること。 ○常設展1『版画に見る多様性』に関すること。 ○作品貸し出し事務に関すること。
事務補助員	友寄 寛子	<ul style="list-style-type: none"> ◎文書の收受、発送、図書の受付、整理に関すること。 ○業務補助に関すること

※◎は主担当として行う業務、○は副担当として行う業務である。

職名	氏名	摘要
転出		
参事兼博物館副館長 美術館副館長兼班長 博物館班(庶務) 主任	山根 義治 與那原 慧	参事兼沖縄県立糸満少年自然の家所長 沖縄県立島尻養護学校校長(昇任)
博物館班(学芸) 博物館班長 主任学芸員 主任学芸員	松竹 学 萩尾 俊章 赤嶺 敏 知念 幸子	沖縄県教育庁総務課主査(昇任) 沖縄県教育庁文化課文化財班長 浦添市立浦西中学校教諭 沖縄県立真和志高等学校教諭
美術館班(学芸) 主任専門員	前田 比呂也	沖縄県立総合教育センター
転入		
参事兼博物館副館長 博物館班(庶務) 主査 主査 事務補助員	千木良 芳範 上原 善彦 新里 勝 与那覇 美幸	沖縄県教育庁文化課長(昇任) 沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課 ※再任用制度により採用 採用
博物館班(学芸) 博物館班長 主任学芸員 主任学芸員 主任学芸員 主任学芸員	濱口 寿夫 上原 成美 與那嶺 一子 仲里 健 岸本 弘人	沖縄県教育庁文化課指導主事(昇任) 浦添市立浦添中学校教頭 糸満市立兼城中学校教諭 沖縄県立真和志高等学校教諭 沖縄県立読谷高等学校教諭
美術館班(学芸) 主任学芸員 主任学芸員 嘱託員 事務補助員	瑞慶山 昇 新里 義和 吉田 祥子 内間 梓	沖縄県文化振興課 沖縄県立真和志高等学校教諭 採用 採用
昇任		
博物館班(学芸) 主任 主任	崎原 恭子 平川 信幸	学芸員(昇任) 学芸員(昇任)
美術館班(学芸) 美術館副館長兼班長	翁 長直樹	主幹(昇任)
退職		
博物館班(庶務) 事務補助員	山内 めぐみ	
美術館班(学芸) 嘱託員 事務補助員	比嘉 明子 仲井眞 彩	

V. 沖縄県立博物館・美術館協議会

【第1回会議】

日 時：2008年8月21日（木）10:00～12:00

場 所：博物館講座室

委嘱状交付式：委嘱状交付（新任の委員のみ）

会 議：

館長あいさつ（牧野浩隆館長）

報告事項

- ・博物館、美術館 平成19年度事業実績及び総括（文化の杜）
- ・博物館 平成20年度事業説明（博物館班・文化の杜）
- ・美術館 平成20年度事業説明（美術館班・文化の杜）

協議事項

- ・博物館 平成21年度事業計画（博物館班・文化の杜）
- ・美術館 平成21年度事業計画（美術館班・文化の杜）

【第2回会議】

日 時：2009年2月17日（火）14:00～16:00

場 所：美術館講座室

会 議：

館長あいさつ（牧野浩隆館長）

報告事項

- ・博物館 平成20年度事業経過説明（博物館班）
- ・美術館 平成20年度事業経過説明（美術館班）
- ・文化の杜 平成20年度事業経過説明（文化の杜）
- ・指定管理者の収支状況について（博物館班）

協議事項

- ・博物館平成21年度事業計画（博物館班）
- ・美術館平成21年度事業計画（美術館班）
- ・文化の杜平成21年度事業計画（文化の杜）

沖縄県立博物館・美術館協議会委員会名簿

（任期：2008年2月14日～2010年2月13日）

分 野	氏 名	所 属	職 名	
学 識 経 験 者	自然史	新城 和治	元琉球大学教授	元教授
	歴 史	高良 倉吉	琉球大学法文学部	教 授
	考 古	當眞 嗣一	元沖縄県立博物館	元館長
	民 俗	◎比嘉 政夫	沖縄大学地域研究所	元教授
	人 類	土肥 直美	琉球大学医学部	准教授
	美 術（画）	○宮城 篤正	沖縄県立芸術大学	学 長
	美 術（立体）	西村 貞雄	琉球大学教	元教授
	美 術（写真）	前原 基男	沖縄県写真連盟	会 長
学 校 教 育 関 係 者	小学校教育	仲村 善郎*	沖縄県小学校長会	会 長
		仲地 暁**	沖縄県小学校長会	副会長
	中学校教育	比嘉 秀勝	沖縄県中学校長会	会 長
		並里 勝義**	沖縄県中学校長会	会 長
	高等学校教育	仲皿 正伸*	沖縄県高等学校長会	会 長
新崎 速**	沖縄県高等学校長会	会 長		
社 会 教 育 関 係 者	社会教育	藏根 芳雄	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会 長
	PTA	西銘 生弘*	沖縄県高等学校PTA連合会	会 長
		新垣和歌子**	沖縄県高等学校PTA連合会	会 長

◎=会長、○=副会長 2009年3月31日 現在

※ 任期：2008年2月14日～2008年3月31日

※※ 任期：2008年8月21日～2010年2月13日

VI. 予算

2008年度 歳出 (決算)

(単位:円)

	博物館・美術館 一般管理運営費	博物館・美術館 指定管理費	博物館費	美術館費	合計
報酬	6,224,920	0	3,732,020	2,980,980	12,937,920
賃金	1,528,000	0	0	1,476,340	3,004,340
報償費	0	0	178,800	354,500	533,300
旅費	297,050	0	6,887,485	4,195,860	11,380,395
需用費	1,607,566	0	9,168,924	988,803	11,765,293
役務費	629,172	0	1,975,270	4,439,849	7,044,291
(保険料)	(166,122)	(0)	(0)	(0)	(166,122)
(その他)	(463,050)	(0)	(1,975,270)	(4,439,849)	(6,878,169)
委託料	651,000	305,748,000	34,753,650	49,649,574	390,802,224
使用料及び賃借料	0	0	109,750	625,590	735,340
備品購入費	0	0	13,599,600	12,400,000	25,999,600
負担金補助及び交付金	0	0	3,065,000	0	3,065,000
繰出金	0	0	0	43,011	43,011
公課費	25,200	0	0	0	25,200
合計	10,962,908	305,748,000	73,470,499	77,154,507	467,335,914

2008年度 歳入 (決算)

(単位:円)

	収入済額	説明
土地使用料	26,018	自動販売機土地使用料
建物使用料	7,174,017	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料
宝くじ助成金	15,000,000	宝くじ助成金
文化財修復助成金	780,000	文化財維持・修復事業助成金
雑入	2,216,030	電気料金等
合計	25,196,065	

VII. 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

博物館・美術館資料現在高

2009年3月31日現在

	分類	件数	小計
博物館	自然史	55,842	89,988
	人類	65	
	美術工芸	9,935	
	歴史	11,414	
	考古	6,665	
	民俗	6,067	
美術館	平面	2,647	2,750
	立体	42	
	映像	19	
	その他	42	
総計			92,738

利用統計

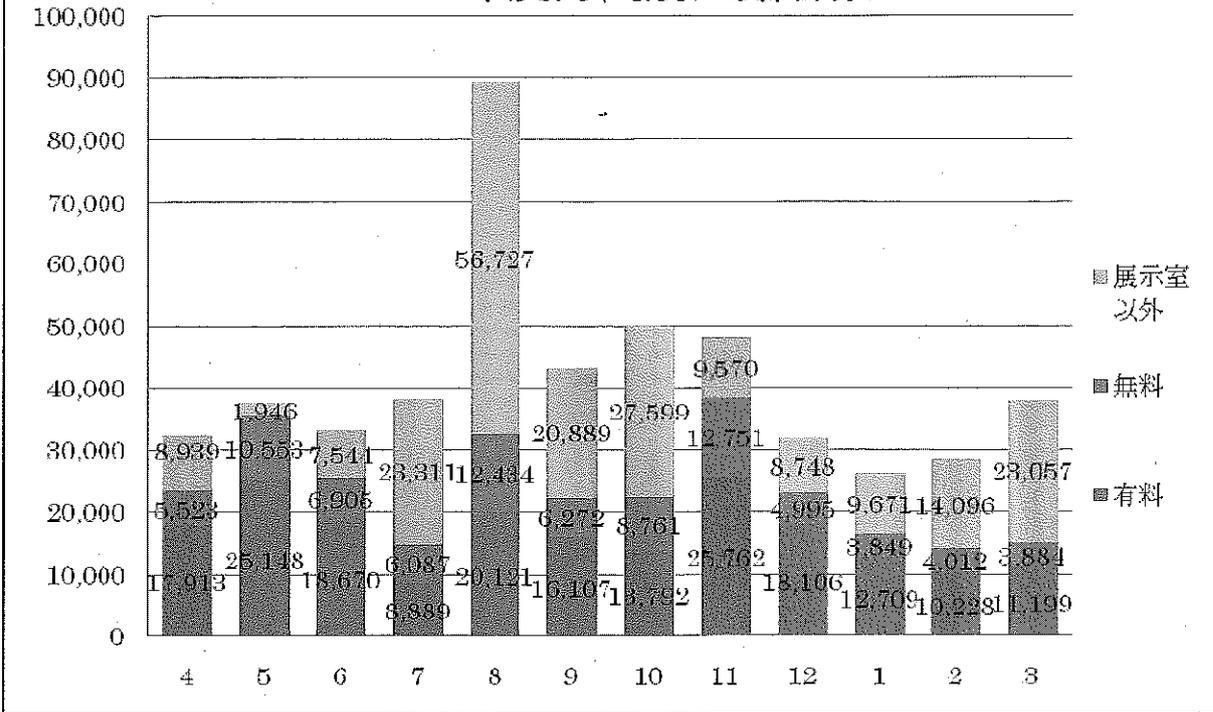
- I 入館者統計
- II 施設利用者統計

3. 展覧会別入館者

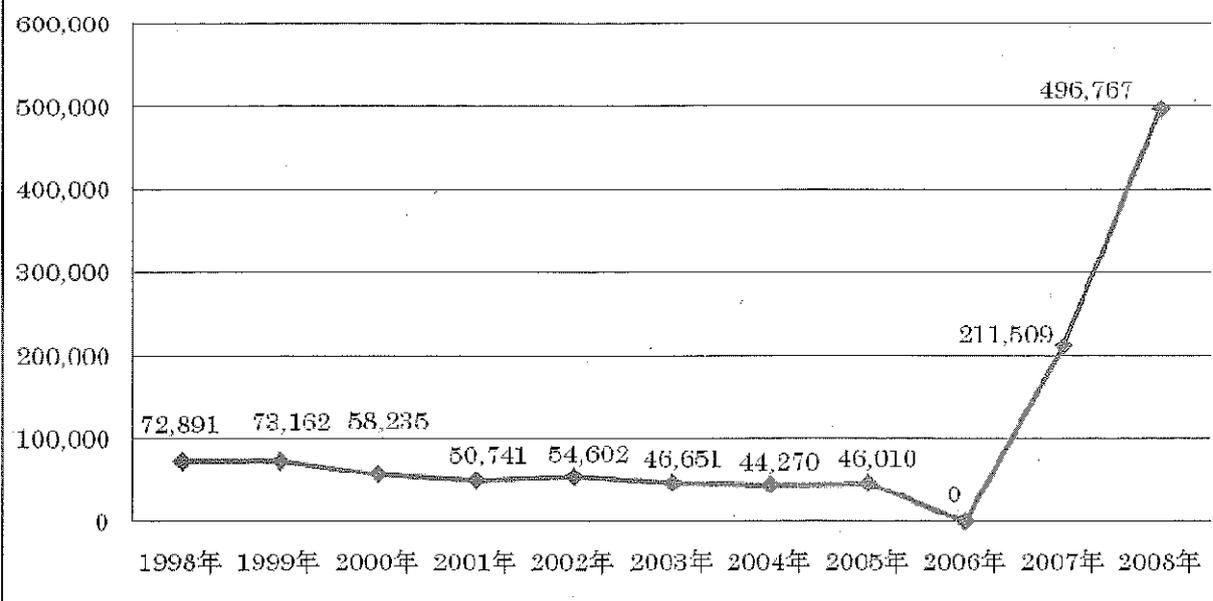
単位：人

展覧会名	観覧者区分	当日券	団体券	前売券	招待券	博物館 1日利用券	全館 1日利用券	年間パス	合計
企画展『新収蔵品展—平成19年度収蔵資料—』	一般	638	68	0	0	3,967	0		
	高・大学生	12	60	0	34	194	0	102	5,571
	小・中学生	331	63	0	0	102	0		
企画展『ずしがめの世界』	一般	578	4	0	0	707	1,909		
	高・大学生	41	0	0	153	52	173	91	3,838
	小・中学生	60	0	0	0	42	28		
特別展『甦る琉球王国の輝き』	一般	7,769	792	894	544	4,995	0		
	高・大学生	283	40	31	0	283	0	314	16,629
	小・中学生	358	256	18	0	52	0		
企画展『発掘された日本列島2008』 企画展『沖縄考古学ニュース』	一般	696	77	6	901	2,415	0		
	高・大学生	47	0	1	0	304	0	106	4,718
	小・中学生	95	0	0	0	70	0		
企画展『美術家たちの「南洋群島」』	一般	1,118	45	245	415	2,069	0		
	高・大学生	65	37	63	0	138	0	243	4,899
	小・中学生	56	204	155	0	46	0		
企画展『移動と表現 —変容する身体・言語・文化—』	一般	1,369	88	41	628	1,228	0		
	高・大学生	128	0	7	0	241	0	128	3,956
	小・中学生	69	0	1	0	28	0		
企画展『情熱と戦争の狭間で —無言館 沖繩・画家たちの表現—』	一般	1,872	134	827	349	2,069	0		
	高・大学生	68	0	15	0	121	0	242	5,903
	小・中学生	103	59	34	0	10	0		
企画展『哀愁と血の造形 —嘉手川繁夫の世界—』	一般	872	42	1,471	2,440	1,878	0		
	高・大学生	72	2	7	0	195	0	203	7,457
	小・中学生	115	20	36	0	104	0		
企画展『しまくとぅば —未来へつなぐアート展—』	一般	564	10	37	1,144	465	1,909		
	高・大学生	48	0	0	0	68	173	140	4,632
	小・中学生	41	0	0	0	5	28		
合計	一般	15,476	1,260	3,521	6,608	19,793	3,818	1,569	57,603
	高・大学生	764	139	124	0	1,596	346		
	小・中学生	1,228	602	244	0	459	56		

2008年度月間別入館者数



年間入館者数の年次推移



4. 減免申請

単位：人

	学校関係	旅行社	マスコミ	福祉施設	博物館・美術館	その他	合計
4月	325	6	0	18	0	0	349
5月	20	22	0	10	0	0	52
6月	105	31	0	3	0	3	142
7月	81	2	0	1	6	329	419
8月	241	37	0	2	0	110	390
9月	145	4	21	2	0	8	180
10月	32	10	0	6	0	35	83
11月	68	6	2	2	28	33	139
12月	43	12	0	0	1	13	69
1月	22	50	0	2	0	2	76
2月	51	5	1	0	0	6	63
3月	70	12	0	0	0	7	89
合計	1,203	197	24	46	35	546	2,051

5. 団体入館内訳

【県内 小学校】

のべ202校 14,228名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	16	高江洲小学校	86	41	8	30	久茂地小学校	75	81	10	28	とよみ小学校	140
2		18	宮城小学校	137	42	9	2	長田小学校	5	82		29	糸満南小学校	86
3	5	2	与那原東小学校	104	43		9	上間小学校	118	83		29	泊小学校	82
4		8	北谷小学校	107	44		11	小禄小学校	71	84		30	光洋小学校	113
5		8	光洋小学校	99	45		18	馬天小学校	144	85		30	嘉手納小学校	140
6		9	翔南小学校	94	46		19	伊野田小学校	11	86		30	稲田小学校	19
7		15	城辺小学校	25	47		19	久米島小学校	29	87		31	嘉手納小学校	110
8		20	垣花小学校	44	48		26	具志頭小学校	81	88		31	泊小学校	80
9		22	佐良浜小学校	28	49		26	沖縄トリック小学校	99	89		31	中原小学校	114
10		22	南小学校	84	50		26	座安小学校	144	90		31	船越小学校	53
11		23	西城小学校	21	51		30	小禄小学校	71	91		31	東江小学校	112
12		24	安田小学校	20	52		30	大名小学校	48	92		31	兼次小学校	25
13		28	銘苺小学校	48	53	10	2	兼城小学校	134	93	11	5	神森小学校	113
14	6	3	古壑小学校	42	54		2	渡名喜小学校	6	94		5	安慶田小学校	87
15		4	北小学校	67	55		3	ホワイインターナショナルスクール	19	95		5	美里小学校	123
16		5	那覇養護学校小学部	30	56		3	城東小学校	115	96		6	前島小学校	76
17		5	New Life Academy	9	57		3	崎本部小学校	9	97		6	泊小学校	146
18		6	狩俣小学校	14	58		8	宇栄原小学校	95	98		6	真和志小学校	102
19		12	砂川小学校	30	59		9	津覇小学校	87	99		6	島袋小学校	62
20		12	久松小学校	52	60		9	天願小学校	144	100		6	阿波連小学校	35
21		13	粟国小学校	30	61		10	津嘉山小学校	126	101		7	名護小学校	113
22		13	座間味小学校	19	62		10	西小学校	34	102		7	城岳小学校	111
23		17	古壑小学校	42	63		10	西小学校	26	103		7	赤道小学校	136
24		18	古壑小学校	40	64		10	東小学校	20	104		7	北丘小学校	146
25		19	東小学校	103	65		16	粟国小学校	18	105		7	下地小学校	41
26		20	宜野座小学校	75	66		17	真喜屋小学校	17	106		7	大名小学校	61
27		20	阿嘉小学校	22	67		17	伊江小学校	28	107		7	大宜味小学校	17
28		26	糸満小学校	52	68		17	高江洲小学校	68	108		8	比嘉小学校	42
29		27	平良第一小学校	98	69		17	瀬喜田小学校	14	109		11	久茂地小学校	33
30	7	16	上間小学校	99	70		17	田場小学校	150	110		11	潮平小学校	122
31		18	アザラハイ小学校	18	71		17	読谷小学校	102	111		11	百名小学校	41
32		25	西原東小学校	20	72		17	古壑南小学校	118	112		12	坂田小学校	176
33		29	泡瀬小学校	30	73		17	南原小学校	41	113		12	古宇利小学校	8
34		29	西原小学校	35	74		22	小禄小学校	56	114		12	神原小学校	63
35		29	上間小学校	12	75		23	天妃小学校	97	115		13	大原小学校	11
36		31	読谷小学校	25	76		24	西原東小学校	76	116		13	城東小学校	100
37		31	真喜屋小学校	13	77		24	久辺小学校	35	117		13	銘苺小学校	167
38		31	与那原小学校	30	78		24	城前小学校	84	118		13	八島小学校	55
39	8	22	真地小学校	20	79		24	具志川小学校	46	119		13	与那国小学校	16
40		28	三育小学校	125	80		24	伊波小学校	138	120		13	嘉芸小学校	28

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
121	11	13	小祿南小学校	152	149	21	真喜良小学校	149	177	11		与儀小学校	70	
122		13	浦城小学校	192	150	21	仲井真小学校	150	178	12		南風原小学校	108	
123		14	西崎小学校	130	151	21	大里北小学校	151	179	12		壺屋小学校	25	
124		14	伊良波小学校	94	152	21	松田小学校	152	180	16		東風平小学校	135	
125		14	佐敷小学校	77	153	26	諸見小学校	153	181	16		北玉小学校	58	
126		14	漢那小学校	22	154	27	天底小学校	154	182	17		高良小学校	8	
127		14	大宮小学校	156	155	27	美崎小学校	155	183	17		小祿南小学校	151	
128		14	屋部小学校	72	156	27	中川小学校	156	184	18		金武小学校	86	
129		14	佐手小学校	11	157	27	久部良小学校	157	185	19		大北小学校	101	
130		14	上本部小学校	41	158	28	宮森小学校	158	186	24		松島小学校	120	
131		14	奥間小学校	15	159	28	安富祖小学校	159	187	1	22	開南小学校	6	
132		14	伊豆見小学校	12	160	28	宮良小学校	160	188		22	比屋定小学校	15	
133		14	白保小学校	23	161	28	塩屋小学校	161	189	30		本部小学校	92	
134		14	屋良小学校	57	162	12	南風原小学校	162	190	2	5	伊平屋小学校	16	
135		18	仲井真小学校	123	163	4	曙小学校	163	191	6		西表小学校	5	
136		18	大名小学校	50	164	4	大道小学校	164	192	7		兼城小学校	28	
137		19	曙小学校	58	165	4	石垣小学校	165	193	24		真壁小学校	50	
138		19	真地小学校	108	166	4	白川小学校	166	194	24		高良小学校	159	
139		20	平久保小学校	8	167	5	久志・仁屋小学校(合同)	167	195	24		さつき小学校	104	
140		20	勝連小学校	85	168	5	若狭小学校	168	196	26		喜名小学校	70	
141		20	勝連小学校	98	169	5	山内小学校	169	197	27		上田小学校	190	
142		20	垣花小学校	51	170	5	登野城小学校	82	198	3	3	兼城小学校	108	
143		20	コザ小学校	143	171	5	南風原小学校	108	199	6		内間小学校	140	
144		20	安謝小学校	144	172	9	北中城小学校	153	200	7		真嘉比小学校	75	
145		21	松川小学校	145	173	10	真地小学校	98	201	19		若狭小学校	88	
146		21	安和小学校	146	174	10	嘉芸小学校	39	202	19		金城小学校	23	
147		21	白浜小学校	147	175	10	石嶺小学校	145						
148		21	西原小学校	148	176	12	恩納小学校	38						

【県内 中学校】

のべ52校 4,502名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	
1	5	2	与那原中学校	12	19	7	29	西崎中学校	25	37	10	19	潮平中学校	40	
2		2	伊計中学校	11	20	31		港川中学校	40	38		21	金武中学校	128	
3		2	南星中学校	194	21	31		具志頭中学校	25	39		28	南風中学校	29	
4		9	仲泊中学校	97	22	31		古蔵中学校	33	40	11	5	北中城中学校	187	
5		16	恩納中学校	40	23	8	1	真志喜中学校	33	41		21	高江洲中学校	140	
6		16	具志頭中学校	111	24		1	与那原中学校	20	42		21	コザ中学校	223	
7		21	松島中学校	181	25		5	西崎中学校	71	43		21	石垣第二中学校	189	
8	6	14	久米島中学校	27	26		6	糸満中学校	30	44		22	沖繩トリック中学校	53	
9		17	安岡中学校	242	27		12	伊豆味中学校	9	45		27	上本部中学校	44	
10		21	沖繩トリック中学校	75	28		28	与那原中学校	37	46	12	2	高嶺中学校	73	
11		23	珊瑚舎スコーレ	53	29	9	2	嘉敷中学校	10	47	1	9	石川中学校	157	
12		25	具志川東中学校	182	30		4	伊波中学校	36	48		15	寄宮中学校	200	
13		27	真和志中学校	122	31		12	豊見城中学校	255	49		16	伊是名中学校	31	
14	7	16	西原東中学校	15	32	10	1	昭和薬科大学付属中学校	216	50		22	美里中学校	234	
15		16	琉球大学付属中学校	37	33		2	糸満中学校	154	51	2	6	神原中学校	34	
16		24	仲西中学校	8	34		2	西原小・中学校	24	52	3	17	安岡中学校	37	
17		26	石嶺中学校	57	35		3	佐敷中学校	33						
18		27	神原中学校	168	36		4	昭和薬科大学付属中学校	20						

【県内 高校】

のべ31校 2,212名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	
1	4	18	石川高校	195	12	9	24	南部農林高校	111	23		16	泊高校	16	
2	5	2	コザ高校	462	13		25	真和志高校	28	24		22	豊見城南高校	24	
3		2	美里高校	214	14	10	7	浦添工業高校	43	25	2	4	浦添工業高校	70	
4		20	南風原高校	9	15		16	西原高校	209	26		5	豊見城高校	3	
5		27	美里工業高校	43	16	11	18	美里工業高校	75	27		5	首里高校	31	
6	6	20	那覇工業高校	40	17		18	南部工業高校	78	28		13	八重山農林高校	23	
7		26	泊高校	7	18		21	尚陽高校	12	29		18	首里高校	41	
8	7	16	美来工科高校	42	19	12	10	首里高校	41	30		27	真和志高校	7	
9		31	北部農林高校	15	20		11	首里高校	37	31	3	17	真和志高校	6	
10	8	20	普天間高校	11	21	1	9	北部農林高校	41						
11	9	3	昭和薬科大学付属高校	228	22		15	真和志高校	50						

【県内 専門学校・大学】

のべ12校 362名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	11	インターナショナルデザインアカデミー	42	5	6	28	沖縄リソブ教養院	16	9	12	2	琉球大学教育学部	16
2		18	沖縄看護専門学校	50	6	9	10	沖縄職業能力開発大学校	26	10	1	10	沖縄リソブ教養院大学	38
3		25	沖縄看護専門学校	50	7		30	那覇日経ビジネス工学院	34	11		16	琉球大学留学センター	26
4	6	27	尚学院国際ビジネスアカデミー	12	8	11	24	沖縄女子短期大学	15	12	2	14	琉球大学観光産業科	37

【県内 養護学校】

のべ19校 665名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	25	鏡ヶ丘養護学校	65	8	9	18	森川養護学校	15	15	12	2	那覇養護学校	18
2	5	2	鏡が丘養護学校	152	9		18	養護教諭研究会	50	16		17	豊見城市特別支援学級	55
3		23	森川養護学校	10	10		30	西崎養護学校	23	17	2	10	大平養護学校	6
4	7	16	森川養護学校	4	11	10	29	大平養護学校	44	18		27	島尻養護学校	39
5	9	10	泡瀬養護学校	39	12	11	5	大平養護学校	50	19	3	6	沖縄盲学校	5
6		11	森川養護学校	15	13		11	鏡が丘養護学校	63					
7		11	那覇養護学校	2	14		20	沖縄ろう学校小学部	10					

【県内 その他】

のべ62団体 2,646名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	9	キッズ・モンテッリスクール	40	22	7	29	Busy Bee School	10	43	11	18	ホワイワイ・フォール	19
2		11	マナハブ・ティスアカデミー	22	23		30	真栄原トリック幼稚園	73	44		20	浦添幼稚園	103
3		16	レスター・ニドルスクール	46	24		31	泊幼稚園	46	45	1	16	北玉児童館	50
4		25	報恩幼稚園	39	25	8	1	アマジアン・イン・ホワイ	32	46		18	与座子ども会	37
5	5	1	沢峠幼稚園	118	26		5	おろく保育園	20	47		22	うるま市立教育研究会	12
6		1	沖縄ファッションアート学院	25	27		6	キンザー保育園	60	48		30	キンザー小学校	54
7		31	小祿南児童クラブ	44	28		7	パンダ保育園	22	49	2	18	適応指導教室とびうお教室	5
8	6	3	泊保育所	30	29		8	コスモ保育園	21	50		24	銘苅幼稚園	87
9		3	泊保育所	40	30		8	のびのび保育園	27	51		26	安謝幼稚園	77
10	7	15	キンザーSAC	60	31		12	銀のすず保育園	36	52	3	5	あかるい子保育園	26
11		16	愛和保育園	50	32		12	キンザー保育園	28	53		5	ムーミン保育園	44
12		17	あすなる東保育園	21	33		19	こじか保育園	32	54		6	グッピー保育園	29
13		17	レイボ・モンテッリ保育園	34	34		20	童夢幼稚園・保育園	83	55		25	あいのいづみ学童クラブ	44
14		18	レイボ・モンテッリ保育園	23	35		22	夢が丘保育園	29	56		25	あやめ保育園	44
15		18	ゆたか幼児学園	34	36		22	大育保育園	42	57		26	なかきす児童センター	31
16		18	はとぼっば保育園	43	37		23	与原保育園	33	58		28	古堅小学校子ども会	21
17		19	よいすけア人保育園	20	38		29	ゆたか保育園	55	59		6	ボブホップ小学校	63
18		24	つぼみ保育園	45	39		30	みらい保育園	17	60		13	カデナハイスクール	36
19		25	ほとるのき保育園	106	40	9	4	沖縄市適応指導教室すだち	9	61		13	カデナハイスクール	173
20		25	輝宝保育園	26	41		12	ショセイト幼稚園	62	62		25	クバサキハイスクール	24
21		26	愛児幼稚園	20	42		23	レスターニドルスクール	44					

【県外 小学校】

3校 216名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	13	糸名・大田布・阿倍合同小学校(鹿児島県)	28	2	5	20	知名町合同小学校(鹿児島県)	108	3	10	30	和光鶴岡小学校(東京都)	80

【県外 中学校】

18校 1,846名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	10	熱海中学校(福島県)	73	7	5	22	鏡中学校(熊本県)	165	13	12	4	磯松中学校(広島県)	147
2		15	満濃中学校(香川県)	154	8	10	3	西合志南中学校(熊本県)	278	14		17	博多女子中学校(福岡県)	62
3	5	11	阿蘇北中学校(熊本県)	116	9	11	7	淑徳中学校(愛知県)	301	15		19	玉南中学校(熊本県)	91
4		14	北陵中学校(大阪府)	10	10		18	日本大学豊山中学校(東京都)	251	16	2	19	長岡中学校(新潟県)	7
5		15	松東中学校(石川県)	8	11		27	原田中学校(広島県)	14	17		27	下浜中学校(秋田県)	20
6		15	多度中学校(三重県)	99	12	12	2	東陽中学校(愛知県)	22	18	3	12	上越教育大学付属中学校(新潟県)	28

【県外 高校】

のべ65校 9,957名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	
1	4	18	農業高校(東京都)	156	23	10	15	ナト砂心清心高校(広島県)	190	45	12	3	大田原高校(栃木県)	258	
2		22	府中高校(東京都)	240	24		15	光南高校(福島県)	124	46		4	中野西高校(長野県)	230	
3	5	25	国立音楽大学付属高校(東京都)	109	25		18	光南高校(福島県)	127	47		6	岡山興譲館高校(岡山県)	6	
4	6	19	新居浜高校(愛媛県)	43	26		21	成東高校(千葉県)	45	48		7	石岡第一高校(茨城県)	310	
5		23	九州産業高校(福岡県)	137	27		24	石川工業高校(石川県)	43	49		9	池田工業高校(長野県)	126	
6		25	小松原高校(埼玉県)	393	28		25	池新田高校(静岡県)	205	50		9	静岡西高校(静岡県)	38	
7		26	大智学園高校(福島県)	47	29		28	北九州中央高校(福岡県)	41	51		12	沼津城北高校(静岡県)	211	
8		26	仁愛女子高校(福井県)	37	30		28	中野高校(東京都)	198	52		14	三田高校(東京都)	289	
9		26	九州産業高校(福岡県)	144	31		30	清風高校(神奈川県)	291	53		17	大町北高校(東京都)	116	
10		26	九州産業高校(福岡県)	198	32	11	1	中野高校(東京都)	196	54		18	神奈川大学付属高校(神奈川県)	154	
11	7	15	宇和島水産高校(愛媛県)	29	33		7	大泉桜高校(東京都)	41	55		18	府中高校(東京都)	242	
12	8	27	高岡工芸高校(富山県)	40	34		13	諏訪二葉高校(長野県)	213	56	1	11	神港高校(兵庫県)	241	
13		27	高岡工芸高校(富山県)	40	35		13	川崎科学高校(神奈川県)	42	57		21	長久手高校A(愛知県)	129	
14		30	富山工業高校(富山県)	42	36		18	川口高校(埼玉県)	329	58		21	長久手高校B(愛知県)	165	
15		27	成蹊高校(東京都)	65	37		18	坂井農業高校(福井県)	97	59	2	6	野津田高校(東京都)	121	
16	9	20	武蔵工業高校(東京都)	121	38		18	木更津高校(千葉県)	43	60		19	名電高校(愛知県)	243	
17		23	中野立志館高校(長野県)	291	39		21	大谷南高校(長野県)	208	61		20	名電高校(愛知県)	237	
18	10	1	君津商業高校(千葉県)	48	40		21	習志野高校(千葉県)	248	62		20	流山北高校(千葉県)	138	
19		3	逗葉高校(神奈川県)	251	41	12	2	明成高校(宮城県)	37	63	3	9	城北高校(東京都)	407	
20		7	親和女子高校(兵庫県)	133	42		2	宇都宮短期大学付属高校(栃木県)	294	64		10	南山高校(愛知県)	26	
21		9	鎌倉女子高等部(神奈川県)	158	43		3	五戸高校	100	65		13	長野俊英高校(長野県)	33	
22		10	刈り草女子学院高校(三重県)	92	44		3	宇都宮短期大学付属高校(栃木県)	311						

【県外 専門学校・大学】

5校 237名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	23	大学院工学研究科(大阪府)	25	3	9	19	愛知教育大学(愛知県)	26	5	2	13	國學院大學(神奈川県)	36
2	9	17	大阪芸術大学短期大学	128	4	11	24	岐阜女子大学(岐阜県)	22					

【県外 その他】

3団体 58名

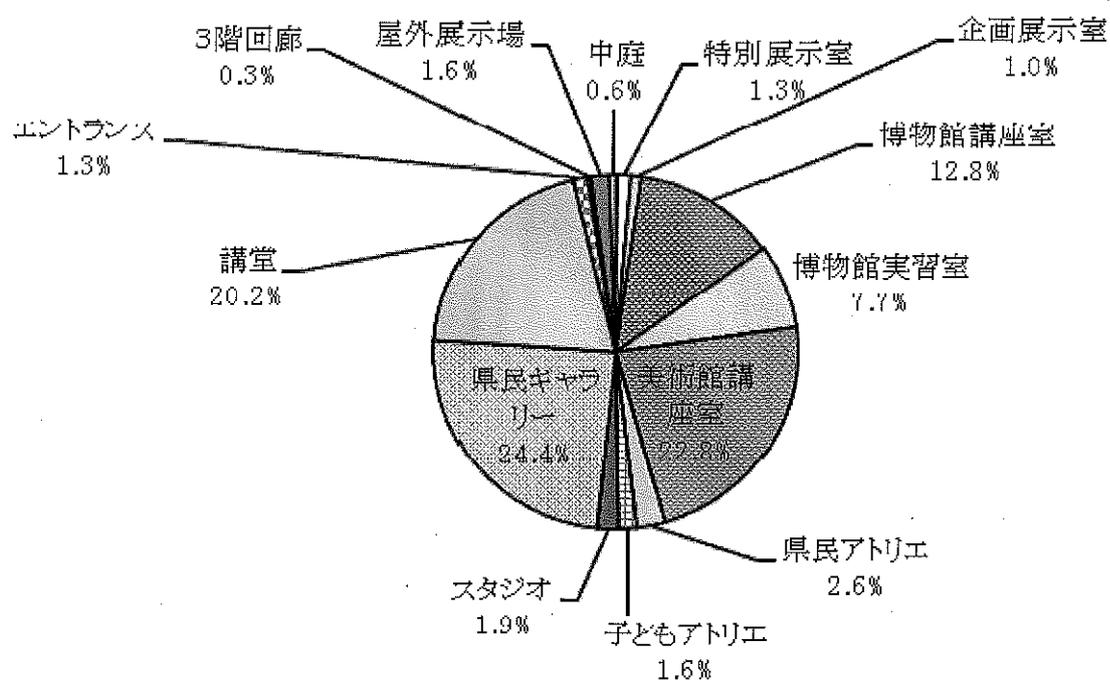
No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	10	7	大笹生養護学校(福島県)	20	2	11	11	中央ろう学校(東京都)	19	3	3	13	足立特別支援学校(東京都)	19

II. 施設利用者統計

1. 月別施設利用

単位：件

	博物館				美術館							共有	その他				合計
	特別展示室	企画展示室	博物館講座室	実習室	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	美術館講座室	県民アトリエ	子どもアトリエ	スタジオ	県民ギャラリー	講堂	エントランス	3階回廊	屋外展示	中庭	
2008	4月	0	0	4	0	0	3	0	0	0	16	5	0	0	0	0	28
	5月	0	0	0	1	0	6	0	0	0	10	4	0	0	0	0	21
	6月	0	0	3	3	0	7	0	0	0	8	7	2	1	2	0	33
	7月	1	1	1	0	0	4	0	0	0	6	1	0	0	0	0	14
	8月	1	1	6	1	0	5	1	1	0	6	7	0	0	0	0	29
	9月	1	0	2	2	0	3	0	0	2	4	2	1	0	0	0	17
	10月	0	0	1	4	0	6	3	3	3	3	6	1	0	1	2	33
	11月	0	0	6	5	0	9	1	0	1	4	12	0	0	1	0	39
	12月	0	0	3	2	0	6	0	0	0	4	2	0	0	1	0	18
2009	1月	0	0	4	2	0	6	1	0	0	4	5	0	0	0	0	22
	2月	0	0	5	3	0	9	1	0	0	6	5	0	0	0	0	29
	3月	1	1	5	1	0	7	1	1	0	5	7	0	0	0	0	29
合計	4	3	40	24	0	0	71	8	5	6	76	63	4	1	5	2	312



施設の貸出頻度のグラフ

2. 施設貸出内訳

No.	月	日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者名)
1	4	4	美術館講座室	沖縄都市モノレール広告協同組合
2		6・8	博・美術館講座室、講堂	琉球ジャスコ株式会社 入社式
3		12	博・講座室	三井生命保険「住宅ローン フラット30セミナー」
4		18	美・講座室	盛和塾「沖縄」事務局
5		19	博・講座室	5.18 シンポ実行委員会 「打合せ」
6		22	3F ホワイトエ	全国巡回写真展実行委員会「国際サンゴ礁年巡回パネル展」
7		23	講堂	沖縄総合事務局農林水産部農政課「日本バイオ燃料生産拡大対策」
8		25	美・講座室、講堂	社団法人発明協会沖縄県支部「発明の日子どもフェア」(～26日)
9		26	博・講座室、講堂	建築診断設計事業協同組合「マンション組向け勉強会」
10		27	講堂	今こそ発想の転換を！実行委員会
11	5	4	講堂	ART PREX2008 トークショー
12		10	美・講座室	沖縄税理士会 会議
13		11	美・講座室	沖縄美術家連盟 定例会議
14		14	講堂	沖縄倫理法人会 女性セミナー
15		17	美・講座室	NPO法人 沖縄マンション管理組合連合会
16		18	講堂	シンポジウム～来るべき自己決定のために～実行委員会
17		18	美・講座室	沖縄美術家連盟 総会
18		22	博・実習室	コーチング エンパワメント沖縄
19		24	美・講座室	カムイ外伝エキストラ説明会
20		27	美・講座室	盛和塾沖縄事務局
21		31	講堂	今こそ発想の転換を！実行委員会
22	6	1	美・講座室	NPO法人 沖縄県マンション管理組合連合会
23		3	エントランスホール	ブラジル移民100周年記念パネル写真展
24		6	講堂	ミャンマー軍による長井さん殺害に抗議する会
25		7	実習室	琉球大学教育学部 ごっこ遊び実習
26		8	講堂	USボーカル教室 発表会
27		13	講堂	RBC環境問題講演会(～14日)
28		15	講堂、博・美講座室、エントランスホール、屋外展示室等	G8関連イベント準備(エントランスホール、屋外展示室等)(～16日)
29		20	博・講座室	ブラジル移民100周年記念講演会
30		21	屋外展示室	キャンドルナイト
31		21	美・講座室	沖縄県高校生活指導研究協議会
32		22	講堂	コープおきなわ食育講演会
33		22	美・講座室	沖縄はり・きゅう・マッサージ師会 総会
34		22	実習室	ユニバーサルコンパス
35		25	美・講座室	神奈川人権センター 勉強会
36		28	美・講座室	沖縄税理士会 公開研究討論会打合せ
37	7	1	美・講座室	キャリアセンター職場見学会
38		13	美・講座室	NPO沖縄県美術家連盟
39		16	博・講座室	空間情報シンポジウム(～17日)
40		19	美・講座室	沖縄税理士会 調査研究会
41		29	美・講座室	盛和塾
42		30	講堂	内閣府「沖縄県伝統工芸産業シンポジウム」
43	8	5	美・講座室	ウイナライト研修会
44		5	講堂	七田チャイルドアカデミー 講演会
45		7	美・講座室	沖縄芝居体験講座 文化振興課
46		9	博・講座室、講堂	フラビーまつり(PORKE104リークジョブ、ドリットショー、パイットから見た空の世界-JALの環境講座、言葉と五線譜 朗読と音楽のコミュニケーション、ワビ×子の会 組踊おもしろ鑑賞会)(～10日)
47		12	博・実習室	株式会社ザ・メディアジョン
48		19	講堂	サイエンスショー
49		20	博・講座室	南部土木事務所「公共事業の用地取得にかかる説明会0」
50		20	県民アトリエ、子どもアトリエ	CSKコミュニケーションズ(～22日)
51		21	美・講座室	沖縄芝居体験講座 文化振興課
52		22	講堂	ぞうのババール読み聞かせコンサート
53		23	美・講座室	NPO法人沖縄県マンション管理組合連合会
54		24	博・講座室	琉球大学公開市民講座相談会
55		24	講堂	琉球大学公開市民講座
56		24	講堂	NPO法人沖縄ヒューマンバリューヘルスクラブ
57		28	美・講座室	沖縄芝居体験講座 文化振興課
58	9	2	美・講座室	安謝川改修工事に係る用地構想
59		5	美・講座室	盛和塾沖縄 講演会
60		12	博・実習室	大和ハウスオフィスビルテナントプレゼンテーション
61		12	博・講座室	JAIFA ソニー沖縄 研修会

No.	月	日	施設名	イベント情報または施設貸出情報 (申込者名)
62	9	13	講堂	NewWorld 声楽院 リハーサル (13日)、発表会 (14日)
63		20	美・講座室	NPO法人 マンション管理組合
64		24	博・講座室	ウェブ標準スキル最前線
65		27	博・実習室	大和ハウス オフィスビル打合せ
66		27	スタジオ	那覇情報システム専門学校 作品展示 (~28日)
67	10	9	美・講座室	沖縄県南部風景街道パートナーシップ会議
68		10	美・講座室	有機的建築アーカイブス交流会
69		10	講堂	ケルト芸術と文明
70		12	博・実習室	家庭倫理の会 研修会
71		12	講堂	パーキンソン病医療講演・医療相談会
72		13	博・実習室	事務研修会
73		13	講堂	琉大医学部麻酔科 市民講座
74		18	博・実習室	ここにごせナ&ワークショップ
75		18	美・講座室	情報誌「INTUITION in Okinawa」
76		19	講堂	沖縄ダリプロジェクト
77		19	講堂	精霊を呼ぶ太鼓
78		21	美・講座室	みのたクリエイト決算報告会
79		24	講堂	専修学校インターナショナルデザインアカデミー 卒業制作・作品発表会
80		24	県民アトリ、子どもアトリ、スタジオ	IDA卒業作品展準備 (~26日)
81		24	中庭	IDAファッションショー (~26日)
82		26	美・講座室	サドベリースクール勉強会
83		28	博・実習室	家庭倫理の会セミナー
84		29	博・講座室	第101回中央委員会
85		31	美・講座室、屋外展示室	日本心臓麻酔学会第31回学術集会
86	11	1	屋外展示場	コルシカ・ポリフォニー
87		1	講堂	出土銭貨研究会沖縄大会
88		2	博・実習室	家庭倫理の会沖縄中央
89		3	博・実習室	沖縄県マンション管理組合連合会
90		3	美・講座室	二胡のリハーサル
91		4	講堂	「不動の舞 語る絵画」 (~5日)
92		6	博・講座室	アジア人材資金構想企業向けセミナー
93		7	美・講座室	東京都大泉桜高校 講義
94		8	博・講座室	沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会平成20年総会及び講演会
95		8	講堂	琉大病院 市民公開講座
96		9	博・実習室	株式会社トリムフーズ飲食事業部社員総会
97		9	講堂	琉大病院皮膚科 講演会
98		11	博・実習室	家庭倫理の会沖縄中央 セミナー
99		11	美・講座室	観光タクシーゴールドリボン研修
100		12	講堂	無機マテリアル学会
101		13	博・講座室	コーチングとリーダーシップ
102		13	講堂	無機マテリアル学会 (~14日)
103		15	美・講座室	盛和塾沖縄
104		15	博・実習室	家庭倫理の会 セミナー
105		16	講堂	森ピアノアカデミー音楽発表会
106		16	美・講座室	世界遺産と琉球の歴史と文化を学ぶ集い
107		19	博・講座室	企業と若者の交流事業 第3回ジョブチャンネル (業界研究)
108		20	美・講座室、スタジオ、県民アトリ、講堂	文化庁フォーラム (~21日)
109		22	博・実習室	沖縄県マンション管理組合連合
110		23	博・実習室	家庭倫理の会 歴史講座
111		26	美・講座室	鹿野正直さんを囲む会
112		29	博・講座室	親子関係勉強会
113		30	美・講座室	「学び合い、支え合い」地域活性化事業
114		30	講堂	オカリナコンサート
115	12	3	博・講座室	臨時中央委員会
116		6	美・講座室	沖縄県マンション管理組合連合会
117		9	博・実習室	話し方セミナー
118		9	美・講座室	盛和塾
119		13	博・実習室	NPO法人沖縄県マンション管理組合連合会
120		14	美・講座室	食育水育
121		14	講堂	國學院大学院沖縄支部主催「一沖縄と民俗学-折口信夫の世界-」
122		16	博・講座室	ウィナーライト
123		20	博・講座室	沖縄県青少年島めぐり探検隊事後研修
124		21	美・講座室	健康講演会
125		21	屋外展示場	オリジナルアクト

No.	月	日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者名)
126	12	21	講堂	琉大病院 市民公開講座
127		23	美・講座室	沖縄県美術家連盟
128	1	9	美・講座室	琉球岳風会 月例会
129		14	博・講座室	企業と若者の交流事業 第3回ジョブチャンネル(業界研究)
130		14	美・講座室	法定調書の説明会
131		17	美・講座室	沖縄で発見された化石についてのセミナー
132		20	博・実習室	豊見城市地域雇用創造推進協議会
133		23	講堂	沖縄デジタル映像祭2008
134		24	県民アトリエ	赤ちゃんプロジェクト 親子deアート鑑賞教室
135		25	博・講座室	琉大病院市民講座がんセンター
136		25	講堂	琉球大学病院がんセンター 市民公開講座
137		27	博・講座室	条件不利地域におけるブロードバンド化促進のための調査研究会
138		27	美・講座室	株式会社ペリドット 健康相談会
139		28	講堂	琉球ジャスコ株式会社 セミナー
140		29	美・講座室	古生物学会 評議委員会
141		29	講堂	安謝保育園発表会リハーサル
142		30	博・実習室、博・講座室、講堂	日本古生物学会例会
143		30	美・講座室	平成20年度沖縄県軍用地転用促進基地問題協議会研修会
144	2	1	博・講座室	普及講演会 琉球列島に固有な生物相はどのように生まれたか-最新の研究成果から-小澤智生
145		3	講堂	組踊 組踊銘苺子「子ども教室発表会」稽古
146		4	講堂	地域密着型金融に関するシンポジウム
147		6	美・講座室	経理トータルサービス 研修会・セミナー
148		6	講堂	安謝保育所 リハーサル
149		10	美・講座室	盛和塾沖縄
150		11	博・実習室	沖大集中講義
151		11	美・講座室、講堂	組踊 組踊銘苺子「子ども教室発表会」
152		12	博・講座室	沖縄タイムス販売局全体会議
153		12	美・講座室	サンコム安全大会
154		14	博・講座室	純粹倫理学習会
155		14	講堂	安謝保育所発表会
156		15	博・講座室	沖縄歴史検定 試験会場
157		18	県民アトリエ	教育支援協会
158		20	博・実習室	教育支援協会
159		20	美・講座室	PECS 2デイズワークショップ(～22日)
160		21	博・実習室	沖縄マンション管理組合連合会 理事会
161		24	美・講座室	アトラスワールド・Aプラス講演会
162		26	美・講座室	オム・ファム株式会社 EOS取引先説明会
163		28	博・講座室	第3回台湾-日本地球科学シンポジウム:琉球海溝と周辺地域の沈み込み系(～3月1日)
164	3	7	美・講座室	ビギナスとNGN 勉強会
165		7	博・講座室、講堂	琉大病院 市民公開講座「耳の日」講演会
166		8	美・講座室、講堂、県民アトリエ、子どもアトリエ	沖縄タイムス サービスセンターカルチャースクール発表会
167		10	博・講座室、美・講座室、講堂	アジア国際交通ネットワークの形成シンポジウム
168		14	博・講座室	キャリア教育セミナー
169		15	博・講座室	障害者作品展 閉会式
170		17	講堂	講演会 e-ラーニングの未来
171		18	博・実習室	ユニバーサルコンパス
172		19	講堂、美・講座室	沖縄県地産地消推進フォーラム2009、沖縄県地産地消推進会議
173		20	美・講座室	本田健の資本主義崩壊を生き抜き
174		21	講堂	第30回読売学生書展 沖縄展
175		22	講堂	「抵抗する勇気」Courage to Resist 日米交流ツアー
176		24	美・講座室	事業相談会・健康相談会
177		25	美・講座室	社員の心を掴む研修
178		20	博物館特別展示室、企画展示室	人体の不思議展(～31日)

博物館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

1. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに関連しているが、調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。

当館における調査研究活動は、全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査事業、他機関との共同研究事業、学芸員それぞれによる個別の調査研究事業がある。

総合調査事業では、各離島において自然、歴史、民俗、考古、美術工芸、建築の基礎資料の掘り起こしと収集を行ってきた。これまで、久米島（1993、1994年度）を皮切りに、波照間島（1996、1997年度）、西表島（1998～2000年度）、小浜島（2001～2003年度）、与那国島（2004～2008）でそれぞれ調査を実施しており、その成果をもとに2011年度に展示会を開催することを検討している。

共同研究事業としては、国立科学博物館、東京大学と共同で人類学分野の発掘調査を実施している。調査地は、南城市玉城のハンダガマ遺跡（2006、2007年度）、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞（2007、2008年度）である。ハンダガマからは大量のシカ化石とともに11～14世紀のもので推定される人骨を発見したが、その結果は2009年3月に『ハンダガマ遺跡発掘調査報告書』（沖縄県立博物館・美術館）として公表している。武芸洞については、2008年度に縄文晩期のものと考えられる人骨等を発見しており、次年度も継続して調査することになっている。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第2号やそれぞれの所属する学会誌等に論文の形で発表されるとともに、口頭発表、講演等の形でも活かされている。

以下、2008年度の調査研究活動の状況を報告する。

（濱口 寿夫）

2. 博物館総合調査 —与那国島総合調査—

【趣旨】

沖縄県は多くの島嶼から成り立ち、それぞれの島には独自の自然とそれを背景としたくらしがあり、その中から生み出された独自の文化がみられる。このような、島々の多様な自然やくらし・文化については個々の分野の断片的な報告が散見されるものの、まだまだ基礎的なデータは十分とはいえない。

近年、県内各地で森林伐採・道路建設・土地改良等の開発が活発におこなわれている上、移入された外来種による攪乱の結果、自然環境は大きく変貌しつつある。さらに、地域住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も大きく変わりつつある。このままでは、島々の自然・文化・社会等に関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで、本事業は県内各離島の自然・歴史・文化について調査・研究し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をおして島々の自然や文化の現状を伝えることによって、自然環境の保全や文化的資料の保存に対する理解を深めさせることを目的とする。

与那国島は国内で最西端に位置し、台湾までの距離もきわめて近い。与那国島だけに固有の生物も多く、八重山諸島のなかでも独特な生物相を形成している。また、方言をはじめとしたくらしや文化も八重山でも特異であることをかんがみ、比較的長期の調査期間を設けた。

【組織】

本調査組織は2004年度から2008年度に沖縄県立博物館に在籍した各分野の学芸員により構成される。

【調査方法】

分野ごとにテーマを設定し、調査は個別に実施した。2004年度から2007年度までは現地調査を実施し、2008年度は報告書を刊行した。

【調査成果】

座覇 泰	「与那国島の地質」
知念幸子	「与那国島における高波によって運搬された岩塊について」
田中 聡	「ヨナグニキノボリトカゲの生態について」
仲座久宜・羽方 誠	「与那国島で採集した考古資料」
崎原恭子	「与那国島史跡等の巡見報告」
平川信幸	「与那国島の染織の聞き取りメモ」
萩尾俊章	「与那国島のカイダ一字をめぐる一考察」
萩尾俊章	「与那国島に関する歴史年表」
萩尾俊章	「与那国関係文献一覧」

(田中 聡)

3. 博物館共同研究事業 —人類学調査—

【趣旨】

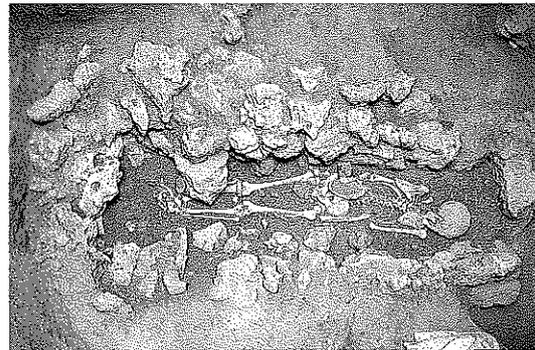
東アジア地域や日本列島へ新人が到達したのは、5万～3万年前ごろと考えられている。日本列島の人類史を解明するためにはこの時代の人類化石が不可欠であるが、発見例はさきわめて少ない。沖縄県からは、3万2千～1万年前と推測される複数の人類化石が発見されており、とりわけ、八重瀬町港川フィッシャー遺跡からは、1万8千年前とされる成人4体の人骨化石（港川人）が発見されている。しかし、同遺跡からは生活の痕跡は発見されず、多くの謎が残されている。そこで、本事業では、沖縄県立博物館・美術館、国立科学博物館、東京大学等との共同研究として、港川人をはじめとした沖縄出土の更新世人類化石の研究を推進するとともに、新たな人類化石や生活の痕跡の発見を目指した発掘を推進している。

【組織】

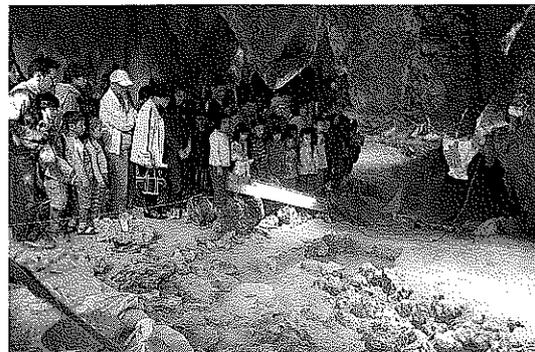
本事業に関わる研究組織は、沖縄県立博物館・美術館の専門員、東京大学および国立科学博物館の研究者、沖縄県の地元の研究者により構成される。

【調査成果】

沖縄県南城市の武芸洞遺跡、糸満市真栄平および与座の採石場跡地において発掘調査を行った。武芸洞遺跡からは、縄文時代前期から晩期にかけての土器、石器、獣骨などの遺物や、縄文時代中期や晩期の炉跡、縄文時代晩期の石棺墓、グスク時代の崖葬墓が発見され、この洞穴が長期間にわたり人々に利用されていたことが明らかになった。特に、今回の調査で出土した縄文時代前期の爪形文土器は、沖縄島南部で初めての確認例となるものであり、石棺墓が洞穴内から確認されたのも県内初である。さらに、石棺墓埋葬人骨の左腕付近からは貝製ビーズが発見され、貝製ビーズの着装状況が沖縄県内で初めて明らかになるなど、多くの新発見に恵まれた。なお、発掘調査期間中の2008年11月29、30日には県内小中学生を対象に現場見学会を開催し、403名の参加者があった。このほか、糸満市与座の採石場ではシカ類化石を、真栄平ではシカ類化石と大型のイノシシ化石等の発掘を行った。



武芸洞内から発見された石棺墓



小中学生対象発掘現場見学会のようす

特に後者の動物相は港川フィッシャー遺跡の動物相と類似しており、今後の分析によって港川フィッシャーの理解が進むことが期待される。また、2006、2007年度に発掘したハナダガマ遺跡について、発掘調査報告書を出版したほか、日本人類学会および日本古生物学会において4演題の発掘関連発表と、2演題の港川人再評価研究の発表を行った。

(山崎 真治・藤田 祐樹)

4. 調査・研究等

田中 聡 (主任学芸員 自然史・生物)

- 名 称：企画展『造礁サンゴ』に係る資料調査 (石垣市・竹富町)
期 間：2008年9月24日～25日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：企画展『造礁サンゴ』に係る資料調査 (石垣市・竹富町)
期 間：2009年3月9日～13日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

知念 幸子 (主任学芸員 自然史・地学)

- 名 称：『恐竜ミュージアム2008』展示調整 (東京都)
期 間：2008年4月9日～10日
依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜
- 名 称：『恐竜ミュージアム2008』図録調整 (東京都)
期 間：2008年5月14日～15日
依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜
- 名 称：『恐竜ミュージアム2008』資料借用 (東京都・群馬県・茨城県・千葉県)
期 間：2008年6月29日～7月3日
依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜
- 名 称：『恐竜ミュージアム2008』資料返却 (東京都・群馬県・茨城県・千葉県)
期 間：2008年9月15日～23日
依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜
- 名 称：文化財虫菌害防除作業主任者講習会 (神奈川県)
期 間：2008年10月15日～10月18日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：文化財虫菌害防除作業主任者の能力認定試験とその講習会 (東京都)
期 間：2009年3月1日～3月4日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：化石受入整理事業に係る調整 (群馬県)
期 間：2009年3月9日～3月23日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

岸本 敬 (主任学芸員 民俗)

- 名 称：平成20年度企画展『ずしがめの世界』事前調整及び調査 (石垣市)
期 間：2008年6月26日～27日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：平成20年度企画展『ずしがめの世界』資料借用 (石垣市)
期 間：2008年9月4日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：平成20年度企画展『ずしがめの世界』資料返却 (石垣市)
期 間：2008年10月21日～22日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

崎原 恭子 (学芸員 歴史)

- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』資料借用 (久米島)
期 間：2008年10月21日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：平成21年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』事前調整及び調査 (愛知県・静岡県・滋賀県)
期 間：2009年3月9日～12日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

平川 信幸 (学芸員 美術工芸)

- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』協議書調印及び調査 (中国・北京)
期 間：2008年6月15日～19日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』事前調整及び調査 (久米島)
期 間：2008年8月19日～20日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』資料借用 (中国・北京)
期 間：2008年10月14日～19日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』資料返却及び御礼挨拶 (中国・北京)
期 間：2009年1月9日～15日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』資料返却 (久米島)
期 間：2009年1月7日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：沖縄県立博物館・美術館資料収集基金購入予定資料調査 (名古屋・東京)
期 間：2009年3月11日～14日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

藤田 祐樹 (専門員 人類)

- 名 称：共同研究事業に係る調査 (東京都)
期 間：2008年5月19日～23日
依頼機関：国立科学博物館
- 名 称：具志川島遺跡群発掘調査支援 (伊是名村)
期 間：2008年6月17日～20日
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
- 名 称：共同研究事業に係る調査 (札幌市)
期 間：2008年9月1日～4日
依頼機関：国立科学博物館
- 名 称：共同研究事業に係る調査 (京都府)
期 間：2008年9月17日～19日
依頼機関：国立科学博物館
- 名 称：共同研究事業に係る学会発表 (愛知県)
期 間：2008年10月31日～11月1日
依頼機関：国立科学博物館
- 名 称：共同研究事業に係る発掘調査 (南城市武芸洞)
期 間：2008年11月17日～12月4日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：共同研究事業に係る研究助成金贈呈式参加 (東京都)
期 間：2009年3月4日～5日
依頼機関：財団法人福武学術文化振興財団
- 名 称：共同研究事業に係る関連遺跡調査 (鹿児島県伊仙町、徳之島トマチン遺跡)
期 間：2009年3月8日～10日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

山崎 真治 (専門員 人類)

- 名 称：具志川島遺跡群発掘調査支援 (伊是名村)
期 間：2008年6月17日～20日
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財調査センター

- 名 称：共同研究事業に係る発掘調査（南城市武芸洞）
期 間：2008年11月17日～12月4日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：共同研究事業に係る関連遺跡調査（鹿児島県伊仙町、徳之島トマチン遺跡）
期 間：2009年3月8日～10日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

上原 久（嘱託員・学芸）

- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』事前調整及び調査（久米島）
期 間：2008年8月19日～20日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』資料借用（中国・北京）
期 間：2008年10月14日～19日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：平成21年度特別展『琉球使節、江戸へ行く！』事前調整及び調査（愛知県・静岡県・滋賀県）
期 間：2009年3月9日～12日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

5. 講演等

萩尾 俊章（博物館班長）

- 名 称：「第11代齋藤用之助と沖縄」
期 間：2008年4月12日
依頼機関：佐賀県立博物館
- 名 称：「新沖縄県立博物館・美術館を開館して(現状と課題)」
期 間：2008年5月30日
依頼機関：沖縄県博物館協会
- 名 称：「沖縄の泡盛をめぐって」
期 間：2008年7月4日
依頼機関：日本医療・病院
- 名 称：「沖縄の生活文化」
期 間：2008年7月7日
依頼機関：沖縄県シルバー人材センター
- 名 称：「沖縄の泡盛をめぐって」
期 間：2008年7月12日
依頼機関：瑞泉酒造株式会社
- 名 称：「世界遺産巡りパートV～世界遺産と琉球の歴史と文化～」
期 日：2008年11月18日
依頼機関：沖縄県ユネスコ協会
- 名 称：「近世琉球士族の世界 伊江御殿伝世品展」ギャラリートーク
期 間：2009年1月18日
依頼機関：那覇市歴史博物館
- 名 称：「沖縄県立博物館・美術館と指定管理者制度」
期 間：2009年2月28日
依頼機関：日本放送大学・国立民族学博物館

田中 聡 (主任学芸員 自然史・生物)

- 名 称：日本土壤動物学会第32回大会学習会「はーぺと屋とミミズとの出会い」
(琉球大学農学部与那フィールド科学教育研究センター)
- 期 間：2008年5月25日
- 依頼機関：日本土壤動物学会
- 名 称：第一回新沖縄県史編集専門部会(自然環境編)動物班会議(沖縄県公文書館)
- 期 間：2008年11月18日
- 依頼機関：沖縄県文化振興会
- 名 称：沖縄県青少年科学作品展審査(おきでんふれあいホール)
- 期 間：2009年1月20日
- 依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力株式会社
- 名 称：西表島森林生態系保護区域設置委員会(石垣市：健康福祉センター)
- 期 間：2009年1月22日
- 依頼機関：九州森林管理局

知念 幸子 (主任学芸員 自然史・地学)

- 名 称：桜坂市民大学講座(桜坂劇場)
- 期 間：2008年7月17日～8月21日(全5回)
- 依頼機関：桜坂劇場
- 名 称：沖縄県青少年科学作品展審査(おきでんふれあいホール)
- 期 日：2009年1月20日
- 依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力株式会社
- 名 称：沖縄県青少年科学作品展(浦添市民体育館)
- 期 日：2009年2月21日
- 依頼機関：沖縄県教育委員会・沖縄電力株式会社

藤田 祐樹 (専門員 人類)

- 名 称：「衛星追跡に基づくハチクマの春秋の渡りと環境利用(樋口ほかと共同発表)」
- 期 日：2008年9月12日～15日
- 学 会 名：日本鳥学会2008年度大会、立教大学
- 名 称：「衛星追跡にもとづく陸ガモ類3種の渡り経路と移動パターン(平岡ほかと共同発表)」
- 期 日：2008年9月12日～15日
- 学 会 名：日本鳥学会2008年度大会、立教大学
- 名 称：「ミヤマガラスの渡り衛星追跡—繁殖地の特定と渡りのタイミング—(高木ほかと共同発表)」
- 期 日：2008年9月12日～15日
- 学 会 名：日本鳥学会2008年度大会、立教大学
- 名 称：「港川人下肢骨の形態に関する再検討(海部ほかと共同発表)」
- 期 日：2008年11月1日～2日
- 学 会 名：第62回日本人類学会大会、愛知学院大学
- 名 称：「沖縄県ハンダー洞穴および山下町第一洞穴より出土した更新世シカ類の年齢構成比較(尾崎ほかと共同発表)」
- 期 日：2008年11月1日～2日
- 学 会 名：第62回日本人類学会大会、愛知学院大学
- 名 称：「沖縄県南城市ハンダー洞穴から出土した更新世シカ類の年齢構成(尾崎ほかと共同発表)」
- 期 日：2009年1月30日～2月1日
- 学 会 名：日本古生物学会第158回例会、琉球大学、沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：「沖縄県南城市ハンダー洞穴におけるシカ類化石の出土状況(大城ほかと共同発表)」
- 期 日：2009年1月30日～2月1日
- 学 会 名：日本古生物学会第158回例会、琉球大学、沖縄県立博物館・美術館

山崎 真治 (専門員 人類)

- 名 称:「沖縄県の概要 九州における縄文時代の漁労具」(長崎県大村市民会館)
- 期 日:2009年3月14日~15日
- 学 会 名:九州縄文研究会 長崎大会

6. 著作論文等

萩尾 俊章 (博物館班長)

- 「第11代齋藤用之助と沖縄」『葉隠研究』第65号 葉隠研究会 2008年7月30日
- 「沖縄のワラザン(藁算) [2]」『むすび』第32号 日本結び文化学会 2008年8月26日
- 「沖縄のワラザン(藁算) [3]」『むすび』第33号 日本結び文化学会 2009年2月23日
- 「くらしと信仰・儀礼」「コラム 泡盛をめぐる」「ウチカビ」他30項目『沖縄大好き検定』
沖縄大好き検定委員会 2008年8月20日
- 「与那国島のカイダー一字をめぐる一考察」『与那国島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館
2009年3月31日
- 「与那国島に関する歴史年表」『与那国島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館 2009年3月31日
- 「与那国関係文獻一覧」『与那国島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館 2009年3月31日
- 「[資料紹介]沖縄県立博物館収蔵品にみる墓誌と墓中符について」『沖縄県立博物館・美術館紀要』第2号
2009年3月31日

田中 聡 (主任学芸員 自然史・生物)

- 「ヨナグニキノボリトカゲの生態について」『与那国島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館
2009年3月31日

知念 幸子 (主任学芸員 自然史・地学)

- 「与那国島における高波によって運搬された岩塊について」『与那国島総合調査報告書』
沖縄県立博物館・美術館 2009年3月31日
- 「沖縄県立博物館・美術館における総合的有害虫管理(IPM: Integrated Pest Management)の取組みについて I」
『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第2号 2009年3月31日

羽方 誠 (主任 考古)

- 「与那国島で採集した考古資料」(共著)『与那国島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館
2009年3月31日

崎原 恭子 (学芸員 歴史)

- 「与那国島史跡等の巡見報告」『与那国島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館 2009年3月31日

平川 信幸 (学芸員 美術工芸)

- 「琉球の美意識の形成 [試論]」『甦る琉球王国の輝き』沖縄県立博物館・美術館 2008年11月1日
- 「与那国島の染織の聞き取りメモ」『与那国島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館
2009年3月31日

藤田 祐樹 (専門員 人類)

- 「Locomotion of the Eurasian Nuthatches on the horizontal and vertical substrates」
『Journal of Zoology 274』2008年4月
- 「Spring migration of Eurasian Cranes *Grus grus* from Gujarat, India to their northern breeding grounds」
『Global Environmental Research 12』2008年11月 (樋口ほかと共著)
- 「Spring migration routes of mallards *Anas platyrhynchos* that winter in Japan, determined from
satellite telemetry」『Zoological Science 25』2008年9月 (山口ほかと共著)

- 「アオアシシギとアマサギに見られる採食中の歩行動作」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第2号
2009年3月31日

山崎 真治 (専門員 人類)

- 「平成19・20年度南城市武芸洞遺跡発掘調査の概要」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第2号
2009年3月31日 (藤田祐樹・西秋良宏と共著)
- 「八重瀬町具志頭グスク崖下採集の遺物について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第2号
2009年3月31日 (新里尚美・金城 達・山田浩久・藤田祐樹と共著)
- 『ハナダガマ遺跡発掘調査報告書』沖縄県立博物館・美術館 2009年3月

7. 職員研修

博物館法第4条の4は「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定しており、学芸員は学問的専門性を要求されている。最先端の知識と技術を修得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持てるよう、学芸員は適宜研修を受講している。

【沖縄県博物館協会研修会】

○春期研修会

日 時：2008年5月30日 (金) 14:40～17:10

場 所：東南植物楽園

参加者：山根義治、與那原慧、萩尾俊章、翁長直樹、岸本敬、田中聡、平川信幸、稲福恭子、
知念幸子、宮平真由美、山崎真治

○秋期研修会

日 時：2008年11月13日 (木) 14:00～17:00 (研修)、14日 (金) 9:00～12:00 (巡検)

場 所：本部町立博物館、カルスト山

参加者：萩尾俊章、田中聡、知念幸子

【2008年度歴史民俗資料館等専門職員研修会】

期 間：2008年11月9日～15日

研修地：国立歴史民俗博物館 (千葉県)

当研修は、文化庁と国立歴史民俗博物館 (以下「歴博」と略) が主催し、歴史・考古・民俗資料等の保存活用を担当する者に対し、これら文化財の調査、収集、保存及び公開等に関する必要な専門的知識と技能の研修を行い、歴史民俗資料館等の活動の充実を図る目的として、年5日間の研修を2年間継続で行う研修会である。最終年度に当たる今回の研修では、青森県から沖縄県まで合計34名の参加があった。

研修の内容は、2年目ということもあり、より具体的な業務と近い「資料の保存管理」というテーマで、資料のデータ化やコンピューターの活用、資料の修理・保存科学概論についての講義があった。また、「千葉県立房総のむら」では、施設見学を行うとともに、指定管理者制度の導入やニーズに対応した体験型を基本とする方針、広報戦略等による入館者数の増加につながったという事例をうかがうことができた。その他、昨年と同様に分野やテーマ別で行う選択講義 (1年で入替、前年度とは別の講義を選択) の演習や、全体での討論が行われた。博物館で受け入れる資料に関わる基本的な考え方やその例としての歴博の現状認識や、資料の保存科学、博物館活動の具体的な流れを受講することができた。必ずしも歴博がすべての博物館活動を網羅している訳ではないが、博物館職員として、来館者や資料に対する考え方の基本を再確認できたと思う。最終日には、修了証書の交付式が行われ、受講者に修了証書が授与された。また、研修中に全国各地の文化財・博物館関係の職員と交流を持ったことも大きな収穫であった。

(崎原 恭子)

II. 展示活動

1. 展示活動の概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展1本、企画展2本及び新収蔵品展を開催することを基本としている。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」として2008年度からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄県には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して日本本土や中国をはじめとするアジア諸国と交流しながら独自の個性豊かな歴史、文化を創り上げてきた。常設展示では「海と島に生きる一豊かさ、美しさ、平和を求めて」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

2008年度は開館1周年記念として特別展「甦る琉球王国の輝き」を開催したほか、企画展として「ずしがめの世界」、「発掘された日本列島展」、さらに2007年度収集資料による新収蔵品展を実施した。

(濱口 寿夫)

2. 常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と専門分野ごとの部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を、「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によってたがいに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つひとつが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形作っている。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、トー（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中、戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きる一豊かさ、美しさ、平和を求めて」とした。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がるサンゴ礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿兒島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化を情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

○海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫・沖縄」から発見された、さまざまな化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海にくらした生き物をはじめ、日本人のルーツと目される1万8,000年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石が、ステージ上に展開する。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

○貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代になり、それぞれの地域に有力者が登場するようになると、防御などを目的とした、さまざまなグスクがつくられていく。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富が築かれていった。各地の勢力は、やがて北山、中山、南山の3つに収斂し、激しい抗争を繰り返す。これらの3つの勢力は、15世紀はじめまでに尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史がはじまる。

○王国の繁栄

琉球王国は独自の国家として成立したが、国内権力基盤の不安定さによって、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起こった。この時代、中国との冊封・朝貢貿易を確立していた琉球は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。ここでは、東アジア有数の貿易国家として繁栄したあと、より強固な国家体制がつけられた琉球王国の時代を紹介する。

○薩摩の琉球支配と王国

1609年、薩摩島津氏の侵攻によって琉球は江戸幕府の影響下に置かれたが、中国との関係は引き続き維持された。羽地朝秀、蔡温など政治家の強力なリーダーシップによって、王国の経営が行われ、近世文化が創造されていく。またこの時代、貝摺奉行所などによって優秀な工芸品が多くつくられるとともに、「中山世鑑」、「球陽」などの歴史資料が数多く著された。

○王国の衰亡

中国・日本という両大国との関係を維持しながら王国を維持してきた琉球だが、19世紀に入ると矛盾が深まる。農村の疲弊や首里王府の財政難などが原因で王国の経営は行き詰まりが顕著となった。さらに、アジア進出を目指す欧米諸国の外圧が琉球に押し寄せ、王国は危機的な状況に陥った。

○沖縄の近代

1879年、明治政府による琉球処分が行われ、最終的に王国は消滅し、近代国家の一部として沖縄県が誕生した。しかし、しばらく旧慣温存の措置がなされ、社会の安定が図られる。その結果、土地整理による土地所有権の確立や国勢参加は大きく遅れ、資本主義の経済体制や教育制度も大正時代に入ってようやく整った。一方、日本による太平洋戦争の進捗とともに、沖縄も戦争体制に組み込まれていく。1945年、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が行われ、23万余りの尊い人命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

○戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移り、27年間のアメリカ統治に入る。米国民政府は東アジアの戦略基地として沖縄を重要視する一方、沖縄の産業や福祉、教育文化の振興に努めた。基地の機能強化が進められるなか、住民への被害も続出したため、日本への復帰運動が起こった。その結果、1972年に沖縄の施政権は日本へ返還されたが、多くの基地が残されるなど、未解決の問題が山積したままである。こういった状況を抱えながらも、現在の沖縄では平和を求め、「沖縄らしさ」を活かした活動が行われている。

○沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄の自然はさまざまな開発によって大きく姿を変えた。めざましい社会の変化によって沖縄が大きく変貌をとげる中、2000年には各国首脳がこの地に集い、九州・沖縄サミットが開催された。同じ年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、今日では沖縄文化の優位性は世界に認知されるようになっていく。これに伴って、沖縄を訪れる観光客や沖縄への移住者は大幅に増加し、沖縄は新たな時代をむかえようとしている。

エピローグ「沖縄の現代生活」は、県民に応募いただいた作品で構成された、まさに「現代沖縄の生活」のドキュメント資料である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の5つの部門展示室を設け、収蔵資料を活用しながら、総合展示やそれぞれのテーマをより深め、特化した形での展示と位置づけている。部門展示では、取り扱うテーマに可変性を持たせ、展示替えの頻度を高める工夫を行っている。

○自然史部門展示「生物が語る沖縄2億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマでヤンバル（沖縄島北部）、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

○考古部門展示「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしぶりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

○歴史部門展示「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを体験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介している。

○美術工芸部門展示「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文

化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすいかたちで、1年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

○民俗部門展示「沖縄の伝統と暮らし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

3. 部門展示替え

【歴史部門】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。ここでは、様々なテーマに沿った年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。開館当初から行っている「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマの展示を引き継ぎつつ、2008年度は「琉球王国の証—琉球の辞令書—」、「戦後沖縄の看護教育—看護学校のナースたちのすがた—」、「刻まれた歴史—石碑・拓本—」の展示を行った。以下にそれぞれの概要を紹介する。

○「琉球王国の証—琉球の辞令書—」

主 旨：辞令書とは、役職の任命などが記された文書のことであり、ある特定の組織や団体の内部で出される公文書を指す。約500年続いた琉球王国では、政治や祭祀を司る国王のもと職務を持った多くの役人や神女たちが働き、国王の名で役職等を与える証明の辞令書が発給された。ここでは、国王を中心とした琉球王国の組織体制や運営等を伝える琉球の辞令書を紹介し、王国体制の証（あかし）を示すことが目的である。

期 間：2008年7月29日（火）～2009年2月15日（日）

展示資料：国指定重要文化財「田名家文書（第1号）、（第4号）」、県指定有形文化財「伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書」、「御物城職補佐辞令書」ほか

○「戦後沖縄の看護教育—看護学校のナースたちのすがた—」

主 旨：戦後、沖縄の再建は廃墟の中からの出発であった。戦禍から生き残った人々が過酷な生活を強いられる中、1946年、沖縄に3つの看護学校が設立された。以後、幾多の変遷を経ながらより質の高い看護教育を目指し、戦後の看護や医療福祉の最前線に有能な人材を輩出した、沖縄の看護学校とナース養成のあゆみを紹介することが目的である。

期 間：2008年7月29日（火）～2009年8月9日（日）

展示資料：「名護病院附属看護婦学校卒業証書」、「琉球軍政府公衆衛生看護課修了証」、「写本した教科書」、「コザ看護学校表札」ほか

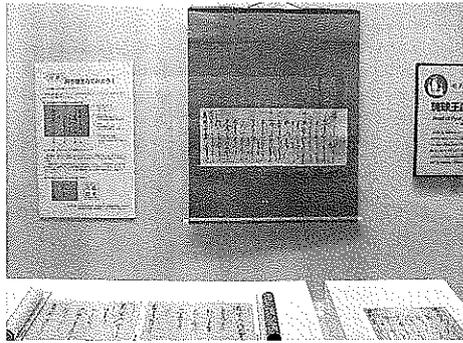
○「刻まれた歴史—石碑・拓本—」

主 旨：琉球王国時代の沖縄では、記念碑、墓碑、国王の業績を讃える碑、伝来や由来記、名所碑など、石を素材とした多くの記念碑がつくられた。それらに刻まれた文字からは、王国時代の歴史や人々の考え方、書の文化など様々なことを知ることができる。しかし沖縄戦によって、数多くの石碑が破壊・亡失してしまった。それらは刻まれた文字や模様を写し取った拓本で補完し、石碑に刻まれた琉球・沖縄の歴史を紹介する。

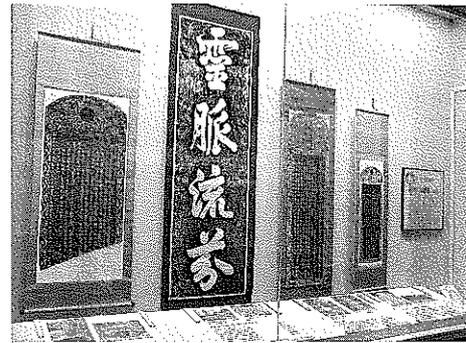
期 間：2009年2月17日（火）～2009年7月12日（日）

展示資料：「たまおとんのひのもの」（拓本）、「国王頌徳碑」（拓本）、「霊脈流芬」（拓本）、「重修天女橋碑記」（拓本）

（崎原 恭子）



辞令書の展示のようす



拓本の展示のようす

【美術工芸部門】

○「琉球の美」

主 旨：沖縄はかつて「琉球王国」として独立した国家であった。中国、朝鮮半島、日本、東南アジアの中間に位置することから、取り巻く海を「海上の道」として交易をおこない繁栄をした。様々な文物と多くの人々の往来は異国の文化をもたらし、沖縄の亜熱帯の気候風土と影響しあう中で沖縄独自の美術工芸を生み出した。そうして生み出された琉球の美術工芸の数々を「琉球の美」を主題に紹介した。

期 間：2008年2月27日（金）～2009年7月27日（日）

展示資料：「紺地獅子牡丹模様紅型幕」「線彫魚文皿」「黒漆仙人遊棋花鳥螺鈿茶箱」

○「美の中の動物たち」

主 旨：琉球の美は、リスや千鳥などの模様として海を渡ってきたもの、龍や鳳凰などの空想上のもの、そして馬や軍鶏などの身近なものなど多くの動物を表現してきた。こうした動物達を先人達が動物に向けた目差しと、絵画や彫刻による表現の違いなどに焦点を当てて展示を行った。

期 間：2008年8月1日（金）～2009年2月22日（日）

展示資料：「宝珠雲双龍浮彫羽目」、「宝珠雲双龍浮彫羽目」、「馬の絵」、「線彫魚文皿」ほか

（平川 信幸）

4. 企画展『新収蔵品展—平成19年度収蔵資料—』

2007年度に寄贈・購入・収集された諸資料を自然、歴史、美工、民俗、考古、人類、地学の各分野に分類し、博物館3階企画展示室で展示・公開した。初日の開会式では、牧野浩隆館長より寄贈者の皆様10名への感謝状が贈呈され、これに続いて、寄贈者5名と牧野浩隆館長によるテーブルカットが行われた。式典終了後、参観者は会場内を観覧し、88点の展示品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

会 期：2008年5月13日（火）～6月23日（月）（45日間）

会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展示室

観 覧 料：大人1,000円、高校・大学生800円、小・中学生500円

観覧者数：5,571人

予 算 額：335,932円

【開催趣旨】

「新収蔵品展」は、博物館が過年度に寄贈・購入・移管等で受け入れた資料を一堂に展示・公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展をめざして開催するものである。

【展示内容】

2007年度は、国内の個人や機関等からの寄贈、博物館・美術館の開館にあたっての収集・購入、移管など

5. 企画展『ずしがめの世界』

会 期：2008年9月17日（水）～10月13日（日）（24日間）

会 場：博物館企画展示室

観 覧 料：大人300円、高校・大学生200円、小・中学生100円

観覧者数：3,838人

予 算 額：2,880,000円

【開催趣旨】

沖縄では遺体を墓室内に安置（風葬）し、その後親族が骨を洗う「洗骨」がおこなわれていた。厨子甕とは、洗骨後の遺骨を納める納骨器のことである。洗骨習俗は沖縄の他に、奄美諸島、中国南部や台湾、朝鮮半島などに分布しているが、沖縄では納骨器としての厨子甕がさまざまな形や装飾の発達をみせていることが大きな特徴である。ゆえに、厨子甕は沖縄固有の習俗であり、貴重な文化遺産である。

厨子甕は、時代の別により形態・材質・製作法が異なり、土質や釉薬・装飾などの要素の他に、ミガチ（銘書）や副葬品などから厨子甕の編年をたどることができることから、葬墓制の歴史、さらには琉球・沖縄の陶業史の解明にもつながる重要な研究の一つである。

沖縄県立博物館・美術館では、文化財保存の観点から、現在約1,200点近くの厨子甕を収集・保管しており、常設展示や企画展示等を通してその文化財的価値を広く県民に紹介している。しかし、信仰に関わる事物であることからこれを忌避する県民も多く、必ずしも本来の趣旨が理解されているとは言い難い。そこで本展の実施を通して厨子甕の文化財的価値を広く県民に紹介し、その意義を理解してもらう機会を提供することを目的とする。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

後 援：NHK沖縄放送局／琉球新報社／沖縄タイムス社／琉球放送／沖縄テレビ／琉球朝日放送

【展示内容】

第1章 沖縄の葬墓制と厨子甕

葬送儀礼として野辺送りの様子を中心に紹介した。また古くは風葬を伝統とする沖縄の墓が、追葬が可能のように工夫されているなど、墓の特徴やタイプを示した。

第2章 洗骨習俗と厨子甕

洗骨習俗が日本本土にはなく、沖縄・奄美諸島にみられる習俗であり、厨子甕の分布も洗骨習俗の分布と一致すること、また、類似した習俗として中国福建省・台湾の「拾骨」を紹介した。

第3章 厨子甕の歴史

厨子甕がいつごろ作り出され、使われるようになったか、その歴史の変遷を紹介した。

第4章 木棺（板厨子）の世界

木棺（板厨子）について、今帰仁村の百按司墓や浦添ようどれ出土品からその特徴・年代的位位置を紹介した。

第5章 石厨子の世界

石厨子について、輝緑岩製・石灰岩製・凝灰岩製・サンゴ石灰岩製の4つの材質別に、その特徴・年代的位位置を紹介した。

第6章 陶製厨子

厨子甕の大半を占める陶製厨子について、甕型・御殿型（家型）の2つの型別に、その種類と特徴・年代的位位置を紹介した。また、併せて土器壺と生産地の紹介もおこなった。

第7章 名品・珍品・転用品

数多い厨子甕の中でも名品・珍品とされるものを紹介し、併せて転用品の紹介もおこなった。

第8章 厨子甕の装飾

蓋や胴部の表面に線彫りや貼り付け等の技法を用いて鯨・獅子・法師・蓮花等の文様が描かれていることを紹介した。さらに、その造形の分析を通して、沖縄の美術工芸の歴史の変遷に関する解明が可能であることを示した。

第9章 銘書（ミガチ）を読み解く

銘書とは、厨子の蓋や胴部に墨字や線彫で書き記された銘のことで、被葬者の字名、屋号、姓名、死亡・洗骨年月日等が記されており、洗骨習俗の諸相を知る手がかりとなるだけでなく、広く沖繩の葬送をめぐる習俗全般を知るための一級の資料であることを紹介した。

第10章 副葬品など

死者を墓に納める際の副葬品は、あの世でも現世と同じような世界があるとの信仰から手ぬぐい・簪・キセル・硬貨などの日用品が主だったこと、厨子甕の中に納められるものの特別な例として「誌板」と呼ばれる墓誌の一種があることを紹介した。また、厨子甕以外に墓内へ納めるものとして「瓦証文」や「墓中符」の紹介もおこなった。

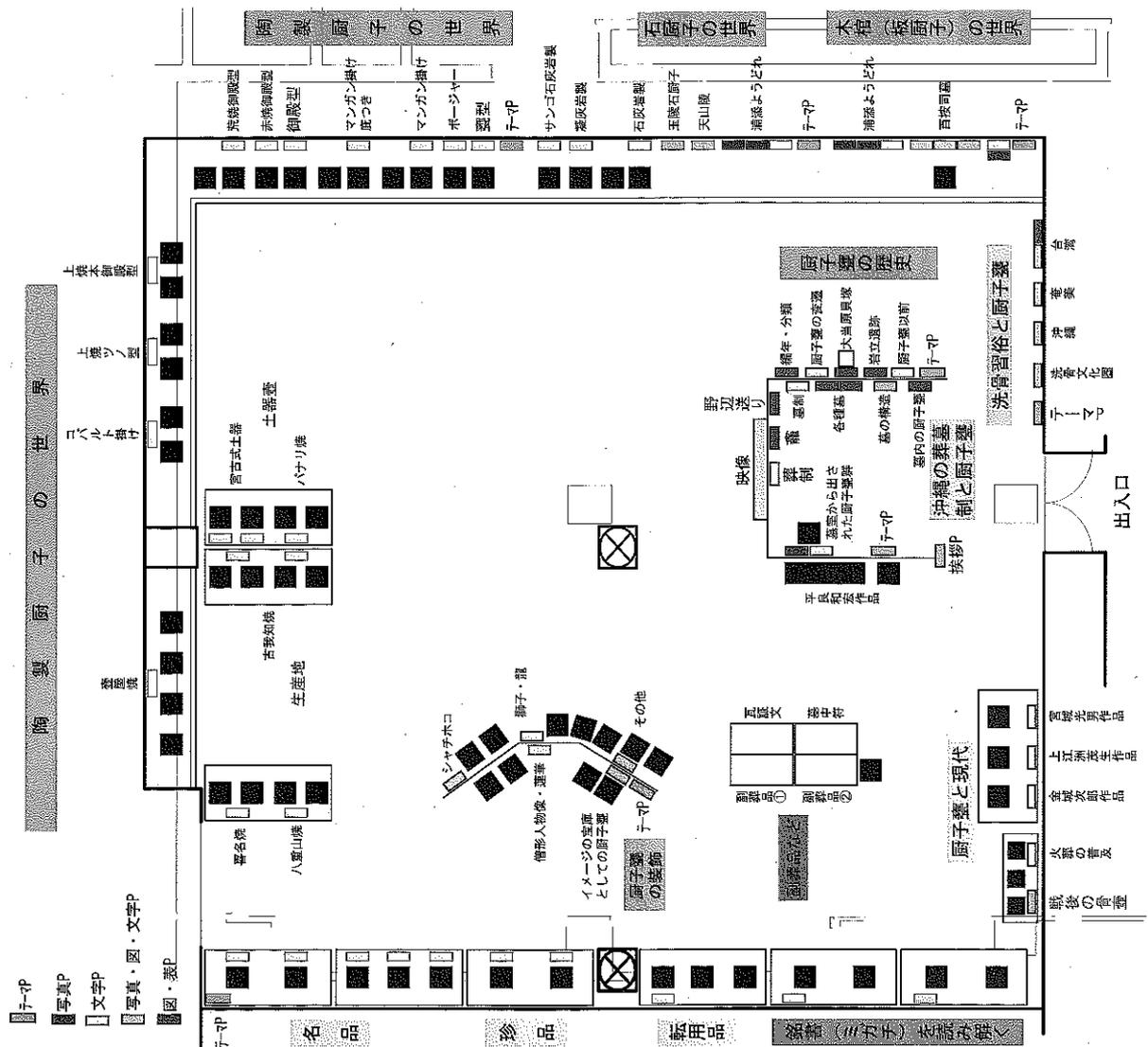
第11章 厨子甕と現代

戦後になって、洗骨から火葬への変化に伴って、厨子甕も火葬用小型壺に変化したが、少なくともなっているものの昔ながらの大型の厨子甕を製作している陶工の方々もおり、最近は美術工芸品として県外からの製作依頼もあることを紹介した。また、現代では人間の死生観も様々に変化しているとされる中、独自の感性から新しいタイプの厨子甕（骨壺）を生み出しているの方々とその作品の紹介もおこなった。

【関連催事】

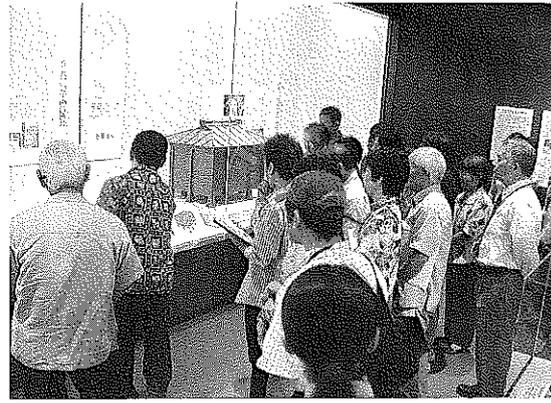
本企画展の関連催事として文化講座および展示解説会を行った。詳細は「博物館 III. 教育普及」を参照いただきたい。

【展示平面図】





テープカットのようす



展示解説のようす

(岸本 敬)

6. 特別展『甦る琉球王国の輝き』

会 期：2008年11月1日（土）～12月21日（日）（40日間）
 会 場：博物館特別展示室Ⅰ・Ⅱ、企画展示室
 観 覧 料：大人1,000円、高校・大学生800円、小・中学生500円
 観覧者数：16,629人
 予 算 額：41,922,000円

【開催趣旨】

琉球は、明の洪武帝が呼びかけた入貢に応じた1372年から琉球処分があった1879年までの約500年間、中国との友好交流の歴史がある。この展覧会は、北京故宫博物院が所蔵する琉球王国から献上された美術工芸品の紹介を通して、中国と沖縄の友好の歴史を現在に受け継ぎ、さらなる交流の発展を目的としている。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館／沖縄県教育委員会
 協 力：北京故宫博物院／中国第一歴史档案館／沖縄県公文書館／財海洋博覧会記念公園管理財団
 ／沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館／久米島自然文化センター／那覇市立中央図書館
 ／那覇市歴史博物館／上江洲智一／喜久村梨弘／古波蔵久男／名護弘一
 特別協賛：琉球物流
 特別協力：沖縄タイムス社／日本航空
 後 援：外務省／財沖縄観光コンベンションビューロー／沖縄都市モノレール／那覇空港ビルディング
 ／琉球新報社／NHK沖縄放送局／沖縄テレビ／琉球朝日放送／琉球放送／ラジオ沖縄
 ／エフエム沖縄／エフエム那覇／FMレキオ

【展示検討委員】

高良 倉吉（琉球大学教授）
 田名 真之（沖縄国際大学教授）
 宮里 正子（那覇市歴史博物館主任学芸員）
 藤村 玲子（染色家）
 渡辺 美季（日本学術振興会特別研究員）

【展示内容】

第1章 琉球王国と北京

15世紀前半から19世紀初頭まで北京は中華王朝の皇城であり、アジア最大のヒト・モノ・情報の集積地であった。琉球は約500年にわたってこの北京へ使節を派遣し、北京中央の紫禁城

(故宮)に住まう皇帝へ国王からの書簡と貢ぎ物を届けた。この外交関係によって、琉球は中国から経済的な恩典を受け、文化や情報を取得すると同時に、国際社会の中における自国の地位を存立していった。この章では、琉球使節の北京訪問の様子や、琉中関係を主催した中国皇帝と琉球国王に焦点を当て、北京を中心に展開された琉球・中国の外交関係を解説する。

第2章 琉球の誇り

琉球処分によって琉球と中国の関係は断片的となり、両者の距離はしだいに遠のいていったが約100年後の1980年代に学術研究レベルで再び中琉の交流が始まった。さらに、2003年から2006年の中国北京故宮博物院と沖縄県教育委員会による合同調査によって600点余の琉球から中国へ贈られた工芸品が故宮博物院から発見されたこれら貴重な資料を展示する。

第3章 冊封使、皇帝の使い

琉球王国には国王が代替わりをする度に皇帝よりの使者、冊封使が派遣された。特に清代、琉球に派遣された冊封使達は、中国の高級官僚試験科挙に受かったエリートであると同時に最高の文化人でもあった。冊封使達と琉球人達は漢詩や書を贈答通して交流を行い、当時としては最先端の文化にふれた。第三章は中国側の人の動きとして冊封使をテーマに展示を行う。

第4章 進貢を支えた人々

琉球と中国の交流を支えるために多くの琉球人が琉球と中国を行き来している。航海技術が蓄積されていた当時においても、東シナ海を越えることは命がけの事業であった。第四章では中国との関係を500年にわたり支えた久米村の人びとや・中国の制度および文化を学んだ留学生(官生)たちをはじめ、海上の道として重要な存在であった久米島に焦点をあてる。

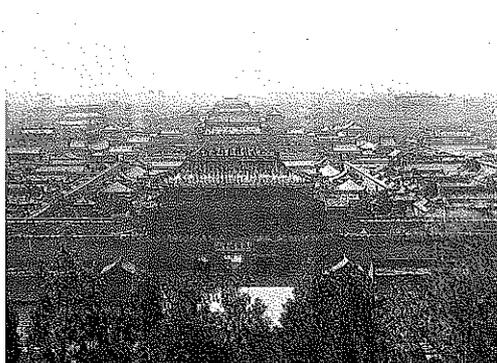
第5章 琉球の美意識

中国へ献上された漆器などの工芸品は王府の官営工房貝摺奉行所で製作された。貝摺奉行所ではデザイナーである絵師によって漆器がデザインされる。こうした美術工芸品の制作の裏には王国の威信をかけた、美意識と技術があったのである。ここでは王府の献上品のデザインを担った絵師達の作品を紹介し、漆器のデザインの原点に迫ってみたい。

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「博物館 III. 教育普及活動」「文化の杜共同企業体 V. 教育・イベント」を参照いただきたい。

- オープニングイベント組踊公演「二童敵討」
- 特別展関連公演「不動の舞 語る絵画」
- 展示解説会
- 講演会「故宮の中の金工品」
- シンポジウム「琉球王国と北京」

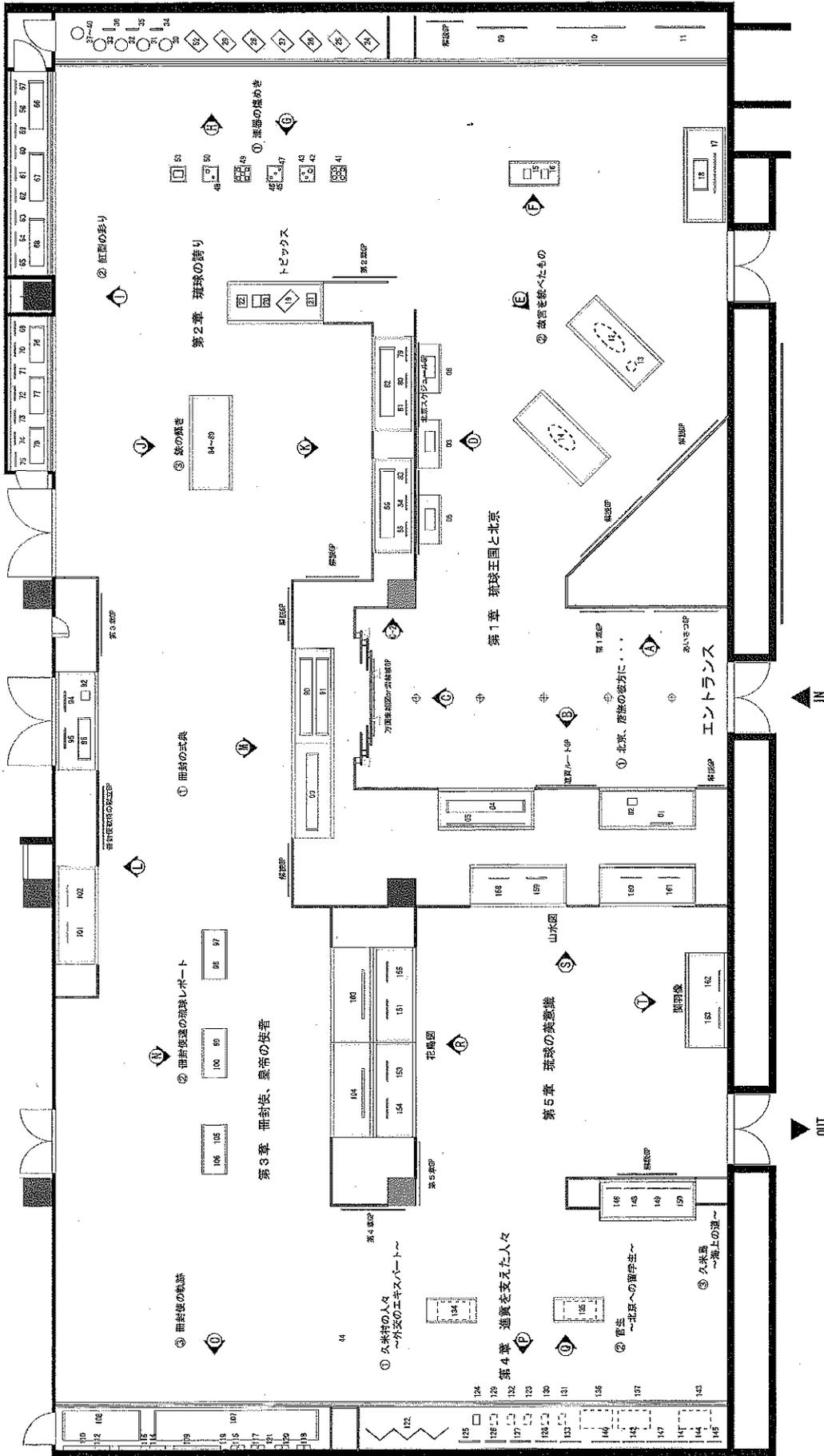


景山より望む故宮



展示解説のようす

【展示平面図】



(平川 信幸)

7. 企画展『発掘された日本列島2008』

会 期：2009年1月9日（金）～3月1日（日）（45日間）

会 場：博物館特別展示室I、企画展示室

観 覧 料：大人450円、高校・大学生200円、小・中学生100円

（『沖縄考古学ニュース』とセット料金）

観覧者数：4,718人

予 算 額：4,009,720円

【開催趣旨】

文化庁が毎年企画する巡回展である。全国で実施されている発掘調査や文化庁が所管する世界文化遺産等に関する事業をテーマとして設定し、埋蔵文化財のみならず史跡や文化的景観に対しても広くその意義と重要性を知ってもらおう。

【開催形式】

主 催：文化庁／東京都江戸東京博物館／兵庫県立考古博物館／千葉県立中央博物館
／沖縄県立博物館・美術館

協 力：全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会／全国埋蔵文化財法人連絡協議会／朝日新聞社
朝日新聞出版／財団法人元興寺文化財研究所

【展示内容】

出土品、複製品、模型、模造品など約800点を展示した。

第1章 全国発掘速報展

旧石器時代：太郎水野2遺跡（山形）

縄文時代：清武上猪ノ原遺跡（宮崎）、大清水上遺跡（岩手）

弥生時代：寺福童遺跡（福岡）、桜馬場遺跡（佐賀）

古墳時代：広田遺跡（鹿児島）、塩田北山東古墳（兵庫）、太子塚古墳（群馬）

古 代：城久遺跡群（鹿児島）、土盛マツノト遺跡（鹿児島）

中 世：塩津港遺跡（滋賀）

近 世：本能寺跡（京都）、宇治川太閤堤跡（京都）、大坂城跡（大阪）

第2章 特別史跡「高松塚古墳」（奈良）

第3章 世界文化遺産「石見銀山とその文化的景観」（島根）

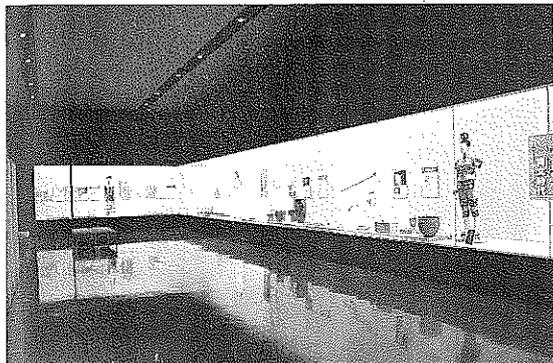
【関連催事】

本企画展の関連催事として文化講座および展示解説会を行った。詳細は「博物館 III. 教育普及活動」を参照いただきたい。

○講演会「銀が繋ぐ二つの世界遺産 - 琉球と石見 -」

○展示解説会

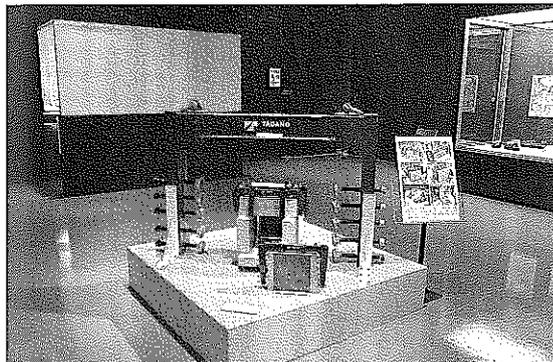
（羽方 誠）



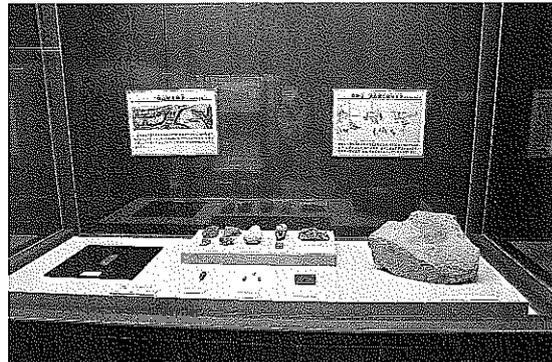
展示会場のようす



太子塚古墳出土の鹿の埴輪



高松塚古墳の石材取り上げに使われた治具



石見銀山遺跡の出土品

8. 企画展『沖縄考古学ニュース』

会 期：2009年1月9日（金）～3月1日（日）（45日間）

会 場：博物館特別展示室Ⅱ

観 覧 料：大人450円、高校・大学生200円、小・中学生100円

（『発掘された日本列島2008』とセット料金）

観覧者数：4,718人

予 算 額：2,041,497円

【開催趣旨】

沖縄県内における最近の考古学的な成果と、文化財保護行政の現状を紹介し、文化財に対する意識を高めてもらう。また同時開催する巡回展『発掘された日本列島2008』の地域展としての位置づけも兼ねる。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

【展示内容】

出土品、複製品、模型など約450点を展示した。

第1章 発掘調査の成果

縄文時代：伊礼原遺跡（北谷町）、大堂原遺跡（名護市）、武芸洞（南城市）、
摩文仁ハント原遺跡（糸満市）、

弥生～平安並行時代：浜屋原貝塚（読谷村）、津堅貝塚（うるま市）、アンチの上貝塚（本部町）

グスク時代：後兼久原遺跡（北谷町）、浦添ようどれ（浦添市）、渡地村跡（那覇市）、
崎山御嶽遺跡（那覇市）、

近世・現代：喜納古窯跡（読谷村）、神応寺跡（那覇市）、大袋原の猪垣（恩納村）

宮古・八重山：アラブ遺跡（宮古島市）

第2章 文化財の保存・活用

修復された考古資料：首里城跡京の内地区出土の陶磁器（那覇市）、斎場御嶽の出土品（南城市）
国から指定された史跡：下田原城跡（竹富町）、銘苅墓跡群（那覇市）、山田城跡（恩納村）
国頭方西海道（恩納村）、先島諸島火番盛（宮古島市、多良間村、石垣市、竹富町、与那国町）

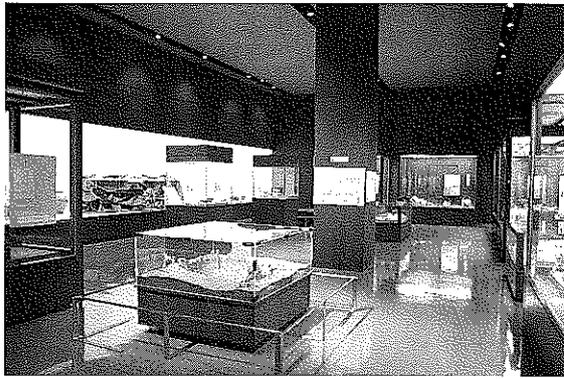
第3章 文化財保護行政の現状

米軍基地内の発掘調査
発掘調査の件数・体制・方法

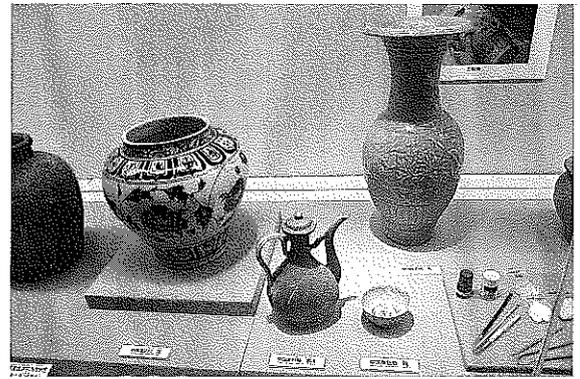
【関連催事】

本企画展の関連催事として文化講座および展示解説会を行った。詳細は「博物館 Ⅲ. 教育普及活動」を参照いただきたい。

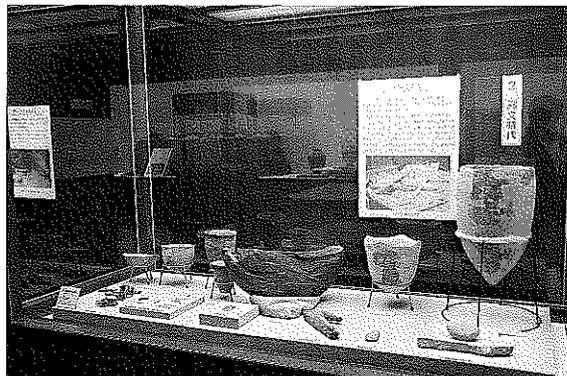
- 講演会「沖縄考古学の現状」
- 展示解説会



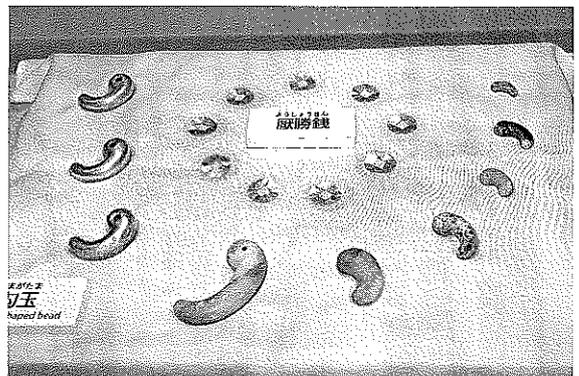
展示会場のようす



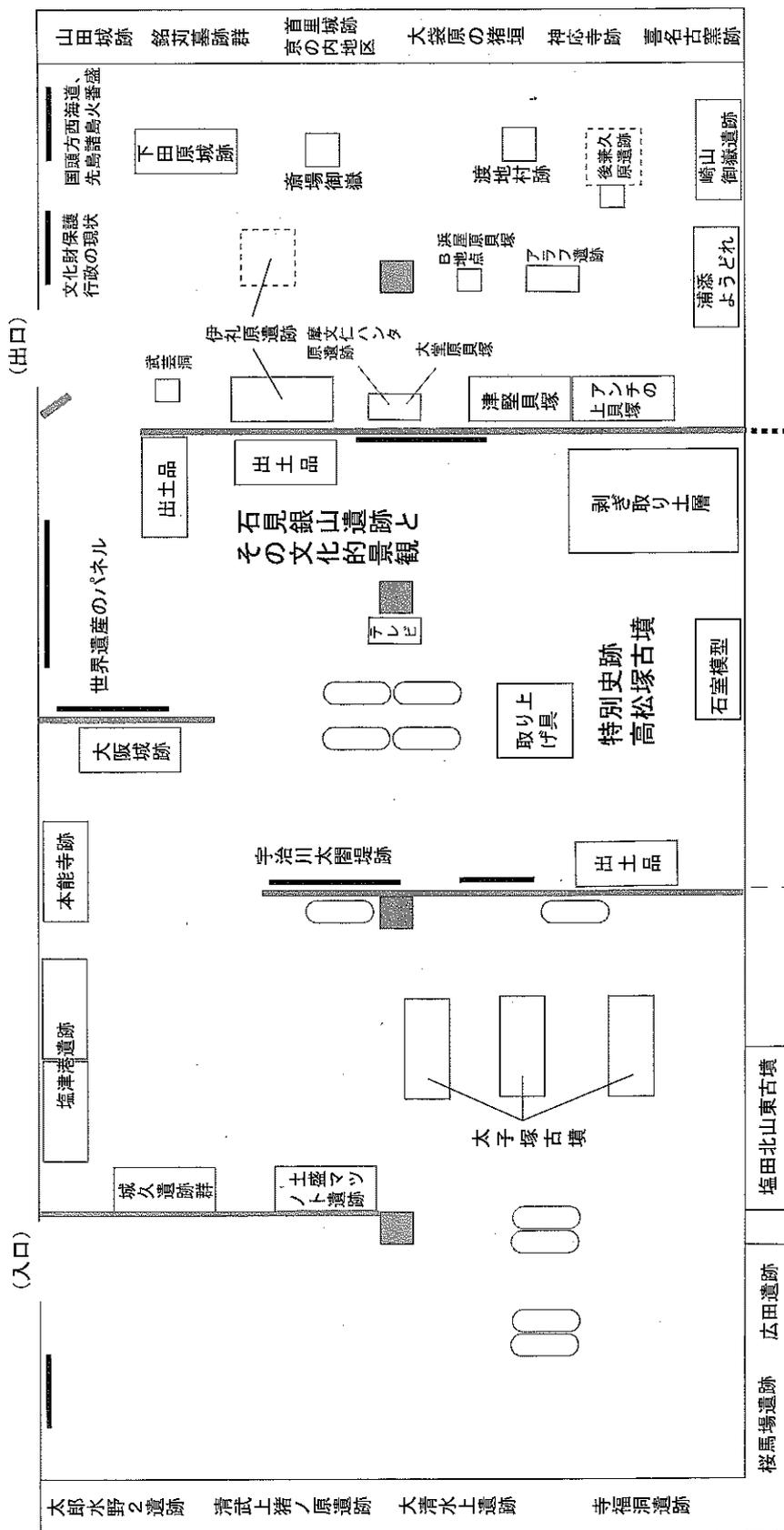
首里城跡京の内地区の出土品



伊礼原遺跡の出土品



斎場御嶽の出土品



「発掘された日本列島2008」 (企画展示室)
 「沖縄考古学ニュース」 (特別展示室2)

展示会平面図

(羽方 誠)

Ⅲ. 教育普及活動

1. 博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充足させ、地域の中軸施設であることが求められている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館する。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では2008年度も多くの教育普及事業を実施してきた。

当館の教育普及活動は、首里の時代から取組んできた活動を発展させながら新館ならではの事業に取り組むことの2本柱で推進してきた。学校連携事業では、学校団体受入の充実した態勢を図るため、「沖縄博物館友の会」ボランティア部との連携を進めてきた。また、2007年度の『ウチナー探検 博物館学習ノート-中学生版-』につづき、小学生版を作成した。さらに、文化講座及び展示会関連講座は「琉球円覚寺仏殿の模型制作」を皮切りに14回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることが出来た。その他にも、体験学習教室では「アダン葉サバをつくろう」をはじめ8回の教室を開催し、学芸員講座を6回、常設展展示解説会を22回、バックヤードツアーを11回、特別展・企画展の展示解説会を10回とそれぞれ開催した。中でも、開館一周年記念博物館特別展「甦る琉球王国の輝き」のシンポジウムにおいては、当館の講座対応スペースを全て活用しても入りきれない聴講者の参加があった。

運営面では、指定管理者制度導入にともない、旧館における博物館の教育普及活動の単独実施形態が大きく転化することとなった。事業の計画を県職員が立案し、事業の実施を指定管理者が行うことになり、博物館が行う事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つとなった。博物館活動運営の実績のない指定管理者と、定期的に連絡会議を持ちながら、運営の方法を協議し、事業を推進してきた。

予 算：2008年度の教育普及事業予算総額 2,500,000円

参加者：総数は21,156名（学校団体は、学習プログラムに基づく受入れ人数）

(赤嶺 敏)

2. 学校連携事業

学校連携事業は、「学校団体受け入れ」と「『博物館学習ノート』作成」の2つの事業を実施している。

「学校団体受け入れ」は、学校団体の観覧支援のことである。教育課程の一環として博物館を利用する際に館から提供できる内容の調整を行っている。さらに、学校の規模や授業の進捗、生徒の実態等を含めた学校からの要望と、博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムも作成している。

「『博物館学習ノート』作成」は、児童生徒が博物館で学習を行う際に、興味を持てるよう作成したワークブックのことである。資料の観察を通して見えないところまで興味関心を広げられるようになっている。2008年度は小学生版を作成し各小・中・高校へ配布した。また、多くの方が利用できるように当館のホームページにも掲載している。

(赤嶺 敏)

【学校団体受け入れ】

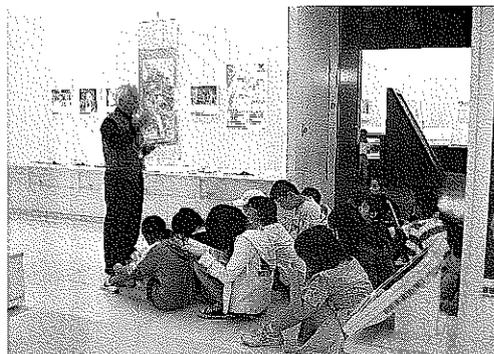
博物館を利用した学校団体

※（ ）は人数

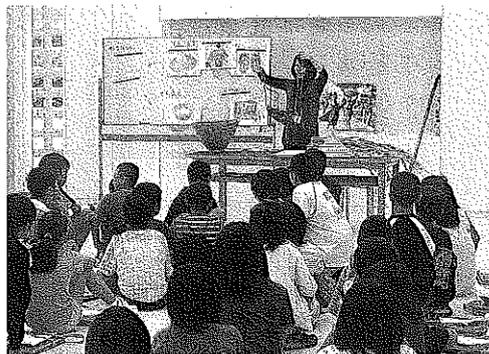
		小・中学校	高校・大学	特別支援学校	その他	合計
県	内	255(19,010)	40(2,446)	19(665)	61(2,369)	375(24,490)
県	外	23(1,925)	70(10,194)	3(58)	0(0)	96(12,177)
国	外	6(398)	2(60)	0(0)	0(0)	8(458)
合計		284(21,323)	112(12,700)	22(723)	61(2,969)	479(37,125)

博物館の学習プログラムを作成した学校団体

内 容	小学校	中学校	高 校	特別支援	合 計
社 会 見 学	62	1	2	5	70
教 科	11	1	5	2	19
民 具 体 験	31	0	0	1	32
総合的な学習の時間	17	12	1	0	30
施 設 見 学	6	1	7	1	15
旅 行 的 行 事	47	2	2	2	53
合 計	174	17	17	11	219



学校団体の観覧支援のようす



民具解説のようす

【『博物館学習ノート』作成】

○方針

- ・3年計画で、小・中・高の校種別の『博物館学習ノート』（以下「ワークシート」という。）を作成する。
- ・ワークシートは、2007年度（中学生）、2008年度（小学生）、2009年度（高校生）の計画で作成を進める。
- ・これまで博物館で作成されてきた『学習ノート』の課題を考慮し、モノ（博物館資料）から出発してモノの観察をとおして、見えないところまで興味関心を広げられるようなワークシートを作成する。
- ・博物館において1989～91年にかけて作成されたワークシートと1993年の『博物館においでよ』を参考に新版として作成する。
- ・新館の展示や体験資料の中から、児童・生徒が観察・体感することによって、自ら学ぶように導くワークシートを作成する。
- ・県内の学校より、総括1名、分野別に1名（5分野）の合計6名の委員を委嘱して、博物館職員を含めた作成委員会を発足させる。

○2008年度の委員・担当・役割

作成委員

氏 名	所 属 名	教 科
前 田 真 之	西原町立西原小学校	校長
仲 底 善 章	沖縄県立石川少年自然の家	主任専門員
日 越 國 昭	元沖縄県立図書館	館長
中 里 昭 夫	糸満市立兼城小学校	教諭
眞境名 兼 彦	西原町立西原小学校	教諭
波 平 恵 子	沖縄県立博物館・美術館	博物館ボランティア

担当分野

	作 成 委 員	博 物 館 職 員
総 合 歴 史 班	前田、眞境名	稲福、羽方、藤田、山崎、平川
自 然 史 班	日越、波平	田中、知念
民 俗 班	仲底、中里	岸本、萩尾

役割分担

	博 物 館	作 成 委 員
テーマの選定	○	○
資料情報の提供	○	
設問作成	○	○
試案の検討		○
モニタリング	○	○
最終原稿	○	

○会議およびモニタリング

第1回会議 委嘱状交付及び全体会議

目 的：委員へ委嘱状を交付し、今後の会議の運営や作成に係る方針・連携のあり方について確認する。

日 時：2008年8月28日（木）10:00～12:00

場 所：博物館講座室

第2回会議 『博物館学習ノート』作成委員全体会議

目 的：モニタリングにおいて収集した資料をもとに作成委員会全体で検討し、確認する必要がある事項を協議する。

日 時：2008年10月30日（木）14:15～14:50、15:50～17:00

場 所：博物館講座室

モニタリング校：嘉手納町立嘉手納小学校6年生

第3回会議 『博物館学習ノート』作成委員全体会議

目 的：モニタリングにおいて収集した資料をもとに、作成委員会全体で検討し、確認する必要がある事項を協議し、内容の進化を図る。

日 時：2008年12月9日（火）11:00～14:40、16:30～18:00

場 所：博物館講座室

モニタリング校：北中城村立北中城小学校5年生



作成委員全体会議



モニタリングのようす

3. 博物館体験学習教室

博物館体験学習教室は、沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。

（赤嶺 敏）

○第1回「アダン葉サバをつくろう」

講 師：前盛弘吉

日 時：2008年4月20日（日）9:00～12:00

場 所：博物館実習室

内 容：沖縄の民具の一つであるアダン葉でつくる草履（サバ）作りを体験した。11回の下ごしらえの準備を博物館ボランティアに依頼し、参加者は当日3時間程の作製体験学習となった。

参加者：25名

○第2回「和綴じ本をつくろう」

講 師：當間巧（表具師）

日 時：2008年5月15日（日）9:00～12:00

場 所：博物館実習室

内 容：館所蔵の古文書に使われている、古くから伝わる紙の綴じ方について体験した。当館において初めての和綴じ本を体験する講座で、ボランティア6名とボランティア実習生4名も協力した。

参加者：29名

○第3回「植物標本をつくろう」

講 師：新城和治（元琉球大学教授）、日越 國昭（元石川少年自然の家所長）

日 時：2008年7月20日（日）9:00～16:00、8月17日（日）9:00～12:00

場 所：博物館実習室

内 容：博物館近隣の公園にて植物の観察・採集をし、標本作りまでを体験した。1日目午前中は末吉公園で植物を採集し、午後は博物館実習室で押し葉の方法を学んだ。標本は2日目に作製した。

参加者：親子18組40名

○第4回「教師のための博物館利用講座」

講 師：赤嶺敏（博物館主任学芸員）

日 時：2008年7月23日（木）、29日（火）、30日（水）3回とも9:00～15:30

場 所：博物館実習室

内 容：博物館を多くの児童生徒に利用してもらうため、教師向けの利用講座を実施した。校種別に行った一日研修を通して、博物館を理解し博物館で学習する際の計画やワークシートを作成した。

参加者：56名

○第5回「印をつくろう」

講 師：前田賢二（書道家）

日 時：2008年9月21日（日）、10月19日（日）2回とも9:00～12:00

場 所：博物館実習室

内 容：博物館収蔵の印資料を模刻し篆刻を体験した。博物館に残された印資料を2.5cm程の大きさの印材に転写して彫り進め、約1ヵ月後（2日目）に仕上げ彫りを行った。

参加者：27名

○第6回「連凧をつくろう」

講 師：上運天研成（おもちゃの会 ピノキオ 会長）

日 時：2008年11月16日（日）、12月21日（日）2回とも9:00～12:30

場 所：博物館実習室

内 容：遊び道具の一つである凧を作成し、隣接する公園で凧あげを体験した。レインボー凧とテントウムシ凧の2種類を二日間の講座で製作し、最終日には出来上がった凧を揚げた。

参加者：25名

○第7回「しっくいシーサーをつくろう」

講 師：奥原宗典（奥原製陶）

日 時：2009年1月17日（土）9:00～15:00、1月18日（日）9:00～12:00

場 所：博物館実習室

内 容：しっくいと瓦の破片を組み合わせてオリジナルのシーサーを作成した。2日目に彩色を行い色

とりどりのシーサーが仕上がった。

参加者：43名

○第8回「手びねりで作る器」

講師：本田伸明(沖縄クチャ陶芸パートナー)

日時：2009年2月15日(日)、3月1日(日)2日とも9:00~12:00

場所：博物館実習室

内容：博物館の陶器資料を参考にしながら、タタラ作りとひも作りの手びねりによる器を2種類作った。仕上げは、透明の釉薬を掛けて本焼きをした。

参加者：23名



しっくいシーサー作り



アダン葉サバをつくらう

4. 博物館文化講座

博物館文化講座は、当館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について、分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に1974年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。

(赤嶺 敏)

○第371回「琉球円覚寺仏殿の模型製作」「CGによる旧那覇市街地の町並み再現」

講師：宮城慎平、浦崎文佳(沖縄職業能力開発大学校卒業生)

日時：2008年5月17日(土)10:00~12:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：卒業制作の旧円覚寺模型の展示と旧那覇市市街地復元画像CGを放映し成果報告を行った。

受講者：110名

○第372回「沖縄をたどるー現代・沖縄の思想ー」

講師：比屋根照夫(琉球大学名誉教授)

日時：2008年6月21日(土)13:00~15:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：博物館の展示室にあるPCコンテンツと多くの文献や画像資料を活用して、めまぐるしい状況の変化の中に置かれた戦後沖縄を思想史の観点から紹介した。

受講者：83名

○第373回 シンポジウム「きょうりゅうとりゅうきゅう」

司会：高桑裕司(群馬県立自然史博物館学芸員)

講師：平川康(早稲田大学教授)、佐藤たまき(東京学芸大学准教授)、三枝春生(兵庫県立人と自然の博物館学芸員)、知念幸子(当館学芸員)

日 時：2008年7月26日（土）14:00～16:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：最新の恐竜研究に関する知識を県内外の研究者が紹介した。その中で、県内でも首長竜発見の可能性があることが示された。

受講者：105名

○第374回「恐竜は本当に絶滅したのか？」

講 師：長谷川善和（群馬県立自然史博物館館長）

日 時：2008年8月2日（土）14:00～16:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：1億6000万年間もの間地上で繁栄した恐竜たちの進化の謎について、これまでの恐竜研究を振り返り、恐竜が絶滅した理由について様々な説があることを紹介した。

受講者：150名

○第375回「干潟の観察」

講 師：西平守孝（名桜大学教授）

日 時：2008年8月16日（土）14:00～16:00

場 所：億首川河口（金武町）

内 容：億首川河口において、ネイチャー未来館と連携を図りながら干潟の生き物たちの営みを観察し、干潟の重要性を考える機会を提供した。自然保護を最優先に最小人員による講座とした。

受講者：20名

○第376回「ずしがめの世界探訪」

講 師：上江洲均（久米島自然文化センター名誉館長）

日 時：2008年9月20日（土）14:00～16:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：当館職員であった上江洲氏が在職中に関わった資料を中心に、収集にまつわるエピソードも交えながら厨子甕について紹介した。

受講者：142名

○第377回「港川人を訪ねて」

講 師：大岡素平（おきなわワールド主任）

日 時：2008年10月18日（土）13:00～17:00

場 所：八重瀬町、南城市

内 容：沖縄本島南部の港川フィッシャー遺跡や周辺の化石出土地等を巡検し、見学及び解説を行った。

受講者：41名

○第378回「故宮の中の金工品」

講 師：久保智康（京都国立博物館学芸課工芸室長）

日 時：2008年11月24日（月）14:00～15:30

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：琉球から北京へと渡った工芸品の中の金工品について、特別展『甦る琉球王国の輝き』において展示した資料を中心に解説した。

受講者：215名

○第379回 シンポジウム「琉球王国と北京」

司 会：高良倉吉（琉球大学教授）

講 師：田名真之（沖縄国際大学教授）、宮里正子（那覇市歴史博物館主幹）、真栄平房昭（神戸女学院大学教授）、上江洲安亨（首里城公園管理センター主査）、渡辺美季（東京大学研究員）

日 時：2008年12月6日（土）14:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂、博物館講座室、美術館講座室、博物館実習室
内 容：博物館開館一周年記念展『甦る琉球王国の輝き』の関連イベントとして、高良氏を司会に5名の研究者のそれぞれの立場から、琉球と中国の関係史を中心にシンポジウムを行った。
受講者：525名

○第380回「銀が繋ぐ二つの世界遺産—琉球と石見—」

講 師：仲野義文（石見銀山資料館館長）、真栄平房昭（神戸女学院大学教授）
日 時：2009年1月17日（土）14:00～16:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
内 容：企画展『掘り出された日本列島2008』の関連イベントとして、琉球王国時代に世界の流通の中心を担っていた貨幣としての「銀」を主題に、産出した石見と交流の拠点となった琉球の状況について座談会を行った。
受講者：100名

○第381回「沖縄考古学の現状」

講 師：島袋洋（沖縄県教育庁文化課記念物班長）
日 時：2009年1月24日（土）14:00～16:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
内 容：企画展『掘り出された日本列島2008』の関連イベントとして、沖縄の考古学の現状を発掘方法や考古遺物の大切さを一般の方々へ伝えるための取り組みなどにも触れながら解説した。
受講者：50名

○第382回「沖縄と奄美の文化を語る」

講 師：津波高志（琉球大学教授）
日 時：2009年2月21日（土）14:00～16:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
内 容：沖縄と奄美の文化における最新の研究成果について、10年以上の現地調査を基に文献資料や画像を使って沖縄と奄美の間に存在する「墓制」の差異、「行政命令」、「業者の介入」などを手がかり解説した。
受講者：80名

○第383回「ベルリン博物館所蔵の沖縄の染織」

講 師：祝嶺恭子（沖縄県立芸術大学名誉教授）
日 時：2009年3月28日（土）14:00～16:00
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
内 容：ベルリン博物館が所蔵する沖縄の染織資料の調査を基に、そこから見えてくる王国時代の染織品について解説した。
受講者：115名



参加者のようす



講座のようす

5. 学芸員講座

「学芸員講座」は、2008年度から始まった新規事業である。旧館時代には博物館文化講座の中で学芸員の行う講座も実施していたが、新館移転を機に新設し、博物館文化講座と分けて実施することとした。

(赤嶺 敏)

○第1回「首里城発掘」

講師：羽方誠（考古）

日時：2008年4月27日（土）14:00～16:00

場所：博物館講座室

内容：沖縄県立埋蔵文化財センター在任中に担当した首里城発掘について、写真を活用し解説した。

受講者：27名

○第2回「博物館展示資料から歴史を探る－歴史分野を中心として－」

講師：稲福恭子（歴史）

日時：2008年6月7日（土）14:00～16:00

場所：博物館講座室

内容：博物館新館に至るまでの資料調査から、古い地図とのろし（火立）を中心に二部構成で解説した。

受講者：34名

○第3回「地球の履歴書」

講師：知念幸子（自然史・地学）

日時：2008年10月4日（土）14:00～16:00

場所：博物館講座室

内容：太陽や地球の誕生について、時系列順にその過程をなぞりながら紹介した。

受講者：32名

○第4回「琉球をとりまく絵画の世界」

講師：平川信幸（美術工芸）

日時：2008年12月6日（土）14:00～16:00

場所：博物館講座室

内容：「琉球絵画」という分野の定義について解説し、古琉球期、近世琉球期、王国末期それぞれに活動した絵師を中心に今に残された絵画を紹介した。

受講者：44名

○第5回「武芸洞の6000年－沖縄の人類史を掘る－」

講師：山崎真治（人類）

日時：2009年2月7日（土）14:00～16:00

場所：博物館講座室

内容：2007年度と2008年度に実施した武芸洞調査で出土した遺物や人骨について、これまで報告されている遺跡と比較しながら解説した。

受講者：30名

6. 展示解説会

「展示解説会」は、2007年の新館開館を機に始めた事業である。2008年度は学芸員による常設展示解説会（22回）と特別展・企画展示解説会（10回）を行った。いずれも、展示室での解説の声の届く範囲、見学会に関してはスムーズに移動が出来る人数として定員を15名としている。毎回各学芸員から熱のこもった丁寧な解説があり、参加者も興味深げに話を聴きながら展示資料を観てメモを取っていた。実際に新館展示に携わった学芸員だからこそ話す事の出来る裏話などもあり、大変有意義な解説会を行う事が出来た。解説中に途中

から加わる観覧者もあり、終わる頃には多少人数が増えている時もあった。総参加人数は530名であった。

(赤嶺 敏)

常設展示解説会

分野	月 日	担当学芸員	参加人数(回数)
考古(考古部門展示室)	2008/4/5,8/10,11/9,2009/2/22	羽方 誠	40名(4回)
自然史(自然史部門展示室)	2008/4/13,7/27,10/26,2009/2/8	田中聡・知念幸子	73名(4回)
歴史(歴史部門展示室)	2008/5/11,8/24,11/23,2009/3/8	崎原恭子	75名(4回)
民俗(民俗部門展示室)	2008/5/25,9/14,12/14,2009/3/22	岸本 敬	54名(4回)
美術工芸(美術工芸部門展示室)	2008/6/8,9/28,2009/1/25	平川信幸	54名(3回)
人 類(人類展示)	2008/6/22,10/12,2009/1/10	藤田祐樹・山崎真治	33名(3回)
		合 計	329名(22回)

特別展・企画展示解説会

展覧会名	月 日	担当学芸員	参加人数(回数)
「平成19年度新収蔵品展」	2008/ 5/24	全学芸員	73名(4回)
「恐竜ミュージアム2008」	2008/ 7/27	知念 幸子	65名(3回)
「厨子薙の世界」	2008/ 9/27	岸本 敬	9名(1回)
「甦る琉球王国の輝き」	2008/11/22	平川 信幸	37名(1回)
「発掘された日本列島2008」 「沖縄考古学ニュース」	2009/ 1/24	羽方 誠	17名(1回)
		合 計	201名(10回)

7. バックヤードツアー

バックヤードツアーは、来館者への博物館案内を兼ねて2007年の新館開館を機に始めた事業である。学芸員研究室をはじめ、トラックヤード、収蔵庫、機械室など、普段の博物館見学では見ることの出来ない部屋を巡っている。このツアーで博物館の裏の仕事垣間見ること、展示だけではない博物館の役割を参加者は理解出来たと思われる。11回開催し、総参加人数は126名であった。

(赤嶺 敏)



バックヤードツアーのようす1



バックヤードツアーのようす2

8. 夏休み子ども相談週間

「夏休み子ども相談週間」は2008年度から始まった新規事業である。夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、当館学芸員から可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高めることを目的にしている。この事業を行うにあたり学校を中心に広報を行ったが、新規ということでは十分には認知されず、相談希望者の少ない分野もあった。次年度からは、博物館情報センターとの連携をより緊密にしながら、発展させた内容を企画する予定である。延べ参加人数は23名であった。

(赤嶺 敏)

9. 博物館ボランティア活動

当館では、多様化する来館者のニーズに対してよりきめ細かなサービスを行うことと、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を目的として「博物館ボランティア」を導入している。ボランティア希望者は「ボランティア養成講座」の受講後に登録をし、特に支援が必要となる学校団体の受入れ、体験学習教室やふれあい体験室での来館者対応等を行っている。2008年度からは旧館時代に開催していた「ボランティア専門講座」も復活させ、「ふれあい体験室」「展示解説」「『博物館学習ノート』解説」を行い、さらに幅広く深い活動が出来るよう研鑽した。

博物館ボランティア員は、去年度からの継続と新規を含めて132名という規模へと発展している。継続ボランティアは71名で、2008年5月9日に認証状交付式を行った。新規ボランティアは5月から8月にかけて開催した養成講座と現場実習の修了後、9月の新規ボランティア認証式で61名が登録した。

2008年度は、上記の活動に加えて、特別展『甦る琉球王国の輝き』にて来館者向けに展示解説も行った。

当館の博物館ボランティアは、新館への移転に伴い旧館とは大きく違う体制（博物館友の会のボランティア部や指定管理者（文化の杜共同企業体）との関係など）の基に行っている。現在は、ボランティア活動をどのように計画・実施するか試行錯誤を繰り返している状況である。本年度の総活動人数は約1,400人だった。

(赤嶺 敏)

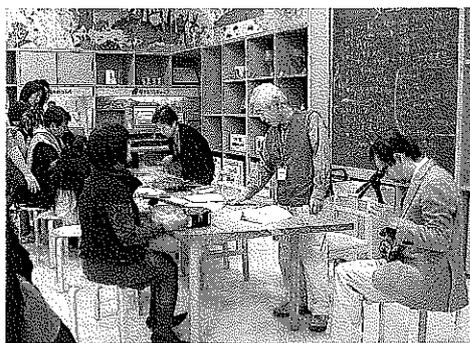
10. ふれあい体験室

ふれあい体験室は、新館建設の柱の1つとして設置された施設である。博物館常設展入り口に位置するこの体験室では、感覚を働かせた「ふれあう」体験を通して、総合展示室や部門展示室の資料に興味・関心をもってもらう窓口となっている。このような体験室を常設展示の1つとして設置したのは県内では初めてである。

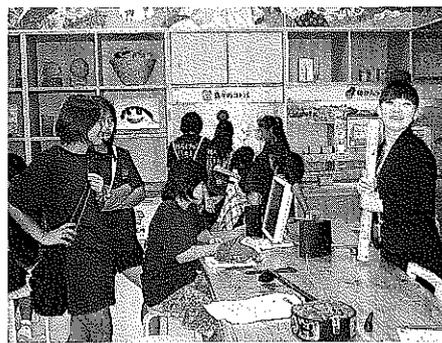
体験室には、体験キットと呼ばれる道具が27種類準備されている。これらは体験室のテーマである「自然のしくみ」や「先人の知恵」を知る目的を達成するための組み立てや作業を行う道具のことである。博物館のそれぞれの分野の展示資料と補完関係になるようにも意図されている。

2008年度は、博物館友の会から交流員として渡部貴子さんが配属され、博物館ボランティアとともにふれあい体験室の運営の大きな足がかりが築かれた。次年度はさらに博物館のふれあいの拠点として運営体制の安定した枠組みを作りあげて行く必要がある。

(赤嶺 敏)



ふれあい体験室のようす1

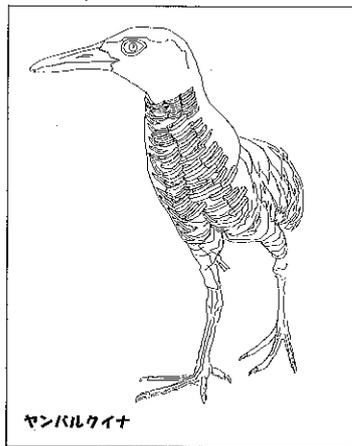


ふれあい体験室のようす2

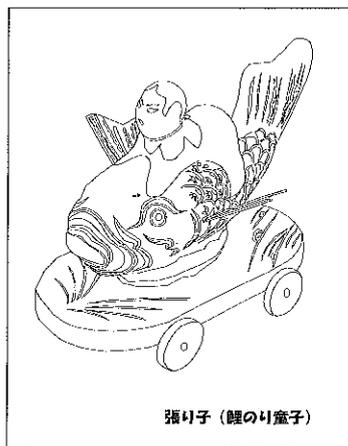
11. フリーパス

当館では新館開館を機に「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」を作成した。このパスを持参すると県内小中学生の博物館常設展観覧は無料となる。印刷・作成は見本を基に各小中学校にて行い、校長印を押印することで正式発行としている。表面には沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄や自らデザインした図柄、裏面には来館した際にスタンプを押せるマス目を印刷している。このフリーパスは、さまざまな場で紹介をしているが、学校関係や県民の方々への周知がまだまだ徹底されていないので、今後もアピールしていく必要がある。

(赤嶺 敏)



パスカード1 (表)



パスカード2 (表)

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 沖繩 博 学校名 沖美小学校 校長印

学年					
				10	10月
				20	20日
				30	30日
発行日					

パスカード3 (裏)

1 2. 職場研修受入

当館では学校や教育関係の団体を対象とした職場研修を行っている。研修の内容は、学校団体見学での学習に役立てられるということで「博物館を利用して学ぶこと」「学習プログラムの組み立て方」「学習プログラムの流れ」などの研修を行った。また、フリーパスやIPMなど当館が取り組んでいることについても研修を行った。

(赤嶺 敏)

実施学校・団体等

種 類	団 体 名	日 時
学 校 職 員 研 修	西原町立西原東小学校	2008/ 7 /25 9:30~12:00
	浦添市立港川中学校	2008/ 7 /30 14:00~16:00
	八重瀬町立具志頭中学校	2008/ 7 /31 15:00~16:00
	那覇市立真地小学校	2008/ 8 /22 10:00~16:00
	与那原町立与那原中学校	2008/ 8 /28 14:00~16:30
校 長 ・ 教 頭 研 修	名護市小中校長会	2008/ 8 /13 10:00~10:30
	那覇地区公立小中学校長会	2008/11/20 9:30~10:00
教 育 関 係 機 関	那覇市教育研究所	2008/ 8 / 7 13:30~
	那覇市教育研究所	2008/12/ 5 14:00~16:00
研 究 会	那覇地区社会科研究科	2008/ 8 / 5 10:00~11:00
	沖縄県高等学校地理歴史研究会	2008/ 8 /19 14:50~

1 3. 職場体験受入

当館では、学校現場からの要請により2003年度から学校が計画する就業体験学習を受け入れている。2006、2007年度は新館移転のため受け入れを中断したが、開館に伴い受け入れ態勢が整ったことから2008年度より再び受け入れている。内容や実施期間等については学校からの希望と博物館の状況を調整し行っているが、場合によっては博物館の指定管理者である文化の杜共同企業体にて就業体験を実施することもある。

(赤嶺 敏)

実施校

学 校 名	人 数	期 間	内 容
沖縄県立ろう学校	1名	2008/ 8 /18~20	教育普及事業、資料整理、案内コーナー補助、ショップ補助など
沖縄県立浦添工業高校	1名	2008/ 8 /18~20	教育普及事業、資料整理など
那覇市立鏡原中学校	2名	2008/ 9 / 9~11	教育普及事業、資料整理、案内コーナー補助など

1.4. 普及資料の貸出

2008年度は「豆腐づくり道具」や「黒糖づくり道具」の貸出があった。

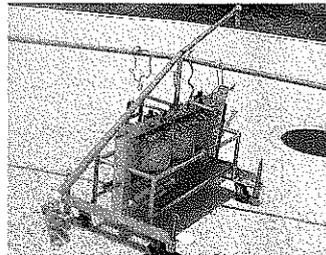
(赤嶺 敏)

貸出一覧

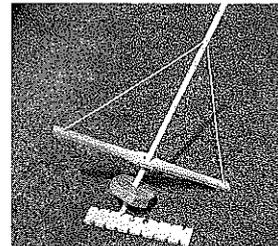
団体名	事業名	貸出期間	貸出資料
沖縄市立高原小学校	とうふを作ろう	2008/11/14~20	豆腐づくり用具(石臼・アジマー・タライ)
県立糸満青年の家	ふるさとの産業体験	2009/ 1/22~27	砂糖きび絞り機・シンメ鍋・攪拌棒 他
那覇市立古蔵小学校	黒糖づくり	2009/ 3/ 6~13	砂糖きび絞り機・シンメ鍋・攪拌棒 他



石臼・アジマー・桶



砂糖きび絞り機



火起こし器

IV. 資料収集・保存管理

1. 収蔵資料現在高

2009年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計	
自然史	地質物	611	26,474	3,048	1	30,134	55,842
	動物	1,505	18,629	512	141	20,787	
	植物	202	4,716	0	0	4,918	
	菌類	3	0	0	0	3	
人類	40	19	6	0	65	65	
美術工芸	絵画	96	548	2	4	650	9,935
	書跡	180	447	49	6	682	
	彫刻	6	115	136	7	264	
	陶磁器	431	3,341	465	538	4,775	
	漆器	231	229	195	19	674	
	染織 その他	1,097 13	1,701 1	51 0	27 0	2,876 14	
歴史	2,837	8,109	342	126	11,414	11,414	
考古	296	3,548	2,821	0	6,665	6,665	
民俗	614	4,244	1,072	137	6,067	6,067	
総計	8,162	72,121	8,699	1,006	89,988	89,988	

2. 2008年度(平成20)新収蔵資料高

2008年4月1日~2009年3月31日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計	
自然史	地質物	0	812	0	0	812	860
	動物	0	47	1	0	48	
	植物	0	0	0	0	0	
	菌類	0	0	0	0	0	
人類	0	0	0	0	0	0	
美術工芸	絵画	3	0	0	0	3	34
	書跡	0	18	0	0	18	
	彫刻	0	0	0	0	0	
	陶磁器	0	2	0	0	2	
	漆器	0	0	0	0	0	
	染織 その他	0 0	11 0	0 0	0 0	11 0	
歴史	11	540	4	0	555	555	
考古	0	0	0	0	0	0	
民俗	0	10	0	0	10	10	
総計	14	1,440	5	0	1,459	1,459	

3. 2008年度(平成20)新収蔵資料目録

【購入】

2008年4月1日～2009年3月31日

分類	品名	数量	資料提供・購入先	
美術工芸 絵画	木村探元図 程順則賛「維揚遇雪の図」	1	中国北京第一歴史档案馆	中国
	「琉球国全図」(レプリカ)	1	〃	〃
	「琉球国都図」(レプリカ)	1	〃	〃
歴史	琉球泡盛ポスター	1		
	昭和初期のアルバム	1		
	寄せ書きのある日の丸	1		
	Aサイン証	2		
	ジュースの広告(ペプシコーラ、バヤリース)	3		
	總管内務府奏報査収琉球國貢物繕單呈覽事片目録 乾隆五十八年十二月初九日(複製)	1	中国北京第一歴史档案馆	中国
總管内務府大臣奕訥等奏為琉球國貢使毋庸來京加賞衣帽等照例由閩浙總督辦妥頒給事摺同治二年正月十八日(複製)	1	〃	〃	
總管内務府大臣奏報廣儲司査収琉球國進到貢物繕單呈覽事摺(附清單二) 同治三年十二月二十六日(複製)	1	〃	〃	

【寄贈】

2008年4月1日～2009年3月31日

分類	品名	数量	寄贈者	
地質	魚化石(鱗)	1	宮城宏之	沖縄市
	貝化石	807	宮城 勉	那覇市
	琉球石灰岩パネル(大)(中)	2	下地 靖	宮古島市
	琉球石灰岩パネル(小1)(小2)	2	〃	〃
自然史 動物	エゾシカ(♀)本剥製標本	1	佐和田 進	那覇市
	エゾシカ(♂)本剥製標本	1	〃	〃
	タイリクオオカミ本剥製標本	1	〃	〃
	カンムリワシ本剥製標本	1	〃	〃
	オオタカ本剥製標本	1	〃	〃
	イヌワシ本剥製標本	1	〃	〃
	ノスリ本剥製標本	1	〃	〃
	シロガシラトビ本剥製標本	1	〃	〃
	サシバ本剥製標本	1	〃	〃
	ツミ本剥製標本	1	〃	〃
	カタビロトビ本剥製標本	1	〃	〃
	チゴハヤブサ(ペア)本剥製標本	2	〃	〃
	オオフウチョウ(♂)本剥製標本	2	〃	〃
	アカショウビン(ペア)本剥製標本	2	〃	〃
	ヤマシギ本剥製標本	1	〃	〃
	アカヒゲ本剥製標本	1	〃	〃
	ダチョウ(ヒナ)本剥製標本	1	〃	〃
	ショウジョウインコ(ペア)本剥製標本	2	〃	〃
	マガモ(ペア)本剥製標本	2	〃	〃
	オシドリ(ペア)本剥製標本	4	〃	〃
	キメラ標本(コウライキジ・インドクジャク)	1	〃	〃
	ギンケイ本剥製標本	1	〃	〃
	サケイ(♂)本剥製標本	1	〃	〃
	ヤマウズラ(ペア)本剥製標本	2	〃	〃
	ヤマドリ(♂)本剥製標本	2	〃	〃
	ヤマドリ(ペア)本剥製標本	2	〃	〃
	ニホンキジ(ペア)本剥製標本	2	〃	〃
ベンガルオオトカゲ本剥製標本	2	〃	〃	
ミンダナオオオトカゲ本剥製標本	1	〃	〃	
オオトカゲ属の一種本剥製標本	1	〃	〃	
アカガシラサギ本剥製標本	1	ながみね動物クリニック	うるま市	
イソヒヨドリ(♂)本剥製標本	1	〃	〃	
オオヨシゴイ本剥製標本	1	〃	〃	
オナガミズナギドリ本剥製標本	1	〃	〃	

歴 史	特急「なは」・行先字幕	1	九州旅客鉄道株式会社沖縄支店(支店長 西英利)	那 覇 市
	特急「なは」・愛称表示器(字幕)	1	〃	〃
	特急「なは」・号車表示札	4	〃	〃
	特急「なは」・席番表示札	2	〃	〃
	特急「なは」・デュエットカバー	2	〃	〃
	特急「なは」・列車運行図表(ダイヤ)	1	〃	〃
	特急「なは」・運転手用時刻表	1	〃	〃
	特急「なは」・時刻表(一般用)	2	〃	〃
	特急「なは」・『だより』JR Kyusyu Communication Magazine	2	〃	〃
	カルテックスの看板	1	株式会社りゅうせき(代表取締役 金城克也)	浦 添 市
	交通方法変更案内の道路標識カバー	3	西平弘史	那 覇 市
	B型軍票(B10 銭、B1 円、B5 円、B10 円、B20 円)	5	崎浜尚子	〃
	1ドル紙幣(復帰前)	3	〃	〃
	passport(明治45年発行)	1	新垣 實	ハ ワ イ
	修業証書	1	〃	〃
	聖火トーチ(若夏国体用の予備)	1	比嘉敏雄	名 護 市
	若夏国体の手ぬぐい	3	〃	〃
	若夏国体に関連する書籍	3	〃	〃
	若夏国体の指定宿舎サイン	1	〃	〃
	730 特別通行(駐車)許可証	1	島袋 繁	豊見城市
	写真料金表(1972年5月15日)	1	仲間謙次	那 覇 市
	『〈車は左、人は右〉安全な通行方法の手引き』	1	山川元道	〃
	若夏国体大会記念章	1	〃	〃
	海邦国体関係資料(名札)	1	〃	〃
	かりゆし大会ワッペン	1	〃	〃
	第23回身体障害者スポーツ大会参加章・記念章	1	〃	〃
	第43回国民体育大会記念章	1	〃	〃
	『JAPANESE PHRASE BOOK』(日本語慣用句集)	1	〃	〃
	旧日本円(10 銭、50 銭)	4	仲間孝子	金 武 町
	戦前・貯金箱の貨幣一括	19	永山千代	浦 添 市
	B型軍票(50 銭、10 銭)	3	〃	〃
	旧日本円(10 円)	1	〃	〃
	電信為替払出通知票(リオデジャネイロ支店より)	3	〃	〃
	軍刀	1	古謝千恵子	沖 縄 市
	勲五等瑞宝章	1	〃	〃
	勲八等白色桐葉章	1	〃	〃
	戦前のアルバム(米次漆器店旧蔵)	1	野々村孝男	那 覇 市
	琉球人相伝伽蘭鳳(菓の包み紙)	1	〃	〃
	商標ラベル	1	〃	〃
	「漆工芸展示即売会」リーフレット	1	〃	〃
	「沖縄県物産案内」	1	〃	〃
	琉球名産漆器価額表	1	〃	〃
	「美術漆器製造販売」カタログ	1	〃	〃
	石嶽御間屋山邊商会沖縄支店	1	〃	〃
	中村家住宅修理記(拓本)	2	崎間麗進	那 覇 市
	園比屋武御嶽修理記(拓本)	1	〃	〃
	八重山権現堂修理記(拓本)	1	〃	〃
	銘苺家住宅修理記(拓本)	1	〃	〃
	座喜味城跡城壁修理年度記銘銅板(拓本)	19	〃	〃
	八重山権現堂木彫(拓本)	7	〃	〃
照喜名家墓碑(拓本)	1	〃	〃	
当山久三銅像銘(拓本)	1	〃	〃	
島袋源一郎墓碑(拓本)	1	〃	〃	
島袋源一郎先生顕彰会建立碑(拓本)	1	〃	〃	
安仁屋家墓碑(拓本)	1	〃	〃	
照太寺鱈口(拓本)	2	〃	〃	
金剛尊経碑(表裏)(拓本)	2	〃	〃	
喜瀬家墓碑(表裏)(拓本)	2	〃	〃	
宝口樋川碑記(復元)(側面)(拓本)	1	〃	〃	

宝口樋川碑記（復元前）（表裏）（拓本）	2	崎間麗准	那 覇 市
ウィリアム・ボード墓碑（拓本）	1	〃	〃
中国人墓碑（泊外人墓地内）（拓本）	6	〃	〃
観音堂経塚碑（表裏）（拓本）	1	〃	〃
麻氏先代祖墓碑（拓本）	1	〃	〃
大城のろくもい先元祖（表裏）（拓本）	2	〃	〃
伊江殿内庭園刻字（漱石山房）（拓本）	4	〃	〃
伊江殿内刻字（拓本）	4	〃	〃
園比屋武御嶽の棟飾（拓本）	4	〃	〃
扁額「普濟」（拓本）	2	〃	〃
島袋家墓碑（拓本）	2	〃	〃
石碑拓本	1	〃	〃
森川主の歌碑（拓本）	1	〃	〃
真謝原甘藷の歌碑（拓本）	2	〃	〃
尚巴志王墓碑（読谷）（拓本）	2	〃	〃
尚巴志王遺跡（表裏）（佐敷）（拓本）	2	〃	〃
御神託拝聞記念碑（拓本）	1	〃	〃
産業界之恩人野国総官之墓碑（拓本）	1	〃	〃
大北墓碑（表裏）（拓本）	2	〃	〃
一翁寧公之碑（側面）（拓本）	1	〃	〃
普天間松嶺碑（南沖繩八景）（拓本）	2	〃	〃
羽地朝秀墓碑（表裏）（拓本）	3	〃	〃
扁額「住吉神社」（拓本）	1	〃	〃
住吉神社並垣花各拝所復興記念碑（表裏）（拓本）	2	〃	〃
畜産奨励碑（拓本）	1	〃	〃
伊波南哲詩碑（拓本）	1	〃	〃
宮良高夫詩碑（拓本）	1	〃	〃
石川正道歌碑（拓本）	1	〃	〃
歌碑（川平湾）（拓本）	1	〃	〃
中山孔子廟碑記（復元前）（表裏）（拓本）	2	〃	〃
中山孔子廟碑記（復元）（表裏）（拓本）	2	〃	〃
與那覇勢頭豊見親逗留旧蹟碑（表）（拓本）	1	〃	〃
淵上房太郎歌碑（拓本）	1	〃	〃
井伊文子歌碑（拓本）	1	〃	〃
産業恩人記念碑（拓本）	1	〃	〃
摩文仁御殿石棺銘（拓本）	1	〃	〃
本土復帰記念の碑（拓本）	1	〃	〃
厨子鑿銘（拓本）	1	〃	〃
伊波普猷頭彰碑（拓本）	1	〃	〃
霊脈流芬（残欠）（拓本）	2	〃	〃
水道開通記念碑（表裏）（拓本）	2	〃	〃
県道開通記念碑（表裏）（拓本）	2	〃	〃
毛国鼎護佐丸之墓（表裏）（拓本）	2	〃	〃
宜湾朝保墓碑（拓本）	2	〃	〃
汗水節の碑（拓本）	3	〃	〃
勸耕台碑（拓本）	1	〃	〃
辺野喜節の碑（拓本）	1	〃	〃
赤犬子の琉歌碑（読谷村楚辺）（表裏）（拓本）	2	〃	〃
赤犬子の琉歌碑（表）（拓本）	1	〃	〃
建設碑（赤犬子の琉歌碑）（拓本）	2	〃	〃
恩納ナビー琉歌碑（拓本）	1	〃	〃
与那節の碑（拓本）	1	〃	〃
甘醴延齡碑（拓本）	1	〃	〃
謝敷節の碑（拓本）	1	〃	〃
鰐口銘（拓本）	1	〃	〃
灯笼銘（糸数城跡入口）（拓本）	8	〃	〃
扁額「寿」（拓本）	1	〃	〃
波平筑登之親雲上瓦墓碑（表裏）（拓本）	2	〃	〃
浦添ようどれ内石棺残欠銘（拓本）	7	〃	〃

墓証文の一部 (拓本)	2	崎間麗進	那 覇 市
尚貞王継碑 (拓本)	1	〃	〃
西森碑記 (拓本)	1	〃	〃
首里城日時計 (拓本)	1	〃	〃
仲地麗仲墓碑 (表裏) (拓本)	4	〃	〃
石応大和尚墓碑 (拓本)	1	〃	〃
仲之川碑 (復元前) (表) (拓本)	1	〃	〃
金氏之墓 先祖之五百年記念碑 (拓本)	1	〃	〃
池城墓碑 (表裏) (拓本)	2	〃	〃
育徳泉碑 (拓本)	1	〃	〃
七日浜の碑 (拓本)	1	〃	〃
ペリーの琉米友好碑 (英文) (拓本)	2	〃	〃
大安禅寺鐘の解説版 (銅製) (拓本)	1	〃	〃
梵字碑 (末吉宮) (拓本)	2	〃	〃
香炉銘 (拓本)	2	〃	〃
琉球人墓碑 (源河親雲上) (拓本)	1	〃	〃
宮城橋碑 (拓本)	1	〃	〃
石像銘 (拓本)	1	〃	〃
園比屋武御嶽の英語説明版 (銅製) (拓本)	1	〃	〃
泊外人墓地内墓碑 (ジョン・ミラー 他) (拓本)	5	〃	〃
銅板銘 (表裏) (拓本)	2	〃	〃
石像銘 (拓本)	1	〃	〃
龍翔寺鐘銘と説明版 (拓本)	4	〃	〃
馬氏墓碑 (拓本)	1	〃	〃
扁額「天授山」(拓本)	1	〃	〃
玉城朝薫二百年祭記念碑 (拓本)	1	〃	〃
ペルリ提督の琉米友好の碑	1	〃	〃
能久親王御寄港之碑 (表裏) (拓本)	2	〃	〃
墓譲り渡し状碑 (拓本)	1	〃	〃
墓証文 (表裏) (拓本)	2	〃	〃
墓碑 (拓本)	1	〃	〃
灯籠銘 (浦添市内) (拓本)	1	〃	〃
石碑銘 (拓本)	3	〃	〃
墓譲り渡し状 (表裏) (拓本)	2	〃	〃
石碑銘 (沖繩市内) (拓本)	1	〃	〃
厨子甕銘 (拓本)	1	〃	〃
扁額拓本 (平安座島) (拓本)	1	〃	〃
梵字碑 (北中城村渡口) (拓本)	1	〃	〃
吉田賀盛歌碑 (拓本)	1	〃	〃
石碑銘 (表裏) (那覇市首里金城町) (拓本)	2	〃	〃
仲間満慶記念碑 (拓本)	1	〃	〃
欄間 (拓本)	1	〃	〃
護佐丸祖先墓碑 (裏) 一部 (拓本)	1	〃	〃
神谷仁屋瓦墓碑 (拓本)	1	〃	〃
とらい節の歌碑 (拓本)	1	〃	〃
西原栄正歌碑 (拓本)	2	〃	〃
歌碑 (デイゴ) (拓本)	1	〃	〃
麻氏家紋 (拓本)	1	〃	〃
石棺残欠銘 (玉陵) (拓本)	6	〃	〃
墓証文 (陶製) (拓本)	1	〃	〃
陽谷靈源碑 (拓本)	1	〃	〃
彫刻 (拓本)	1	〃	〃
嘉善氏碑 (拓本)	1	〃	〃
扁額「慈眼視衆生」(拓本)	1	〃	〃
ハル石 (拓本)	24	〃	〃
梵字碑 (北中城村島袋) (拓本)	2	〃	〃
扁額「元勲堂」(拓本)	1	〃	〃
扁額「忠勲琉芳」(拓本)	1	〃	〃
扁額「忠導堂」(拓本)	1	〃	〃

歴 史

扁額「世捧貢」(拓本)	1	崎間麗進	那 覇 市
扁額「おゑかのし」(拓本)	1	〃	〃
扁額「太平山」(拓本)	1	〃	〃
聯「山花開似錦」(拓本)	1	〃	〃
西原栄正歌碑(拓本)	1	〃	〃
扁額「世徳重光」(拓本)	1	〃	〃
伊計島の碑(拓本)	1	〃	〃
方位石(拓本)	1	〃	〃
平敷屋朝敏歌碑(拓本)	1	〃	〃
ボーイスカウトのダッチオープンとフライパン	2	横目幸子	那 覇 市
引揚者の申立書(台湾より)	2	〃	〃
ドル紙幣(1ドル、10ドル、20ドル)(復帰前)	3	〃	〃
通告帳	8	〃	〃
賞状	26	〃	〃
卒業証書	7	〃	〃
農士証	1	〃	〃
認可書	1	〃	〃
表彰状	1	〃	〃
感謝状	5	〃	〃
修了証書	1	〃	〃
修業証書	2	〃	〃
写真(横目家の家族)	1	〃	〃
写真(台湾での葬式の様子)	1	〃	〃
大浜村消防団関係写真(戦後)	31	〃	〃
写真(大浜公民館落成記念)	1	〃	〃
大浜村関係写真(戦前)	6	〃	〃
満州関係写真(戦前)	59	〃	〃
参拝記念写真(戦後)	2	〃	〃
履歴書	1	〃	〃
辞令書	4	〃	〃
委嘱状	1	〃	〃
支那事変記念の徳利	2	〃	〃
記章	6	〃	〃
支那事変従軍記章	1	〃	〃
勲八等瑞宝章	1	〃	〃
奉公袋	1	〃	〃
許可書	1	〃	〃
軍事郵便	1	〃	〃

美術工芸

陶磁器	朱泥呉須絵瓶子	2	仲宗根繁	本 部 町
染 織	苧麻紺地鶴亀蝶松梅模様藍型	1	仲間孝子	金 武 町
	苧麻灰色地綾中着物	1	東恩納道子	那 覇 市
	灰色地手嶋着物	1	〃	〃
	木綿紺地市松模様着物	1	〃	〃
	木綿紺地経緯縞着物	1	〃	〃
	芭蕉素地格子模様着物	1	〃	〃
	絹灰色地縦縞着物	1	〃	〃
	絹木綿素地縞	1	〃	〃
	素地浅地縞織縞着物	1	〃	〃
	蘇枋染格子に縞着物	1	渡部淳子	京 都 府
書 跡	苧麻紺地蚊縞模様コート(宮古上布)	1	永田昌子	奈 良 県
	おもろ書展	1	漢那用全	那 覇 市
	おもろそうし全文	1	〃	〃
	鳴響む精高子	1	〃	〃
	火のおもろ	1	〃	〃
	水のおもろ	1	〃	〃
	風のおもろ	1	〃	〃
	地のおもろ	1	〃	〃
	恋のおもろ	1	〃	〃
	産玉	1	〃	〃

美術工芸書跡	見龍	1	漢那用全	那覇市
	龍騰雲起	1	〃	〃
	虎嘯風生	1	〃	〃
	八木重吉の詩	1	〃	〃
	心	1	〃	〃
	因是	1	〃	〃
	いろは歌と『大般涅槃経』	1	〃	〃
	漢那用全様	1	〃	〃
	子書簡	1	〃	〃
民俗	箏箏	1	眞榮城裕	那覇市
	マンガン掛け庇付き厨子甕	1	池城安佑	那覇市
	電気炊飯器 (SANYO)	1	宮城春子	那覇市
	掛け軸 (関帝)	1	〃	〃
	ケー (筒)	2	東恩納道子	那覇市
	道具箱 (大)	1	〃	〃
	道具箱 (小)	1	〃	〃
	お茶入れの箱	1	〃	〃
	柳行李	1	宮良作	那覇市

【収集】

2008年4月1日～2009年3月31日

分類	品名	数量	収集先
自然史 動物	ジャコウネズミ本剥製標本	1	八重山郡新城
歴史	『写真集 沖縄』(第1回世界のウチナンチュ大会配付)	1	沖縄県大阪事務所
	沖縄県旗と海邦国体大会旗	2	〃
	沖縄県知事への海外からの贈答品	1	沖縄県観光商工部交流推進課

4. 所蔵指定文化財

【国指定文化財（重要文化財）】

2009年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
"	混効験集	2冊	"	"	"
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	"	"
"	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	"	"	"	"
"	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	"	"	"	"
"	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）	"	"	"	"
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	"	"

【県指定文化財（有形文化財）】

2009年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1軀1枚	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県
"	世持橋勾欄羽目	1括	"	"	"
"	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	"	"
絵画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	"	"
"	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	"	"	"	"
"	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	"	昭57. 3. 4	"	"
"	紙本着色奉使琉球図（朱雀半筆）	1巻	"	"	"
"	紙本着色冊封使行列図	"	平15. 7. 11	"	"
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	"	"
"	閩得大君御殿雲龍黄金簪	1本	"	"	"
"	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	"	"	"
"	黒塗堆錦山水絵大文庫	"	"	"	"
"	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	"	"	"
"	枝梅竹文赤絵椀	"	昭54. 9. 3	"	"
"	線彫染付魚文皿	"	"	"	"
"	色象嵌粟絵菊花皿	"	"	"	"
"	象嵌色差面取砲瓶	"	"	"	"
"	梵鐘（旧霊心寺鐘）	"	昭60. 6. 18	"	"
"	梵鐘（旧普門禪寺鐘）	"	"	"	"
"	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	"	"	"	"
"	銅鐘（旧天尊殿鐘）	"	"	"	"
"	銅鐘（旧天妃宮鐘）	"	"	"	"
"	銅鐘（旧一品権現鐘）	"	"	"	"
"	梵鐘（旧大安禪寺鐘）	"	昭63. 1. 12	"	"
"	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平 2. 2. 6	"	"
"	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	"	"	"
"	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	"	"	"
"	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	"	"	"	"
"	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	"	"	"
"	梵鐘（旧永福寺鐘）	1口	"	"	"
"	三線盛鳴開鐘附胴	1丁	平 6. 3. 15	"	"
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	"	"
"	評定所格護定本 中山世譜	19冊	"	"	"
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	"	"
"	扁額「徳高」 鄭元偉書	1面	平元 9. 29	"	"
"	扁額「凌雲」 林麟焄書	1面	"	"	"
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	"	"
"	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	"	"
"	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	"	"
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上官朝鮮鐘）	1口	昭60. 6. 18	"	"
"	安国山樹花木記碑	1基	平元 9. 29	"	"

5. 修理事業

博物館資料は貴重な資料であり、その多くは同じ物を二度と収集することができないものばかりである。収集した資料を当館では温湿度管理し万全の処置を講じているが、中には不幸にも収集した時点での破損、長時間の経過に耐えられず劣化したものもある。本事業はこうした資料の状態を改善し、永く県民の重要な財産として継承し、将来的に展示の質の向上を図ることを目的とする。

○円覚寺関係木彫資料（住友財団助成事業）

資料名：白象座 2 軀

獅子座 1 軀

修理内容：今後の展示および保管を考慮し資料専用の台座を制作した。

修理業者：財団法人日本美術院（代表：西村杏太郎 京都府京都市下京区七条通高倉東入ル材木町 476-1）

執行額：1,260,000円（内780,000円は住友財団の助成による。）

○美術工芸資料

資料名：堆朱松下唐人花台 1 件

修理内容：クリーニングを行い、浮いた漆の押さえと剥離した漆の補完、外れた足を漆で接合した。

修理業者：目白漆芸文化財研究所（代表 室瀬和美 新宿区下落合 4-23-5）

執行額：902,400円

前年度同様、円覚寺関係の修理にあたっては住友財団の多大なる援助を頂いた。2008年度は住友財団助成事業4ヵ年計画の最終年度であった。この場を借りて深く感謝の念をここに記す。

（平川 信幸）

6. 化石資料受入事業

【事業の目的と経過】

群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長より寄贈を受けた沖縄県産化石資料（以下「長谷川コレクション」）の整理作業と、収蔵している岩石・化石資料の整理作業、また、県内各地から資料を収集し、新館展示に向けて収蔵品の充実を図る事を目的として1995年度より継続して資料整理事業が行われてきた。

特に長谷川コレクションについては、化石資料が30,000点を超える膨大な数で、現在までに20,000万点余の整理は終わっているものの、その後も追加資料が相次いだため未だ整理作業は継続中である。現在までに整理作業が終了しているものは、宮古島ピンザアブ洞穴産のノロジカ化石、ハタネズミ化石、港川フィッシャー産トリ類化石、伊江島ゴヘズ洞穴産と久米島下地原洞穴産のシカ・キョン類化石、宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石で、その内2004年度までに整理作業が終了しているものについては、その年度に中間報告として「長谷川コレクション 琉球列島産化石資料一覧」を編集・発行されている。

2008年度は、香川大学教育学部の金子之史名誉教授と川口敏氏、群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長の全面協力を得て、宮古島ピンザアブ洞穴産ミヤコムカシネズミ化石の整理・研究を行っていただくことができた。また、港川フィッシャー産イノシシ化石についての研究を群馬県立自然史博物館姉崎智子主任学芸員の協力を頂き継続研究と港川フィッシャー産小動物化石群の受け入れ準備作業をスタートさせることができた。しかし大量の標本であるため、かなりの時間を要するものと考えられる。すべてが計画通り推進できたとは言えないものの、今まで宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石であると考えられてきた標本が新種であったことが判明するなど、ある程度の成果を上げることができた。

次年度の課題としては、整理作業が終了していない部分があること、作業員数の確保などが挙げられるが、今後も予想される寄贈資料も膨大にあることから、本事業の持つ琉球列島産出の化石群を散逸させないという重要な役割について再認識するとともに、この事業の継続推進の必要性を強く感じている。

【これまでの事業の内容及び実績】

○受入資料の整理作業

収蔵資料の台帳整理
未登録資料の分類・整理作業
化石資料の分類、部位同定・修復、登録作業
岩石・鉱物資料の同定、分類
登録後の資料の計測とナンバリング

○受入準備

整理容器等の購入・発送

○受入資料

長谷川コレクション（シカ類化石を中心とする約30,000点）
ミヤコノロジカ復元骨格のレプリカ作成
下地原洞穴出土乳児人骨のレプリカ作成
港川フィッシャー産トリ化石（約1,000点）
宮古島産ほ乳類化石（約1,000点）
南北大東島産アホウドリ化石（約200点）
知念村ジープ洞シカ化石（約10,000点）
下地原洞穴産シカ類化石（約1,000点）
宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石（約1,000点）
その他県内各地の動物化石（約1,000点）

【2008年度事業実績】

- 長谷川コレクション化石資料の未整理分を整理
宮古島ピンザアブ洞穴産ミヤコムカシネズミ化石
- 長谷川コレクション受入準備
港川フィッシャー産イノシシ化石及びハブ化石

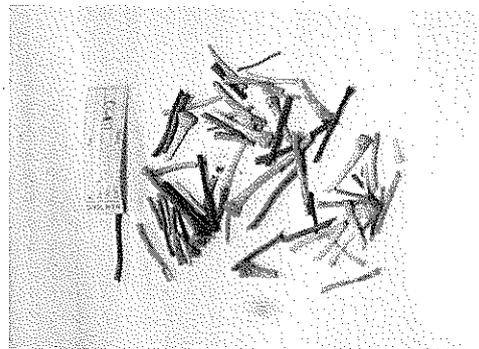
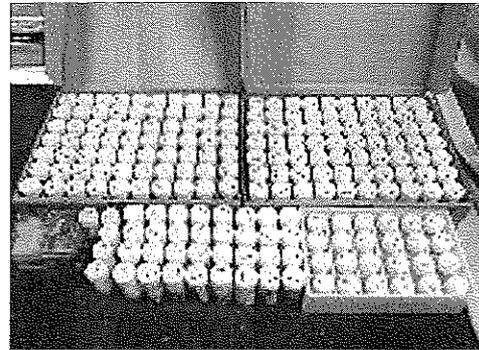


写真1（上段左）：沖縄県立博物館・美術館化石収蔵庫における長谷川コレクション収蔵状況
写真2（上段右）：受け入れ準備作業を待つ長谷川コレクション標本状況（一部）
写真3（下段左）：未作業の長谷川コレクション標本状況（一部）
写真4（下段右）：写真2・3標本ビン1本内に含まれる化石（見本例）

（知念 幸子）

7. レプリカ等製作事業

本事業は、当館常設展示室の展示および今後開催する様々な企画展・特別展に対応するため、レプリカ・剥製・模型等を製作することを目的としている。生物多様性が高く、国内では唯一県全体が亜熱帯に位置し、陸生生物相も特異な本県にとって、生物資料の充実は対外的にもきわめてニーズの高いものとなっている。野外で保護され死亡したものや死亡個体を収集・冷凍保管し、収蔵状況や企画予定の展示会に照準を合わせて製作対象の選定し、製作している。2008年度は、ジャコウネズミ、アカガシラサギ、イソヒヨドリ、オオヨシゴイ、オナガミズナギドリの本剥製5点を製作した。

(田中 聡)

8. 資料収集事業 —資料収集—

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上では、欠落している部分があるので、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び自然史的価値の高い資料を計画的に収集し、展示や研究を深め、教育文化の振興や向上に資する事業を行っている。

2008年度は、近代から現代にかけての歴史資料を購入した。内訳は、琉球泡盛のポスター1点、昭和初期の写真アルバム1点、寄せ書きのある日の丸1点、Aサイン証2点、ジュースの広告(バヤリース、ペプシコーラ)3点の合計5件8点である。

近代の資料は3件あり、そのなかの「琉球泡盛のポスター」は、明治以降、沖縄の特産品として県外に出荷されていた琉球泡盛を売り出すための広告媒体である。「昭和初期の写真アルバム」は、昭和初期に神戸から那覇を運航していた大阪商船の波上丸と沖縄に関連する写真アルバムである。「寄せ書きのある日の丸」は、第32軍司令の牛島中将や沖縄県知事の島田勲の名前、「武運長久」「必勝」の文字とともに、昭和20年3月1日に沖縄戦に参加した読谷村古堅出身者の名前が記された日の丸である。

戦後から復帰前にかけての資料は2件購入した。「Aサイン証」は、沖縄Aサイン連合会が発行したものと、許可書発行のナンバーが入ったものを購入した。「ジュースの広告」は、戦後の沖縄で大衆向けの飲料水として売り出された「ペプシコーラ」や「バヤリース」の広告である。復帰前の大衆文化を象徴する資料であるが、前年度以前の博物館において収蔵されていなかったため、収集すべき必要性を備えていた。

(崎原 恭子)



Aサイン証



ジュースの広告(バヤリース)

9. 資料収集事業 —基金—

沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料は、沖縄の歴史・文化史を語るため後世に伝えるべき資料である。中でも先の大戦で戦火を潜り抜けてきた琉球王国時代の資料は文化的価値の高いものであり、当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな

沖縄の創造を目指している。また、資料購入活動の一つである、沖縄県美術品等取得基金(以下「基金」)は貴重な琉球資料を購入し、流出させないことを目的の一つとしている。沖縄県立博物館・美術館では、沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらゆる琉球資料を、今後も基金により収集を継続し、展示会等の活動を活性化させていく。

2008年度の収集委員会は、殷元良筆「雪景山水画」と木村探元筆「人物図」の2点について開催した。「雪景山水画」は、殷元良の「雪中雉子の図」の描写と近似しているのを確認出来たがいくつかの疑問があることから殷元良筆の作品と断定するには若干の不安が残った。そのためさらに調査を行い、次年度に再度委員会に諮ることとした。「人物図」は程順則筆の賛の筆致が他の作品と類似するうえに、印章の白文方印・朱文方印及び関防印ともに他の遺品と近似していたことから、探元の真作であることが委員会で認定され2008年度の収集が決まった。

購入予定調査は、名古屋と東京で行った。名古屋では、名古屋市立博物館と徳川美術館のご教示、現地での調査経験のある壺屋焼き物博物館の倉成氏の助言を基に古美術商を中心に現地調査を行った。東京では、個人所蔵絵画の調査を行った。

- | | | | | |
|-------|-----|-----|-----------------|-----------------------|
| 2008. | 11. | 6. | 第3回沖縄県立博物館・美術館 | 博物館美術品等収集委員会開催 |
| | 12. | 10. | 第3回沖縄県立博物館・美術館 | 博物館部会資料等収集委員会の審議結果の報告 |
| 2009. | 1. | 15. | 美術品等取得計画書の策定依頼 | |
| | 2. | 26. | 備品購入(教育長決裁) | |
| | 3. | 31. | 契約業者より、収集美術品を納品 | |

(平川 信幸)

10. 資料貸出

事業名：おきなわワールド 王国歴史博物館 常設展示
 主催：おきなわワールド 王国歴史博物館
 会場：おきなわワールド 王国歴史博物館
 貸出期間：2008年4月1日～2009年3月31日
 貸出資料：自然史(地学) / ニッポンムカシジカ骨格組立標本1点

事業名：宜野座村立博物館 常設展示
 主催：宜野座村立博物館
 会場：宜野座村立博物館 第1展示室
 貸出期間：2008年4月1日～2009年3月31日
 貸出資料：歴史 / 赤羽刀(刀「近江守法城寺橋正弘作」他) 5点

事業名：企画展『オキナワ・カワサキー二つの地をつなぐ人と文化ー』
 主催：神奈川県川崎市市民ミュージアム
 会場：神奈川県川崎市市民ミュージアム 企画展示室1
 貸出期間：2008年4月18日～6月13日
 貸出資料：歴史 / 『琉球国志略』6冊、美術工芸 / 首里那覇港図屏風8曲1隻

事業名：企画展『情熱と戦争の狭間で～無言館・沖縄・画家たちの表現～』
 主催：文化の杜共同企業体
 会場：沖縄県立博物館・美術館 美術館企画展示室2
 貸出期間：2008年5月10日～7月3日
 貸出資料：歴史 / 津山彬画「暴風後の校舎」1点

事業名：第10回 看大祭
主催：沖縄県立看護大学
会場：沖縄県立看護大学講義室（3階小講義室）
貸出期間：2008年6月5日～9日
貸出資料：歴史／写本した教科書（解剖・生理学 他）9点

事業名：交通方法変更30年記念展『730狂騒曲』
主催：那覇市歴史博物館
会場：那覇市歴史博物館 企画展示コーナー
貸出期間：2008年6月26日～8月14日
貸出資料：歴史／交通方法変更案内標識 他 7件

事業名：沖縄タイムス創刊60周年記念イベント「リアル あんやたん」
主催：株式会社 沖縄タイムス社
会場：沖縄コンベンションセンター 展示場
貸出期間：2008年9月18日～22日
貸出資料：歴史／道路標識（左折禁止）1点、道路標識（高速車）1点

事業名：第9回特別企画展『カンポーマ ケーナクサー 沖縄 戦後混乱から復興へ』
主催：沖縄県平和祈念資料館
会場：沖縄県平和祈念資料館 企画展示室
貸出期間：2008年9月26日～12月26日
貸出資料：歴史・美術工芸／久米島金券1円 1点、円覚寺十六羅漢像 3体 他 全22件

事業名：『沖縄・プリズム1872-2008』
主催：東京国立近代美術館
会場：東京国立近代美術館 1階 企画展ギャラリー
貸出期間：2008年10月10日～2009年1月6日
貸出資料：歴史／琉球絵はがき関連資料12件、大阪商船パンフレット5件

事業名：企画展『美術家たちの「南洋群島」』
主催：沖縄県立博物館・美術館（美術館班）
会場：沖縄県立博物館・美術館 美術館企画展示室2に通じる廊下
貸出期間：2008年11月2日～2009年1月19日
貸出資料：歴史／辞令書類 3点 他 全6件

事業名：美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現—変容する身体・言語・文化—』
主催：沖縄県立博物館・美術館（美術館班）
会場：沖縄県立博物館・美術館 美術館企画展示室2
貸出期間：2009年1月27日～3月31日
貸出資料：歴史／ブラジルの家庭医書 1冊 他 全8件

事業名：九州大学ユーザーサイエンス機構巡回展「クジラとぼくらの物語」
主催：文化の杜共同企業体
会場：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
貸出期間：2009年2月21日～2月22日
貸出資料：自然史（生物）／コマッコウ

美術館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 作品収集・保存管理

I. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

美術館が2007年11月に開館して年が開けて1年が過ぎた。これまで開館のために戦後を中心として2000件あまりこの10年近くかけて美術品等を収集し、開館前からコレクションの展覧会を19回、企画展を5回開催してきた。開館後は企画展2回、コレクション展を9回開催してきた。また教育普及事業を鑑賞活動支援、実技体験支援、講演会、教員向け講座などを開催するための全般の調査・研究を行ってきた。これまでは、開館のための資料収集、展覧会開催のための整備が中心であったが、整備が一段落した段階で、調査・研究に比重を移しても良い時期と考えられる。調査研究は美術館の重要な機能である収集、展示、教育普及のために行われる。本年度は特に東京国立近代美術館で開催された「沖縄プリズム」のための共同調査と本美術館で開催された「南洋群島展」における町田国際版画美術館、高知県立美術館との共同企画・共同調査が特筆される。また「移動と表現」における県内、県外、北米・中南米の沖縄系美術家調査とロス・アンジェルス日系博物館との協力関係が特筆される。本美術館の調査・研究の概要は以下の通りである。

【調査研究内容】

○美術全般に関する調査研究

本県及び本県を取り巻くアジア近隣諸国とアメリカを中心とした美術全般に関する調査研究を行い、世界に開かれた館活動の基盤づくりに反映させる。また、国内外の研究者や研究機関との共同研究を積極的に行う。

○美術館機能に関する調査研究

美術品の収集方法や展示方法など、美術館機能に関しての調査研究を行う。

- ① 美術品の収集に関する調査研究
- ② 美術品の保存科学に関する調査研究
- ③ 美術品の修復に関する調査研究
- ④ 展示技術に関する調査研究
- ⑤ 教育普及に関する調査研究
- ⑥ 美術情報提供システムの活用に関する調査研究
- ⑦ ボランティア育成支援に関する調査研究
- ⑧ 美術館の振興に関する調査研究等

【調査研究の体制】

館内の研究体制の充実を図るため、紀要を発行する。また専門職員の充実や研究環境の整備、またアジアを中心とした世界各国との人材交流などを行うことによってよりいっそうの充実を図るのが望ましい。

(翁長 直樹)

2. 調査・研究等

翁長 直樹 (主幹)

- 名 称：美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』調査 (ニシムイ・沖縄美術家調査)
期 間：2008年4月1日～12月20日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』調査 (広島 柳幸典、佐藤コレクション)
期 間：2008年10月1日～10月3日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』調査 (北・南米沖縄系美術家調査)
期 間：2008年11月7日～20日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

○名 称：『沖縄プリズム展』企画・調査協力
期 間：2008年4月～10月
依頼機関：東京国立近代美術館

豊見山 愛 (主任学芸員)

- 名 称：『美術家たちの「南洋群島」』調査 (東京：南洋興発遺族会、ほか)
期 間：2008年5月15日～16日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：『美術家たちの「南洋群島」』調査 (宮古島：儀間比呂志油彩個人所有者宅)
期 間：2008年7月2日～3日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：『美術家たちの「南洋群島」』調査 (栄野北区自治会公民館：附帯事業「島民ダンス」調査)
期 間：2008年8月9日～9月14日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：『美術家たちの「南洋群島」』調査 (パラオ共和国：日本領事館、南洋神社、パラオ拘置所、ほか)
期 間：2008年9月28日～10月2日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

大城 仁美 (主任学芸員)

- 名 称：2008年度収集作家調査 (東京都：平敷 兼七 (写真家))
期 間：2008年5月22日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館記念展借用作品修復調整 (神奈川県：平塚氏美術館、東京都：宮内庁三の丸尚蔵館)
期 間：2008年5月22日～23日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：収蔵作家調査 (名護市：栗原達男 (写真家))
期 間：2008年6月29日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：開館記念展借用作品修復に係る作品借用 (東京都：宮内庁三の丸尚蔵館)
期 間：2008年7月22日～8月27日
修復機関：修復研究所21 (東京都)
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：2008年度収集作家調査 (浦添市：平敷兼七 (写真家))
期 間：2008年8月～9月
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』作品借用及び展覧会準備
借用先：スタンレー・スタインバーグ氏 (米・サンフランシスコ)、ジェーン・デュレイ氏 (米・パークレー)
期 間：2008年12月5日～13日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

3. 講演等

翁長 直樹 (主幹)

- 名 称：美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』シンポジウム「思い出のニシムイ」
期 間：2008年9月5日
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館
- 名 称：美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』シンポジウムⅠ、Ⅱ
期 間：2009年1月31日～3月28日 (全約15回のシンポジウム、講演会、上映会等)
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

豊見山 愛 (主任学芸員)

- 名称: ドーセント育成講座2「美術家たちの『南洋群島』展について」
期間: 2008年10月15日
依頼機関: 沖縄県立現代美術館支援会 h a p p
- 名称: 『美術家たちの「南洋群島」展記念講演会「もうひとつの楽園」』
期間: 2008年11月7日
依頼機関: 沖縄県立博物館・美術館
- 名称: 『美術家たちの「南洋群島」展について』
期間: 2008年11月8日
依頼機関: 浦添市国際交流協会・国際協力機構 (JICA)
- 名称: 『美術家たちの「南洋群島」展トークショー「芸術家・儀間比呂志」』
期間: 2008年11月22日
依頼機関: 沖縄県立博物館・美術館
- 名称: 「特別授業: 美術家たちの「南洋群島」展について」
期間: 2008年12月2日、3日
依頼機関: 沖縄国際大学
- 名称: 『美術家たちの「南洋群島」展「キュレータートーク」』
期間: 2008年11月16日、12月21日、2009年1月18日
依頼機関: 沖縄県立博物館・美術館

4. 著作論文等

翁長 直樹 (主幹)

- 「美を見る」『琉球新報』2008年2月～3月 (連載3回)
- 「嘉手川繁夫展 針生一郎講演会に寄せて」『沖縄タイムス』2008年8月
- 「川平恵造絵画展 風景の奥の感覚描く」『沖縄タイムス』2008年8月22日
- 「ニシムイ講演会への誘い」『琉球新報朝』2008年9月5日
- 「沖展一復帰前後まで 沖展60周年記念誌」『沖縄タイムス』2008年9月19日
- 「沖縄文化 批評の課題②美術」『沖縄タイムス』2008年11月12日
- 「展覧会について」『美術館開館一周年記念展覧会 移動と表現』沖縄県立博物館・美術館
2009年1月31日
- 「概観」『美術館開館一周年記念展覧会 移動と表現』沖縄県立博物館・美術館2009年1月31日
- 「占領と文化」『美術館開館一周年記念展覧会 移動と表現』沖縄県立博物館・美術館2009年1月31日
- 「移動と表現 変容する身体・言語・文化」『琉球新報』2009年2月6日
- 「沖縄の美すくいあげる 勝連義也展」『琉球新報』2009年2月11日
- 「移動と表現作品紹介 ③異国の風土へ」『沖縄タイムス』2009年3月25日
- 「岡崎乾二郎講演会 現代アート講座に寄せて」『沖縄タイムス』2009年3月27日

豊見山 愛 (主任学芸員)

- 「「南」から「南」へー「南洋群島」と芸術家・儀間比呂志」『美術家たちの「南洋群島」』
2008年4月12日

大城 仁美 (主任学芸員)

- 展評「山城知佳子展-Virtual inheritance-バーチャル継承」『沖縄タイムス』2008年7月28日
- 「「アート×□=∞」-新しい価値を探って」『美術館開館一周年記念展覧会 移動と表現』
2009年1月31日
- 「「移動と表現展」作品解説-異文化接触の痕跡」『沖縄タイムス』2009年3月23日
- 「「移動と表現展」作品解説-60年の時超えた美」『沖縄タイムス』2009年3月24日

II. 展示活動

1. 展示活動の概要

展示活動概要美術館の展覧会活動は、1995年(平成7)策定による「沖縄県立現代美術館(仮称)基本計画」に基づいて、コレクション展示と、年間6本の企画展を開催している。コレクション展示としては、計画的、系統的に収集した美術品を、気質う生の高いテーマに沿って展示している。また、来館者の鑑賞を深め、新たな美術への関心を高めるため、展覧会と連動した教育普及にも配慮する。

2008年度は、県企画展は2本「南洋群島展」「移動と表現」を開催した。いずれも沖縄と移民=移動と関連するものであり、沖縄の美術館独特の企画である。コレクション展示としては8回(展示替え含み13回)の展覧会を開催した。

(翁長 直樹)

2. コレクション展(常設展)

【コレクションギャラリー1】

○タイトル:「山田實コレクション展」

会 期:2008年3月25日(火)~6月29日(日)

担 当:翁長 直樹

内 容:戦後沖縄の写真史を辿る筆頭に、山田實を取り上げた。終戦直前に入隊し、シベリアで過酷な抑留生活を送った経験をもつ山田は、1952年に帰郷、写真店を開業する。50年代後半から沖縄県内を廻り、復興する沖縄の風景及び人物を撮影した。特に、子供たちの無垢な表情が印象的で、生命の尊さが伝わってくる。

○タイトル:「新収蔵品展 ポリエードル~沖縄・アジアの多様性~」

会 期:2008年7月15日(火)~8月24日(日)

2008年8月26日(火)~10月13日(月)

担 当:大城 仁美

内 容:2003~2007年度までに収蔵された写真作品の中から、未公開の作家作品を紹介する。沖縄や沖縄ゆかりの作家それぞれの視点によって切り取られた作品が、沖縄とアジアの多様性を浮き上がらせる。

出品作家:管 洋志、水島源晃、栗原達男、比嘉豊光、比嘉良治、津野力男、石川真生、野村恵子

○タイトル:「比嘉康雄コレクション展 情民」

会 期:2008年10月31日(金)~12月14日(日)

2008年12月16日(火)~2009年2月1日(日)

担 当:大城 仁美

内 容:写真家でありながら、民俗学者や文化人類学者的側面を持ち、沖縄の自然や人間の根源を追究し続けた哲学者でもあった比嘉康雄。収蔵する「情民」シリーズ70作品の中から54作品を紹介し、比嘉の人間観を探る。

○タイトル:「石川文洋コレクション展「戦争と人間」」

会 期:2009年2月17日(火)~5月10日(日)

担 当:大城 仁美

内 容:収蔵する「ベトナムシリーズ」50点すべてをご紹介し、ベトナム戦争の実態を伝え、戦争と人間との関係性について考える機会とする。

【コレクションギャラリー2】

○タイトル：「混沌の時代を見つめて—シニカル・リアリズムとポリティカル・ポップ」

会 期：2008年3月25日（火）～6月29日（日）

担 当：前田 比呂也

出品作家：WANG Guangyi（王廣義）、ZHANG Xiaogang（張曉剛）、FANG Lijun（方力鈞）、
LIU Wei（劉煒）、YUE Minjun（丘敏君）、WEI Dong（東魏）、FENG Mengbo（馮夢波）

内 容：本展では中国文革後の美術家たちを第1世代から第3世代に分けて、第3世代に顕著な傾向である「シニカル・リアリズム」と「ポリティカル・ポップ」に焦点をあてた。第1世代は、文革の悲惨を告発する「傷痕リアリズム」といわれる作品を生みだし、体制批判と人間性の回復を、続いて第2世代は「モダニズム運動の段階」で、無秩序な西洋のモダンアートの大量流入を受け、ダダ風の過激な運動を展開した。

○タイトル：「沖縄彫刻の展開」

会 期：2008年7月15日（火）～10月13日（火）

2008年10月31日（金）～2009年2月1日（日）

担 当：翁長 直樹

出品作家：山田真山、玉那覇正吉、西村貞雄、丸山映、能勢孝二郎、ゴヤ・フリオ、上條文穂、
波多野泉、砂川泰彦、富本明雄

内 容：本展は本美術館収蔵作家の作品を中心に、沖縄の戦後彫刻の流れを紹介した。沖縄の彫刻は王府時代に仏像彫刻や石造彫刻などが多く制作されるが、廃藩置県後は急激に衰える。戦前期の数少ない彫刻家に山田真山がいる。真山は戦前東京美術学校に入学し、高村光雲に師事、彫刻と日本画を学び、国内外で活躍する。沖縄の彫刻の本格的な展開は戦後、玉那覇正吉によって開始された西洋彫刻が本流となる。本美術館は、戦後の彫刻作品を中心に収集しているが、本展覧会は収蔵作品を中心に、戦後彫刻の展開を紹介した。

協 力：沖縄県立芸術大学美術工芸学部 彫刻専攻

○タイトル：「ベトナム現代絵画 漆絵の可能性」

会 期：2009年2月17日（火）～5月10日（日）

担 当：前田 比呂也

出品作家：マイ・ヴァンケー、グエン・ヒエム、グエン・ティエン・チュオン、グエンヒエム、
ファン・ケー・アン、タイン・チュオン、レー・スワン・チュー、レ・クオック・ロク、
グエン・カン、グエン・トゥ・ギエム

内 容：中国の影響を受けながら自らの文化を築いてきたベトナムは、同様の背景を持つ沖縄と共通するものが多く見られ、身近な国のひとつである。しかしながら、多くの米軍基地を抱える沖縄は、ベトナム戦争では米軍の広報支援基地となる時期もあった。本展覧会は、ベトナム近現代美術のなかでも特徴的な漆絵を紹介するものである。ベトナムに深い思いを寄せるコレクター 富山栄吉らが収集した貴重な作品を本館に寄託されたものを中心に構成した。

協 力：伊藤豊吉 沖縄・ベトナム友好協会 happ 桜坂劇場

【コレクションギャラリー3】

○タイトル：「沖縄の前衛—混沌（カオス）からの出発」

会 期：2008年3月25日（火）～2009年5月10日（日）

担 当：豊見山 愛

内 容：本展では、沖縄美術における近代から現代までの潮流を概観する。テーマは「沖縄の前衛—混沌（カオス）からの出発」として、戦後復興期からの美術作品をコレクションから厳選し時代順に構成した。美術家たちがどのように時代と向き合い、模索したかを作品鑑賞の糸口としたと考えた。また新しい試みとしては、資料的価値に終始しがちな小品、あるいは低照度を徹底した上でエスキース・版画などを、絵画作品と並列したことで一次・二次資料を複合した展示づくりを目指した。

1. 「沖縄」を描く — 内と外との眼差し
2. 共同体と変革者たち — ニシムイ美術村
3. 前衛の時代 — グループ耕・グループNON・'76展
4. 精神の自由化—形式への回帰
5. 伝統と再生—モダンクラフトの現在

3. 企画展『美術家たちの「南洋群島」』

会 期：2008年11月7日（金）～2009年1月18日（日）（56日間）

会 場：美術館企画ギャラリー1・2

観 覧 料：大人800円、高校・大学生600円、小・中学生300円

観覧者数：4,899人

【開催趣旨】

美術家たちの「南洋群島」展は、町田市立国際版画美術館（2008年4月12日～6月22日開催）、高知県立美術館（2008年7月13日～9月15日開催）との合同企画である。ゴーギャンのように文明からの解放を求めて南洋群島（ミクロネシア諸島）へ渡った高知県出身の土方久功（1900～77）、あるいは杉浦佐助（1897～1944）など日本の画家や彫刻家に焦点をあてた、日本近代美術史上、画期的な展覧会となる。杉浦佐助に南洋群島で師事した沖縄県出身の美術家、儀間比呂志（1923～）が1960年代、油彩画制作を主としていたことも、あまり知られていない。この展覧会は、1920年代初頭から1945年まで日本の委任統治下にあり「南洋群島」と呼ばれ、5万人もの沖縄県人が南洋群島へ移住をした史実に基づく。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館、琉球新報社

後 援：パラオ共和国大使館／マーシャル諸島共和国大使館／ミクロネシア連邦大使館
 ／マリアナ政府観光局／沖縄テレビ放送／NHK沖縄放送局／FM沖縄／ラジオ沖縄
 ／琉球放送／琉球朝日放送

【展示内容】

第1部 南洋群島と日本、沖縄

「南洋群島の歴史と文化」「南進論と南洋群島」「冒険と幻想」

第2部 南洋群島に生きる

「土方久功」「杉浦佐助」「儀間比呂志」

第3部 画家の南洋群島行

「野口駿尾」「五味清吉」「上野山清貢」「染木煦」「赤松俊子（丸木俊）」「川端龍子」

「寺門幸蔵」「西尾善積」「和田香苗」「布施信太郎」「藤本東一良」「武田範芳」「笹鹿彪」

「佐々木孔」

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。

- 記念講演会「もうひとつの楽園」
- 芸能公演「芸能にみる南洋」
- トークショー
- 絵本読み聞かせ会
- キュレータートーク
- ドーセントツアー
- 美術館講座
- ミュージアムダンスプロジェクト

4. 企画展『移動と表現—変容する身体・言語・文化—』

会 期：2009年1月31日（土）～3月29日（日）（50日間）

会 場：美術館企画ギャラリー1・2

観 覧 料：大人800円、高校・大学生600円、小・中学生300円

観覧者数：3,956人

【開催趣旨】

沖縄県は移民県としてつとに知られ、遠くは南米をはじめとし、北米、ハワイ、南洋群島などの地域へ多くの人々が夢を抱いて渡航した。幾多の苦難を乗り越えた先人たちが、その勤勉さと地道な努力によって成功を収め、今日では現地社会を担うリーダーとして活躍している者も少なくない。その結果、移民先からの金銭や物資の援助等により県経済の活性化や文化の発展に多大な貢献をしてきた。芸術分野では、沖縄から表現活動の場を求めて海外へ渡り、現地で成功を収める作家の存在が県内アートシーンへの刺激となり、また移動先における芸術活動の展開もますます活発になっている。本展覧会では、これまでの沖縄像を問い直し、「移動」をキーワードにして沖縄の表現の幅を広げて深化していくことを期待し開催する。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

後 援：社団法人沖縄県美術家連盟／沖縄県文化協会／沖縄タイムス／琉球新報／沖縄テレビ放送
／NHK沖縄放送局／琉球放送／琉球朝日放送／FM沖縄／ラジオ沖縄／ペルー大使館
／アルゼンチン共和国大使館／ブラジル連邦共和国大使館／沖縄パンアメリカン連合会

特別協力：沖縄米国総領事館

【展示内容】

第1章 占領と移動 : ニシムイ・アーティスト・ソサエティー

第2章 移民・異郷・境界 : 移民・移住者の芸術紹介

第3部 移動する現在 : 移動をテーマとする作家の紹介

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。

○シンポジウム1、2

○アーティストトーク1、2

○キュレータートーク

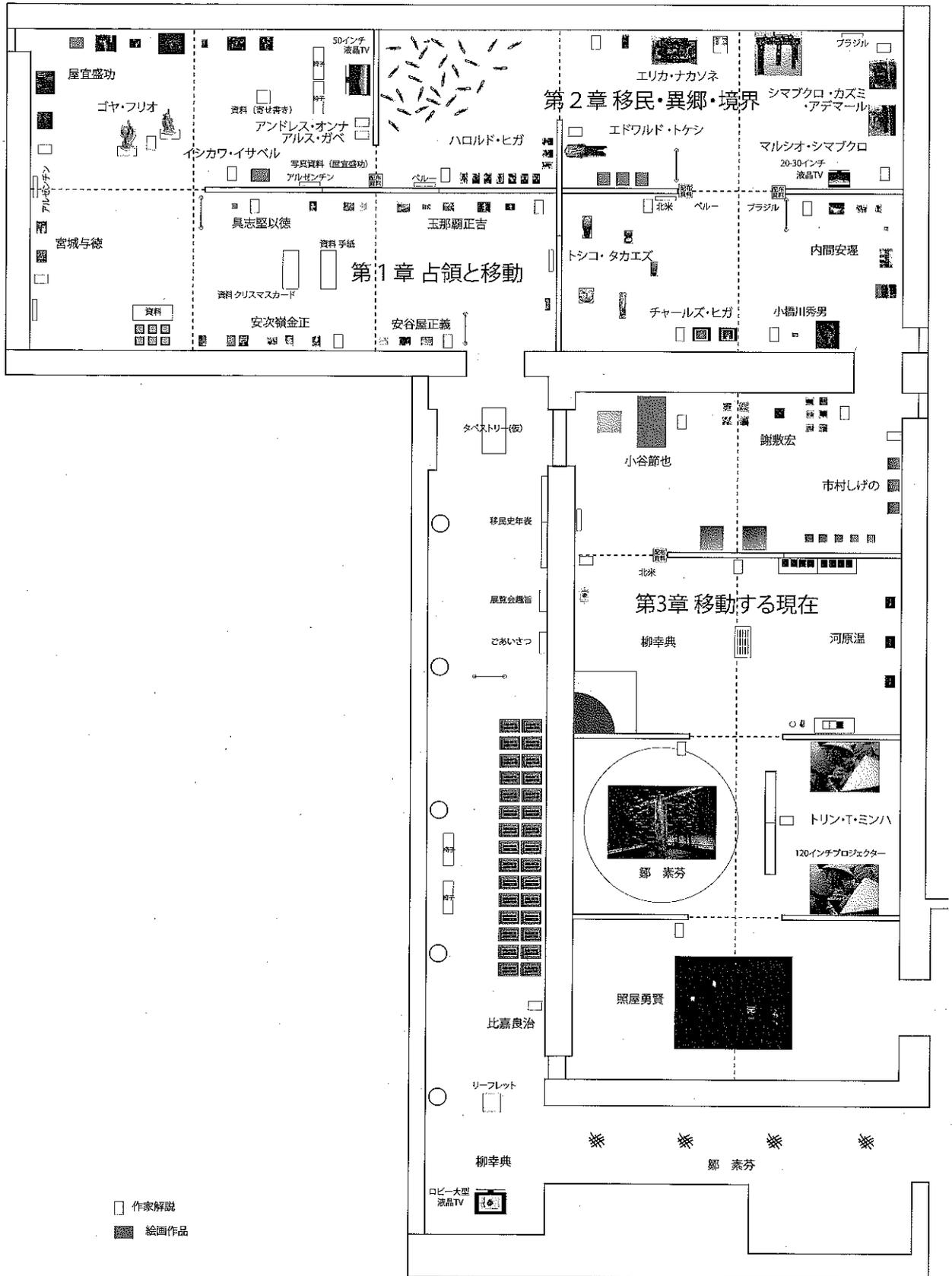
○映画上映会&トーク

○講演会1、2

○アルゼンチンタンゴ

【展示平面図】

移動と表現 —変容する身体・言語・文化—



(翁長 直樹)

Ⅲ. 教育普及活動

1. 美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という3つの柱に沿って展開している。「鑑賞活動のプログラム」では、展示解説ボランティアによる「対話式鑑賞法」の推進を図った。また作品理解をすすめるために、定期的に学芸員によるキュレーター・トーク、作品制作者やその関係者によるアーティスト・トークなどを展示室で実施するとともに、美術講座なども実施した。「実技体験の支援プログラム」では、県民アトリエ・こどもアトリエを活用し、各種実技講座を開催した。また、造形だけでなく身体表現ワークショップを開催した。教育普及活動は、館内だけのプログラムではなく、県立という施設に鑑み、アウトリーチ活動の充実を目指し、出前美術館・出前ワークショップなどを実施した。

(以下本章全て：國吉 亮子)

2. 鑑賞活動支援

開館記念展より継続で、展示解説ボランティアによる「ドーセント・ツアー」を、展示室内で作品を観ながら行った。また「ドーセント育成講座」として、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティスト・トークを開催した。

【キュレーター・トーク】

ボランティアの方々や一般の方に対し、各展示担当がその展示作品や作家、また展示内容について解説を行うことで、展示に対し関心や理解を深めるために講義を行った。

名 称	講 師	日 時	場 所
「山田実と子ども」	翁長 直樹	2008年 4月16日 14:00～	写真展示室
「前衛の時代」	豊見山 愛	2008年 5月21日 14:00～	コレクションギャラリー3
「文革後の中国絵画」	前田比呂也	2008年 6月11日 14:00～	コレクションギャラリー2
「沖縄・アジアの多様性」	大城 仁美	2008年 7月16日 14:00～	コレクションギャラリー1
「美術作品に見る闇と光」	豊見山 愛	2008年 7月30日 14:00～	コレクションギャラリー3
「ワッターウチナムン～比嘉豊光～」	大城 仁美	2008年 8月6日 14:00～	コレクションギャラリー1
「これが私の生きる道～石川真生～」	大城 仁美	2008年 9月3日 14:00～	コレクションギャラリー1
「ブエノスの光と色」	翁長 直樹	2008年 9月10日 14:00～	コレクションギャラリー2
「美術家たちの『南洋群島』展」	豊見山 愛	2008年 9月10日 14:00～	企画展示室1・2
「美術家たちの『南洋群島』展」	豊見山 愛	2008年 12月21日 14:00～	企画展示室1・2
「美術家たちの『南洋群島』展」	豊見山 愛	2009年 1月18日 14:00～	企画展示室1・2
「戦争と人間」	大城 仁美	2009年 2月18日 14:00～	コレクションギャラリー1
「移動と表現」	翁長 直樹	2009年 2月22日 14:00～	企画展示室1・2
「移動と表現」	翁長 直樹	2009年 3月8日 14:00～	企画展示室1・2
「移動と表現」	翁長 直樹	2009年 3月22日 14:00～	企画展示室1・2

【ドーセント・ツアー】

展示解説ボランティアによる「対話式鑑賞法」の実践。展示作品に対し感じたことや思うことを互いに伝え合う中で、美術に対し興味のあるなしに関係なく、展示作品を鑑賞する気持ちを促していった。

日 時	場 所
2008年 4月16日 16:00～	「山田実コレクション展」展示室
2008年 5月14日 16:00～	「中国現代絵画—シニカル・リアリズムとポリティカル・ポップ—」展示室
2008年 6月11日 16:00～	「沖縄の前衛—混沌からの出発—」展示室
2008年 7月30日 16:00～	「沖縄の前衛—混沌からの出発—」展示室
2008年 9月10日 16:00～	「沖縄彫刻の展開」展示室
2008年11月 8日 16:00～	「美術家たちの『南洋群島』展」展示室
2008年12月 8日 16:00～	「美術家たちの『南洋群島』展」展示室
2009年 1月 3日 16:00～	「美術家たちの『南洋群島』展」展示室

【ドーセント育成講座】

2008年4月より、ボランティアの方々及び一般の方に向けて、常設展示室（コレクションギャラリー）や企画展示室の展示作品の理解を深めるための講座を開催した。展覧会に合わせて作家や各担当学芸員が、講義や画像等を用いて講座を行った。第1回の午後6時開催を除き各回とも6時30分から開催した。

名 称	内 容	講 師	日 時	場 所
第1回 「未生の絵画について」	アーティスト・トーク	砂川 恵光	2008/4/11	美術館講座室 県民ギャラリー
第2回 「種明かし」	アーティスト・トーク	小川 京子	2008/4/12	美術館講座室
第3回 「クラフトデザインと工芸」	アーティスト・トーク	上原美智子 豊見山 愛	2008/4/16	美術館講座室
第4回 「沖縄の前衛運動」	ボランティア 育成講座	城間 喜宏 翁長 直樹	2008/4/23	美術館講座室
第5回 「映像に見る文化大革命『天安門』」	ボランティア 育成講座	前田比呂也	2008/5/14	美術館講座室
第6回 「アーティスト×ボランティア」	ボランティア 育成講座	渡慶次真由 前田比呂也	2008/6/11	美術館講座室
第7回 「ポール・セザンヌを語る」	ボランティア 育成講座	浅野 春男 豊見山 愛	2008/7/30	美術館講座室
第8回 「美術史講座」	ボランティア 育成講座	稲嶺 成祚	2008/9/10	美術館講座室
第9～15回 「美術家たちの『南洋群島』展」関連講座	ボランティア 育成講座	滝沢 恭二 豊見山 愛 大城 學 鈴木 高宣 岡村 幸宣 佐喜眞道夫 奥野 克仁	2008/10/8, 15, 22, 11/12, 19, 26, 12/3	美術館講座室
第16～23回 「ベトナム現代絵画 漆絵の可能性」関連講座	ボランティア 育成講座	那須 泉 鎌田 隆 前田比呂也 前田 孝允	2009/1/28 2/14, 21, 28 3/7, 14, 18, 21	美術館講座室 県民アトリエ

3. 実技体験支援

美術館では、従来の美術の枠を超えて、コンテンポラリーダンスなど身体に拠る表現を紹介した。

名 称	日 時	場 所
「作品プレゼンテーション+ディスカッション」	2008/5/ 8 18:30～	美術館講座室
「コンテンポラリーダンス映像視聴+フリートーク」	2008/6/19 18:30～	美術館講座室
「美術家たちの南洋群島展」とのコラボレーション	2009/1/16 18:30～	美術館企画ギャラリー2
「アルゼンチン・タンゴ」	2009/2/14 14:00～、17:00～	エントランス、屋外
シンティア・ダニラ・ヨナシロ（ブエノスアイレス）	2009/2/15 14:00～	講堂

4. 講演会・シンポジウム

今年度の2つの企画展「美術家たちの南洋群島展」「移動と表現」の作品や展示の理解を深めるため、展示作家の関係者を招き講演を行った。特に「南洋群島展」で儀間比呂志氏を迎え、自身の歴史を語っていただいたことと、「移動と表現」関連の「現代アート講座」と題して岡崎乾二郎氏が音楽と美術を結びつけた内容は、聴講者の美術への興味を刺激するものであった。

○「もうひとつの楽園」（美術家たちの「南洋群島展」オープニング記念）

基調講演：岡谷公二

討 論 者：岡谷公二、儀間比呂志、滝沢恭司

進 行 者：豊見山愛

日 時：2008年11月7日

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

芸能公演：佐藤太圭子、比嘉康春、新垣俊道、仲村逸夫、うるま市栄野比区自治会

- 「画家・儀間比呂志を語る」（「美術家たちの『南洋群島』展」トークショー）
話 し 手：新川明（批評家）、川満信一（詩人）、岡本由希子（編集者）、豊見山愛
日 時：2008年11月22日
- 「群島・移動・表現」（美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』シンポジウム1）
基調講演：今福龍太（東京外国語大学大学院教授）
討 論 者：柳幸典、トリン・T・ミンハ、照屋勇賢
進 行 者：前嵩西一馬
日 時：2009年1月31日 14:00～
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
- 「アジア・沖縄・移動と暴力の刻印」（美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』シンポジウム2）
基調講演：新垣誠（沖縄キリスト教学院大学 文化人類学）
討 論 者：比嘉良治、ゴヤ・フリオ、鄒素芬、エリカ ナカソネ
進 行 者：山里勝巳
日 時：2009年2月1日 14:00～
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
- 石川文洋講演会「私の戦場取材体験」
講 師：石川文洋
日 時：2009年2月25日（水）18:30～
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
- 「北・中・南米美術調査より」（対談、美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』関連）
「北米調査（ニシムイ）報告」（報告、
講 師：翁長直樹、ゴヤ・フリオ（対談）
大城仁美（報告）
日 時：2009年3月1日（日）14:00～
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
- 講演会「現代アート講座」（美術館開館一周年記念展覧会『移動と表現』関連）
講 師：岡崎乾二郎
討 論 者：岡崎乾二郎、前嵩西一馬、渡辺真也、照屋勇賢
日 時：2009年3月28日（土）14:00～
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

5. 映画上映

題 名	日 時	備 考
「海の生命線—我が南洋群島—」 「鉄の子カナヒル」	2009年1月10日（土）	『美術家たちの「南洋群島展」』関連
「フィリピンふんどし日本の夏」キドラット・タヒミック	2009年2月 7日（土）	『移動と表現』関連 トーク：翁長直樹
「サルサとチャンプルー」	2009年2月 8日（日）	『移動と表現』関連 トーク：波多野哲朗 聞き手：大城仁美 ライブ：カチンバ4ライブ
「性はヴェト名はナム」トリン・T・ミンハ	2009年2月26日（木）	『移動と表現』関連 トーク：翁長直樹
「ミリキタニの猫」リンダ・ハッテンドーフ	2009年3月14日（土）	『移動と表現』関連 トーク：大城仁美
「世界ウチナーンチュ紀行」OTV	2009年3月15日（日）	『移動と表現』関連 トーク：前原信一

IV. 作品収集・保存管理

1. 収蔵作品現在高

2009年3月31日現在

分類	購入	寄贈	移管	寄託	総計
平面	588	1,955	8	96	2,647
立体	10	32	0	0	42
映像	16	3	0	0	19
その他	27	14	0	0	42
総計	641	2,004	8	96	2,750

2. 2008年度(平成20)新収蔵作品高

2008年4月1日～2009年3月31日

分類	購入	寄贈	移管	寄託	総計
平面	133	314	0	46	493
立体	0	3	0	0	3
映像	0	0	0	0	0
その他	0	13	0	1	14
総計	133	330	0	47	510

3. 2008年度(平成20)新収蔵作品目録

【購入】

2008年4月1日～2009年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	素材	数量
絵	平良 晃	白いパースの変容	2000	パネルに紙、水彩	1
	チャック・E・比嘉	Glow(光彩)	2007	水彩	1
	"	Luminous	"	"	1
	瀬嵩 政良	無名の昇華	1997	油彩、陶片、キャンバス	1
	大嶺 政寛	やんぼる船	1942頃	キャンバスに油彩	1
	"	熱帯魚	1964	"	1
	城間 喜宏	曼荼羅象形シリーズ「断碑」	1990	キャンバス、アクリル、発泡スチロール	1
	屋良 朝春	朝が来た	2007	キャンバスに油彩	1
	官城 和邦	超宇宙界古代暗号脳神様のための超暗号脳詩作会	2000	キャンバスにアクリル	1
	嘉手川 繁夫	でいご花の物語	1964	板、ボンド、胡粉、油彩	1
平面	グエン・トク・キム	聖人ゾン	1976	漆絵	1
	グエン・カン	月明かりの中の魚	不明	金泥、箔絵	1
	グエン・サン	牛	1980	箔絵、漆絵	1
	石内 都	"SCAR-1944, war," 2002 他	2002	ゼラチンシルバープリント、作家オリジナル額装	2
	金井 杜道	「金銀鍍盃洗」久米島 2003 他	2003	ゼラチンシルバープリント	1
	勝又 邦彦	Skyline「沖縄県島尻郡玉城村」 他	2004	タイプC・プリント、作家オリジナル額装	4
	蔵 真墨	love machine 他	2000-2002	ゼラチンシルバープリント	1
	笹岡 啓子	「観光 KANKO」シリーズ	2006、2007	タイプC・プリント	5
	橋橋 朝子	"half awake and half asleep in the water"シリーズ	2001-2003	"	6
	島尾 伸三	「沖縄スリル」シリーズ	2005	ラムダプリント	12
写真	白岡 順	西表、由布島へ 沖縄 2001年5月2日 他	2001-2003	ゼラチンシルバープリント	1
	染谷 學	「海礁の松」シリーズ	2002	"	15
	七田ヒロミ	「俗神」シリーズ	1971	"	1
	萩原 義弘	「宇多良炭鉱」竹富町西表島 他	1995	"	5
	藤田 絵里	宮古島、沖縄 2002年5月5日 他	2001-2003	"	4
	港 千尋	沖縄	"	"	12
	平敷 兼七	子どもたちとケケしている大人 屋名 1968	1968	"	1
	"	火葬場 南大東 1970	1970	"	1
	"	ある置屋の入口 コザ 吉原 1970	"	"	1
	"	山羊達 大宜味 1970	"	"	1
真	"	昼から客をまつ 辺野古 1970	"	"	1
	"	町はずれのパー 辺野古 1970	"	"	1
	"	箱を車にみたてて一人遊ぶ 辺野古 1970	1970	"	1
	"				

平 写 面 真	平敷 兼七	シラをかみている女の子 刀持をもってゆく男の子 与那国 1970	〃	ゼラチン/バー・プリント	1
	〃	掃除している女の子 与那国 1970	〃	〃	〃
	〃	与那国 1970	〃	〃	〃
	〃	馬がいた やせていた 北大東 1970	〃	〃	〃
	〃	時間外に出たり入ったりする所(裏戸)朝になった 南大東 1970	〃	〃	〃
	〃	お店(マカワ) 南大東 1970	〃	〃	〃
	〃	富吉 池間島 1972	1972	〃	〃
	〃	お宮 与那国 祖納 1972	〃	〃	〃
	〃	リカーで遊ぶ 八重山 1972	〃	〃	〃
	〃	北大東 神宮	不明	〃	〃
	〃	天久墓		〃	〃
	〃	天久墓		〃	〃
	〃	天久墓		〃	〃
	森山 大道	無題1	1975	〃	〃
	〃	無題2	〃	〃	〃

【寄贈】

2008年4月1日～2009年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	素材	数量	寄贈者
平 絵	平良 晃	変容 H-11	1999	パネルに紙、水彩	1	平良 郁子
	〃	変容 H-12	1989	パネルに水彩	〃	〃
	〃	変容	2003	板にアクリル	〃	〃
	宮城 和邦	大究極橋勝負師総司令官長の飛学界大前進交響曲	1981	キャンパスに油彩	〃	宮城 和邦
	〃	総合後継神の後継資格席宣言	〃	〃	〃	〃
	〃	大宇宙民族絶滅量大前進大交響曲	1982	〃	〃	〃
	〃	文字民族なのか絵画民族なのか	1984	〃	〃	〃
	〃	財産席連合長よ目覚めよ	1990	〃	〃	〃
	〃	沖縄県領土返還者よ目覚めよ	1992	〃	〃	〃
	神山 泰治	闘鶏	1961	〃	〃	神山 泰治
	具志堅誓謹	時の流れ No.072	1997	紙に水彩	〃	具志堅誓謹
	〃	時の流れ No.080	〃	〃	〃	〃
	〃	時の流れ No.107	2000	パネルに水彩	〃	〃
	〃	時の流れ	2004	紙に水彩	〃	〃
	屋良 朝春	石垣のある平安座島	1973	キャンパスに油彩	〃	屋良 朝春
〃	天仁屋岬	1996	〃	〃	〃	
〃	世界遺産今帰仁城跡	2002	〃	〃	〃	
〃	朝の古城址	2006	〃	〃	〃	
城間 喜宏	饒舌シリーズ「饒舌と沈黙」	1966	パネル、木、ペンキ	〃	城間 喜宏	
〃	カードシリーズ「核」	1969	キャンパスに油彩	〃	〃	
〃	巫熱帯の島から	1968(1996再制作)	システマIPベネジエリシエリ戦闘機の一部、ペナ	〃	〃	
〃	曼荼羅観想宇宙之図	1993	パネルにアクリル	〃	〃	
〃	曼荼羅シリーズ「虚と実の結界」	2006	パネルに塗料	〃	〃	
嘉手川繁夫	哀愁の沖縄	1956	キャンパスに油彩	〃	嘉手川繁夫	
〃	いのちの飾り	1964	板、ボンド、胡粉、油彩	〃	〃	
〃	緑の椅子	〃	〃、〃、〃、〃	〃	〃	
〃	野人	1976	キャンパスに油彩	〃	〃	
〃	マブイの園生	1980	〃	〃	〃	
森田 永吉	海浜	1958	〃	〃	森田 光昭	
グエン・サン	闘う牛	1976	漆絵	〃	富山 まさ	
〃	闘う牛	〃	箔絵	〃	〃	
〃	猫(2)	1977	〃、漆絵	〃	〃	
〃	鳩と少女	〃	漆絵	〃	〃	
グアイ・ク・チャイ	村の門	〃	箔絵、卵殻、漆絵	〃	〃	
グアイ・ク・チャイ	西湖	1976	〃、〃	〃	〃	
グエン・イェム	蘭花	不明	〃、漆絵、卵殻、彫漆	〃	〃	
〃	花市場	〃	〃、〃、〃	〃	〃	
〃	奎門閣	〃	〃、〃、〃	〃	〃	
〃	ハロン湾(5)	〃	〃、〃	〃	〃	
〃	サイソンの風景	〃	〃、〃	〃	〃	
グエン・イェン	ハロン湾(1)	〃	〃、〃、卵殻	〃	〃	
〃	蘭の花II	〃	〃、〃、螺鈿	〃	〃	
〃	川を登る	〃	〃、〃	〃	〃	
グエン・ソフン・ズン	鉄人	1979	〃、〃	〃	〃	
グエン・ダク・ズン	水浴	1976	〃、〃	〃	〃	
〃	おどり	〃	〃、〃	〃	〃	
〃	湖畔の火炎樹	1977	〃、〃	〃	〃	

	ゲン・トク・ギエム	不明	不明	漆絵	1	富山 まさ
	〃	遊んでいる子供たち	1974	〃	〃	〃
	ゲン・テイエン・リン	タイ寺	1970	〃	〃	〃
	〃	山の風景	不明	箔絵、漆絵	〃	〃
	ゲン・トク・クワン	ハス池のほとり	1973	〃、〃	〃	〃
	ゲン・トク・クワン	水牛の子供	1977	〃、〃	〃	〃
	〃	馬	1982	〃、〃	〃	〃
	ゲン・トク・クワン	山岳の風景	1985	〃、〃	〃	〃
	ゲン・バン・チャット	瓜	不明	〃、〃、卵殻	〃	〃
	ゲン・バン・テイ	バグホー村(1)	1974	〃、〃	〃	〃
	〃	猫(1)	1984	〃、〃、螺鈿	〃	〃
	ゲン・バン・テイ	ハロン湾の漁舟	1978	〃、〃	〃	〃
	ゲン・ヒョウ・ヒョウ	ぬいもの	1974	〃、〃	〃	〃
	ゲン・ヒョウ・ヒョウ	獅子舞	1982	〃、〃	〃	〃
	ゲン・フク・ゴク	花火	1974	〃、〃、螺鈿	〃	〃
	ゲン・ホウ・キム	象隊	1978	〃、〃、卵殻	〃	〃
	ゲン・ダク・クワン	ハロン湾(2)	不明	〃、〃、〃	〃	〃
	〃	ダムのほとり	1973	〃、〃、〃	〃	〃
	ゴク・トウ	虎	1974	〃、〃	〃	〃
	ザン・ズク	夕暮	不明	〃、〃	〃	〃
	シン・ミー	ブット・タツプ寺	〃	〃、〃	〃	〃
	タイ・ハー	川(南)	〃	漆絵	〃	〃
	〃	月夜のギター	1974	彫漆	〃	〃
平	ダオ・イエン	ドンダーの岡	1976	箔絵、漆絵、卵殻	〃	〃
絵	ダン・パイ	月夜に水波み	1969	彫漆	〃	〃
	チャン・クワ・チャット	ダム・サン	不明	箔絵、漆絵、卵殻、螺鈿	〃	〃
	チャン・ダン・ウエン	熱帯魚	〃	箔絵、卵殻、螺鈿	〃	〃
	チャン・トク・クワン	静物	〃	箔絵、漆絵、卵殻	〃	〃
	チャン・フイ・クワン	金魚(1)	不明	〃、〃	〃	〃
	〃	山岳地帯の市場へ行く	〃	〃、〃、卵殻	〃	〃
	チャン・フイ・クワン	金魚(3)	〃	〃、〃	〃	〃
	チャン・フイ・クワン	水波み	〃	〃、〃	〃	〃
	ドノスワン・ゾオン	川に舟	〃	漆絵	〃	〃
	〃	寺院	〃	箔絵、漆絵	〃	〃
	〃	金魚(2)	〃	〃、〃	〃	〃
	〃	昼下がり	〃	〃、〃	〃	〃
	〃	川の舟	〃	〃、〃	〃	〃
	〃	川のほとり	〃	〃、〃	〃	〃
	〃	若い竹	〃	〃、〃	〃	〃
	〃	フオ川の上で	〃	〃、〃	〃	〃
	〃	春	〃	箔絵	〃	〃
	〃	川面に雨	〃	漆絵	〃	〃
	〃	春が来た	〃	〃	〃	〃
面	ドノスワン・ゾオン	船	〃	箔絵	〃	〃
画	〃	冬の午後	〃	〃	〃	〃
	〃	竹と船	〃	漆絵	〃	〃
	トオン・アン	秋声	1980	箔絵、漆絵	〃	〃
	トク・ゴク・フオン	タイ族の村	1974	〃	〃	〃
	〃	月夜	不明	〃	〃	〃
	〃	出会い	〃	漆絵	〃	〃
	トク・ゴク・フオン	静かな昼下がり	1976	箔絵、漆絵	〃	〃
	〃	静寂	不明	漆絵	〃	〃
	〃	えび	〃	箔絵、漆絵	〃	〃
	〃	ガイガオ樹	〃	〃、〃	〃	〃
	ハト・クワン	山の村	1978	〃、〃	〃	〃
	バン・レイ	村の風景	1977	〃、〃、卵殻	〃	〃
	〃	ハロン湾(3)	1974	漆絵、卵殻、螺鈿	〃	〃
	ファン・キ・アン	ホーおじさん	1982	〃	〃	〃
	ファン・ドク	製材場	不明	〃、箔絵	〃	〃
	フイ・クワン	精米場	1974	〃、〃	〃	〃
	〃	孔雀	1986	〃、〃、卵殻	〃	〃
	〃	山岳地帯の風景	不明	〃、卵殻	〃	〃
	フオン・トク・クワン	バクボー村(2)	1978	〃、卵殻、箔絵	〃	〃
	ホ・チャン・ドク	花と少女(南)	1984	〃、箔絵	〃	〃
	ホー・クイ	ある歴史	1974	〃、〃	〃	〃
	ホン・ハイ	ブワトタワプ寺	不明	〃、〃	〃	〃

版	チエン姉妹と進め	1970	紙、紙	1	富山 まさ	
	聖人ゾン(2)	紙	紙、紙	紙	紙	
	不明	1956	紙に木版、多色	紙	紙	
	五人の美女			紙	紙	
	ウ・チャン・リン	チヤムの遺跡	1976	紙に木版	紙	紙
	グエン・ロン・ホ	フン寺	1981	紙に木版、単色	紙	紙
	グエン・クオン・ホ	村の市場	1982	綿布、木版、彩色	紙	紙
	Ting Dan	水牛	不明	紙に木版、単色	紙	紙
	Nguyee Dang Sai	不明	1964	紙に木版、多色	紙	紙
	XCUONG	不明	1972	紙に木版、彩色	紙	紙
	不明	不明	1980	紙に木版、彩色	紙	紙
	不明	不明	不明	紙に木版、単色	紙	紙
	銅版画 01~30	銅鑼を鳴らす行進 他 29 点	紙	紙に木版、彩色 紙に木版、単色	30	紙
	木版画 01~09	農耕之図 他 8 点	紙	紙に木版、彩色	9	紙
写	染谷 學	「海礁の枢」シリーズ	2002	ゼラチンシルバー・プリント	2	バストレイズ
	土田ヒロミ	「俗神」シリーズ	1971	紙	4	紙
	平敷 兼七	安波風景 1966	1966	紙	1	平敷 兼七
	紙	漁売り 石川市 1968	1968	紙	紙	紙
	紙	選挙ポスター 具志川 1968	紙	紙	紙	紙
	紙	セーファウタキ内 1968	紙	紙	紙	紙
	紙	勝連半島の食堂 屋ケ名 1969	1969	紙	紙	紙
	紙	夏のさなかマス(塩)売り 那覇安里 1969	紙	紙	紙	紙
	紙	水遊ぶ(自由) 与那国久部良港 1969	紙	紙	紙	紙
	紙	楚洲の売店の子 1970	1970	紙	紙	紙
	紙	屋間風呂に向かう女性たち 辺野古 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	OFF LIMITS 真栄原新町 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	夜遅くなじみの女性がいるかどうかをのぞく 真栄原 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	フイビン料理専門店のマさん 浦添屋富祖 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	アイスクーキ売り 泊港 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	葛をもってゆく少年 八重山 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	新川公民館にて 八重山 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	雨水ため 南大東 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	好きな男が女の所から出てくるのを朝までまっている女性 南大東 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	水タンク 水のない島なので水は貴重物 南大東 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	夜八時をすぎるとランプに変わる 南大東 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	はしけ 北大東 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	北映館 北大東 1970	紙	紙	紙	紙
	紙	辺野古の子 辺野古 1971	1971	紙	紙	紙
	紙	船客の人たちが足のきれいなばあさんだと言っている 今帰仁上運天 1971	紙	紙	紙	紙
	紙	共通語を使いましょう 伊平屋 1972	1972	紙	紙	紙
	紙	復帰の翌日 大雨後 伊平屋 1972. 5. 16	紙	紙	紙	紙
	紙	渡しトラックバスの中で 平安座 1972	紙	紙	紙	紙
	紙	陸に上がったくり船 八重山 1972	紙	紙	紙	紙
	紙	水牛 与那国 1972	紙	紙	紙	紙
	紙	映画館 本部 1973	1973	紙	紙	紙
	紙	客をまつ 那覇栄町 1974	紙	紙	紙	紙
彫刻	山田 真山	観音像 3体	1960年代後半頃	堆錦像	3	山田 昇作
	嘉手川繁夫	輪の家	2007	鉄に油性塗料ペイント	1	嘉手川繁夫
その他	紙	輪のつらなり	紙	紙	紙	紙
	紙	天の輪	2008	紙	紙	紙
その他	トシコ・タカエズ	UNTITLED	2000	陶磁器	1	高江洲敏子
	紙	紙	紙	紙	紙	紙
	紙	紙	紙	紙	紙	紙
	紙	紙	紙	紙	紙	紙
	紙	紙	紙	紙	紙	紙
	紙	紙	紙	紙	紙	紙
	紙	紙	紙	紙	紙	紙
	紙	紙	紙	紙	紙	紙

【寄託】

2008年4月1日~2009年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	素材	数量	寄託者
平面	Pichai Nirand	不明	不明	キャンバスに油彩	1	カトー伊藤多美子
不	明	不明	紙	紙	紙	紙

	不明	不明	不明	キャンパスに油彩	//	カリス伊藤多美子	
	Linh chi	不明	//	絹本に彩色	//	//	
	//	Meo den sapa	//	//	//	//	
	//	不明	1971	絹に水彩	//	//	
	Pidhai Nirand	不明	1995	キャンパスに油彩	//	//	
	SULAPOL SANKUM	軒先2 (仮題)	不明	紙に水彩	//	//	
	//	軒先2 (仮題)	//	//	//	//	
	SAWASDI TANTISUK	WINDSWEPT FIELD	1985	キャンパスに油彩	//	//	
	パタヤン	不明	1947	//	//	//	
平 絵	孫 本 長	黄土高原 01	不明	絹本に墨彩色	//	五洋製作所伊藤多美子	
	//	黄土高原 02	//	//	//	//	
	//	黄土高原 03	//	//	//	//	
	//	黄土高原 04	//	//	//	//	
	//	黄土高原 05	//	//	//	//	
	//	黄土高原 06	//	//	//	//	
	//	黄土高原 07	//	//	//	//	
	//	黄土高原 08	//	//	//	//	
	//	黄土高原 09	//	//	//	//	
	//	黄土高原 10	//	//	//	//	
	//	黄土高原 11	//	//	//	//	
	//	黄土高原 12	//	//	//	//	
	//	黄土高原 13	//	//	//	//	
	//	黄土高原 14	//	//	//	//	
	//	黄土高原 15	//	//	//	//	
	//	黄土高原 16	//	//	//	//	
	//	黄土高原 17	//	//	//	//	
	//	黄土高原 18	//	//	//	//	
	//	黄土高原 19	//	//	//	//	
	//	黄土高原 20	//	//	//	//	
	//	黄土高原 21	//	//	//	//	
	面 画	//	黄土高原 22	//	//	//	//
		//	黄土高原 23	//	//	//	//
		//	黄土高原 24	//	//	//	//
		//	黄土高原 25	//	//	//	//
		//	黄土高原 26	//	//	//	//
		//	黄土高原 27	//	//	//	//
		//	黄土高原 28	//	//	//	//
		//	黄土高原 29	//	//	//	//
		//	黄土高原 30	//	//	//	//
		//	黄土高原 31	//	//	//	//
		//	黄土高原 32	//	//	//	//
		Nguyen Truong Linh	不明	//	漆絵	//	伊藤豊吉
	//	不明	//	//	//	//	
	//	不明	//	//	//	//	
立体	その他	國吉 清尚	世紀末の卵	1999年	陶器	// 秋友 一司	

4. 作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の芸術文化の拠点となると同時に、芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

平成20年度は2回の収集委員会を開催し、コレクションの核となる県内作家の作品や、アメリカで活躍している県系二世のタカエズ・トシコ氏の作品、森山大道氏といった日本を代表する写真家たちの作品、アジアの現代美術の作品など、510点(購入133点、寄贈330点、寄託47点)を収集した。いずれも今後の美術館活動に幅をもたせる重要な作品である。

(瑞慶山 昇)

5. 保存管理業務

No.	作家名	作品名	サイズ(cm)	種類	内容
1	山元恵一	食習慣の消長について	79.5×99.0	絵画	額装
2	山元恵一	回帰	99.0×79.5	絵画	額装
3	川平恵造	Now・・・(1)	162.5×135.0	絵画	額装
4	川平恵造	Now・・・(3)	193.6×130.4	絵画	額装
5	川平恵造	キー・ストーン	162.3×132.0	絵画	額装
6	真喜志 勉	カウントダウン	162.0×130.0	絵画	額装
7	グエン・カン	月下の漁	81.7×188.3	漆絵	額装
8	グエン・カン	科挙行列	59.6×119.2	漆絵	額装
9	グエン・カン	白馬	60.0×120.2	漆絵	額装
10	グエン・トゥ・ギエム	遊んでいる子供達	60.0×90.0	漆絵	額装
11	マイ・ヴァン・ケー	魚市場	64.0×83.0	漆絵	額装
12	グエン・ヒエム	獅子舞	70.2×120.0	漆絵	額装
13	ファン・ケー・アン	ホーおじさん	90.0×121.0	漆絵	額装
14	レ・クオック・ロク	寺院の祭り	109.3×209.2	漆絵	額装
15	レー・タイン・チー	水上市場	39.0×60.0	漆絵	額装
16	グエン・ティエン・チュオン	トータム遊びをする女性	38.8×53.5	漆絵	額装
17	レー・スワン・チエウ	祭礼	100.0×200.0	漆絵	額装
18	不明	女学校(識字教室)	120.3×241.4	絵画	額装
19	宮城和邦	大宇宙民族絶滅星大前進大交響曲	130.0×162.0	絵画	洗浄
20	宮城和邦	財産席連合長よ目覚めよ	815.0×116.8	絵画	洗浄
21	宮城和邦	総合後継神の後継資格席宣言	130.0×162.0	絵画	洗浄
22	宮城和邦	沖縄県領土返還者よ目覚めよ	130.0×162.5	絵画	洗浄
23	宮城和邦	大究極橋勝負師総司令官長の飛学界大前進交響曲	130.0×163.0	絵画	洗浄
24	宮城和邦	文字民族なのか絵画民族なのか	162.0×130.5	絵画	洗浄

6. 作品貸出

事業名：「川平恵造絵画展」

主催：読谷村教育委員会、読谷村立美術館

会場：読谷村立美術館

貸出期間：2008年7月31日～9月15日

貸出作品：川平恵造「キーストーン」「Now…1」「Now…2」「Now…3」以上全4点

事業名：「アヴァンギャルド・チャイナ（中国当代美術）二十年—」

主催：国立新美術館、国立国際美術館、愛知県美術館、国際交流基金、中日新聞社（名古屋会場のみ）

会場：国立新美術館（東京都）、国立国際美術館（大阪府）、愛知県美術館（愛知県）

貸出期間：2008年8月8日～2009年5月30日

貸出作品：ファン・リジュン（中国）「シリーズ1 No.7」「シリーズ2 No.8」以上全2点

事業名：「沖縄プリズム 1872-2008」

主催：東京国立近代美術館

会場：東京国立近代美術館

貸出期間：2008年10月16日～2009年1月6日

貸出作品：絵画/安谷屋正義「塔」「望郷」、藤田嗣治「孫」

写真/岡本太郎「大宜味[イルカ狩りの海]」ほか（7点）、東松照明「奥武島1972」ほか（15点）

映像/高嶺 剛「オキナワン・ドリームショー」以上全26点

事業名：「南」から「南」へ—美術家たちの「南洋群島」

主催：町田市国際版画美術館、高知県立美術館

会場：町田市国際版画美術館、高知県立美術館

貸出期間：2008年4月12日～2008年9月15日

貸出作品：儀間比呂志「壺屋」ほか（13点）以上全13点

文化の杜共同企業体 (指定管理者)

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 文化の杜共同企業体・美術館
企画アドバイザー会議
- V 展示活動
- VI 教育・イベント活動
- VII 広報・交流事業活動
- VIII 調査・研究等の活動
- IX その他

I. 文化の杜共同企業体概要

沖縄県立博物館・美術館の管理・運営には、開館した2007年11月1日から指定管理者の文化の杜共同企業体（代表・平良知二、通称「文化の杜」）が当たっている。

文化の杜共同企業体は、(株)沖縄文化の杜（代表取締役社長・平良知二）、(株)沖縄タイムス社（代表取締役社長・岸本正男）、(株)国際ビル産業（代表取締役社長・井上宏）の3社で構成。出資比率は代表者の(株)沖縄文化の杜が8割、(株)沖縄タイムス社と(株)国際ビル産業がそれぞれ1割となっている。(株)沖縄文化の杜は文化事業等を企画・展開し、シンクタンク的な役割も兼ねる会社として2007年1月に(株)沖縄タイムス社の100%出資で設立した。(株)沖縄タイムス社は新聞社として1948年7月に創立、常に県民の立場に立って沖縄の言論界をリードしつつ戦後沖縄の文化振興の一翼も担ってきた。(株)国際ビル産業は1966年に設立され、県内の文化施設やホテルなどの管理を行い、衛生・設備管理や警備などで実績がある。

この3社が連携して立ち上げた文化の杜共同企業体は、それぞれの得意分野を生かし、沖縄県立博物館・美術館の管理・運営にあたっている。開館からの指定管理者の期限は2011年3月31日までである。

II. 運営方針

館の管理・運営にあたっては沖縄県立博物館・美術館の設置目的および基本方針、管理規則等に基づき、博物館・美術館という複合施設としての利点を生かして、県民はもとより国内外からの多くの来館者が満足していたくよう、公正・公平で開かれた館運営に努めている。

日本博物館協会は21世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化の杜においてもこのような精神に基づき、「県民主体」をモットーに、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指している。加えて、県民が愛着の持てる、県民による県民のための博物館・美術館を目指し、①沖縄の文化振興の拠点施設とする、②「沖縄ルネサンス」を創出する人材育成の拠点化、③アジア・海外との交流・連携の促進、④沖縄ブランドの確立、⑤県民ぐるみの取り組みの推進の5つの管理運営方針を掲げてきた。

2008年度は文化の杜共同企業体が一年を通して館を管理・運営する初めての年度であった。開館年度と同様に博物館班や美術館班と緊密に連携し、文化の杜共同企業体が美術館企画ギャラリーで初めて主催する年4つの企画展と博物館班や美術館班が主催する企画展や特別展、教育普及活動、第一回移動展、沖縄県主催の沖縄県芸術文化祭等をスムーズに展開・運営する方針で臨み、成果を挙げた。

5つの運営方針は次の通りである。

沖縄の文化振興の拠点施設とする

沖縄県の芸術文化に関する最先端の情報が集積する場であり、これらの情報を県内外に発信する拠点施設とする。

「沖縄ルネサンス」を創出する人材育成の拠点化

沖縄県民が沖縄・琉球の歴史文化を学び、知識と愛着を育み生かして「沖縄ルネサンス」を創出する人材を育てる場とする。常に県内外の博物館・美術館と交流し、県内の類似施設とも連携を強化してお互いの役割を最大限発揮できるように取り組む。活動のプロセスそのものを人材育成にも結びつける。

アジア・海外との交流・連携の促進

かつて交易国家として繁栄し、近代以降は多くの海外移住者を輩出した本県の歴史を踏まえ、アジア近隣地域や南北米大陸、ヨーロッパなど海外のウチナーンチュとの芸術文化交流・連携を積極的に進める。かつ「アジアの中の沖縄」の観点に立ち、東京経由ではない独自のネットワークを構築し、地元企業の強みを生かして「沖縄の個性」を発揮することに努める。

沖縄ブランドの確立

各種企画や事業、教育普及活動を展開し、それらを通して沖縄ブランドを育成、発展させる拠点とする。沖縄県立博物館・美術館も観光立県沖縄の魅力ある観光資源としての役割を担い、最新情報を発信しつつ沖縄の魅力を広く内外にPRする。

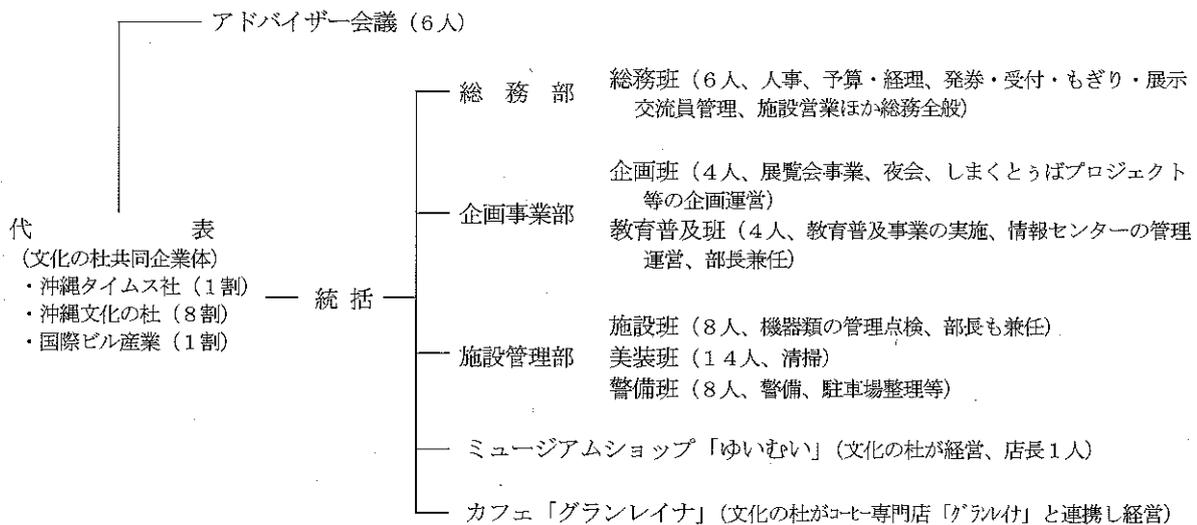
県民ぐるみの取り組み推進

「県民主役」を基本とし、新しい文化創造を目指す。「県民の視点」「県民ぐるみ」の取り組みで、環境対

策にも積極的に対応するほか、地域との連携、県民参加のあり方を工夫し教育普及活動を積極的に推進する。また県民にも施設を利用し活用してもらえよう努める。

Ⅲ. 組織

文化の杜共同企業体は、平良知二を代表に、新里正次統括責任者（2009年3月1日からは運天寛榮）の下、総務部（部長は統括責任者が兼任）、企画事業部（企画、教育普及の2班で構成、部長は福島輝一）、施設管理部（警備、設備・技術、美装班の3班で構成、部長は堀末治）の3部制で県立博物館・美術館を管理・運営している。3部制への移行は開館1年を経た平成2008年11月からで、よりスムーズな管理・運営に当たるために改編した。



【職員構成】

2009年4月1日 現在

班	氏名	担当業務
代表	平良知二	共同企業体を統括
統括	運天寛榮	指定管理業務の統括、総務全般、県や博物館・美術館との現場調整に関すること。
総務班	赤嶺政信	発券システム管理、月報・年度報告。沖縄文化の杜経理に関すること。
	平良亜紀子	共同企業体予算管理、人事管理（発券、総合案内、展示交流員等）に関すること。
	仲程香野	総務全般、企画・受注事業等担当に関すること。
	島袋百恵	総務補助、広報補助、クーポン券やその他総務全般に関すること。
	屋良朝秀	企画、施設貸出に関すること。
教育普及班	與那嶺研規	施設管理、県民ギャラリーに関すること。
	福島輝一	教育普及の統括、広報に関すること。
	中村愛	教育普及（博物館担当）に関すること。
	町田恵美	教育普及（美術館担当）に関すること。
企画事業班	玉城淳子	情報センターの管理・運営に関すること。
	福島輝一（兼任）	企画班の統括に関すること。
	謝花佐和子	企画に関すること。
	岡本美奈子	企画に関すること。
	仲里なぎさ	企画、夜会に関すること。
施設管理班	国吉貴奈	企画、しまくとぅばプロジェクトに関すること。
	堀末治	施設管理全般の統括に関すること。
	友知政行	警備の統括に関すること。
	神谷幸男	設備の統括に関すること。
総合受付・発券・もぎり	与那嶺裕哉	清掃の統括に関すること。
	展示交流員	来館者に対する諸対応、発券業務、観覧券のもぎりに関すること。
展示交流員		展示室における監視、誘導、解説等に関すること。

【人事異動】

2009年3月31日 現在

部 署	氏 名	摘 要
転出		
統括	新 里 正 次	沖縄タイムス社 (3月1日)
企画班	後 田 多 敦	沖縄タイムス社 (11月1日)
施設管理	高 良 勝 三	国際ビル産業本社 (7月1日)
警備班	安 部 則 宏	異動 (10月31日)
	梅 木 慶 喜	異動 (11月25日)
転入		
統括	運 天 寛 栄	沖縄タイムス社 (3月1日)
総務部	平 良 亜紀子	採用 (9月途中)
企画班	仲 里 なぎさ	採用 (12月1日)
	国 吉 貴 奈	採用 (3月1日)
退職		
総務部	安仁屋 清 美	2008年11月1日付
	仲 里 絹 子	2009年3月31日付
教育普及班	安 元 佐和子	2009年2月1日付
企画班	土 江 真樹子	2008年10月1日付
	大 城 奈里子	2009年2月1日付

IV. 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議

アドバイザー会議は、文化の杜共同企業体が美術館で開催する年4つの企画展や関連事業について、外部からの助言・提案などを受け、企画の立案・実施に反映させることを目的とし、各アドバイザーには事業の実施にも積極的にかかわってもらっている。文化の杜共同企業体が指定管理者に応募する際に提案し、正式な外部からの助言機関として位置付けている。メンバーは学識経験者、美術館運営者、実作者、批評家、市民グループ関係者で構成される。2008年1月からは県の要望を受け、美術館副館長がオブザーバー参加している。美術館副館長は同会議において助言・発言することが出来る。会議は毎月1回開催している。メンバーの任期は2009年3月末日までである。

文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー名簿 (2007年11月1日～2009年3月31日)

氏 名	所 属	職 名	
学 識 経 験 者	西 村 貞 雄	琉球大学	教 授
市 民 グ ル ー プ	宮 城 潤	前島アートセンター	理 事
批 評 家	仲 里 効	雑誌「EDGE」	編 集 長
実 作 者	喜久村 徳 男	芸術家	画 家
美 術 館 運 営 者	佐喜眞 道 夫	佐喜眞美術館	館 長
オ ブ ザ ー バ ー	與那原 慧	沖縄県立博物館・美術館 (美術館)	副館長兼班長

第9回アドバイザー会議

日 時：2008年4月21日 (月) 15:00～17:30

場 所：博物館講座室

出席者：仲里効、喜久村徳男、佐喜眞道夫

議 題：文化の杜共同企業体が企画している7月の「嘉手川繁夫展」、9月の「島くとうば」企画と「Atomic Sunshine 展案」を説明。開催中の企画展「世界の現代アーティスト50人展ーガルシア・ロルカを顕彰して」について意見交換。

第10回アドバイザー会議

日 時：2008年5月9日 (金) 17:30～20:00

場 所：博物館講座室

出席者：宮城潤、仲里効、喜久村徳男、佐喜眞道夫

議 題：「世界の現代アーティスト50人展」の現況報告と17日からの「情熱と戦争の狭間で」展、7月の「嘉手川繁夫展」の準備状況を報告。アドバイスを受ける。

第11回アドバイザー会議

日 時：2008年6月27日（金）17:30～19:00

場 所：博物館講座室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、佐喜眞道夫、宮城潤

議 題：7月の「嘉手川繁夫の世界」展のイベント企画、5月の「世界の現代アーティスト50人展」、6月の「情熱と戦争の狭間で」展の報告、9月の「島くとうば展」の概要説明を行い、感想や課題、アドバイスをもらう。

第12回アドバイザー会議

日 時：2008年7月25日（金）17:30～19:00

場 所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、佐喜眞道夫、宮城潤

議 題：「嘉手川繁夫の世界」展の現況説明、9月の企画展名「しまくとうば 未来につなぐアート展」に決定と報告。アドバイスを受ける。次年度展示会スケジュールと外部からの持ち込み（売り込み）企画を紹介。文化の杜共同企業体が予定している公募展市民キュレーター展への意見を聞く。

第13回アドバイザー会議

日 時：2008年8月22日（金）17:30～19:00

場 所：博物館講座室

出席者：喜久村徳男、仲里効、佐喜眞道夫、宮城潤

議 題：「嘉手川繁夫の世界」展の現況報告。9月の「しまくとうば」展の概要説明。アドバイスを受ける。

第14回アドバイザー会議

日 時：2008年9月12日（金）17:30～19:00

場 所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、宮城潤

議 題：「しまくとうば」展の現況、「嘉手川繁夫展」報告。2009年度の企画テーマを「島津侵略から400年、琉球処分から130年」とし、沖縄の歴史的体験や位置を見直す一年と位置付け、「ふたつの日本／ふたつの沖縄」を皮切りに「琉球絵画」「金城安太郎と高島華宵」「オキナワ・デザインの現在」を順次行いたいと提示。方向性の承認を得た。2010年度に予定している企画公募展（市民キュレーター）案へのアドバイスを受ける。

第15回アドバイザー会議

日 時：2008年10月22日（水）17:30～19:00

場 所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、佐喜眞道夫、宮城潤

議 題：「しまくとうば展」を報告。2009年度企画展について展覧会順、会期など具体的な意見交換を行った。

第16回アドバイザー会議

日 時：2008年11月28日（金）17:30～19:00

場 所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、宮城潤

議 題：文化の杜共同企業体の美術館企画展を総括。来年予定の企画展（「ふたつの日本／ふたつの沖縄」）を具体的に「アトミックサンシャインの中へー日本国平和憲法九条下における戦後美術」と「二つの沖縄二つの日本ー1970年代の沖縄美術」で構成したいと提案。アドバイスを受ける。

第17回アドバイザー会議

日時：2008年12月19日（金）17:30～19:00

場所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、宮城潤

議題：来年企画「金城安太郎と高島華宵展」と「アトミックサンシャインの中へー日本国平和憲法九条下における戦後美術」「二つの沖縄二つの日本」展についてアドバイスを受ける。

第18回アドバイザー会議

日時：2009年1月29日（木）17:30～19:00

場所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、佐喜眞道夫、宮城潤

議題：来年企画「金城安太郎と高島華宵展」と「アトミックサンシャインの中へー日本国平和憲法九条下における戦後美術」「二つの沖縄二つの日本」展の準備状況を説明。課題やアドバイスを受ける。

現アドバイザー委員を次年度も継続委任することの了解を得る。

第19回 アドバイザー会議

日時：2009年2月26日（木）17:30～20:30

場所：博物館講座室

出席者：西村貞雄、仲里効、佐喜眞道夫、宮城潤

議題：「アトミックサンシャインの中へ in ふたつの沖縄ー日本国平和憲法九条下における戦後美術」と展示会名を提示し、進捗状況を報告。「金城安太郎と高島華宵展」「琉球絵画展」の概要やイメージを説明。アドバイスを受ける。

第20回 アドバイザー会議

日時：2009年3月27日（金）17:30～19:00

場所：特別会議室

出席者：西村貞雄、喜久村徳男、仲里効、佐喜眞道夫、宮城潤

議題：4月の企画展の名称を「アトミックサンシャインの中へ in 沖縄ー日本国平和憲法下における戦後美術」で了承得る。「琉球絵画展」「王昭展」の開催について説明。助言を受ける

V. 展示活動

1. 展示活動の概要

2008年度は県教育委員会が定めた業務仕様書に基づき、指定管理者の文化の杜共同企業体が美術館企画ギャラリーで年4回の企画展を実施する初めての年度となった。文化の杜共同企業体は、「美術館探しの旅の始まり」を年間テーマに4つの企画展を開催した。このほか、県民ギャラリーで写真展「あんやたん」や情報センターで「慰霊の日」に合わせた「戦況を伝える」英字新聞展を行うなど施設の可能性を広げた。

4つの企画展は「世界の現代アーティスト50人展ーガルシア・ロルカを顕彰して」（2008年3月15日～5月11日、略称「ロルカ展」、年報No.1にて報告済）、「情熱と戦争の狭間でー無言館・沖縄・画家たちの表現～」（5月17日～6月29日）、「哀愁と血の造形ー嘉手川繁夫の世界」（7月15日～8月31日）、「しまくとぅばー未来へつなぐアート展」（9月9日～10月5日）。美術館での企画展がなかったため、「ロルカ展」は県教委の了解を得て3月からの繰り上げ実施となった（詳細は年報No.1で報告）。「世界の現代アーティスト50人展」の入場者は1万962人（うち3月の入場者は2948人）、「情熱と戦争の狭間で」展は6000人、「嘉手川繁夫の世界」展は7528人、「しまくとぅば」展は5005人の計2万9495人だった。関連で計38のイベントを実施し、4975人が参加した。

2. 『世界の現代アーティスト50人展—ガルシア・ロルカを顕彰して』

会 期：2008年3月15日（土）～5月11日（日）（50日間）
会 場：美術館企画展ギャラリー1、2
観 覧 料：大人800円、高校・大学生500円、小・中学生300円
観覧者数：10,962人
予 算 額：6,568,829円

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「文化の杜共同企業体 V 教育・イベント」を参照いただきたい。

- 内覧会（3月14日、「館年報No.1」に掲載）
- 開会式（3月15日、「館年報No.1」に掲載）
- トークショー（3月16日「館年報No.1」に掲載）
- ギャラリートーク（3月20日「館年報No.1」に掲載）
- フラメンコ「アンダルシアへの想い」（4月29日）
- 景品配布（4月29日、5月3日～6日、毎回先着10人）
- 詩の朗読会「ロルカ—詩の世界への誘い」（5月10日）

※本展覧会は『沖縄県立博物館・美術館年報 No.1』（P86）にて詳細は報告している。

3. 『情熱と戦争の狭間で—無言館 沖縄・画家たちの表現—』

会 期：2008年5月17日（土）～6月29日（日）（38日間）
会 場：美術館企画展ギャラリー1、2
観 覧 料：大人1,000円、高校・大学生800円、小・中学生500円
観覧者数：6,000人
予 算 額：8,873,553円

【開催趣旨】

「戦争の記憶」をテーマに、美術学校出身者を含む戦没画学生の作品と沖縄出身の画家たちの作品を展示し、アートから戦争と平和を考える。戦没画学生の作品は約120点を長野県の私設美術館「無言館」から借用した。沖縄出身画家の作品は戦中・戦後に描かれた約40点で、新たに見つかった戦時中の作品も展示する。さまざまな地で生と死を見つめ、「描かずにはいらなかった作品」は戦争の悲しい記憶を、かつての激戦地でつむぐ。

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
共 催：沖縄タイムス・創刊60周年企画
特別協力：無言館
協 賛：ザ・テラスホテルズ／琉球銀行
後 援：琉球放送／琉球朝日放送／朝日新聞社／NHK沖縄放送局／エフエム沖縄／那覇市

【開会式】

日 時：2008年5月17日（土）10:00～10:30
場 所：美術館企画展ギャラリー1前
参 加 者：窪島誠一郎無言館館長、岸本正男沖縄タイムス社長、新垣哲雄ザ・テラスホテルズ株式会社常務取締役、牧野浩隆館長、平良知二文化の杜共同企業体代表（以上テープカット者）ほか30人

【展示内容】

第1章「無言館」

戦没画学生の作品を収集する「無言館」の収蔵品を紹介。戦地に赴く前に彼らが描いた作品や遺品など約120点を展示する。

第2章「沖縄」

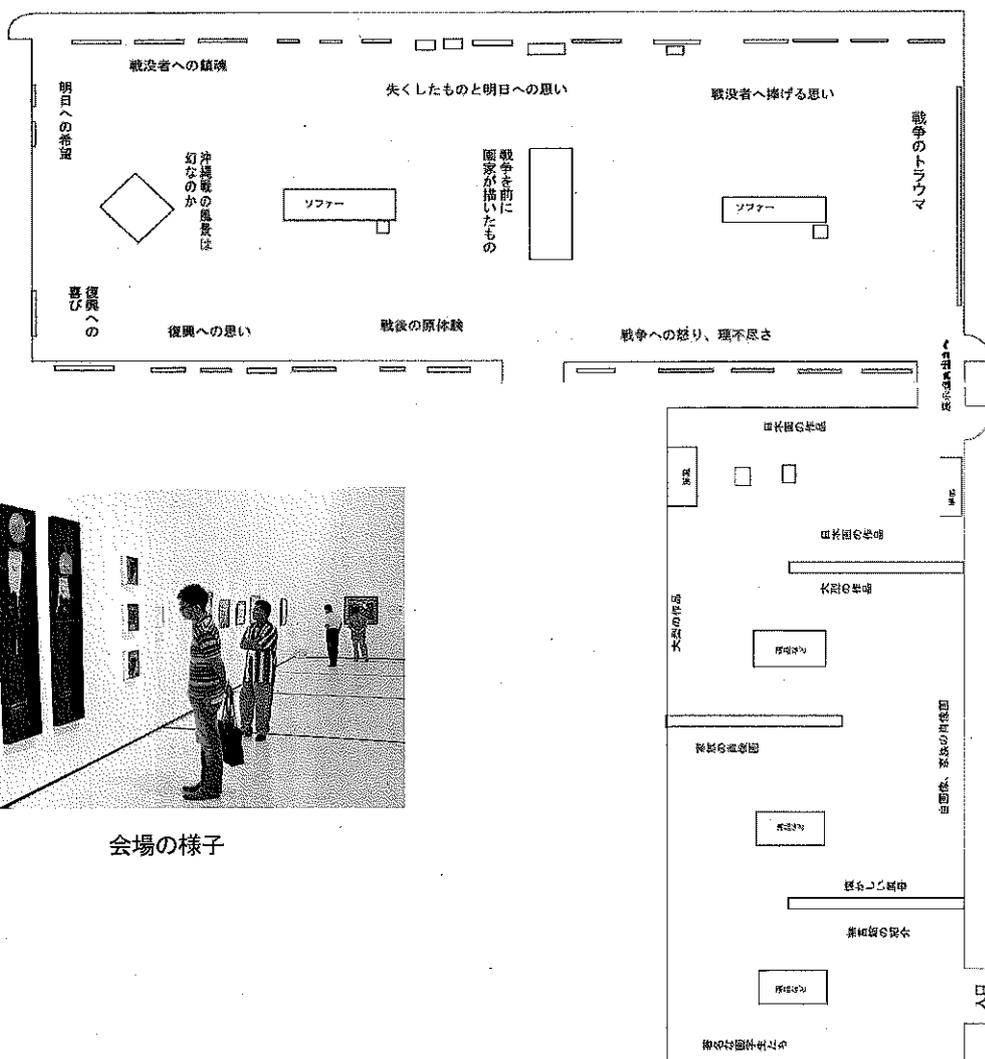
県出身の画家が戦時中に描いた作品、あるいは沖縄戦を生き抜いた画家たちの戦後の作品40点を展示。それら作品には戦争の記憶、トラウマや鎮魂、そして復興への希望が表現されていた。

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「文化の杜共同企業体 V 教育・イベント」を参照いただきたい。

- 講演会（「窪島誠一郎・無言館館長講演会」「画家と戦争」「画家と自画像～時代と向き合う～」
「無言館のこと」）
- ギャラリートーク
- アートトーク（「画家たちの戦争体験と表現」）
- ワークショップ（「自画像を描く」「自分の大切なものを描く」）
- 教員対象の美術講座
- 学校単位の美術講座（6月21日）
- 演奏会（「合唱によるレクイエム」「魂の祈り～天満教子バイオリン演奏」）

【展示配置図】



会場の様子

4. 特別展『恐竜ミュージアム2008～失われた地上最大の生物たち～』

会 期：2008年7月15日（火）～9月7日（日）（48日間）

会 場：博物館特別展示室、博物館企画展示室Ⅰ・Ⅱ

観 覧 料：大人1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円、
3才以上小学生未満250円

観覧者数：98,489人

予 算 額：60,350,000円

【開催趣旨】

恐竜は圧倒するような大きさや特徴的な身体能力、容姿で、多くの人々を魅了してやまない太古の生物である。その起源と進化、生態、絶滅の理由など多くの不思議と謎を抱えた恐竜は、長い時の流れの中で地球環境に適応しながら巨大化あるいは空を飛ぶようになるなど種の多様化を展開して繁栄し、約6500万年前に急激に滅んだとされている。一方、今われわれ人類は地球環境との共存・共生を考えなければならない時代を迎えている。同じ地球に生きている人類にとって、恐竜や恐竜の生きた時代を学び理解することは、われわれの未来を考える指標の一つになり、今後解決すべき課題を理解し解決するヒントになると言われている。今回の展示会では、人類と地球環境を考える上で示唆に富む標本を展示する。恐竜時代のあけぼのから、進化・絶滅まで、数多くの展示標本と科学的な体験装置で恐竜の実態とその魅力に迫り、参観者が恐竜を理解する学びの一助にする。

【開催形式】

主 催：沖縄タイムス社／沖縄文化の杜

共 催：沖縄県教育委員会／沖縄県立博物館・美術館

後 援：沖縄県／(財)沖縄観光コンベンションビューロー／沖縄県子ども会育成連絡協議会
／(社)沖縄県PTA連合会／沖縄県高等学校地学教育研究会／沖縄地学会／琉球放送
／琉球朝日放送／エフエム沖縄／タイフーンFM／FMレキオ／FMたまん／FMとよみ

協 力：国立科学博物館／群馬県立自然史博物館／ミュージアムパーク茨城県自然史博物館
／長野古生物博物館／(株)パレオサイエンス

特別協賛：(株)琉球銀行

【開会式】

日 時：2008年7月15日（火）9:00～10:00

場 所：博物館企画展前ホワイエ

参 加 者：仲村守和沖縄県教育委員会教育長、比嘉朝松琉球銀行専務、岸本正男沖縄タイムス社社長、
牧野浩隆館長、平良知二文化の杜共同事業体代表、銘苅小学校児童代表、(以上テープカット者)
ほか約120人。

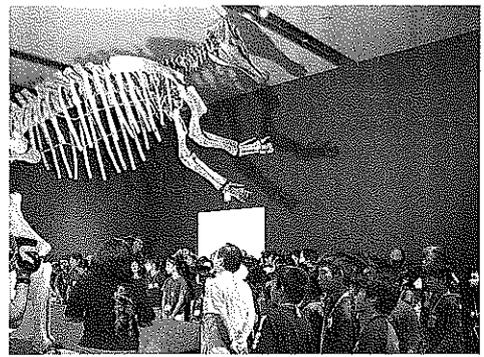
【展示内容】

恐竜の起源・登場から絶滅までを代表的な化石骨格・生態モデルを紹介しながら時代を追って展示した。恐竜系統樹を基に初期の恐竜の姿、巨大化・多様化し繁栄する恐竜たちを三畳紀からジュラ紀、白亜紀の順に紹介し恐竜への理解を深め、恐竜発見の歴史とともに、研究のエピソードも交えて解説した。具体的には、ヨーロッパで発見された恐竜から、アジア大陸ゴビ砂漠の恐竜、アメリカ大陸の恐竜と世界的な規模の全身骨格標本・資料等約100点とそのほかの資料を含めた約300点で、分かりやすくかつ迫力をもった恐竜ワールドを再現し、大人から子供まで楽しく学んで体感できるようにした。全長27メートルのディプロドクスをメインに、エオラプトル、カマラサウルス、トウオジアンゴサウルス、当館のタルボサウルス等の全身骨格のほか、パラサウロプスの鳴き声を検証し再現した音声装置で恐竜の生態に迫った。

恐竜の骨格組み立てキット、恐竜の発掘体験を楽しめるコーナーなどを併設し、恐竜発掘の楽しさも味わってもらった。また、館入口から会場へは、恐竜の足跡をかたどったマークを張り、楽しく会場にたどりつけるよう、わくわく感を盛り上げた。



開会式の様子



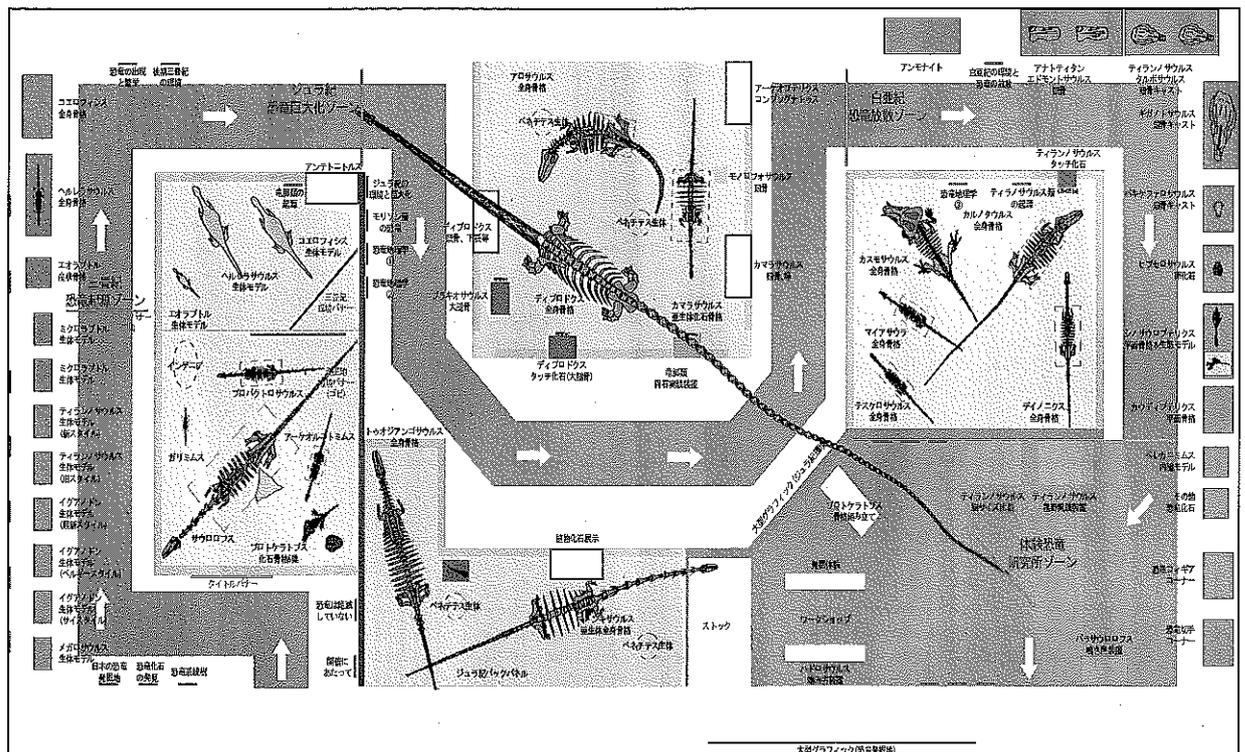
会場の様子

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「博物館 III 教育普及活動」「文化の杜共同企業体 V 教育・イベント」を参照いただきたい。

- シンポジウム（「りゅうきゅうときょうりゅう」）
- 講演会（「恐竜は本当に絶滅したのか？」）
- ワークショップ（「親子紙ねんど造形教室」「大人のための恐竜造形づくり」「ペレットからの発見」「アースブロック体験教室」「化石発掘体験」「化石レプリカ作り」）
- 展示解説会

【展示配置図】



5. 『哀愁と血の造形－嘉手川繁夫の世界－』

会 期：2008年7月15日（火）～8月31日（日）（42日間）
会 場：美術館企画展ギャラリー1、2
観 覧 料：大人800円、高校・大学生500円、小・中学生300円
観覧者数：7,528人
予 算 額：7,037,561円

【開催趣旨】

独自の手法によって故郷「沖縄」を表現し続けた関東在住の作家・嘉手川繁夫（沖縄市泡瀬出身、1929-）の魅力あふれる作品を展示・紹介する。遠くにあっても沖縄にこだわり続けた一人の作家の半生を物語る作品を通して、鑑賞者各人それぞれの「内なる沖縄」に触れる。美術館企画ギャラリーで開催する初めての個展となる。

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
特別協力：泡瀬復興期成会／(株)お菓子のポルシェ（御菓子御殿）
協 賛：(株)琉球銀行・創立60周年企画
後 援：琉球放送／琉球朝日放送／朝日新聞社／NHK沖縄放送局／エフエム沖縄／那覇市

【開会式】

日 時：2008年7月15日（火）10:00～10:30
場 所：美術館企画ギャラリー1前
参 加 者：嘉手川繁夫氏（作家・出展者）、牧野浩隆館長、平良知二文化の杜共同企業体代表、嘉手川繁一泡瀬復興期成会会長、澤岷善之氏、澤岷安信お菓子のポルシェ会長、比嘉朝松琉球銀行専務（以上テープカット者）ほか64人。



テープカットの様子（左から澤岷善之氏、平良知二文化の杜代表、嘉手川繁夫氏、牧野館長、嘉手川繁一氏、澤岷安信氏、比嘉琉球銀行専務の各氏）

【展示内容】

第1章「哀愁の沖縄」

1950年代、嘉手川繁夫は「沖縄」を表現することにこだわり、創作活動をスタートさせた。「哀愁」という言葉には沖縄の歴史的悲哀と、また一方でそうでない「豊かな沖縄」への想いという複雑な心情が込められている。「哀愁の沖縄」（第10回沖展出品作）は多摩美術大学在学中の1956年に描かれ、嘉手川の創作活動の原点といえる作品である。このほ

か「裂かれた風景」「島人」など初期の代表作を紹介する。

第2章「マチエール」

1960～70年代はレジスタンス色の濃い作風から次第に、素材そのものの持つ力を追及していくようになる。胡粉に接着剤を混ぜた独自の下地材を用いて、立体的なマチエールの表現に没頭していく。こうして生み出された作品は工芸的要素を帯びつつも独自性の高い表現として美術界から注目を浴びた。「いのちの飾り」、「南国妖花」、「あけもどろの花」など、嘉手川のほとぼしる情熱の痕跡を紹介する。

第3章「鉄の造形」

1969年頃より嘉手川は民具収集を始める。生活用具として作られ、時を経てなお自然に適った美しさを放つ道具たちのその「無名性」に惹かれ、創作の新たな境地を見出した。近年、江戸時代の鉄を使って制作された造形作品は、素材の持つ力にこだわり続けた絵画の延長線上にあるといえる。「輪の家」「天の輪・地の輪」から感じられるのは古い鉄がかもし出す時空感覚、さらには沖縄の信仰世界を彷彿させる。

第4章「マブイズム」

嘉手川の造語である「沖縄のマブイ（魂）信仰を尊重する考え方」には、沖縄の土着の魂、精神性が込められている。「沖縄」を追及し模索し続けてきた画家が探り当てた一つの到達点が「マブイズム」の世界だったのかも知れない。近年は、絵画、立体といった作品形態の枠を飛び越え、思想性豊かな創作活動を展開している。絵画の「マブイ」、「愛」、「いのち」といったテーマは、刃物を輪で包み込むといった鉄の造形作品「輪のつらなり」につながる普遍的世界を象徴しているといえる。



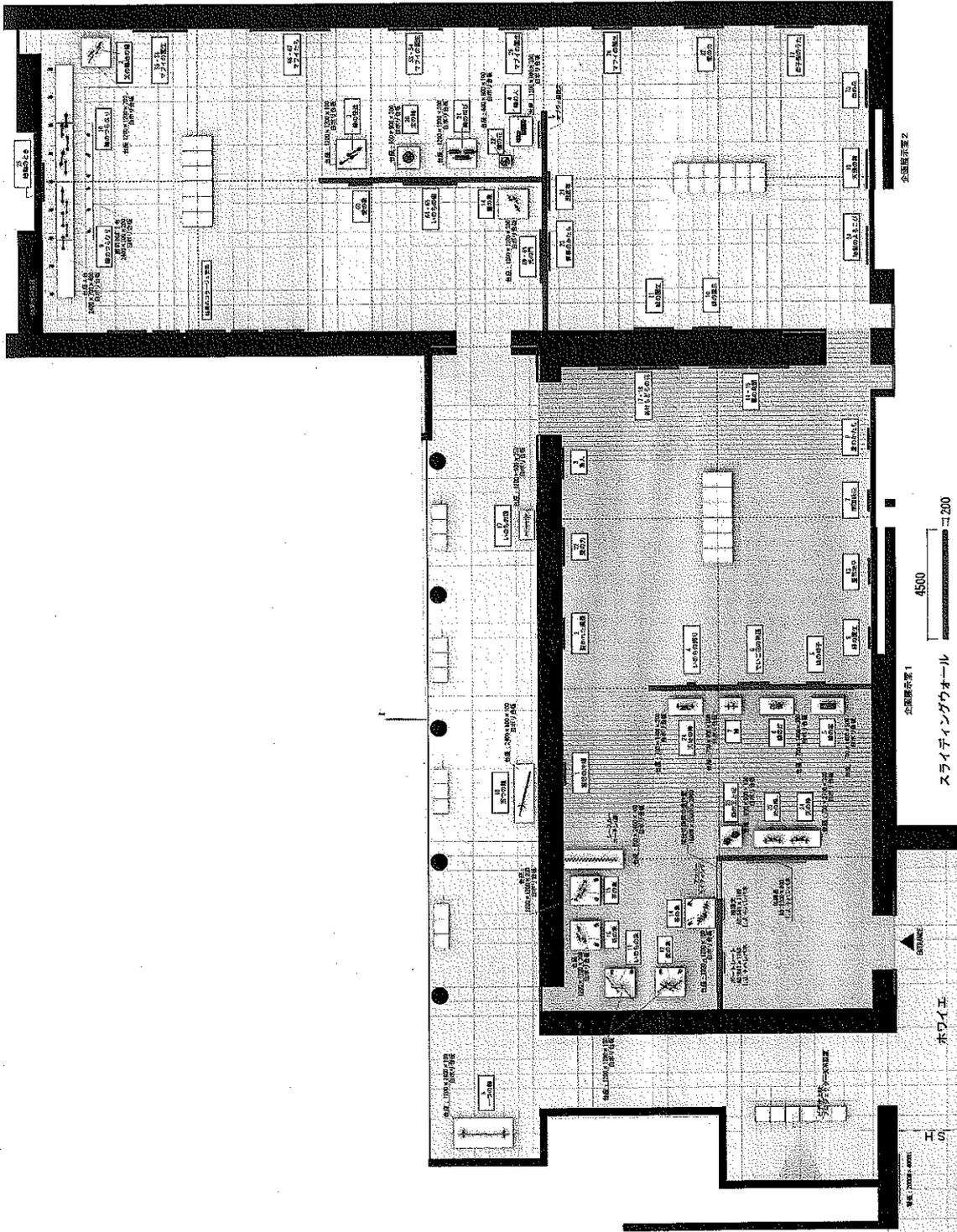
展示会場で作品を解説する嘉手川繁夫氏（中央右、背広姿）

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「文化の杜共同企業体 V 教育・イベント」を参照いただきたい。

- ギャラリートーク
- シンポジウム（「I. 哀愁と血の造形」「II. マブイズム」「III. 時代と表現」）
- 講演会（「戦後美術の光と影」）
- 夜会（「首里フジコライブ&パフォーマンス」）
- パフォーマンス（「絵画と舞踊のコラボレーション」）

【展示配置図】



6. 『しまくとぅばー未来へつなぐアート展ー』

会 期：2008年9月9日（火）～10月5日（日）（24日間）

会 場：美術館企画展ギャラリー1、2

観 覧 料：大人700円、高校・大学生500円、小・中学生400円

観覧者数：5,005人

予 算 額：8,446,808円

【開催趣旨】

沖縄文化の基層を成す言語「しまくとぅば」をテーマに、表現の空間である美術館においてアートで表現する企画である。映像やインスタレーションなど、現代アートを通して郷土の言葉の美しさや力強さを再体験してもらおうとともに、文化の継承について考える。

「しまくとぅば」とは沖縄にとって何であるのか、地域のことばと深い関係にあるアイデンティティーはどのような形で残っているのか、しまくとぅばを取り巻くさまざまな側面を検証し、継承の可能性がどのようなかたちで見られるのかをアートを通して探り、表現する。また、「しまくとぅばを奪われた過去をもつ世代」と、「しまくとぅばを話せない現代の世代」を、しまの「現在」と「未来」というキーワードで結びつけて、文化の継承を考えていく、コミュニティのためのアートである。

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館

共 催：沖縄県議会

協 賛：(株)琉球銀行・創立60周年企画／エプソン販売株式会社

特別協力：NPO法人沖縄語普及協議会／琉球弧を記録する会／沖縄言語研究センター
／沖縄県老人クラブ連合会／沖縄県社会福祉協議会／沖縄県文化協会

後 援：沖縄タイムス社／琉球新報社／琉球放送／NHK沖縄放送局／沖縄テレビ／琉球朝日放送
／ラジオ沖縄／エフエム沖縄／タイフーンfm／FMレキオ

【開会式】

日 時：2009年9月9日（火）9:00～0:00

場 所：美術館企画ギャラリー1前

参 加 者：赤嶺昇沖縄県議会副議長、大城勇夫琉球銀行頭取、比嘉豊光氏、牧野浩隆館長、
平良知二文化の杜共同企業体代表（以上テープカット者）ほか20人

【展示内容】

第1章「多様性」

琉球弧を記録する会編の映像作品「しまくとぅばで語る戦世」をビデオ上映しながら、会場の壁面には「しまくとぅば」で戦争体験を語っている人々の迫力ある写真を展示。悲惨な戦争体験をした方々が、何をどう訴えようとしているのか、目で見て、肌で感じてもらう。ビデオではそれぞれの「しまくとぅば」の多様性を感じとりながら、沖縄戦の意味を考えてもらう。

第2章「継承と未来」

若い世代がそれぞれ感じている「しまくとぅば」をテーマに、言葉と密接に関係している「アイデンティティー」まで感性豊かにアートで表現してもらい、鑑賞者に「しまくとぅば」の持つ意味とその継承を考えてもらう。

【関連催事】

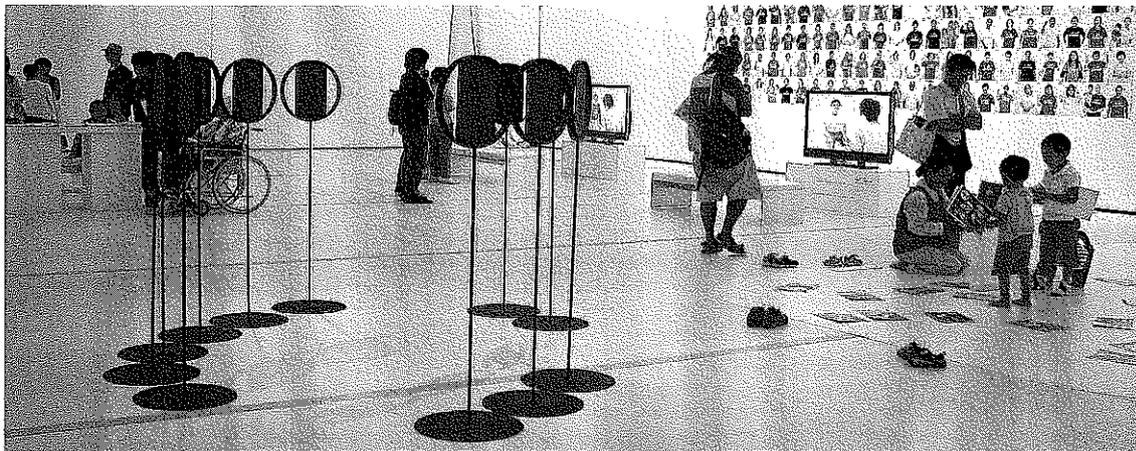
今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「文化の杜共同企業体 V 教育・イベント」を参照いただきたい。

○講演会（「外国人から見たしまくとぅばの魅力」）

○シンポジウム（「しまくとぅばシンポジウム」）

○ワークショップ（「しまくとぅばで指あそび」「しまくとぅばわらべうた」「しまくとぅばで語る戦世」）

- 「しまくとうばでドラえもん」「広みらなしまくとうば」
 ○お話し会（「つれづれに琉球文化」）
 ○ギャラリートーク
 ○パフォーマンス（「しまくとうばも戦世も語れないシリーズ」）
 ○芝居（「針突（ハジチ）」）
 ○その他



「しまくとうば」展を楽しむ観覧者

7. 自主企画『あんやたん展』(写真展)

- 会 期：2008年5月8日（木）～5月11（日）（4日間）
 会 場：県民ギャラリー1、2、3
 観 覧 料：無料
 観覧者数：約800人
 予 算 額：0円

【開催趣旨】

沖縄タイムス社が所蔵する戦後の写真をパネルで紹介する『あんやたん展』を県民ギャラリーで開催する。敗戦直後から日本復帰し沖縄国際海洋博覧会が行われた1970年代までの写真を中心に130点を展示し、人々の記憶を掘り起こす。

【開催形式】

- 主 催：文化の杜共同企業体
 協 力：沖縄タイムス社

【展示内容】

敗戦直後の写真から、戦後復興に励む県民の姿、米軍支配下での事件や事故、復帰へのうねり、復帰そして沖縄海洋博覧会まで、沖縄県民が歩んだ戦後史をわかりやすくだっていけるよう時代順に130点の写真パネルを展示した。

8. 「慰霊の日」企画『戦況を伝える新聞—あの時私はどこにいたのか』

- 会 期：2008年6月21日（土）～6月29日（日）（8日間）
 会 場：情報センター
 観 覧 料：無料

【開催趣旨】

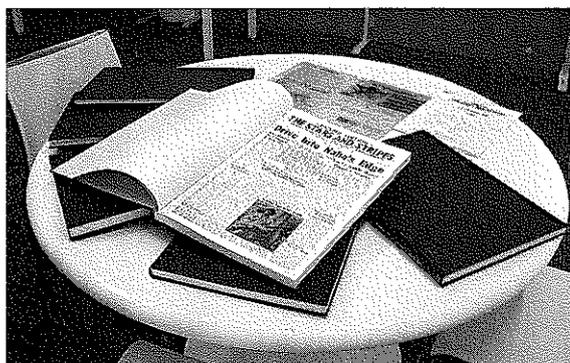
沖縄戦の激戦地に建つ当館が開館して初の「慰霊の日」を迎えるにあたり、1945年の沖縄戦当時の様子を伝える英字新聞「スターズ・アンド・ストライプス」の復刻版を情報センターの閲覧用に置き、入館者にこの地で起きた「戦争」と「平和」について考えてもらう。6月「慰霊の日」の催しとしても大きな意義があるので、毎年続けるためにも先鞭をつけた。誘客につながる仕組みをつけるためにも重要であり、情報センターの活用幅を広げることにもなる。

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体
協 力：沖縄タイムス社

【展示内容】

1945年5月の沖縄戦の様子から、敗戦直後の東京の様子を写真で紹介した米軍の機関紙「ザ・スターズ・アンド・ストライプス」（太平洋・中部太平洋版）の9月までの復刻版23日分を入手。沖縄を取り上げた主な記事が読めるように展示した。



那覇・首里の攻防など沖縄戦を伝える英字新聞「ザ・スターズ・アンド・ストライプス」を展示

9. 『世界の現代アーティスト50人展ーガルシア・ロルカを顕彰して』石垣移動展

会 期：2008年9月24日（水）～10月5日（日）（12日間）
会 場：石垣市民会館展示ホール
観 覧 料：大人800円、高校・大学生500円、小・中学生300円
予 算 額：943,514円

【開催趣旨】

世界的なアーティスト50人が、スペイン内戦で殺害された詩人で劇作家のフェデリコ・ガルシア・ロルカ（1898-1936）の功績をたたえて作成した作品の展示会。2008年3月16日から5月11日まで沖縄県立博物館・美術館で開催した同名の展示会を、美術作品にふれる機会の少ない石垣市民をはじめとした近隣町村、観光客らに鑑賞してほしいと実施した。

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体
後 援：石垣市／石垣市教育委員会／八重山毎日新聞社
協 力：ハートライフ病院、ギャラリーアトス、南西医療器（株）

【開会式】

日 時：2008年9月24日（水）10:00～10:30
場 所：石垣市民会館展示ホール前

参加者：トニー・ポリテオ氏（美術コレクター）、長嶺豊ギャラリーアトス代表
平良知二文化の杜共同企業体代表（以上テープカット参加者）ほか約10人

【展示内容】

県立博物館・美術館で開催されたように、世界的なアーティスト50人の版画作品50点を展示紹介。ガルシア・ロルカ（1898-1936）の年譜を世界的な年表と重ね合わせて、ロルカの時代的背景が理解できるようにした。

【関連催事】

今回の企画展の関連催事としてアーティストトークを行った。詳細は「文化の杜共同企業体 V 教育・イベント」を参照いただきたい。

10. 『クジラとぼくらの物語』（九州大学ユーザーサイエンス機構巡回展）

会 期：2009年2月17日（火）～22日（日）（6日間）

会 場：博物館講座室

観 覧 料：無料

予 算 額：20,000円

【開催趣旨】

沖縄近海で冬に出産し子育てするクジラのいることを知ってもらいながら、環境問題を考えていこうと企画し、クジラと人間のかかわりをわかりやすく紹介し楽しく学べるようにした。2008年からはじまった巡回展で、今年は県内では座間味村、名護市でも開催された。クジラの繁殖地と向かい合う那覇に建つ本館からもクジラの海をアピールし、環境や文化を考える機会にする。コミュニケーターを短時間で育成するプログラムを有し、親子の参加者と一体となって展開するワークショップなど質の高さは定評がある。

【開催形式】

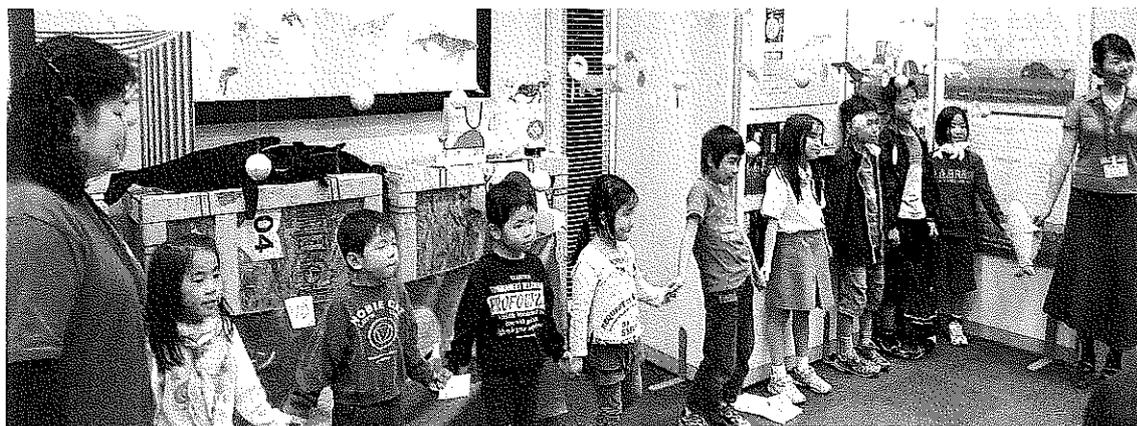
主 催：文化の杜共同企業体

共 催：九州大学ユーザーサイエンス機構ユーザーサイエンス部

後 援：沖縄県／琉球放送／沖縄タイムス社／琉球朝日放送／NHK沖縄放送局／沖縄テレビ／琉球新報

【展示内容】

クジラの生態や科学的な分析、はく製や歯、リュウゼンコウに実際に接してもらい、クジラと関わる祭りなどを紹介する。また、クジラのふるさとの沖縄のサンゴの海にも焦点を当て、サンゴの生態系の役割、美しさ、不思議さをアピールしながら、かけがえのない海と生き物たちについて子供から大人まで楽しく学べる場をつくった。はく製は本館の展示物で、沖縄近海のクジラがより身近な存在として感じられるように工夫した。



『クジラとぼくらの物語』展を楽しむ子どもたち（博物館講座室の会場）

【関連催事】

今回の企画展の関連催事として以下の事業を行った。詳細は「文化の杜共同企業体 V 教育・イベント」を参照いただきたい。

- 「クジラ博士の出張授業」
- 「クジラのモビールづくりとクジラ展セレモニー」

1 1. 『ダリ展』

会 期：2008年10月9日（木）～10月31日（金）（20日間）

会 場：エントランスホール

観 覧 料：無料

【開催趣旨】

スペインの世界的芸術家のサルバドール・ダリが1975年の沖縄海洋博覧会のために創作した彫刻作品「沖縄の海より出ずる太陽の神」の最終特別展示会を10月9日から同31日まで本館で開催した。同作品の県内巡回展は9月末で終了したが、沖縄ダリプロジェクト実行委員会（前田孝允会長）からの依頼があり、県教育委員会や館側とも相談、より多くの県民に見てほしいと開催を決めた。

【開催形式】

主 催：沖縄ダリプロジェクト実行委員会

特別協力：文化の杜共同企業体

【展示内容】

サルバドール・ダリが1975年の沖縄海洋博覧会のために創作した彫刻作品「沖縄の海より出ずる太陽の神」をエントランスホールに展示。入館者に無料で参観してもらった。

1 2. 県民ギャラリー

県民に発表の場を提供する県民ギャラリーは2008年4月から一般への貸し出しを開始した。貸出は美術館班と協議し、原則的には県内在住者へ1週間としている。年間76回貸し出すことができた。

スタート時の4月から8月上旬までは美術館班と協議し、県内の美術界をけん引してきた作家中心に「リーディング展」と銘打ち県民ギャラリーの利用をPRした。参加者には、美術館の教育普及事業としてアーティストトークやギャラリートーク、ワークショップなどを実施してもらった。

県民ギャラリーでは個展のほかグループ展、韓国济州特別自治道・沖縄県美術家連盟合同交流展（8月19日～24日）等にも活用してもらった。

VI. 教育・イベント活動

1. 教育・イベント活動の概要

県民をはじめ多くの来場者が本館に親んでもらえるよう、学びの場としてあるいは発表の場として活用してもらおうよう、年間を通して多彩なワークショップや催し物・イベントを展開した。企画展にあわせて、講演会やシンポジウムを実施したほか、教育普及事業では博物館班や美術館班と連携しながら独自の参加型の体験学習を提供した。また、文化施設の質を高め、可能性を広げようと、「おもしろ夜会」や「しまくとばプロジェクト」「映画鑑賞会」「演奏会」なども展開した。

2. 講演会・シンポジウム

○「無言館のこと」

講師：窪島誠一郎（無言館 館長）

日時：2008年5月17日（土）13:00～14:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連講演会。無言館の窪島誠一郎館長が無言館の設立から戦没画学生のこと、無言館に作品を託した遺族たちの心情を伝えた。同展の趣旨を踏まえ、戦争と平和を考える機会にしたいと開催した。

受講者：170人

○「画家と戦争」

講師：河田明久（早稲田大学 非常勤講師）

日時：2008年5月24日（土）14:00～16:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連講演会。戦争画を分析している新進気鋭の研究者・河田明久氏が画家と戦争の向き合い方を解説した。

受講者：24人

○「画家と自画像～時代と向き合う～」

講師：河邑厚徳（NHK・ETV特集 総括プロデューサー）

日時：2008年5月31日（日）13:00～15:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連講演会。100年以上にわたって「自画像」を卒業制作の課題にしている東京美術学校（現・東京藝術大学）を取り上げてテレビ番組を制作した河邑厚徳プロデューサーを講師に、制作した番組を視聴した後、「自画像」制作の意味を考えた。

受講者：26人

○「しまくとうばーその多様性と未来をさぐるー」

基調報告：狩俣繁久琉球大学教授「しまくとうばの多様性と取り巻く現状」

上映会：「しまくとうばで語る戦世」（琉球弧を記録する会）

討論会：「<しまくとうば>その多様性と未来をさぐる」

討論者：宮里朝光（沖縄語普及協議会会長）「普及協議会の取り組み、しまくとうば条例ができるまで」

：比嘉豊光（琉球弧を記録する会）「なぜ、しまくとうばだったのかー証言記録を通してー」

：知念ウシ（むぬかちやー）「私にとってのしまくとうばーしまくとうばの学びを通してー」

：狩俣繁久（琉球大学教授）「専門家の役割ーしまくとうばの危機と可能性に向き合ってー」

日時：2008年6月1日（日）14:00～17:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：沖縄文化の基層を成す「しまくとうば」の可能性を探り、普及を図る目的でプロジェクトを立ちあげて開催した第1回のシンポジウム。基調報告、上映会、討論と展開した。

受講者：210人

○「無言館のこと」

講師：窪島誠一郎（無言館 館長）

日時：2008年6月21日（土）10:00～11:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連講演会。無言館の窪島誠一郎館長による2度目の講演会である。「慰霊の日」を前に、無言館設立のいきさつなどを語った。

受講者：102人（入場料500円）

○「画家たちの戦争体験と表現」

討論者：宮里正子（出展画家故・安次嶺金正氏の長女）、山元文子（出展画家故・山元恵一氏の妻）
山田昇作（出展画家故・山田真山氏五男）、大嶺 隆（出展画家故・大嶺政敏氏三男）

進行者：星 雅彦（美術評論家）

日 時：2008年6月21日（土）15:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連シンポジウム。作品が紹介されている4人の画家の遺族により、作品が生まれていく背景を家族の側からの視点で秘話を交え語ってもらった。

受講者：60人

○「光龍唄会・狩俣先生とうめ話会」

出 演：比嘉光龍（唄者）、狩俣繁久（琉球大学 教授）

日 時：2008年6月28日（土）18:00～19:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：しまくとぅばの存続を訴えて普及活動を展開している若手唄者・比嘉光龍（比嘉パイロン）氏による歌・三線の演奏会と、琉球弧の言語研究者・狩俣繁久琉球大学教授とのトークショーの2部構成で行った。

参加者：75人

○「シンポジウムⅠ 哀愁と血の造形」

講 師：嘉手川繁夫（作家）

討論者：菌部雄作（美術評論家）、嘉手川繁夫（作家）、稲嶺成祚（画家）、星雅彦（美術評論家）

進行者：小橋川順市（工芸研究家）

日 時：2008年7月19日（土）13:00～15:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：企画展「哀愁と血の造形」の関連シンポジウム。第一部で本展覧会の作家・嘉手川繁夫氏が創作活動について語り、第二部のシンポジウムで討論者を交えて芸術論を展開した。

受講者：81人



芸術について語る討論者（左から嘉手川氏、菌部氏、稲嶺氏、星氏）

○「戦後美術の光と影」

講 師：針生一郎（美術評論家）

日 時：2008年8月3日（日）13:00～15:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：企画展「哀愁と血の造形」の関連講演会。美術評論家の針生一郎さんが「哀愁と血の造形」の作家嘉手川繁夫氏の創作活動を含め戦後美術について講演した。

受講者：154人

○「シンポジウムⅡ 哀愁と血の造形」

講 師：嘉手川繁夫（作家）、高嶺剛（映画監督）

進行者：小橋川順市（工芸研究家）

日 時：2008年8月9日（土）14:00～16:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：企画展「哀愁と血の造形」の関連シンポジウム。嘉手川繁夫氏と映画監督の高嶺剛氏が「マブイズム」について語った。嘉手川氏と高嶺氏の創作活動の原点にふれた。

受講者：138人

○「外国人からみたしまくとぅばの魅力ー与那国を焦点にー」

講 師：パトリック・ハインリッヒ（琉球大学 客員教授）

「地域言語の現状とその未来」

討論者：パトリック・ハインリッヒ（琉球大学 客員教授）、狩俣繁久（琉球大学 教授）

比嘉光龍（唄者）

唄・三線：与那覇ゆう、いずみ兄妹、比嘉光龍氏

日 時：2008年8月23日（土）14:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：企画展「しまくとぅば」のイベント関連講演会。琉球大学で沖縄の言葉を研究しているドイツのパトリック・ハインリッヒ客員教授の講演会と、言語学の狩俣繁久琉球大学教授や比嘉光龍氏（唄者）とのディスカッションがあった。また与那覇ゆう・いずみ兄妹が与那国の民謡を、比嘉氏が沖縄民謡を披露した。

受講者：230人（無料）

○「シンポジウムⅢ 時代と表現ー嘉手川繁夫を事例にー」

討論者：仲里効（映像評論家）、山城知佳子（アーティスト）、上間彩花（画家）

翁長直樹（県立博物館・美術館学芸員）、

進行者：後田多敦（文化の杜共同企業体）

日 時：2008年8月29日（金）20:00～22:00

場 所：美術館屋外展示場

内 容：企画展「哀愁と血の造形」の関連シンポジウム。「時代と表現」をテーマに討論を行った。シンポジウム終了後に、しば正龍（舞踏家）によるパフォーマンスも行われた。

受講者：135人

○お話し会「つれづれに琉球文化」

講 師：宮里朝光（沖縄語普及協議会 会長）

日 時：2008年9月6日（土）14:00～17:30

場 所：博物館講座室

内 容：共通語と「しまくとぅば」の違いについて、わかりやすく解説した。

受講者：85人（無料）

○「独立言語としての沖縄語」

講 師：宮良信詳（琉球大学 教授）

劇上演：浦添市立沢岬小学校しまくとぅばクラブ「六論衍義」

日 時：2008年9月14日（日）14:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：「しまくとぅば展」関連の講演会と劇上演会。講演会と浦添市立沢岬小学校しまくとぅばクラブの「六論衍義」の劇を上演し、しまくとぅば普及への意識を高めた。

受講者：60人

○「しまくとぅばシンポジウム」

第一部「しまくとぅばと現代アート」

討論者：比嘉豊光、宮城潤、儀間朝龍、宮城明（以上アーティスト）、親川志奈子氏（文化人類学）

進行者：後田多敦（文化の杜共同企業体 企画班）

第二部「沖縄の現代アート」

討論者：比嘉豊光、宮城潤、真喜志勉、新垣安雄（以上アーティスト）

進行者：翁長直樹（沖縄県立博物館・美術館 学芸員）

日 時：2008年10月5日（日）13:00～17:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：沖縄を拠点に活動しているアーティストをパネリストにシンポジウムを開催した。

受講者：130人

○「クジラ博士の出張授業」

講 師：山本徹（日本捕鯨協会）、細田徹（勇魚文庫）

日 時：2009年2月21日（土）14:00～14:50

場 所：博物館講座室

内 容：クジラの生態や一生についてわかりやすく説明した。

参加者：47人

3. ギャラリートーク・アーティストトーク

○企画展「情熱と戦争の狭間で」関連ギャラリートーク

解 説：土江真樹子（文化の杜共同企業体）

日 時：2008年5月18日（日）9:00～12:00

場 所：美術館企画ギャラリー1、2

内 容：児童・生徒の作品鑑賞を促すため、指導に当たる小・中・高校の教員を対象に開催した。8人の教諭が参加し、企画担当者の話を熱心に聞いていた。

参加者：教諭8人

○企画展「情熱と戦争の狭間で」関連ギャラリートーク

解 説：栗国久直（アーティスト）

日 時：2008年5月18日（日）13:00～14:00

場 所：美術館企画ギャラリー1

内 容：本展覧会に出品している栗国久直氏が自身の作品を解説した。

参加者：10人

○企画展「情熱と戦争の狭間で」関連鑑賞会

日 時：2008年6月21日（土）午前

場 所：美術館企画ギャラリー1

内 容：「慰霊の日」を前に平和教育に寄与したいと、宜野湾市の沖縄カトリック中学校・高校の生徒と教師75人を案内した。

参加者：沖縄カトリック中・高校75人（無料）

○企画展「情熱と戦争の狭間で」関連鑑賞会

日 時：2008年6月23日（月）9:00～18:00

場 所：美術館企画ギャラリー 1・2

内 容：「慰霊の日」にあわせて社会見学する那覇市内の珊瑚舎スコール夜間中学校の生徒らを招待し、展示会場を案内した。当日は県内の小・中学校生に本館の入場を無料にして、多くの美術作品を鑑賞するようPRした。

参加者：珊瑚舎スコール夜間中学校（那覇市）の生徒ら約20人

○企画展「哀愁と血の造形」関連ギャラリートーク

解 説：嘉手川繁夫（出展作家）、小橋川順市（工芸研究家）

日 時：2008年7月15日（火）10:30～11:30、14:00～15:00

場 所：美術館企画ギャラリー1、2

内 容：本展覧会は、嘉手川繁夫氏の作品を故郷で開く初の個展ということで、多くの人に作品の制作意図を知ってもらおうと、ギャラリートークを午前と午後、それぞれ1回ずつ行った。

参加者：96人

○企画展「しまくとぅば」関連ギャラリートーク

解 説：比嘉豊光、仲井眞麻・彩、豊永盛人、比嘉陽花、大山健治（以上同展出品アーティスト）、大城奈里子（文化の杜共同企業体）

日 時：2008年9月9日（火）10:00～12:00

場 所：企画展ギャラリー

内 容：出品している4人のアーティストや文化の杜共同企業体の同展担当者が、参観者に企画の意義や意図、作品の構成、作品解説などを行った。

参加者：130人

○「世界の現代アーティスト50人展 石垣巡回展」関連アーティストトーク

解 説：幸地学（アーティスト）

日 時：2008年10月2日（木）14:00～15:00、16:00～17:00（2回実施）

場 所：石垣市民会館展示ホール

内 容：参加アーティストの幸地学氏がわかりやすく展示作品を解説した。

参加者：55人（1回目）、10人（2回目）

○「写真インスタレーション展」関連アーティストトーク

解 説：高野生優、田本満、仲本賢、浦本寛史（4氏とも写真家）

日 時：2008年12月12日（金）18:30～20:00

場 所：県民ギャラリー、県民スタジオ

内 容：写真アートへの関心を高めようと、県民ギャラリーで作品展を実施している写真アーティストの4人を講師に、アーティストトークとワークショップを開催した。

参加者：15人

4. ワークショップ

○「布ぞうりづくり」

講 師：S a h

日 時：2008年4月27日（日）10:00～2:00、13:00～15:00

場 所：県民・こどもアトリエ

内 容：布切れを使いカラフルなアートぞうりを作った。室内用であれば、板床の空拭きにもいいという優れたものである。

参加者：26人（午前）、23人（午後）

○「植物をつかって昔のおもちゃをつくろうーソテツの葉で虫かごづくりー」

講 師：福島輝一（文化の杜共同企業体教育普及班）

日 時：2008年5月3日（土）14:00～16:00

場 所：博物館実習室

内 容：開館して初めてのゴールデンウィークに、親子参加型の教育普及事業の一環として親子を対象にしたおもちゃづくりを実施。ソテツの葉を使った昔なつかしい虫かごづくりを手ほどきし、花生け用の活用も提示した。

参加者：15人

- 「植物をつかって昔のおもちゃをつくろうー竹で紙鉄砲をつくるー」
 講 師：福島輝一（文化の杜共同企業体教育普及班）
 日 時：2008年5月4日（日）14:00～16:00
 場 所：博物館実習室
 内 容：親子参加型の教育普及事業の第二弾として竹で紙鉄砲をつくる工作教室を実施した。竹に接する機会が少ないせいか、工作は人気を博した。
 参加者：17人
- 「母の日に贈る・絵手紙うちわづくり」
 講 師：國吉篤子（アートスクール講師）
 日 時：2008年5月4日（日）14:00～16:00
 場 所：県民・こどもアトリエ
 内 容：「母の日」に向け手作りのプレゼントになる「絵手紙うちわづくり」を実施した。
 参加者：17人
- 「親子でつくる・バッグづくり」
 講 師：岡本美奈子（文化の杜共同企業体 企画班）
 日 時：2008年5月5日（月）14:00～16:00
 場 所：県民・こどもアトリエ
 内 容：自分だけのエコバッグを気軽に作れるようになりたいとの要望に応え、アート性を豊かに盛り込んだユニークなバッグをつくるワークショップを開いた。親子連れでにぎわった。
 参加者：4組12人
- 「ペアシーサーづくり」
 講 師：平良みどり（作家）
 日 時：2008年5月5日（月）10:00～12:00、14:00～16:00
 場 所：博物館実習室
 内 容：沖縄の歴史や民俗、工芸にふれる一環で、陶器のシーサーづくりを楽しんでもらった。窯で焼いた作品は6月に受け渡した。
 参加者：20人（午前）、20人（午後）
- 「紅型コースターづくり」
 講 師：乙黒信（紅型作家）
 日 時：2008年5月6日（火）14:00～16:00
 場 所：博物館実習室
 内 容：沖縄の伝統工芸に親しむことを目的に、紅型染めのコースターづくりを行った。
 参加者：15人
- 「自画像を描く」
 講 師：中島イソ子（画家）
 日 時：2008年5月25日（日）13:00～16:00
 場 所：県民・こどもアトリエ
 内 容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連ワークショップ。自画像を描き続けている画家の中島イソ子氏を講師に、自画像を描くことを通して自分自身とあるいは時代と向き合うことを試みた。
 参加者：18人
- 「自分の大切なものを描く」
 講 師：ギマトモタツ（アーティスト）
 日 時：2008年6月7日（土）13:00～15:00
 場 所：県民・こどもアトリエ

内 容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連ワークショップ。本展覧会のテーマに沿って、「自分の大切なもの」に向き合おうと企画した。子供たちがそれぞれ大切なものを写しとり、作品に仕上げた。作品は同展の企画ギャラリーの帰路の壁に展示し参観者にアピールした。

参加者：17人



「自分の大切なものを描く」で作品を作った親子ら（県民・こどもアトリエ）

○「水玉模様エコバッグづくり」

講 師：ナカハジメ（イラストレーター）

日 時：2008年7月20日（日）13:00～15:00

場 所：県民・こどもアトリエ

内 容：アーティスト草間弥生氏に迫ったドキュメント映画「草間弥生・わたし大好き」の上映（7月25日）に先駆けて、バッグ作りのワークショップを開いた。

参加者：6人

○「化石発掘体験」

講 師：文化の杜共同企業体スタッフ

日 時：2008年7月23日（水）～9月6日（土）（7月は5日間、8月は19日間、9月は1日間開催）

場 所：沖縄県立博物館・美術館 正面入り口側の雨端

内 容：特別展「恐竜ミュージアム2008」のワークショップ。発掘が模擬体験できるよう簡易の砂場を作り、アンモナイトやサメの歯の化石がもらえる発掘体験を実施した。

参加者：計1,980人（7月は368人、8月は1,566人、9月は46人）

○「化石レプリカづくり」

講 師：文化の杜共同企業体スタッフ

日 時：2008年7月23日（水）～9月7日（日）（7月は2日間、8月は17日間、9月は2日間開催）

場 所：館正面入り口そばの雨端

内 容：特別展「恐竜ミュージアム2008」の関連ワークショップ。「お湯まるくん」をアンモナイトなどの化石の型に入れてレプリカを作り、アクセサリーとして供した。

参加者：計2,647人（7月は72人、8月は2,028人、9月は547人）

○「親子ねんど造形教室」

講 師：津波信久（作家）

日 時：2008年8月16日（土）9:00～12:00

場 所：県民・こどもアトリエ

内 容：特別展「恐竜ミュージアム2008」の関連ワークショップ。紙ねんどの恐竜作りを通して、造形の面白さを体験した。

参加者：親子10組28人

○「大人のための恐竜造形づくり」

講師：比嘉ブラザーズ（造形作家）

日時：2008年8月17日（日）13:00～17:00

場所：県民・こどもアトリエ

内容：特別展「恐竜ミュージアム2008」の関連ワークショップ。米ハリウッドの映画界でも活躍した造形作家の比嘉ブラザーズを講師に7人の応募者に撮影にも使えるリアルな恐竜作りのノウハウを伝授した。

参加者：7人

○「ペレットからの発見」

講師：知念幸子（沖縄県立博物館・美術館 学芸員）

日時：2008年8月22日（金）10:00～12:00、14:00～16:00

場所：博物館実習室

内容：特別展「恐竜ミュージアム2008」の関連ワークショップ。北米に生息するフクロウが吐き出した未消化の内容物（ペレット）を少しずつ慎重にほぐしながら観察し、恐竜の子孫といわれる鳥類の食物連鎖の一例を考えた。

参加者：11人（午前7人、午後4人）

○「アースブロック体験（玩具で恐竜づくり）」

日時：2008年8月23日（土）、24日（日）13:00～16:00

場所：県民・こどもアトリエ

内容：特別展「恐竜ミュージアム2008」の関連ワークショップ。環境や人にやさしい製品づくりにも取り組んでいる業者のブロック式玩具を使って、恐竜づくりで遊んだ。

参加者：42人（23日）、37人（24日）

○「しまくとうばで指あそび」

講師：金城春子氏

日時：2008年8月28日（木）14:00～15:00

場所：エントランスホール

内容：企画展「しまくとうば」のイベント関連ワークショップ。沖縄の昔話や童謡などの継承や普及に取り組んでいる金城春子さんを講師に、幼稚園児や母親らが楽しいひと時を過ごした。

参加者：78人

○「しまくとうばで指あそび」

講師：金城春子氏

日時：2008年9月9日（火）、23日（火）、30日（火）14:00～15:00

場所：エントランスホール、美術館企画ギャラリー

内容：企画展「しまくとうば」のイベント関連ワークショップ。しまくとうばの魅力を伝えようと、昔話や童謡などの継承・普及に努めている金城春子さんを講師に、幼稚園児や親子連れに指あそびを展開してもらった。

参加者：計80人

○「吹き替えワークショップ『しまくとうばでドラえもん』」

講師：野村道子（声優）、津波信一（役者）

日時：2008年9月21日（日）、27日（土）、28日（日）

場所：博物館講座室

内容：舞台で活躍する役者や声優を講師に、一般公募した子供たちに人気アニメ「ドラえもん」のセリフを「しまくとうば」で行った。子供たちに3日間のワークショップに参加してもらい、最終日には「しまくとうば」での吹き替えに挑戦。地元の言葉の良さにふれてもらった。

参加者：27人（父母ら見学者30人）

○「ふれあい体験講座」

講師：上運天研成（おもちゃの会ピノキオ 会長）

日時：2008年11月3日（月）10:00～11:00、14:00～15:00

場所：博物館実習室

内容：博物館常設展「ふれあい体験室」の展示品の修繕費を捻出する目的で、昔の遊び道具に詳しい上運天研成氏を講師にクロツグの葉を使ったバッタづくりを行った。

参加者：20人（午前）、30人（午後）

○「土曜おやこ造形教室—お絵描き—」

講師：砂川恵光（作家）

日時：2008年11月8日（土）、2009年1月10日（土）2回とも9:00～11:00

場所：県民・こどもアトリエ

内容：美術館の県民・こどもアトリエの活用を促進するため実施し、親子で造形に親しんでもらった。

参加者：親子13組（子供19人）（1回目）、親子5組（子供7人）（2回目）

○「土曜おやこ造形教室—ねんど造形—」

講師：津波信久（作家）

日時：2008年11月8日（土）、2009年1月10日（土）2回とも13:00～15:00

場所：県民・こどもアトリエ

内容：美術館の県民・こどもアトリエの活用を促進するため実施し、親子で絵画に親しんでもらった。

参加者：親子2組（子供3人）と大人2人（1回目）、親子4組（子供5人）（2回目）

○「小皿をつくろう」

講師：高江洲淳子（陶芸作家）

日時：2008年11月22日（土）13:30～17:00

場所：県民・こどもアトリエ

内容：美術館の県民・こどもアトリエの活用を促進する目的で大人向けの「ワークショップ」を開催した。

参加者：14人

○「マイバッグを染める」

講師：田中紀子（染色作家）

日時：2008年11月23日（日）13:30～17:00

場所：県民・こどもアトリエ

内容：買い物袋などをアート心いっばいに染めて、自分だけのバッグを作った。

参加者：12人

○「コルクを使って『クリスマスオーナメント』をつくろう！」

講師：石垣克子（アーティスト）

日時：2008年12月6日（土）13:00～15:00

場所：エントランスホール

内容：クリスマスを前に身近な素材コルクを使った飾り作りを提案し、クリスマス気分を盛り上げた。

参加者：13人

○「ピンホールカメラの制作+撮影+現像」

講師：仲本賢氏（沖縄県立芸術大学准教授、写真家）

日時：2008年12月13日（土）11:00～15:00

場所：県民ギャラリー、県民スタジオ、館周辺

内容：近年注目を集めているピンホールカメラについて学ぶワークショップを開設。カメラの原理から撮影、現像まで挑戦してもらった。

参加者：3人

○「ウルガをつくろう！」

講 師：宜保朝子（芸術家）

日 時：2009年1月12日（月）13:00～15:00

場 所：県民・こどもアトリエ

内 容：丑年にちなみ、干支の牛のおもちゃを作った。ウルガはモンゴル語で牛のことである。

参加者：親子9組（子供12人）

○「トコトコ歩く牛のおもちゃをつくろう！」

講 師：上運天研成（おもちゃの会ピノキオ 代表）

日 時：2009年1月12日（月）10:00～、11:00～、14:00～、15:00～（計4回）

場 所：博物館実習室

内 容：丑年にちなみ、板を使って動く牛のおもちゃをつくる。

参加者：計87人

○「勾玉をつくろう！」

講 師：文化の杜共同企業体スタッフ

日 時：2009年1月11日～2月22日の毎日曜（1月は3日間、2月は4日間）

時間はいずれも13:00～17:00

場 所：館正面入り口そばの雨端

内 容：博物館企画展「発見された日本列島2008」にあわせてキット製品を利用した勾玉づくりを行い、来館者の歴史ロマンの後押しをした。

参加者：82人（1月）、212人（2月）

○「クジラのモビールづくりとクジラ展セレモニー」

講 師：田中聡（沖縄県立博物館・美術館 学芸員）

清水麻記、真武恵美、黒澤茂樹（以上、九州大学ミュージアム研究会）

謝花佐和子（文化の杜共同企業体 企画班）

日 時：2009年2月21日（土）15:00～16:30

場 所：博物館講座室

内 容：企画展「クジラとぼくらの物語」の関連ワークショップ。企画展コマッコウのはく製などを使い、体の動きと進化、環境についての話を聞き、クジラのモビール作りを楽しんだ。

参加者：26人

5. コンサート

○「魂の祈り～天満敦子バイオリン演奏」

日 時：2008年6月23日（月）12:00～12:30

出 演：天満敦子（バイオリン奏者）

場 所：美術館企画ギャラリー1

鑑賞者：200人

内 容：企画展「情熱と戦争の狭間で」の関連コンサート。23日の「慰霊の日」の追悼行事として国内外で演奏活動を展開し人気の高い女性バイオリニストの天満敦子さんを招いた演奏会を開催した。約200人の鑑賞者が、戦没画学生の作品が掲げられた企画ギャラリーの展示会場で、作品を鑑賞しながら静かにバイオリンの調べに聴き入った。

○「合唱によるレクイエム」

日 時：2008年6月23日（月）15:30～16:00

出 演：首里高校合唱部

場 所：美術館企画ギャラリー

鑑賞者：約150人

内容：慰霊の日にあわせ、首里高校合唱部によるレクイエム合唱を行った。県出身画家の作品が並ぶ美術館企画ギャラリー2で、鑑賞者が生徒たちの心に響く追悼の歌を聴き入った。



レクイエム合唱する首里高校の合唱部

○「しもじなを美コンサート」

日時：2008年7月19日（土）14:00～14:30、16:00～16:30

出演：しもじなを美（シンガーソングライター）

場所：エントランスホール

鑑賞者：約30人

内容：那覇市内の小学校で音楽教師として勤務しながら活動しているシンガーソングライターのしもじなを美氏が「つながるいのち」などの持ち歌を披露した。

○「しまくとうばわらべうた」

日時：2008年9月12日（金）、19日（金）、26日（金）、10月3日（金）14:00～15:00

講師：宮城葉子氏

場所：エントランスホール

参加者：合計100人

内容：「しまくとうば」展の一環で、しまくとうばや童謡の継承に努めている宮城葉子氏を講師に、幼児や母親、保母を対象にした童歌を披露し、展覧会への誘いとした。

○「トーク&ミュージックSAKISHIMAmeeting」

日時：2008年9月18日（木）14:00～16:00

出演：新良幸人、下地勇（以上ミュージシャン）、狩俣繁久（琉球大学教授 言語学）

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

鑑賞者：185人

内容：「しまくとうば」展に絡んで、しまくとうばの多様性を楽しもうと、コンサートとしまくとうばの重要性を説くトークを行った。

○「うた・三線・笛ライブー大山健治氏作品・音と光のインスタレーションー」

日時：2008年9月24日（水）、10月1日（水）17:00～18:00

出演：大山吉昭氏

場所：美術館企画ギャラリー 大山健治作品コーナー

鑑賞者：15人（9月24日）、20人（10月1日）

内容：「しまくとうば」展の大山健治氏作品「テーミのユー（蛍の世）」の楽しみ方を広げる試みとして大山氏の父・大山吉昭氏による「うた・三線・笛ライブ」を2回行った。

- 「子守うたー大山健治氏作品・音と光のインスタレーション」
 - 日 時：2008年9月26日（金）～10月5日（日）※9日間で23回実施
 - 場 所：美術館企画ギャラリー 大山健治作品コーナー
 - 鑑賞者：計180人
 - 内 容：「しまくとうば」展の大山健治氏作品「テーマのユー（螢の世）」の楽しみ方を広げる試みとして八重山の子守うたの録音盤を会期中23回流して大勢の鑑賞者に楽しんでもらった。

- 「バレンタインコンサート（宮良沢子と大正デモクラシ）」
 - 日 時：2009年2月14日（土）19:00～20:00
 - 出 演：宮良沢子と大正デモクラシ
 - 場 所：エントランスホール
 - 鑑賞者：60人
 - 内 容：バレンタインをロマンチックに過ごして欲しいと企画。やさしい歌声がエントランスに響いた。

- 「キアリナ+宮城愛ミニコンサート」
 - 日 時：2009年3月26日（木）15:00～16:00
 - 出 演：キアリナと宮城愛氏
 - 場 所：エントランスホール
 - 鑑賞者：約30人
 - 内 容：ボランティアでコンサート活動をしているキアリナが県立芸術大学の後輩・宮城氏を加えた3人でコンサートを開催した。

6. おもろ夜会

- 「首里フジコライブ&パフォーマンス～マブイを歌う～」
 - 日 時：2008年8月1日（金）19:00～20:30
 - 場 所：美術館屋外展示場
 - 出 演：首里フジコ（歌手）
 - 入場者：211人
 - 内 容：企画展「哀愁と血の造形」の関連行事。博物館・美術館の可能性を広げる目的でユニークな催し物を開催している「おもろ夜会」を、開催中の展示会とタイアップさせて実施。首里フジコさんの魅力あふれる歌声が屋外展示場に流れた。

- 「クリスマスLIVE & ART with 南国ドロップス」
 - 日 時：2008年12月23日（火）19:00～21:00
 - 場 所：美術館屋外展示場
 - 出 演：南国ドロップス
 - 入場者：87人
 - 内 容：本館の可能性を広げながらクリスマスイブ前夜を本館で楽しんでもらおうと人気の南国ドロップスのライブコンサートを行った。

- 「冬のエキゾチズム～ラマンオキナワ」
 - 日 時：2008年12月27日（土）19:00～20:30
 - 場 所：美術館屋外展示場
 - 出 演：ラマンオキナワ、コウサカワタル&坂元 PUNCH! 健吾
 - 入場者：97人
 - 内 容：29日からの年末休館をアピールしながら本館の可能性を広げようと、コウサカワタル&坂元 PUNCH! 健吾の演奏会とラマンオキナワの公演を行った。

○「JAZZとTAPの夕べ(Sam'と首里フジコ)」

日時：2009年3月21(土) 19:30~21:20

場所：美術館野外展示場

出演：首里フジコ氏とSam'氏

入場者：85人

内容：本館の可能性を広げる試みとしてタップ公演を導入。首里フジコさんの歌とSam'さんの華麗なタップの調べが好評だった。

7. パフォーマンス

○フラメンコ「アンダルシアへの想い」世界の現代アーティスト50人展関連

日時：2008年4月29日(火) 14:00~15:00、16:00~17:00

出演：富原千智フラメンコスタジオ生徒60名

場所：エントランスホール、博物館3階ホワイエ

参観者：約200人(無料)

内容：エントランスホールや博物館3階ホワイエを舞台に、2回にわたって華麗で力強い踊りを披露し、企画展「世界の現代アーティスト50人展」に華を添えた。



「世界の現代アーティスト50人展(ロルカ展)」の関連イベントでフラメンコを披露するダンサー

○詩の朗読会「ロルカ詩の世界への誘い」世界の現代アーティスト50人展関連

日時：2008年5月10日(土) 18:00~19:30

出演：川満信一、星雅彦、中里友豪、上地昇、村松志門の5氏

場所：企画ギャラリー側通路

入場者：60人

内容：県内の詩人や音楽家らが、展覧会にあわせてロルカの詩や創作した自作の詩を朗読・演奏し、展覧会の楽しみを広げた。

○「絵画と舞踊のコラボレーション」

日時：2008年8月23日(土) 18:00~18:30

出演：しば正龍(舞踊家)

場所：美術館企画ギャラリー2

入場者：30人

内容：企画展「哀愁と血の造形」の関連企画。異彩を放つ舞踊家のしば正龍氏が同展の絵画作品からインスピレーションを得て、展示場の一角で踊った。30人の入場者が、絵画と舞踊のコラボレーションの世界を楽しんだ。

○「しまくとぅばも戦世も語れない(パフォーマンス)」

日時：2008年9月9日(火)~10月5日(日)まで連日1~3回実施

出演：比嘉陽花チーム

場所：エントランスホールと美術館企画ギャラリー

見学者：計92回上演。延べ1,200人が見学

内容：企画展「しまくとぅば」の関連企画。同展覧会に出展している比嘉陽花氏らがエントランスホールで本展をPRする目的で、劇やパフォーマンスを繰り広げた。

○「針突（ハジチ）」上演

日時：2008年9月11日（木）14:00～15:00

出演：北島角子（女優）

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

参加者：190人

内容：企画展「しまくとぅば」の関連企画。女優の北島角子さんの代表作のひとつで、しまくとぅばで織りなす一人芝居「針突」の公演を講堂で行った。

○「比嘉陽花氏と大山健治氏作品『テミのユウ（蛍の世）』のコラボレーション」

日時：2008年9月15日（月）、23日（火）、27日（土）、10月4日（土）、5日（日）
17:30～18:00（毎回）

出演：比嘉陽花（アーティスト）

場所：美術館企画ギャラリー

鑑賞者：計120人

内容：「しまくとぅば」展の大山健治氏作品「テミのユウ」の展示フロアで、アーティストの比嘉陽花氏がパフォーマンスを展開。9月から計5回のコラボレーションを行った。

8. 上映会

○「草間弥生・わたし大好き」

日時：2008年7月25日（金）15:15～21:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：アーティスト草間弥生氏に迫ったドキュメント映画「草間弥生・わたし大好き」の上映会。本館の可能性を広げる試みとして映画を上映した。アート関係者によるトークも行った。

鑑賞者：110人

○「花はどこへ行った」

日時：2009年2月17日（火）～22日（日）※6日間とも1日1回上映

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内容：美術館のベトナム企画に先駆けての催し。ベトナム戦争で使われた枯葉剤の悲劇を迫った話題作の上映。初日は坂田雅子監督のトークもあった。

鑑賞者：77人

9. その他

○戦争体験の証言撮影「しまくとぅばで語る戦世」しまくとぅば展開連

日時：2008年9月12日（金）10:00～終日

証言者：八重瀬町社会福祉協議会の会員（同町後原の15人）

日時：2008年9月19日（金）10:00～終日

証言者：八重瀬町社会福祉協議会の会員（同町仲座の20人）

日時：2008年9月25日（木）10:00～終日

証言者：南城市大里・福原の15人

内 容：しまくとぅばでの戦争証言記録を取り続けている琉球弧を記録する会のメンバーが来場し、八重瀬町と南城市の住民計50人の証言記録を撮った。



「しまくとぅば」で沖縄戦の体験談を語る人たち（美術館企画ギャラリー）

10. 記念催事 ー開館一周を彩る歌と踊りー

本館の開館1周年を記念して11月1日（土）～5日（水）までの4日間（4日は休館）、エントランスホールや講堂で「開館一周を彩る歌と踊り」と銘打った音楽や舞踊を展開した。初日は「琉舞で寿ぐ」と題して琉球舞踊、2日目は「未来を奏でる」と県立芸術大学の学生の金管五重奏、3日目の文化の日は「文化とまどろむ」と女性2人の歌、最終日の5日は音楽家の上地昇さんによる絵画と詩と音楽のコラボレーション企画「不動の舞語る絵画」を展開した。

○「琉舞で寿ぐ」

出 演：無憂華の会（山田多津子琉舞道場、石川詩子ほか）

日 時：2008年11月1日（土）14:00～14:40、16:00～16:40

場 所：エントランスホール

内 容：琉舞道場の若手に祝いの踊りを中心に披露してもらい、2周年目へ弾みをつけた。

鑑賞者：約100人

○「未来を奏でる」

出 演：沖縄県立芸術大学生5人「金管五重奏」

日 時：2008年11月2日（日）13:00～14:00

場 所：エントランスホール

鑑賞者：約80人

○「文化とまどろむ」

出 演：ネコラテ、首里フジコ（以上ミュージシャン）

日 時：2008年11月3日（月）17:00～19:00

場 所：エントランスホール

内 容：「文化の日」は2人の女性の歌を約2時間にわたってエントランスホールから届けた。

鑑賞者：約60人

○「上地昇音楽企画展 不動の舞 語る絵画」

出 演：周霞氏ほか

日 時：2008年11月5日（水）14:00～16:00、19:00～21:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

内 容：中国の二胡とオーケストラ、三線の共演で、音楽と詩と絵画映像と琉舞を楽しむイベント。2回上演した。

鑑賞者：311人

Ⅶ. 広報・交流事業活動

1. 広報事業

広報にあたっては、当館で開催される常設展や企画展等の展覧会・教育普及事業・県民ギャラリーの催し・各種イベントについて、県民をはじめ国内外からの観光客や米軍関係者まで、より多くの人たちが観覧あるいは参加していただけるよう新聞やテレビ、ラジオ、雑誌等のマスコミ各社、それに県や国、市町村の関係機関、観光・旅行・宿泊・運輸、情報・広告関連業者などに協力を要請し連携を密にして、館案内や展覧会資料・ポスターを届けるなどPRを展開し、誘客を図ってきた。

また、館の存在を国内外に広くアピールして魅力を知ってもらうためには、可能な限り内外のメディアの取材・写真撮影に協力する必要があると考え、写真や記事データの提供要請にも応じてきた。米軍の報道部の要請にも応じ展覧会情報をお知らせしている。博物館・美術館情報誌や観光雑誌等にも次々と取り上げてもらった。

観光立県の一翼を担うべく正月三が日の臨時開会を決めると、年始の開会情報を上記の関係機関へ速やかに連絡。新聞広告のほか、元日開館を記したチラシを作成し、旅行・宿泊・運輸業者にFAX送信するとともに、本島内のタクシーの無線局にも周知をお願いして混乱がないよう手配した。

一方、県内の主要新聞社・沖縄タイムスと琉球新報、テレビ局のNHK沖縄放送局、琉球放送(RBC)、琉球朝日放送(QAB)、沖縄テレビ(OTV)、沖縄ケーブルネットワーク(OCN)とラジオ局のNHK沖縄放送局、琉球放送(RBCiラジオ)、ラジオ沖縄(ROK)、FM沖縄、FMレキオの各社には、毎週1週間の予定を記した「県立博物館・美術館展示会・イベント情報」を作成してFAXで告知。取材や展覧会・催し物の情報の新聞掲載や放送での告知をお願いしている。

教育普及の一環で行われる当館主催の講座や講演会、展覧会に連動したシンポジウム、アーティストトーク等、催し物の告知や募集も、期間中に告知していただくよう要請し、新聞・テレビ・ラジオ、雑誌、イベント情報誌等に改めて原稿や資料を送信。掲載・報道を重ねてお願いしている。沖縄タイムスは火曜日から日曜日まで、朝刊情報面の「今日の県立博物館・美術館」のコーナーで、当日の主な催しを掲載。琉球新報もガイド面「美術館博物館催し」で紹介するようになった。出演者や講師には文化の杜スタッフの案内で、放送局や新聞社へのあいさつ回りをお願いしてPR効果を高めてきた。

さらに、県内企業から協賛金を得て新聞に特集面を組んだり、沖縄タイムスが琉球放送や琉球朝日放送に持っているCM枠を使って企画展のCM放送を行うなど、新しい取り組みもはじめた。

空の玄関、那覇空港到着ロビーには写真付きの電照広告板を設置。沖縄都市モノレールの各車両の乗降ドア上ポスターには展覧会の会期ごと図柄を張り替え、展覧会告知や消毒での休館、正月開館をアピールして好評を得ている。

書き入れ時のGWや夏休み中は、観光客を含め県民に強くアピールしようと、県庁前交差点の大型ビジョンテレビを使った広告で集客を図ってきた。

4月には全日本空輸(ANA)の国内線機内誌「翼の王国」に博物館のペリー関係資料を掲載。観光客が増大する夏は、日本航空(JAL)グループの国内線機内誌「SKYWARD」8月号に見開きで沖縄県立博物館・美術館情報を掲載。全国の乗客に館の展覧会をPRした。那覇市観光協会とも連携。観光情報誌「NAHA NAVI」7月・8月号や沖縄観光・物産情報ガイド誌「旅ナビ」にも広告を載せて入館者を誘った。無料情報誌「YASA」にも年間を通して無料で展覧会情報を掲載し紹介している。

県の広報(電光掲示板、広報誌、ラジオ番組)も活用。掲載をお願いしている。また、県が管理している中・南部の主要幹線道路そばの公共掲示板には毎回、展覧会のポスターをはって周知を図っている。

春と夏、秋には県内の観光・旅行・運送業者を館に招待し、館長はじめ博物館・美術館学芸員の解説案内で、博物館常設展示室や美術館企画展、美術館コレクション展、「恐竜ミュージアム2008」展などを実際に見てもらい、沖縄観光の新しい名所として売り出して案内していただくようアピールした。沖縄観光コンベンションビューローが行う観光タクシー研修先にも本館を入れて、個人や法人の優良運転手に誘客をお願いした。観光バスのガイドの研修も受け入れて、館の魅力を内外に発信してもらっている。

沖縄県内に支店のない旅行社については、館案内や展示会資料などを送付し、修学旅行や研修をはじめとした団体旅行のコースに取り入れてもらえるようお願いしている。

沖縄で初めて運行した水陸両用バスともタイアップ。年末から翌三月までの営業期間中、発着場を館のバス駐車場の一角に設け、乗車料金には博物館常設展かコレクション展のいずれかを参観できるよう盛り込んでもらい、集客に努めた。宜野湾港マリナーを往復する水陸両用バスの車体には、県立博物館・美術館の文字と図柄を入れて

館をPR。動く広告塔の役割も担わせた。

秋の開館1周年をはさんだ10月29日から11月19日まで、那覇市のメインストリート国際通りに「沖縄県立博物館・美術館」と大書したバーナー（長さ120㍎、幅56㍎の旗）を63旗掲げ、館の存在はもちろん開館1周年を強くアピールした。

常に話題をつくり、マスコミに取り上げられることを意識している。その1つが、入館者50万人の達成・表彰である。50万人という数は入館者の呼び水にもなり、館正面入り口にも「おかげさまで開館1周年 入館者50万人達成」の看板を掲げたところ好評を博した。

本館をはじめ那覇市と浦添市内にある6つの文化施設が初めて団結し、各館の企画展や常設展情報を盛り込んだ歴史文化情報誌を発行しようと協議に入った。これは、新たな文化の発信として内外から注目されるであろう。

他方、館の可能性や魅力を最大限に引き出しながら、新たなファンを掘り起こすとともにリピーターを増やす努力も必要だ。沖縄県内の言語「しまくとぅば」の普及と可能性探ってさまざまなイベントを展開している「しまくとぅばプロジェクト」や多彩なゲストを迎えて開く「おもしろ夜会」、良質な映像を紹介する上映会などのほか、環境問題を考えるイベントも取り入れている。これらを誘客へつなげながら、年間パスポート会員というファンを増やす努力も行っている。

2. 地域イベントへの参加

博物館・美術館の管理運営には地域の理解と協力が不可欠だと強く認識し、常に連携を図っている。なかでも2007年秋にスタートした「那覇新都心まつり」では、文化の杜共同企業体内に実行委員会の事務局を設置し、本館に隣接した新都心公園で、本館と連携したまつりを成功させた。2008年秋の「第2回那覇新都心まつり」も成功させた。那覇新都心通り会が毎月発行している「新都心かわら版」には定期的に博物館・美術館情報を掲載。運天寛栄統括は同通り会の理事長を務めており、地域との連携はますます強固なものにする方針である。

Ⅷ. 調査・研究等の活動

1. 調査・研究等

福島輝一

- 名称：ワークショップの取り組みについての現地調査（福井県立恐竜博物館、金沢21世紀美術館）
- 期間：2008年7月5日（土）～6日（日）
- 依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜

岡本美奈子

- 名称：『沖縄プリズム』展の参観及び企画・運営の調査（東京国立近代美術館）
- 期間：2008年12月6日（土）～7日（日）
- 依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜

謝花佐和子

- 名称：『沖縄プリズム』展の参観及び企画・運営の調査（東京国立近代美術館）
- 期間：2008年12月20日（土）～21日（日）
- 依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜

仲程 香野

- 名称：『沖縄プリズム』展の開会式・内覧会及び企画・運営の調査（東京国立近代美術館）
- 期間：2008年10月29日（水）～31日（金）
- 依頼機関：沖縄タイムス社・沖縄文化の杜

2. 著作論文等

後田多敦

- 『しまくとぅば 未来へつなぐアート展』
- 「嘉手川繁夫略伝」『哀愁と血の造形 嘉手川繁夫の世界』

岡本美奈子

- 『哀愁と血の造形 嘉手川繁夫の世界』編集を担当

土江真樹子

- 『情熱と戦争の狭間で』編集を担当

大城奈里子

- 『しまくとぅば 未来へつなぐアート展』編集を担当

謝花佐和子

- 『世界の現代アーティスト50人展 ガルシア・ロルカを顕彰して』編集を担当

仲程香野

- 『世界の現代アーティスト50人展 ガルシア・ロルカを顕彰して』編集を担当
- 『情熱と戦争の狭間で』編集を担当
- 『開館記念一周年記念博物館特別展 中国・北京故宫博物院秘蔵一甦る琉球王国の輝き』編集を担当
- 『移動と表現』編集を担当

屋良朝秀

- 2008年度特別展図録『恐竜ミュージアム2008』知念幸子（博物館班主任学芸員）との企画・構成

Ⅸ. その他

1. 職員研修・消火訓練

- 日 時：2008年4月28日（月）13:00～15:00
内 容：接客マナーの向上と防災・消火訓練、IPM研修を実施。
参加数：90人
- 日 時：2008年7月11日（金）13:00～15:00
内 容：接客マナーの向上と防災・消火訓練、AED研修を実施。
参加数：90人
- 日 時：2009年3月22日（日）16:00～19:00
内 容：接客マナーの向上と防災・消火訓練、AED研修を実施。
参加数：100人
- 日 時：2009年3月30日（月）14:00～16:00
内 容：接客マナーの向上と防災・消火訓練、AED研修を実施。
参加数：100人

2. 中学生職場体験学習の受け入れ

- 日 時：2009年2月2日（月）～6日（金）9:00～16:00
研修生：1人（那覇市立松島中学校2年生男子）
内 容：本館の活動をよりよく知ってもらうために職場体験学習を初めて受け入れた。清掃、情報センター業務、受付案内、ミュージアムショップの店員、博物館常設展での展示交流員（監視）を体験してもらった。

全館共同事業

- I. 学芸員実習
- II. 国際博物館の日
- III. 移動展
- IV. 燻蒸・消毒処理
- V. 刊行物

I. 学芸員実習

1. 博物館実習

当館では、1969年（昭和44）に最初の実習生を受け入れてから、2006、2007年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。2000年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、2001年度以降は年2回に集約して実施している。

2008年度の学芸員実習の内容は下記のとおりである。

【実習内容と指導職員】

前期：6月24日～7月4日		後期：9月1日～12日	
講義・実習	指導者	講義・実習	指導者
博物館・美術館の施設・保存環境概要	萩尾	博物館・美術館の施設・設備	新里
博物館・美術館の管理運営	山根	博物館・美術館の管理運営	山根
自然史資料（生物）取扱実習	田中	博物館業務の考え方と実際	萩尾
新収蔵品展撤収作業	全学芸員	I PMへの取組	知念
I PMへの取組	知念	美術館業務の考え方と実際	翁長
博物館業務の考え方と実際	萩尾	教育普及業務（教育普及活動）	赤嶺・宮平
美術館業務の考え方と実際	翁長	自然史資料（地学）取扱実習	知念
人類学資料取扱実習	藤田・山崎	自然史資料（生物）取扱実習	田中
考古資料取扱実習	羽方	考古資料取扱実習	羽方
歴史資料取扱実習	稲福・上原	人類学資料取扱実習	藤田・山崎
美術工芸資料取扱実習	平川・上原	美術工芸資料取扱実習	平川・上原
燻蒸準備作業	全学芸員	恐竜展撤収作業	萩尾・知念
民俗資料取扱実習	岸本	歴史資料取扱実習	稲福・上原
教育普及業務（教育普及活動）	赤嶺・宮平	教育普及業務（ボランティア活動）	赤嶺・宮平
教育普及業務（ボランティア活動）	赤嶺・宮平	ずしがめ展準備作業	岸本・萩尾
資料の受入、分類、登録	萩尾	民俗資料取扱実習	岸本
情報戦センターの機能と図書資料	山崎	写真資料の取扱と保管	上原
		情報戦センターの機能と図書資料	山崎

【実習生】

前 期			後 期			
1	赤嶺 周作	琉球大学	1	荒木 大輔	琉球大学	
2	伊東 剛希		2	伊波 祐二		
3	国吉 陽子		3	湖城 恵		
4	島津 隆介		4	城間枝里子		
5	古川 陽一		5	玉那覇祥子		
6	山本奈々穂	沖縄国際大学	6	安部 友菜	沖縄国際大学	
7	大城 桃子		7	儀間かおり		
8	中村 有貴		8	金城 麻美		
9	伊佐 朱里		9	黒沢 健明		
10	赤嶺 佐和子		10	徳平 祐子		
11	久場美奈子	駿河台大学	11	友寄真梨子	日本女子大学	
12	山城 桃子	桜美林大学	12	津嘉山由梨乃		
			13	長嶺 陽子		四国大学
			14	大城 里奈		福岡大学
			15	松堂 恵美		熊本大学

(濱口 寿夫)

2. 美術館実習

美術館では、はじめての実習生の受け入れとなり、今年度から毎年若干の実習生を受け入れていくこととなった。2008年度は9月1日（月）～12日（金）の10日間の実習を行った。

【実習内容と指導職員】

	実習内容（午前）	担当	実習内容（午後）	担当
9/1	博物館・美術館の管理運営	共通	博物館・美術館の施設・保存環境	共通
/2	美術館業務の考え方と実際	翁長	美術館の考え方と実際	與那原
/3	美術資料の取扱い実習（絵画、油彩）	豊見山	美術資料の取扱い実習（絵画、版画等）	仲村
/4	美術資料の取扱い実習（写真）	大城	美術資料の取扱い実習（映像）	大城
/5	美術資料の取扱い実習（立体、彫刻）	翁長	美術資料の取扱い実習（立体、工芸）	豊見山
/8	美術資料の取扱い実習（修復）	翁長(邦)	美術館展示の実際Ⅰ	豊見山
/9	美術館展示の実際Ⅱ	前田	美術館展示の実際Ⅲ	大城
/10	教育普及業務Ⅰ	前田	教育普及業務Ⅱ	國吉
/11	美術館資料整理の実際Ⅰ	比嘉	美術館資料整理の実際Ⅱ	比嘉
/12	博物館・美術館ボランティア	國吉	実習のまとめ	翁長

【実習生】

樋口 未希（沖縄県立芸術大学）
 濱田 会恵（ " ）
 渡嘉敷 綾（ " ）
 宮城 翔子（ " ）
 岸本美々子（武蔵野美術大学）
 外間 広美（大阪芸術大学）
 山城 泰幹（千葉大学）

（翁長 直樹）

II. 国際博物館の日

名称：「5月18日「国際博物館の日」 パネル展「博物館・美術館をもっと知ろう！」

会期：2008年5月14日（水）～6月1日（日）（19日間）

会場：沖縄県立博物館・美術館エントランスホールおよび3階ホワイエ（博物館特別・企画展示室前）

【開催趣旨】

毎年5月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称 ICOM：イコム）によって「国際博物館の日」と定められている。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、より多くの人々に博物館活動を広く報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行う。

【展示内容】

2008年度は、博物館・美術館が開館してから初めての開催であったため、建設時の建物や資料の運搬を紹介するコーナーを設けた。また、新しく始めた展示解説会などの教育普及活動を含めた活動の紹介も行った。

ただ、目的を達成するためにも、パネルを設置する場所やより多くの来館者をいざなう方法を効果的に工夫する課題が残った。

○エントランスホール

- ・パネル展の目的、ICOMおよび「国際博物館の日」の説明
- ・博物館・美術館の開館に向けた活動（建設風景、展示風景、移転作業 等）
- ・博物館・美術館外観模型

○3階ホワイエ

（博物館）

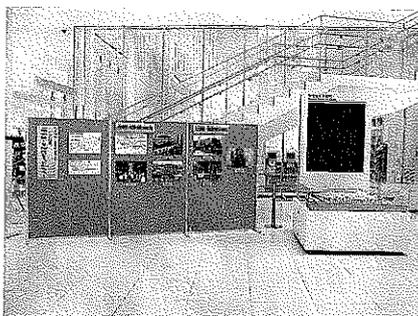
- ・博物館ってどんなところ？（博物館の概要および歴史等）
- ・博物館の活動（展示会、解説会、保存活動、教育普及活動、友の会の活動 等）

（美術館）

- ・美術館ってどんなところ？
- ・美術館の活動（展示会、解説会、保存活動、教育普及活動、happの活動 等）

（関連図書等の閲覧）

- ・展示会図録、パンフレット、リーフレット 等
- ・博物館友の会、happの刊行物 等



エントランスホール



3階ホワイエ

（崎原 恭子）

Ⅲ. 移動展

名 称：『第2回 沖縄県立博物館・美術館 移動展』

会 期：2009年2月6日（金）～8日（日）10：00～18：00

開 催 地：沖縄県東村農民研修施設（博物館資料）、東村立山と水の生活博物館（美術館資料）

観 覧 料：無料

予 算 額：4,537,613 円

入場者数：博物館展示会場808名、美術館展示会場484名、「勾玉を作ろう！」50名

【開催趣旨】

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことの出来ない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供する。旧博物館で過去30回開催した「移動博物館」を引き継いで開催する。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

共 催：東村／東村教育委員会

【展示内容】

博物館資料：「大むかしの生物（恐竜の骨格標本）」、「沖縄の自然、歴史、文化」に関する総合展示

美術館資料：沖縄北部地域出身の作家の作品

【関連催事】

「勾玉を作ろう！」（東村農民研修施設）

日 時：2008年2月7日（土）、8日（日）14：00～

対 象：一般

定 員：1日あたり20名

材料費：500円

「作家を交えた鑑賞授業」（東村立山と水の生活博物館）

日 時：2009年2月6日（金）14：00～

対 象：東村立東中学校3年生

講 師：具志堅誓謹

【展示品リスト - 博物館 - 】

地学（博物館資料）

No.	名 称	数量	区 分	No.	名 称	数量	区 分
1	サウロロフス	1	レプリカ	20	貝化石	7	資 料
2	サウロロフスの皮膚化石	1	レプリカ	21	植物化石	1	レプリカ
3	パレイアサウルス	1	レプリカ	22	蛍光鉱物	4	レプリカ
4	プロトケラトプス	1	レプリカ	23	水晶	1	レプリカ
5	プロトケラトプスの卵	1	レプリカ	24	アメジスト	1	レプリカ
6	孔子鳥	1	レプリカ	25	片麻岩	1	レプリカ
7	コンプソグナトウス	1	レプリカ	26	レインボーストーン	1	レプリカ
8	オパビニア	1	レプリカ	27	琉球石灰岩	1	レプリカ
9	アンモナイト	1	資 料	28	マンガンジュール	1	レプリカ
10	アンモナイト（本部産）	1	レプリカ	29	栗国凝灰岩	1	レプリカ
11	ハロピア	1	レプリカ	30	石垣島センリョク岩	1	レプリカ
12	カルカロドン	2	レプリカ	31	伊平屋島チャート	1	レプリカ
13	ミヤコノロジカ（枝角）	1	レプリカ	32	本部石灰岩	1	レプリカ
14	リュウキュウジカ復元体	1	レプリカ	33	宮良石灰岩	1	レプリカ
15	リュウキュウジカ（枝角）	1	資 料	34	千枚岩	1	レプリカ
16	リュウキュウジカ（下顎骨）	1	レプリカ	35	石英斑岩	1	レプリカ
17	リュウキュウムカシキオン復元体	1	レプリカ	36	方解石	1	レプリカ
18	リュウキュウムカシキオン（枝角）	1	資 料	37	黄銅鉱	1	レプリカ
19	リュウキュウムカシキオン（下顎骨）	1	レプリカ	38	岩塊	1	レプリカ

生物 (博物館資料)

No.	名 称 (和名)	数量	区 分	No.	名 称 (和名)	数量	区 分
1	ケラマジカ	1	本剥製	15	ミフウズラ	1	本剥製
2	ニホンイノシシ	〃	〃	16	ハクセキレイ	〃	〃
3	リュウキュウイノシシ	〃	〃	17	セッカ	〃	〃
4	イリオモテヤマネコ	〃	〃	18	ハブ (久米島産)	〃	〃
5	カンムリワシ	〃	〃	19	セマルハコガメ	〃	〃
6	アカハラダカ	〃	〃	20	ヤエヤマイシガメ	〃	〃
7	リュウキュウヨシゴイ	〃	〃	21	インドクジャク	〃	〃
8	ササゴイ	〃	〃	22	ニホンスッポン	〃	〃
9	タグリ	〃	〃	23	ミシシippアカミミガメ	〃	〃
10	ダイゼン	〃	〃	24	ウシガエル	〃	〃
11	エリグロアジサシ	〃	〃	25	ミヤコヒキガエル	〃	〃
12	コアジサシ	〃	〃	26	オオクチバス	〃	〃
13	ホトトギス	〃	〃	27	マダラロリカリア	〃	レプリカ
14	キンバト	〃	〃				

考古 (博物館資料)

No.	名 称	数量	区 分	No.	名 称	数量	区 分
1	土器 (荻堂式、大当原式、下田原式)	3	資料、レプリカ	9	石斧	2	資 料
2	蝶形骨器	〃	〃	10	類須恵器壺	1	〃
3	骨製鏃	1	資 料	11	青磁碗・皿	2	〃
4	骨製簪	〃	〃	12	白磁皿	〃	〃
5	貝輪	5	レプリカ	13	染付碗・皿	3	〃
6	貝斧	2	資 料	14	炭化米	1	〃
7	貝符	3	レプリカ	15	線刻石板	〃	〃
8	貝 (ゴホウラ、イモガイ、ヤコウガイ)	〃	資 料	16	中城城跡の模型	〃	模 型

人類学 (博物館資料)

No.	名 称	数量	区 分	No.	名 称	数量	区 分
1	港川人1号復元模型	1	模 型	4	クロマニヨン人頭骨レプリカ	1	レプリカ
2	港川人1号頭骨レプリカ	〃	レプリカ	5	現代人頭骨レプリカ	〃	〃
3	山頂洞人101号頭骨レプリカ	〃	〃				

歴史 (博物館資料)

No.	名 称	数量	区 分	No.	名 称	数量	区 分
1	旧首里城正殿鐘 (万国津梁の鐘)	1	レプリカ	20	尚円王御後絵 (鎌倉芳太郎撮影)	1	パネ ル
2	かんざし	6	資 料	21	明孝宗勅諭	〃	〃
3	金円通宝・世高通宝・大世通宝	3	〃	22	弁財天堂と天女橋 (坂本万七撮影)	〃	〃
4	鳩目銭 (一括)	10	〃	23	首里城継世門外の赤田町 (鎌倉芳太郎撮影)	〃	〃
5	琉球通宝 (円形)	2	〃	24	サーターグルマ (坂本万七撮影)	〃	〃
6	琉球通宝 (楕円形)	〃	〃	25	糸満の漁業 (坂本万七撮影)	〃	〃
7	リング1 (18個連)	18	〃	26	魚市 (坂本万七撮影)	〃	〃
8	リング2 (小勾玉にビーズ付き)	1	〃	27	嘉手納海岸に上陸した米軍	〃	〃
9	中山世鑑 (巻1・4)	2	レプリカ	28	戦闘中の米軍・至近弾をうける	〃	〃
10	おもろさうし (巻1・17)	〃	〃	29	瓦礫と化した首里教会	〃	〃
11	伊平屋の銘苅大屋子職補任辞令書	1	〃	30	戦い終わって山から下りる避難民	〃	〃
12	琉球国惣絵図 (間切集成図) 国頭間切	〃	〃	31	収容所で発行されたウルマ新報	〃	〃
13	ウルマ新報	2	資 料	32	戦後のヤミ市	〃	〃
14	琉球切手	1	〃	33	第九回沖縄議会の状況 - 志喜屋知事	〃	〃
15	琉球切手初日カバー	35	〃	34	中学生と握手するブース高等弁務官	〃	〃
16	首里城開園	1	パネ ル	35	B52墜落事故	〃	〃
17	首里城正殿 (鎌倉芳太郎撮影)	〃	〃	36	主席当選を果たした屋良主席	〃	〃
18	首里城北殿 (鎌倉芳太郎撮影)	〃	〃	37	返還協定調印式をテレビでみまもる屋良主席	〃	〃
19	首里城南殿・番所 (鎌倉芳太郎撮影)	〃	〃	38	通貨交換所風景	〃	〃

美術工芸 (博物館資料)

No.	名 称	数量	区 分	No.	名 称	数量	区 分
1	木綿製糸工程	1式	資 料	5	絹製糸工程2	1式	資 料
2	芭蕉製糸工程	〃	〃	6	紅型の道具達	〃	〃
3	苧麻製糸工程	〃	〃	7	屋根獅子 (頭獅子)	1	〃
4	絹製糸工程1	〃	〃	8	湯庫	〃	〃

民俗 (博物館資料)

No.	名 称	数量	区 分	No.	名 称	数量	区 分
1	石厨子	1	資 料	6	荒焼御殿型厨子甕 (壺屋焼)	1	資 料
2	ボージャー厨子 (壺屋焼)	〃	〃	7	上焼木御殿型厨子甕 (壺屋焼)	〃	〃
3	マンガン掛け厨子甕 (壺屋焼)	〃	〃	8	上焼ツノ型厨子甕 (壺屋焼)	〃	〃
4	マンガン掛け底つき厨子甕 (壺屋焼)	〃	〃	9	コバルト掛け厨子甕 (壺屋焼)	〃	〃
5	赤焼御殿型厨子甕 (壺屋焼)	〃	〃	10	古我知焼 (御殿型)	〃	〃

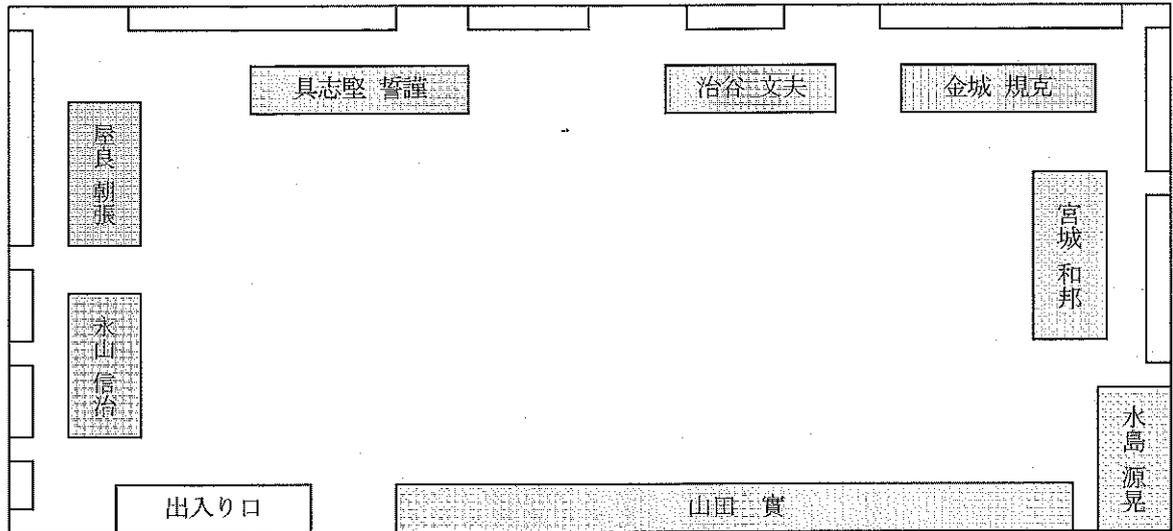
教育普及 (博物館資料)

No.	名 称	数量	区 分	No.	名 称	数量	区 分
1	ティール	2	資 料	8	ガンシナ	2	資 料
2	パーキ	〃	〃	9	ミーカガン	〃	〃
3	クバンヌー	3	〃	10	アンツク	1	〃
4	アダン葉サバ	〃	〃	11	サインを探せ	〃	〃
5	クバガサ	〃	〃	12	お手玉	3	〃
6	クバオージ	〃	〃	13	ジンプンBOX		製作物
7	サギゾーキ	1	〃				

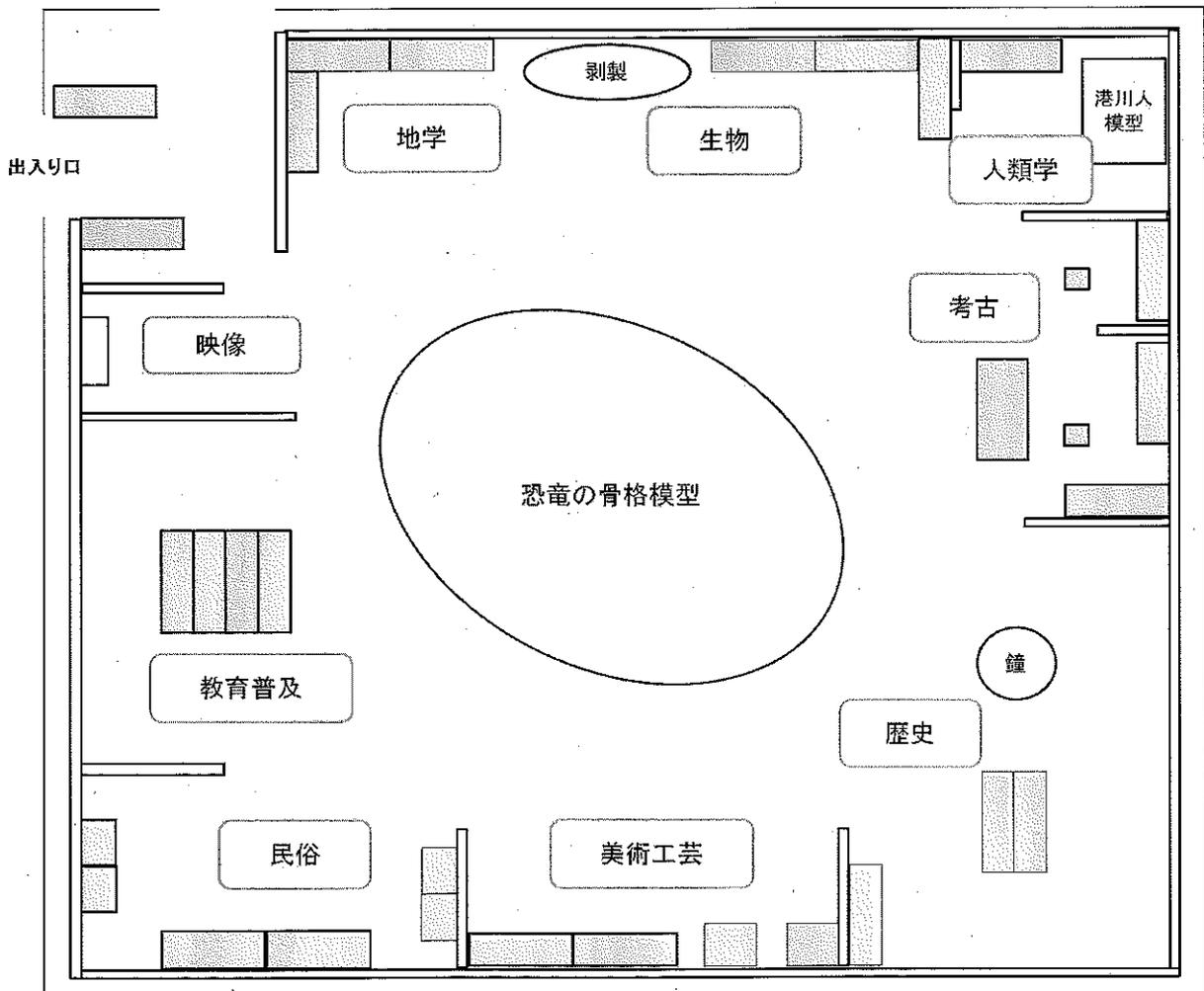
【展示品リスト - 美術館 -】

No.	作 品 名	作 家 名	数量	サ イ ズ	制作年	区 分
1	神遊び	金城 規克	1	162.4×131.0	1972	油 彩
2	作品 1986	治谷 文夫	〃	109.4×76.8	1986	アクリル
3	水彩の世界 (1)	永山 信春	〃	101.0×64.0	1996	水 彩
4	水彩の世界 (2)	〃	〃	101.0×64.0	1996	〃
5	朝が来た	屋良 朝春	〃	162.1×97.0	2007	油 彩
6	時の流れNo.72	具志堅誓謹	〃	134.2×194.5	1997	水 彩
7	時の流れNo.107	〃	〃	112.0×146.0	2000	〃
8	大宛極橋勝負師総司令長の飛学界大前進交響曲	宮城 和邦	〃	130.0×163.0	1981	アクリル
9	沖縄県領土返還者よ目覚めよ	〃	〃	130.0×162.5	1992	〃
10	芭蕉布の平良トシ	水島 源晃	〃	43.2×35.6	1958	写 真
11	食事中的開発青年隊 (国頭郡)	〃	〃	43.2×35.6	1969	〃
12	糸をつむぐ老婆・国頭 喜如嘉	山田 實	〃	40.3×31.4	1960	〃
13	道達し・宜野座村	〃	〃	31.4×40.4	1962	〃
14	除草作業・国頭村嘉陽	〃	〃	31.4×40.3	1963	〃
15	農繁期・国頭村羽地	〃	〃	40.3×31.4	1965	〃
16	老婆・喜如嘉	〃	〃	40.5×31.6	1965	〃
17	帰り道・喜如嘉	〃	〃	31.5×40.5	1966	〃
18	おひるタイム喜如嘉	〃	〃	31.4×40.4	1966	〃
19	薪背負って喜如嘉にて	〃	〃	31.6×40.3	不明	〃

【展示平面図】



展示会場図 (美術館資料)



展示会場図 (博物館資料)

(文化の杜・中村愛)

IV. 燻蒸・消毒処理

2008年度は2007年度から実施している総合的防害虫管理（Integrate Pest Management 以下略称：IPM）の運用を継続して行っており、保存環境調査義務（以下、IPMモニタリング）により全館の問題箇所、問題になる文化財害虫の分布などが把握できている。

IPMモニタリングは全館に、粘着トラップ・フェロモントラップを、一部にライトトラップを設置し、文化財害虫の発生状況・種類・発生源・侵入経路を把握し適宜適切な対策に寄与する。また、エアースンプラーを用い空中落下菌を調査し、カビの種類・発生状況を確認することができる。2008年度前期のIPMモニタリングの状況は次のとおりである。

博物館エリア：野外民家でシミの発生、博物館地下1階液浸標本室でチャタテムシ、実習準備室では少数ではあるが、シバンムシの発生が確認されている。

美術館エリア：全館的に良好に管理されているが、1階工作室に持ち込みと思われるクロアリの侵入が確認されたが、アリの巣ころりと粘着トラップを併用し撃退した。

県民アトリエ：子ネズミを一匹捕獲したがその後他の個体が確認されず、何らかの物と一緒に入ったものと思われる。

各トラックヤードに自動噴霧装置（博物館3ヶ所、美術館2ヶ所、県民ギャラリー1ヶ所）を4月末に設置し毎日深夜に散布（スミスリン乳剤）し、頻繁に開閉する場所の害虫駆除を実施している。又、簡易燻蒸装置（二酸化炭素）「ふくろう君」を必要に応じて使用し、作品等の害虫駆除および消毒燻蒸（2回）を行っている。今後も、IPMの理解・浸透を継続したい。

2008年度前期は、シロアリ・シバンムシ・シミ・チャタテムシ等の文化財害虫の大きな発生が確認されなかったため、全館一斉消毒処理は燻蒸処理ではなく、前年度と同様にピレスロイド系殺虫剤シフェノトリンによるドライミスト法による消毒を行った。期間は2008年7月2日～7月6日の5日間である。各関係者の協力により、すべての作業を安全かつ円滑に行うことができた。一部、博物館1階実習準備室のみ、発生害虫がシバンムシなので燻蒸処理での施工が望ましい。しかし今回は継続観察し、必要があれば再度ヨウ化メチル・酸化プロピレン燻蒸を実施する方針とした。これらの結果を踏まえ、次年度以降も沖縄の風土にあったIPMを検討しながら継続して取り組みたい。

シフェノトリン使用総量

消毒処理	容積 (m ³)	単位量 (g/m ³)	使用量 (kg)	投入時間 (h)	備 考
全館合計	83,855	※0.7～5	168.96	48	供試虫全死 効果判定 有 を確認

(文化の杜)

IPM宣言

私たち沖縄県立博物館・美術館は、沖縄県民の財産である収蔵資料の適切な保存・管理と、健康で快適な職場環境を確保するため、総合的な手法である「総合的病虫害管理（IPM: Integrated Pest Management）」によって、以下のように対策を実施しIPM管理に関する高度な専門的知識の習得と技術の向上に努めます。

- 一、収蔵資料保存管理プログラムを策定し、衛生管理などについて目標を立て管理・推進します。
- 二、有害生物への対処にあたっては、モニタリング調査に基づいて対策を立案し、環境整備など総合的な手段を講じます。
- 三、対策の成果と、報告・提案を行い、全職員をはじめ、県民はすべての理解と協力のもとに対策を推進します。

V. 刊行物

(全体)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	沖縄県立博物館・美術館 年報 第1号	定期	1,000	A4(154)	前年度の博物館・美術館活動報告
2	沖縄県立博物館・美術館 行事案内-平成20年度-	〃			博物館・美術館行事案内

(博物館)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要 第2号	定期	1,000	A4(60)	博物館学芸員の調査研究報告
2	平成20年度博物館教育普及活動	〃	1,000	A4(109)	博物館教育普及活動報告
3	ウチナー探検-博物館学習ノート(小学生版)-	不定期	1,200	A4(60)	博物館新館開館に伴う常設展ワークブック
4	新収蔵品展-平成19年度収蔵資料-	定期	1,000	A4(20)	博物館企画展 図録
5	ずしがめの世界	不定期	500	A4(70)	〃 図録
6	〃 (ポスター)	〃	1,000	B2	〃 告知ポスター
7	〃 (ちらし)	〃	7,000	A4	〃 告知ちらし
8	甦る琉球王国の輝き	〃	2,000	A4(235)	博物館特別展 図録
9	〃 (ポスター)	〃	2,000	B2	〃 告知ポスター
10	〃 (ちらし)	〃	20,000	A4	〃 告知ちらし
11	オープニングイベント組踊公演 二童敵討(ちらし)	〃		A4	〃 オープニングイベントちらし
12	沖縄考古学ニュース	〃	500	A4(55)	博物館企画展 図録
13	〃 (ポスター)	〃	500	B2	〃 告知ポスター
14	〃 (ちらし)	〃	10,000	A4	〃 告知ちらし
15	武芸洞発掘調査見学会資料	〃	500	A4(4)	博物館共同研究事業(人類学)見学会資料
16	ハナダガマ遺跡の発掘-沖縄の人類史を掘る-	〃	500	A4(6)	〃 普及書
17	ハナダガマ遺跡発掘調査報告書	〃	500	A4(95)	〃 発掘調査報告書
18	与那国島総合調査報告書	〃	1,000	A4(150)	与那国島における総合調査報告

(美術館)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	美術家たちの「南洋群島」(ポスター)	不定期	1,500	B1	美術館企画展 告知ポスター
2	〃 (ちらし)	〃	20,000	A4	〃 告知ちらし
3	移動と表現(ポスター)	〃	500	A2	〃 告知ポスター
4	〃 (ちらし)	〃	20,000	A4	〃 告知ちらし
5	ベトナムの現代絵画展(パンフレット)	〃	1,000	A4	〃 告知パンフレット
6	花はどこへいった(ちらし)	〃	500	B5	〃 告知ちらし
7	美術館アウトリーチ事業(ちらし)	〃	1,000	A4	出前美術館 告知ちらし

(指定管理者)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	情熱と戦争の狭間で	不定期	2,000	菊(72)	指定管理者企画展 図録
2	〃 (ポスター)	〃	1,000	B2	〃 告知ポスター
3	〃 (ちらし)	〃	30,000	B4 三折	〃 告知ちらし
4	哀愁と血の造形	〃	2,500	A4(160)	〃 図録
5	〃 (ポスター)	〃	2,000	B2	〃 告知ポスター
6	〃 (ちらし)	〃	70,000	A4	〃 告知ちらし
7	恐竜ミュージアム2008	〃	9,000	A4(40)	〃 図録
8	〃 (ポスター)	〃	2,500	B2	〃 告知ポスター
9	〃 (ちらし)	〃	120,000 200,000	A4 B5	〃 告知ちらし
10	しまくとぅば	〃	1,000	A4(44)	〃 図録
11	〃 (ポスター)	〃	1,000	B2	〃 告知ポスター
12	〃 (ちらし)	〃	50,000	A4	〃 告知ちらし

その他の活動

- I. 沖縄県博物館協会
- II. 全国組織との関わり
- III. 沖縄博物館友の会
- IV. happ (美術館支援会)

I. 沖縄県博物館協会

【総会・春期研修会】

期 日：2008年5月30日（金）

場 所：東南植物楽園

顕彰者報告：平成20年度顕彰者：上江洲均氏、上勢頭同子氏・上勢頭芳徳氏

総 会：議案第1号 平成19年度事業報告

議案第2号 平成19年度決算報告 会計監査結果報告

議案第3号 平成20年度事業計画案

議案第4号 平成20年度予算案

研 修：報告 「新沖縄県立博物館・美術館を開館して（現状と課題）」 萩尾俊章・翁長直樹

事例発表 「守る視点、世に出す視点のバランスについて」 高橋巧（おきなわワールド）

『博物館と観光』に関するアンケート調査結果報告 仲宗根求（読谷村立歴史民俗資料館）

現 地 研 修：東南植物楽園内の「蓮と熱帯スイレン」

【秋期研修会】

期 日：2008年11月13日（木）、14日（金）

場 所：本部町立博物館

講 演：「未知なるヤンバルの自然」 友利哲夫

研 修：「沖博協ホームページ活用・掲示板操作方法について」 有限会社SKILL

現 地 研 修：カルスト山登り

※春期、秋期とも当館からの参加者については「博物館 I. 調査研究等の活動 7. 職員研修」の項を参照のこと。

（濱口 寿夫）

II. 全国組織との関わり

1. 日本博物館協会

下記会議については、2008年度は欠席した。

・平成20年度（第15回）全国博物館館長会議（2008年6月11日 文部科学省講堂）

・第56回全国博物館大会（2008年11月19日、20日 松江市）

2. 九州博物館協議会

2009年度総会は当館で開催することになっているため、牧野館長と萩尾班長が視察を兼ねて参加した。

期 日：2008年5月22日（木）、23日（金）

場 所：ホテルウェルビューかごしま

理 事 会：総会での協議事項について

総 会：議 事 平成19年度事業報告及び決算報告について

平成19年度会計監査結果報告について

平成20年度事業計画案及び収支予算案について

そ の 他： 次期総会及び研修会について、総会提出議題について他

講 演 会：「龍馬を超えた小松帯刀」 原口泉（鹿児島大学）

現地研修：鹿児島県立博物館、鹿児島市立美術館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、仙巖園

（濱口 寿夫）

3. 美術館連絡協議会

期 日：2008年2月23日（土）～24日（日）
場 所：ホテルイースト 東京

（與那原 慧）

4. アジア美術館長会議

期 日：2008年11月20日（木）～21日（金）
場 所：東京 国立新美術館
主 催：文化庁
内 容：「美術館とコレクション」「国境を越えて」「美術館と建築」

（與那原 慧）

Ⅲ. 沖縄博物館友の会

沖縄博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年(昭和55)に発足した。本年度の会員の内訳は、普通会員275名、賛助会員7社、家族会員46家族(95名)となっており、残念ながら年々減少傾向にある。

新館開館後、事務局の体制も新しくなり、事業やサークル活動が再始動した一年であった。これを契機として事業のさらなる活発化を図り、会員への情報等のサービス向上を推進しているところである。

2008年度(平成20)の活動内容と事業内容は次の通りであった。

【展示解説会】

○企画展「新収蔵品展—平成19年度収蔵資料—」

日 時：2008年5月17日(土)

講 師：田中聡、稲福恭子、知念幸子、岸本敬の各学芸員

参加者：15名

○特別展「恐竜ミュージアム2008」

日 時：2008年8月20日(水)

講 師：知念幸子学芸員

参加者：15名

○企画展「ずしがめの世界」

日 時：2008年9月27日(土)

講 師：岸本敬学芸員

参加者：12名

○特別展「甦る琉球王国の輝き」

日 時：2008年11月2日(日)

講 師：平川信幸学芸員

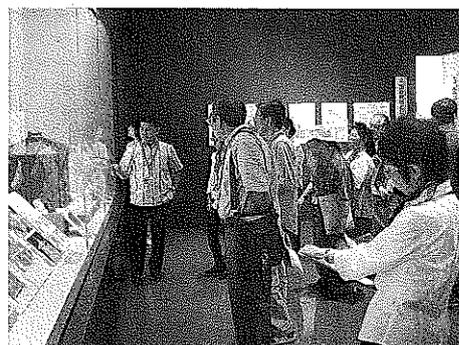
参加者：14名

○企画展「発掘された日本列島2008」

日 時：2009年1月17日(土)

講 師：羽方誠学芸員

参加者：5名



展示解説会(ずしがめの世界)

【観察会】

○自然観察会(沖縄県今帰仁村嘉津宇岳)

日 時：2008年12月7日(日)

内 容：「嘉津宇岳の自然観察会」を日越國昭氏、神谷厚昭氏の解説で実施した。

参加者：13名

【散策会】

○泊散策会(沖縄県那覇市泊)

日 時：2008年6月28日(土)

内 容：泊周辺の史跡を中心に散策会を知花賢信氏の解説で実施した。

参加者：11名

【鑑賞会】

○組踊鑑賞会(国立劇場おきなわ)

日 時：2008年8月23日(土)

内 容：組踊「孝女布晒」鑑賞会を首里城友の会との共催で実施した。

参加者：18名

【講演会】

○特別講演会（沖縄県立博物館・美術館 講堂）

日 時：2009年3月13日（金）

内 容：「新視点・薩摩の琉球侵攻～琉球はなぜ敗れたのか～」をテーマに桜坂市民大学講師上里隆史氏を迎え実施した。

参加者：170名

【国内研修】

○離島研修（沖縄県久米島）

日 時：2008年7月26日（土）～27日（日）

内 容：君南風殿内で行われるウマチー見学を中心に、久米島の史跡見学等を久米島自然文化センターの中島徹也氏の解説で実施した。

参加者：20名



離島研修会

【見学会】

○銀行見学会（日本銀行沖縄支店）

日 時：2008年8月5日（火）

内 容：貨幣史研究家山内昌尚氏の解説で実施した。

参加者：27名

○新聞社見学会（沖縄タイムス社）

日 時：2008年10月24日（金）

内 容：沖縄タイムス本社社内で夕刊のできる過程の見学を実施した。

参加者：14名

○宜野座の八月踊り見学会（宜野座村字松田）

日 時：2008年9月14日（日）

内 容：宜野座村字松田の八月踊りの見学会を実施した。

参加者：23名

【会員への情報提供】

○博物館事業及び催し物の案内状発送

○友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

【サークル活動】

○家譜サークル

○グスクサークル

【博物館サポート】

○企画展『発掘された日本列島2008』関連ワークショップ「勾玉を作ろう」開催（文化の杜共催）

○移動展開催協力（東村、参加延べ人数15名）

○博物館特別展・企画展のポスター・図録等の発送作業

○『甦る琉球王国の輝き』解説ボランティアの補助

○博物館ボランティア活動の補助

○「ボランティア通信」の編集・発送業務

○博物館常設展示室展示交流員（文化の杜共同企業体より業務委託）

（友の会事務局）

IV. happ (美術館支援会)

happは2005年(平成17)に沖縄県立美術館の活動をサポートする組織として誕生した。その年の9月には、特定非営利法人としての認証を受けている。happとは、happyやhappenの語源となるスランジャーピエ語の「happ(幸運)」からきている。h=happiness(しあわせ)、happening(できごと)、a=art(アート)、p=people(人々)、p=place(場所)の意味を込めている。アートを身近に感じ、アートを創造するような活動を通して、それぞれの「happ=しあわせ」を見つけられる場所を作っていきたいと考え、おもに美術館の教育普及活動をサポートしていく。

2008年4月にはミュージアムダンスプロジェクト2008、2008年10月18日(土)～10月26日出前美術館inシュガーホール、南城市内の学校間による取組み、リング・リンク・リングなどの開催や運営に協力した。さらに前年度から引き続き、ボランティアコーディネーター講座にも力を入れ、その実践編としてコレクション・ギャラリーや南洋群島展でのドーセント・ツアー、赤ちゃんプロジェクト、happ Art Salonを行った。また美術館の展覧会イベント、happのイベントについて情報を掲載した「happ newspaper」も開館から継続して発行し、会員へ配布するとともに、館内へ設置し、来館者にも自由に取ってもらえるようにしている。

独自の活動として、happ Art Salonでは、2008年12月17日(水)「西洋の名画に見るクリスマスストーリー」、2009年1月17日(土)「“七織の会” presents きものde美術館」、2009年2月4日(水)「西洋の名画にみるバレンタイン物語」、2009年3月11日(水)「日本画にみる色彩感～匂ひたつ春～」の計4回のイベントの開催し、「人とアートを繋ぐお手伝い」を提案・実施した。

(美術館班：國吉 亮子)

関係法規抄録

- 博物館法
- 博物館法施行規則
- 沖縄県立教育機関組織規則（抄）
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領
- 博物館法施行令
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程

関係法規抄録

○博物館法

昭和26年12月1日 法律第285号
〔最終改正〕平成19年6月27日 法律第96号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人をいう。第29条において同じ。）を除く。）が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- (10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- (1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。
 - (2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあつたもの。
 - (3) 文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所。
- (2) 名称。
- (3) 所在地。

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消さなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したも
のについては、第27条第2項の規定を準用する。

附則 (平成19年6月27日法律第96号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

○博物館法施行令

昭和27年3月20日 政令第47号
〔最近改正〕昭和34年4月30日 政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社。
- 2 日本放送協会。

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費。
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。

附則

この政令は、公布の日から施行する。

○博物館法施行規則

昭和30年10月4日 文部省令第24号
〔最終改正〕平成18年3月31日 文部科学省令第11号

第1章 大学において修得すべき博物館に関する科目の単位

(博物館に関する科目の単位)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第5条第1項第1号の規定により大学において修得すべき博物館に
関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	1
博物館概論	2
博物館経営論	1
博物館資料論	2
博物館情報論	1
博物館実習	3
視聴覚教育メディア論	1
教育学概論	1

備考

- 1 博物館概論、博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学の単位数は、6を下ることはできないものとする。
- 2 博物館経営論、博物館資料論及び博物館情報論の単位は、これらの科目の内容を統合した科目である博物館学各論の単位をもつて替えることができる。ただし、当該博物館学各論の単位数は、4を下ることはできないものとする。
- 3 博物館実習は、博物館(法第2条第1項に規定する博物館をいう。以下同じ。)又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。)における実習により修得するものとする。
- 4 博物館実習の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導の一単位を含むものとする。

第2条 削除

第2章 学芸員の資格認定

(資格認定)

第3条 法第5条第1項第3号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は無試験認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

第4条 資格認定は、毎年少なくとも各1回、文部科学大臣が行う。

2 資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で告示する。

（試験認定の受験資格）

第5条 左の各号の一に該当する者は、試験認定を受けることができる。

- 1 学士の学位を有する者
- 2 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者で3年以上学芸員補の職（学芸員補に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含む。以下同じ。）にあつた者
- 3 教育職員の普通免許状を有し、3年以上教育職員の職にあつた者
- 4 5年以上学芸員補の職にあつた者
- 5 その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（試験認定の方法及び試験科目）

第6条 試験認定は、大学卒業の程度において、筆記及び口述の方法により行う。

		第一欄	第二欄
試験科目		試験認定の必要科目	試験の方法
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目	筆記
	博物館学		筆記及び口述
	視聴覚メディア論		筆記
	教育学概論		筆記
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する二科目	筆記
	美術史		筆記
	考古学		筆記
	民俗学		筆記
	自然科学史		筆記
	物理		筆記
	化学		筆記
	生物学		筆記
地学	筆記		

2 試験科目及び各試験科目についての試験の方法は、次表第一欄及び第二欄に定めるとおりとする。

（試験科目の免除）

第7条 大学又は文部科学大臣の指定する講習等において、前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を1単位（博物館学にあつては6単位）以上修得した者又は講習等を修了した者に対しては、その願出により、当該科目についての試験を免除する。

2 前項の文部科学大臣の指定する講習等における単位の計算方法は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第21条第2項に定める基準によるものとする。

（2回以上の受験）

第8条 試験認定は、2回以上にわたり、それぞれ1以上の試験科目について受けることができる。

（無試験認定の受験資格）

第9条 左の各号の一に該当する者は、無試験認定を受けることができる。

- 1 学位規則（昭和28年文部省令第9号）による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者
- 2 大学において博物館に関する科目に関し2年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者
- 3 10年以上学芸員補の職にあつた者で都道府県の教育委員会の推薦する者
- 4 その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（無試験認定の方法）

第10条 無試験認定は、次条の規定により願出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

（受験の手続）

第11条 資格認定を受けようとする者は、受験願書（別記第1号様式により作成したもの）に左の各号に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願出しなければならない。この場合において、住民基本台帳法（昭和42年法律第81号）第30条の7第3項の規定により同法第30条の5第1項に規定する本人確認情報の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第3号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

- 1 受験資格を証明する書類
- 2 履歴書（別記第2号様式により作成したもの）
- 3 住民票の写し（出願前6月以内に交付を受けたもの）
- 4 写真（出願前1年以内に脱帽して撮影した手札形の写真を葉書大の厚紙にはり付け、裏面に住所、氏名（ふりがなをつける。）及び生年月日を記載したもの）
- 5 試験認定の試験科目の免除を願出する者については、その免除を受ける資格を証明する書類
- 6 無試験認定を願出する者については、博物館に関する学識及び業績を明示する書類及び資料

（試験認定合格者及び試験認定科目合格者）

第12条 試験科目（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）のすべてについて合格点を得た者（試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。）を試験認定合格者とする。ただし、第5条第1号の規定に該当する者については、1年間学芸員補の職の職務に従事した後に、試験認定合格者となるものとする。

2 試験認定合格者ではないが、1以上の試験科目について合格点を得た者を試験認定科目合格者とする。

（無試験認定合格者）

第13条 第10条の規定による審査に合格した者を無試験認定合格者とする。

（合格証書の授与等）

第14条 試験認定合格者（第12条第1項ただし書に規定する者を含む。）及び無試験認定合格者に対しては、合格証書（別記第3号様式によるもの）を授与する。

2 合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願い出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

（合格証明書の交付等）

第15条 試験認定合格者又は無試験認定合格者が、その合格の証明を願い出たときは、合格証明書（別記第4号様式によるもの）を交付する。

2 試験認定科目合格者がその科目合格の証明を願い出たときは、科目合格証明書（別記第5号様式によるもの）を交付する。
（手数料）

第16条 次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
1 試験認定を願い出る者	一科目につき1,300円
2 無試験認定を願い出る者	3,800円
3 合格証書の書換又は再交付を願い出る者	700円
4 合格証書の交付を願い出る者	700円
5 科目合格証明書の交付を願い出る者	700円

2 前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律（平成14年法律第151号）第3条第1項の規定により申請等を行った場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。

3 納付した手数料は、どういう事由があつても返還しない。

（不正の行為を行つた者等に対する処分）

第17条 虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするるとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

2 試験認定合格者、無試験認定合格者又は試験認定科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするるとともに、既に授与又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

3 前二項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第3章 博物館に相当する施設の指定

（申請の手続）

第18条 法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第6号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人をいう。第21条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ提出しなければならない。

- 1 当該施設の有する資料の目録
- 2 直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
- 3 当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
- 4 当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

（指定要件の審査）

第19条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

- 1 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
- 2 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
- 3 学芸員に相当する職員がいること。
- 4 一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
- 5 一年を通じて百日以上開館すること。

2 前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第20条 削除

第21条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第19条第1項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条 削除

第23条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第19条第1項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

（指定の取消）

第24条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第19条第1項に規定する要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基づいて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第四章 雑則

（従前の規程による学校の卒業者等）

第25条 第5条第1号に規定する学士の学位を有する者には、旧大学令（大正7年勅令第388号）による学士の称号を有する者を含むものとする。

第26条 第55条第2号に規定する大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者には、旧大学令、旧高等学校令（大正7年勅令第389号）、旧専門学校令（明治36年勅令第61号）又は旧教員養成諸学校官制（昭和21年勅令第208号）の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者を含むものとする。

第27条 第9条第1号に規定する博士の学位を有する者には、旧学位令（大正9年勅令第200号）による博士の称号を有する者を含むものとする。

附則（平成18年3月31日文科科学省令第11号）

（施行期日）

第1条 この省令は、平成十九年四月一日から施行する。

（助教授の在職に関する経過措置）

第2条 この省令の規定による改正後の次に掲げる省令の規定の適用については、この省令の施行前における助教授としての在職は、准教授としての在職とみなす。

- 1 学校教育法施行規則第8条第1号ロ
- 2 博物館法施行規則第8条第2号
- 3 大学設置基準第14条第4号
- 4 高等専門学校設置基準第11条第3号
- 5 短期大学設置基準第23条第5号

○博物館の登録に関する規則

昭和50年5月8日 教育委員会規則第5号

〔最終改正〕平成6年3月31日教育委員会規則第2号

（趣旨）

第1条 この規則は、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

（登録原簿等の様式）

第2条 法第10条、第11条第1項及び第11条第2項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第1号様式
法第11条第1項	博物館登録申請書	第2号様式
法第11条第2項	博物館資料目録	第3号様式

（博物館登録申請書の添付書類）

第3条 博物館登録申請書には、法第11条第2項に規定する書類のほか、職員名簿（第4号様式）を添付するものとする。

（登録要件の審査）

第4条 法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第1項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

（登録事項等の変更）

第5条 法第13条第1項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書（第5号様式）によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年3月末日に届け出るものとする。

（博物館の廃止）

第6条 法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届（第6号様式）により行うものとする。

（公示）

第7条 県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

附 則

（平成6年3月31日教育委員会規則第2号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

第1号様式
(第2条関係)

第2号様式
(第2条関係)

博物館登録申請書

No.

備 考	所 在 地	名 称	※ 設 置 者 の 名 称 及 住 所	登 録		登 録 変 更		登 録 変 更	
				年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
				記 号 番 号	第 号	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

博物館登録原簿

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

申請者 氏名 印

博物館法第11条第1項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記 記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

備考 この申請書には、次の書類を添付すること。

- (1) 公立博物館にあっては設置条例の写し、私立博物館にあっては、法人の定款若しくは章程の写し又は宗教法人の規則の写し
- (2) 館則の写し
- (3) 直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
- (4) 当該年度における事業計画書及び公立博物館にあっては予算の歳出の見積もり、私立博物館にあっては収支の見積もりに関する書類
- (5) 博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
- (6) 学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

(※公立の場合は設置者の名称のみ記入)

第5号様式
(第5条関係)

博物館登録事項変更届出書

文書番号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施設名
届出者氏名

印

博物館法第13条第1項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変更年月日	年 月 日
変更の理由	
変更事項の種類	旧
	新
変更事項の内容	

第6号様式
(第6条関係)

博物館廃止届

文書番号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施設名
届出者氏名

印

博物館法第15条第1項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃止年月日	年 月 日
廃止した理由	
廃止後の財産処分	
その他参考となるべき事項	

（趣 旨）

第 1 条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 24 号）及び沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 18 年沖縄県条例第 72 号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館・美術館）

第 4 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に、次の班を置く。

博物館班

美術館班

2 博物館・美術館の所掌事務は、次のとおりとする。

博物館班

- (1) 博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館施設及びその他施設の利用に関すること。
- (4) 博物館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く。）。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く。）。
- (9) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (10) 公印の管守に関すること。
- (11) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (12) 博物館・美術館協議会に関すること。
- (13) 指定管理者との連絡調整に関すること。
- (14) 他班の所掌に属さない事務に関すること。

美術館班

- (1) 博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術館資料の利用に関すること。
- (3) 美術館施設の利用に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る。）。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る。）。

（職制等）

第 7 条 総合教育センター、図書館、博物館・美術館、埋蔵文化財センター、青年の家及び少年自然の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

2 所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第 9 条 総合教育センター、図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、副所長又は副館長（以下「副所長等」という。）を置く。

2 副所長等は、上司の命を受け、所長等を補佐し、当該教育機関の事務を整理する。

第 9 条の 2 博物館・美術館の班に、班長を置く。

2 班長は、上司の命を受け、班の分掌事務を処理する。

第 12 条 図書館及び博物館・美術館に、特に必要があるときは、副参事を置くことができる。

2 副参事は、上司の命を受け、特定重要事項を処理する。

第 12 条の 3 図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、特に必要があるときは、主任専門員を置くことができる。

2 主任専門員は、上司の命を受け、専門的事務を処理する。

第 13 条 博物館・美術館に、特に必要のあるときは、主任学芸員を置くことができる。

2 主任学芸員は、上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務を処理する。

○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成 18 年 12 月 27 日 条例第 72 号

（設 置）

第 1 条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

（位置及び施設）

第 2 条 博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち 3 丁目 1 番 1 号とする。

2 博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 博物館施設
- (2) 美術館施設
- (3) その他施設

(事業)

第3条 博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館・美術館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館・美術館の施設の利用に関すること。
- (4) 博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(博物館・美術館の管理)

第4条 博物館・美術館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(指定管理者の業務)

第5条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
- (2) 第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
- (3) 第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第2項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
- (4) 第19条及び同条第3項において準用する第11条第5項から第7項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第3項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第3項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
- (5) 博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
- (6) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務

(指定管理者の指定の申請)

第6条 第4条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会規則で定める書類(以下「事業計画書等」という。)を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

(指定管理者の指定)

第7条 教育委員会は、前条の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

- (1) 事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
- (2) 事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。

(指定管理者の指定等の告示)

第8条 教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。

2 前項の規定は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。

(休館日)

第9条 博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日

2 前項第1号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例(昭和49年沖縄県条例第42号)第2条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。

(開館時間)

第10条 博物館・美術館の開館時間は、午前9時から午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)までとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時に変更することができる。

(観覧料)

第11条 常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

2 常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第1に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,000円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。

4 前2項の規定にかかわらず、1年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第2に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

5 指定管理者は、第2項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。

6 教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。

7 観覧料は、指定管理者の収入とする。

(観覧料の減免)

第12条 指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

(観覧料の返還)

第13条 既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

(利用の許可)

第14条 別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めるときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。

3 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の許可をしないことができる。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 公益を害するおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

(利用期間)

第15条 施設等を引き続き利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第16条 利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第17条 指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第1項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (3) 許可に付した条件に違反したとき。
- (4) 第14条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(原状回復の義務)

第18条 利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

2 指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

(利用料金)

第19条 利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 利用料金は、別表第3に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 第11条第5項から第7項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

(事業報告書の提出)

第20条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

(博物館・美術館協議会)

第21条 博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(教育委員会規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から起算して1年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。（平成19年6月教育委員会規則第11号で、同19年11月1日から施行）

(準備行為)

2 第7条の規定による指定管理者の指定、第11条第5項の規定による観覧料の承認及び第19条第3項において準用する第11条第5項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第6条から第8条まで、第11条第2項から第6項まで並びに第19条第2項並びに同条第3項において準用する第11条第5項及び第6項の規定の例により行うことができる。

(沖縄県立教育機関設置条例の一部改正)

3 沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）の一部を次のように改正する。

第1条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。

第5条及び第6条を削り、第6条の2を第5条とし、第7条を第6条とし、第7条の2を第7条とする。

第8条中「、第5条及び第6条の2」を「及び第5条」に改める。

(沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正)

4 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「別表第1又は別表第2」を「別表」に改め、同条第2項を削る。

別表第1を削り、別表第2を別表とする。

別表第1 (第11条関係)

区分		基準額 (1人につき)	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	400円	320円
	大学生及び高校生	250円	200円
	中学生及び小学生	150円 (県外の中学生及び小学生に限る)	120円 (県外の中学生及び小学生に限る)
美術館施設	一般	300円	240円
	大学生及び高校生	200円	160円
	中学生及び小学生	100円 (県外の中学生及び小学生に限る)	80円 (県外の中学生及び小学生に限る)

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者 (小学校就学の始期に達するまでの者を除く。)をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
- 「団体の場合」とは、20人以上の団体で観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

別表第2 (第11条関係)

区分		基準額 (1人につき)		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	750円	450円 (県外の中学生及び小学生に限る)
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円 (県内の中学生及び小学生にあつては、1,150円)
美術館施設	常設展	900円	600円	300円 (県外の中学生及び小学生に限る)
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円 (県内の中学生及び小学生にあつては、1,000円)

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者 (小学校就学の始期に達するまでの者を除く。)をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

別表第3 (第14条、第19条関係)

1 施設利用料金

(1) 博物館施設利用料金

区分		基準額 (1日につき)
企画展示室	入場料を徴収しない場合	29,100円
	入場料を徴収する場合	87,300円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	38,100円
	入場料を徴収する場合	114,300円
実習室	入場料を徴収しない場合	9,000円
	入場料を徴収する場合	27,000円
講座室	入場料を徴収しない場合	15,900円
	入場料を徴収する場合	47,700円

(2) 美術館施設利用料金

区分		基準額 (1日につき)
県民ギャラリー1		8,100円
県民ギャラリー2		7,500円
県民ギャラリー3		7,500円
県民ギャラリースタジオ		8,200円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,000円
	入場料を徴収する場合	21,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,500円
	入場料を徴収する場合	22,500円
企画展示室1	入場料を徴収しない場合	32,800円
	入場料を徴収する場合	98,400円
企画展示室2	入場料を徴収しない場合	40,700円
	入場料を徴収する場合	122,100円
講座室	入場料を徴収しない場合	9,100円
	入場料を徴収する場合	27,300円

(3) その他施設利用料金

講 堂	区分	基準額 (1時間につき)
		入場料を徴収しない場合
	入場料を徴収する場合	10,200 円

2 附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	1回1点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	1回1点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	1回1点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額
冷房器具	1時間につき	3,000 円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める附属設備	1回1点または一式につき	10,000 円以内で教育委員会規則で定める額

備考

- 1 「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。
- 2 利用料金の基準額が1時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。
 - (1) 午前9時から午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)までの間は、超過時間30分間(30分間に満たない端数は、これを30分間とする。)につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の120を乗じて得た額
 - (2) 午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)後は、超過時間30分間(30分間に満たない端数は、これを30分間とする。)につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の150を乗じて得た額

○沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年3月16日 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例(平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。)の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第23条第1号及び博物館法(昭和26年法律第285号)第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館(以下「博物館・美術館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(寄贈及び寄託)

第2条 博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書(第1号様式)又は博物館・美術館資料寄託申請書(第2号様式)を提出しなければならない。

- 2 受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈承諾書(第3号様式)又は博物館・美術館資料受託承認書(第4号様式)を交付するものとする。
- 3 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長(以下「館長」という。)が必要と認めた場合はこの限りでない。
- 4 第2項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。
- 5 第2項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

(寄贈資料及び寄託資料の管理等)

第3条 寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

- 2 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第4条 条例第6条の規則で定める申請書は、指定管理者指定申請書(第5号様式)によるものとする。

- 2 条例第6条の規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

- (1) 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
- (2) 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書(市区町村長が発行するものに限る。)
- (3) 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類
- (4) 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類(申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録)
- (5) 役員の名、住所及び履歴を記載した書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

(観覧券の交付)

第5条 指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の免除)

第6条 条例第12条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書(第6号様式)を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 条例第12条第2項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
- (2) 県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
- (3) 70歳以上の者が常設展を観覧する場合

- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介助員が常設展を観覧する場合

(入館の禁止等)

第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
- (2) その他指定管理者が適当でないと認める者

(施設利用の許可等)

第8条 条例別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第7号様式）を提出しなければならない。

(利用期間)

第9条 条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。

- (1) 博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室1及び企画展示室2並びにこれらの施設の冷房設備 6月
- (2) 前号に掲げる施設等以外の施設 7日

2 条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第8号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の免除)

第10条 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第3条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。

2 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第9号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

3 指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

(事業報告書の内容等)

第11条 条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。

- (1) 博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況
- (2) 業務に係る収支状況
- (3) 博物館・美術館の利用状況
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(博物館・美術館協議会の組織等)

第12条 博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。

3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

6 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

7 協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。

8 協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

9 協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。

10 その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(観覧料の割引)

第13条 条例別表第1備考4に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

(附属設備の利用料金の基準額)

第14条 条例別表第3第2項の表の教育委員会が定める額は、別表に掲げるとおりとする。

(補 則)

第15条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月1日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な申請書等)

2 条例附則第2項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第4条の規定の例による。

(沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止)

3 次に掲げる規則は、廃止する。

- (1) 沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）
- (2) 沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)

4 沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第31条第3号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。

第33条第4号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

別表（第14条関係）

1 附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	1台	300円
	花台	1台	100円
	司会台	1台	150円
音響器具	メインスピーカー	1式	1,000円
	コンデンサーマイク	1本	300円
	ワイヤレスマイク	1本	600円
	ダイナミックマイク	1本	200円
	ビデオテープレコーダー	1台	700円
	DVDプレーヤー	1台	1,250円
	CD・MDプレーヤー	1台	400円
	HD/DVDレコーダー	1台	1,250円
照明器具	ポーターライト	1列	300円
	サスペンションライト	1列	500円
	アッパーホリゾンライト	1列	700円
	シーリングライト	1列	600円
	センターピンスポットライト	1台	400円
その他	書画カメラ	1台	800円
	ビデオプロジェクター	1台	1,400円
	電動スクリーン	1式	1,100円
	35ミリフィルム映写機	1式	5,000円

備考 附属設備利用料金の基準額は、1ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、4時間ごとに1ステージとみなす。

2 冷房設備の利用料金

	区分	単位	基準額
博物館施設	企画展示室	1時間までごとに	630円
	特別展示室	1時間までごとに	830円
	実習室	1時間までごとに	190円
	講座室	1時間までごとに	340円
美術館施設	県民ギャラリー1	1時間までごとに	170円
	県民ギャラリー2	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリー3	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリースタジオ	1時間までごとに	180円
	県民アトリエ	1時間までごとに	150円
	子供アトリエ	1時間までごとに	160円
	企画展示室	1時間までごとに	710円
	企画展示室2	1時間までごとに	880円
その他施設	講座室	1時間までごとに	200円
	講堂	1時間までごとに	590円

第1号様式

(第2条関係)

博物館・美術館資料寄贈申込書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申込者 住 所	氏 名	印
<p>私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 資料所在地		
7 時 価 見 積 額		
8 寄 贈 の 理 由		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第2号様式

(第2条関係)

博物館・美術館資料寄託申請書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申請者 住 所	氏 名	印
<p>私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 資料所在地		
7 寄 託 期 間	年 月 日 から	年 月 日まで

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第4号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受託承認書		年 月 日
殿		
沖縄県立博物館・美術館長 印		
<p>年 月 日付け申請のあった博物館・美術館資料の寄託については下記により受託します。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 受託期間	年 月 日 から	年 月 日まで
7 備 考		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第3号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受贈受諾書		年 月 日
殿		
沖縄県立博物館・美術館長 印		
<p>年 月 日付け申込のあった博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第2条第4項の規定により返却されません。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 資料所在地		
7 時価見積額		
8 寄贈の理由		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第5号様式
(第4条関係)

沖縄県教育委員会 殿

申請者所在地
団体の名称
代表者の氏名

年 月 日

印

指定管理者指定申請書

沖縄県立博物館・美術館の管理に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第6条の規定により申請します。

添付書類

- 1 事業計画書
- 2 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
- 3 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書(市区町村長が発行するものに限る)
- 4 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類
- 5 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経理的基礎を有することを明らかにする書類(申請の日に属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録)
- 6 役員の名、住所及び履歴を記載した書類
- 7 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第6号様式
(第6条関係)

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 殿

観覧料免除申請書

年 月 日

申請者住所
氏名
電話

印

下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第6条第1項の規定に基づき申請します。

記

- 1 観覧者団体名
引率者名
- 2 観覧者数 人
- 3 観覧日時 年 月 日 (曜日) 時～ 時
- 4 申請理由

..... 承認証

..... 殿

年 月 日付け申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。

年 月 日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者

印

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第7号様式
(第8条関係)

博物館・美術館施設利用許可申請書

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 殿

申請者 氏 名
電 話

年 月 日 印

下記により貴館施設を利用したいので、申請します。

記

1 利用者 団体名 印 職業 ()
代表者名 電話
住 所

2 利用目的

3 利用する施設

4 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分 } () 日間
至： 年 月 日 時 分

5 予定参加人数 人

許 可 証
年 月 日 付け申請の () 使用の件、申請とおり許可します。

年 月 日 沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 印

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第8号様式
(第9条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 殿

申請者 住 所
団 体 名
代 表 者 氏 名
電 話 番 号

年 月 日 印

沖縄県立博物館・美術館管理規則第9条第2項の規定により次のとおり利用期間の変更を願ひ出ます。

記

1 催物の名称

2 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分 } () 日間
至： 年 月 日 時 分

3 利用期間の変更を願ひ出る理由

4 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第9号様式

(第10条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書

年 月 日

申請者 住所 印

団体名
代表者氏名
電話番号

申請者 殿

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 殿

次のとおり利用料金の免除を申請します。

記

- 1 催物の名称
- 2 利用目的
- 3 催物の内容
- 4 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分 } () 日間
至： 年 月 日 時 分 }
- 5 減額・免除を申請する理由
- 6 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第10号様式

(第10条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書

年 月 日

申請者 住所 印

団体名
代表者氏名
電話番号

申請者 殿

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者 殿

次のとおり利用料金の免除を承認します。

記

- 1 催物の名称
- 2 利用目的
- 3 催物の内容
- 4 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分 } () 日間
至： 年 月 日 時 分 }
- 5 利用料金免除額
- 6 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

(趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）を地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関しては、別に定めるもののほか、この訓令によるものとする。

(任命及び任期)

第 2 条 館長は、博物館・美術館の管理運営に関し識見及び能力を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

- 2 館長の任期は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、教育庁文化課長は、教育庁総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第 3 条 館長の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第 4 条 館長の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 館長の 1 月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は教育長が別に定める。
- 3 館長の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第 5 条 館長は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 館長は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 館長は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。
- 4 館長は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解任)

第 6 条 教育委員会は、館長が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、任期内でも解任することができる。

- (1) 館長の職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 館長として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
- (5) 任命の必要がなくなったとき。

(補則)

第 7 条 この訓令に定めるもののほか、館長を非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成 19 年 11 月 1 日から施行する。

(設置)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の学芸業務を円滑に行うため、博物館・美術館学芸業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務等)

第 3 条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の調査、収集及び整理に関すること。
- (2) 資料の保存、修復等に関すること。
- (3) 展示に関すること。
- (4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第 4 条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 5 条に規定する学芸員資格を有する者
 - (2) 前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者
- 2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
 - 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第 6 条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の 1 月の勤務日数は、16 日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。
- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第 7 条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解嘱)

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

- (1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
- (5) 委嘱の必要がなくなったとき。

(補則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程

平成19年10月30日 教育委員会教育長訓令第27号

(設置)

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の教育普及業務を円滑に行うため、博物館・美術館教育普及業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務等)

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育普及プログラムの調査及び策定に関すること。
- (2) 教育関係機関への学習支援に関すること。
- (3) ボランティア活動に関すること。
- (4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条に規定する学芸員資格を有する者
 - (2) 前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者
- 2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。
- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解嘱)

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

- (1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。
- (5) 委嘱の必要がなくなったとき。

(補則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

○美術品調査嘱託員設置規程

平成 18 年 3 月 10 日 教育委員会教育長訓令第 1 号

改正 平成 19 年 10 月 30 日 教育委員会教育長訓令第 22 号

(趣旨)

第 1 条 この訓令は、県が収蔵する美術品等の調査業務を円滑に推進するため、美術品調査嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(身分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第 3 条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の調査に関すること。
- (2) 県が収蔵を予定している美術品の調査に関すること。
- (3) その他美術品の調査に関すること。

(委嘱等)

第 4 条 嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

- 2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件等)

第 6 条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の 1 月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は館長が定める。
- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服務)

第 7 条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解嘱)

第 8 条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

- (1) 第 3 条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

(補則)

第 9 条 この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 10 月 30 日教育委員会教育長訓令第 22 号）

この訓令は、平成 19 年 11 月 1 日から施行する。

○美術品保存修復嘱託員設置規程

平成 18 年 3 月 10 日 教育委員会教育長訓令第 2 号

改正 平成 19 年 10 月 30 日 教育委員会教育長訓令第 23 号

(趣旨)

第 1 条 この訓令は、県が収蔵する美術品の保存修復業務を円滑に推進するため、美術品保存修復嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(身分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第 3 条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の保存及び修復に関すること。
- (2) 県が収蔵する美術品の保存状態の調査及び管理に関すること。

(委嘱等)

第 4 条 嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

- 2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

(報酬等)

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

(勤務条件等)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は館長が定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

（服務）

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

（解嘱）

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

（1）第3条に規定する職務を怠ったとき。

（2）前条の規定に違反したとき。

（3）嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

（4）心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

（補則）

第9条 この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年10月30日教育委員会教育長訓令第23号）

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

平成14年3月14日 教育長決裁

（目的）

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

（1）展示会等における原資料等の借用。

（2）同資料の撮影。

（3）原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。

（4）撮影等による複製品の製作。

（5）原資料等の閲覧。

（6）教育普及資料の借用。

（許可の基準）

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

（1）資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。

（2）好ましくない用途に供されると認められる場合。

（3）館の事務処理に支障が生じると認められる場合。

（4）資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。

（5）過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。

（6）その他、許可することが適当でない認められる場合。

（許可申請の手続き）

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

（1）原資料等の借用（第1号様式）

（2）写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）

（3）複製品の製作（第3号様式）

（4）原資料等の閲覧（第4号様式）

（5）教育普及資料の借用（第5号様式）

（審査及び決定）

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

（1）事業の趣旨及び内容。

（2）事業の主体者。

（3）事業計画。

（4）その他必要な事項。

（許可書の交付）

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおり条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

（1）原資料等の借用（第1-1号様式）

（2）写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）

（3）複製品の製作（第3-1号様式）

（4）原資料等の閲覧（第4-1号様式）

(5) 教育普及資料の借用 (第5-1号様式)

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表 (第6条関係) 各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容 (各申請様式)	共通条件	資料利用の許可条件	個別条件
原資料等の借用 (第1号様式)	①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。	①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。 ④借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。	①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
写真撮影、原板・印面の借用 (第2号様式)			
複製品の製作 (第3号様式)			①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
原資料等の閲覧 (第4号様式)			①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。 ③閲覧によって得られた成果(論文や著作等)は、当館に1部(1点)納付すること。
教育普及資料の借用 (第5号様式)			①与期間は1週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

第1号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(原資料等の借用)

沖縄県立博物館・美術館長 殿

平成 年 月 日 印

代表者名: _____
申請者 団 体 名: _____ (担当者氏名 _____)
住 所: 〒 _____

TEL: _____
FAX: _____

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いいたします。

記

事業名	借用希望期間	年 月 日 ~ 年 月 日	資料名	員 数	備 考
目 的					
展示等場所					
1.					
2.					
3.					
4.					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
- ⑩前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第1-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(原資料等の借用)

博 美 第 号
平 成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名	借用期間	年 月 日 ~ 年 月 日	資料名	員 数	備 考
目 的					
展示等場所					
1.					
2.					
3.					
4.					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
- ⑩前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(写真撮影、原板・印画の借用)

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名: _____
申請者 団体名: _____ (担当者氏名)
住所: 〒 _____
TEL: _____
FAX: _____

平成 年 月 日 印

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いいたします。

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む			
希望日時・期間	年 月 日 ~ 年 月 日	時 ~ 時	部 数	制作予定日	備考		
目的	出版物 映画 テレビ DVD C D その他	年 月 日 ~ 年 月 日	部 数	制作予定日	備考		
1.	資 料 名				数 量	仕 様	備 考
2.							
3.							

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使用することができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日 号

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む			
日時・期間	年 月 日 ~ 年 月 日	時 ~ 時	部 数	制作予定日	備考		
目的	出版物 映画 テレビ DVD C D その他	年 月 日 ~ 年 月 日	部 数	制作予定日	備考		
1.	資 料 名				数 量	仕 様	備 考
2.							
3.							

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使用することができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(複製品の製作)

沖縄県立博物館・美術館長 殿
 平成 年 月 日 印
 代表者名: _____
 申請者 団 体 名: _____ (担当者氏名)
 住 所: 〒 _____
 TEL: _____
 FAX: _____

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いいたします。

利用区分	1 写真原版使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
希望日時・期間	年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		数量	仕様	備考	
1.					
2.					
3.					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
 - ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
 - ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
 - ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
 - ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部 (1点) 納付すること。納付された作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
 - ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
 - ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(複製品の製作)

平成 年 月 日 博 美 第 年 月 日 号
 殿
 沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原版使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
日時・期間	年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		数量	仕様	備考	
1.					
2.					
3.					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
 - ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
 - ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
 - ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
 - ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部 (1点) 納付すること。納付された作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
 - ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
 - ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第4号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(原資料等の閲覧)

沖縄県立博物館・美術館長 殿
 平成 年 月 日
 代表者名: _____ 印
 申請者 団 体 名: _____)
 住 所: 〒 _____

TEL: _____
 FAX: _____

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いいたします。

記

目的	閲覧希望日時	平成	年	月	日	時	時	閲覧人員
1.	資料名		員数		備考			
2.								
3.								
4.								
5.								

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
 - ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
 - ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
 - ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第4-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(原資料等の閲覧)

博 美 第 年 月 日 号
 平成 年 月 日
 殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目的	閲覧日時	平成	年	月	日	時	時	閲覧人員
1.	資料名		員数		備考			
2.								
3.								
4.								
5.								

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
 - ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
 - ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
 - ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名:

申請者

団体名: (担当者氏名)

印

住所: 〒

TEL:

FAX:

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 学校 (学年・学級) 行事	2 地域・団体行事	3 その他
希望日時・期間	年 月 日 (時) ~ 年 月 日 (時)		
行 事 名		参加人員	
目 的			
	資料名	数量	備考
1.			
2.			
3.			
4.			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(教育普及資料の借用)

博 美 第 号
平 成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 学校 (学年・学級) 行事	2 地域・団体行事	3 その他
日時・期間	年 月 日 (時) ~ 年 月 日 (時)		
行 事 名		参加人員	
目 的			
	資料名	数量	備考
1.			
2.			
3.			
4.			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

沖縄県立博物館・美術館年報 No.2

2010年(平成22)1月12日

編集・発行：沖縄県立博物館・美術館

住 所：〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

T E L：098-941-8200(代表)

F A X：098-941-3530(代表)

ホームページ：<http://www.museums.pref.okinawa.jp>

(沖縄県立博物館・美術館ホームページ)

印 刷：企画印刷ハーツ

住 所：〒902-0071

沖縄県那覇市繁多川3-13-8 (TEL：098-835-3752)

○この刊行物は、418,950円の経費により1,500部作成しました。